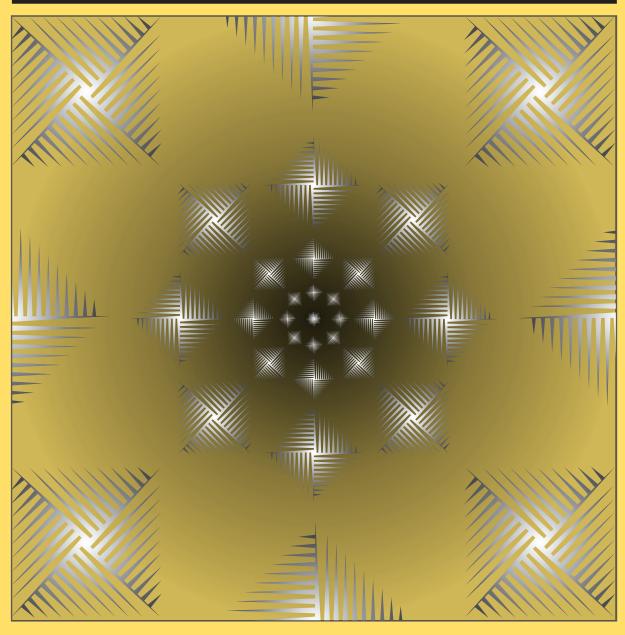
## シラバス

# 言語文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

## ★本シラバスは、言語文化学科シラバスです。

## 【シラバスの見方】

#### 1. 目次について

- ①シラバスページの検索方法
  - ・2007年度以降の入学者は国際教養学部言語文化学科の目次で検索してください。
  - -2006年度以前の入学者は外国語学部言語文化学科の目次で検索してください。
  - 目次の科目は原則として学則別表と同じ順序で記載されています。
  - ・目次の順番とシラバスの掲載順が異なることがあります。科目名とページ番号をよく確認してください。
  - 本年度開講のない科目は掲載されていません。

#### ②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。 〈略称説明〉

外: 外国語学部 済: 経済学科 律: 法律学科 独: ドイツ語学科 国: 国際関係法学科 営: 経営学科 国: 国際関係法学科

英: 英語学科 仏: フランス語学科

言: 外国語学部言語文化学科

交: 交流文化学科

#### 2. シラバスページの 見方(右図参照)

①適用学生

養…<u>国際教養学部生</u>および2007年度以降入学者対象科目 外言・・・外国語学部言語文化学科生および2006年度以前入学者対象

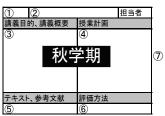
- ②入学年度に対応した科目名
- ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
- ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

- ⑤授業で使用するテキスト、参考文献が記載されています。
- ⑥評価方法について記載されています。
- ⑦ページの上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。



総: 総合政策学科



#### 3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。 必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

言語文化学科の一部科目および「全学共通授業科目」は定員を設けています。詳細は『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

- ③記載方法
  - 一部の科目については記載方法が異なる場合があります。
- 4変更等

内容等の変更があった場合には、履修登録会場または教務課掲示板にてお知らせいたします。登録前に必ず確認してください。

## 国際教養学部言語文化学科授業科目(2007年度以降入学者用)

## 目 次

## 必須教養科目群

「学科基礎」部門

時間割 コード	開講 学期		担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	基礎演習a	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	基礎演習b	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	言語文化論	浅山 佳郎	月4	2	1	全	2
	春	哲学 I	松丸 壽雄	金4	2	1	全	3
	春	現代世界論	佐藤 勘治	月4	2	1	全	4
20503	春	哲学Ⅱ	松丸 壽雄	金3	2	4	全	5
20631	秋	哲学Ⅱ	松丸 壽雄	金3	2	4	全	5

「外国語」部門

本       支語 I (IE)       各担当教員       1       1       全         春 英語 I (S)       各担当教員       1       1       全         未 英語 I (IE)       各担当教員       1       1       全         秋 英語 II (IE)       各担当教員       1       1       全         本 技語 II (IE)       各担当教員       1       2       全         本 技語 II (IE)       各担当教員       1       2       全         本 英語 II (IE)       各担当教員       1       2       全 <th>ページ 6 7 8 6 7 8 9 10 11 9 10 11</th>	ページ 6 7 8 6 7 8 9 10 11 9 10 11
春 英語 I (IE)       各担当教員       1 1 全         春 英語 I (S)       各担当教員       1 1 全         春 英語 I (W)       各担当教員       1 1 全         秋 英語 II (E)       各担当教員       1 1 全         秋 英語 II (W)       各担当教員       1 1 全         春 英語 II (W)       各担当教員       1 2 全         春 英語 II (W)       各担当教員       1 2 全         春 英語 II (W)       各担当教員       1 2 全         春 英語 II (V)       各担当教員       1 2 全         春 英語 IV (S)       各担当教員       1 2 全         春 英語 IV (AE)       各担当教員       1 2 全         春 英語 IV (AE)       日 3 全       2 全         春 英語 V (AE)       K. A. クラウン       1 3 全         春 英語 V (AE)       H. バルデイン       1 3 全         春 英語 V (AE)       日井 芳子       1 3 全         春 英語 V (AE)       日井 芳子       1 3 全         春 英語 V (AE)       鈴木 彩子       1 3 全         春 英語 V (AE)       鈴木 彩子       1 3 全         春 英語 V (AE)       鈴木 彩子       1 3 全         春 英語 V (AE)       公本 表政政 1 3 全         春 英語 V (AE)       公本 表政政 1 3 全         春 英語 V (AE)       公本 表现 1 3 全         春 英語 V (AE)       公本 表现 2 会         春 英語 V (AE)       公本 表现 3 全	7 8 6 7 8 9 10 11 9 10
春 英語 I (S)       各担当教員       1 1 全         本 英語 I (W)       各担当教員       1 1 全         秋 英語 II (E)       各担当教員       1 1 全         秋 英語 II (S)       各担当教員       1 1 全         本 英語 II (W)       各担当教員       1 2 全         本 英語 II (E)       各担当教員       1 2 全         本 英語 II (W)       各担当教員       1 2 全         本 英語 II (E)       各担当教員       1 2 全         本 英語 II (W)       各担当教員       1 2 全         本 英語 II (AE)       K. A. クラウン       1 3 全         本 英語 II (AE)       L. A. クラウン       1 3 全         本 英語 II (AE)       L. A. クラウン       1 3 全         本 英語 II (AE)       C. チアー       1 3 全         本 英語 II (AE)       L. A. クラウン       1 3 全	7 8 6 7 8 9 10 11 9 10
春 英語 I (W)       各担当教員       1       1       全         秋 英語 II (IE)       各担当教員       1       1       全         秋 英語 II (W)       各担当教員       1       1       全         春 英語 II (W)       各担当教員       1       2       全         春 英語 II (W)       各担当教員       1       2       全         春 英語 II (W)       各担当教員       1       2       全         秋 英語 IV (IE)       各担当教員       1       2       全         秋 英語 IV (S)       各担当教員       1       2       全         秋 英語 IV (W)       各担当教員       1       2       全         春 英語 IV (AE)       C. チァー       1       3       全         春 英語 V (AE)       K. A. クラウン       1       3       全         春 英語 V (AE)       知本 英政       1       3       全         春 英語 V (AE)       日井 芳子       1       3       全         春 英語 V (AE)       日井 芳子       1       3       全         春 英語 V (AE)       日井 芳子       1       3       全         春 英語 V (AE)       日井 芳子       1       3       全         春 英語 V (AE)       日本       2       2       3       全	6 7 8 9 10 11 9 10
秋 英語 II (IE) 各担当教員 1 1 全 全	6 7 8 9 10 11 9 10
秋   英語 II (S)   各担当教員	7 8 9 10 11 9 10
秋 英語 I (W) 各担当教員 1 1 2 全 条 英語 II (E) 各担当教員 1 2 全 秋 英語 IV (IE) 各担当教員 1 2 全 秋 英語 IV (S) 各担当教員 1 2 全 秋 英語 IV (W) 各担当教員 1 2 全 条 英語 V (AE)	9 10 11 9 10 11
春 英語皿(E)       各担当教員       1 2 全         春 英語皿(W)       各担当教員       1 2 全         秋 英語Ⅳ(E)       各担当教員       1 2 全         秋 英語Ⅳ(S)       各担当教員       1 2 全         秋 英語Ⅳ(W)       各担当教員       1 2 全         春 英語Ⅴ(AE)       C. チァー       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       K. A. クラウン       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       T. ホサイン       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       ED井 芳子       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       ED井 芳子       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       鈴木 彩子       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       鈴木 彩子       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       公本 英語Ⅴ(AE)       公本 英語Ⅴ(AE)         春 英語Ⅴ(AE)       公本 英語Ⅴ(AE)       公本 英語Ⅴ(AE)         春 英語Ⅴ(AE)       公本 英語Ⅴ(AE)       公本 英語Ⅴ(AE)         春 英語Ⅴ(AE)       公本 英語Ⅴ(AE)       公本 天子         春 英語Ⅴ(AE)       公本 天子       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       公本 八分子       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       公本 八分子       1 3 全         春 英語Ⅴ(AE)       公本 八分子       1 3 全	9 10 11 9 10 11
春 英語皿(S)       各担当教員       1 2 全         春 英語皿(W)       各担当教員       1 2 全         秋 英語IV(IE)       各担当教員       1 2 全         秋 英語IV(S)       各担当教員       1 2 全         秋 英語IV(W)       各担当教員       1 2 全         春 英語V(AE)       C. チアー       1 3 全         春 英語V(AE)       K. A. クラウン       1 3 全         春 英語V(AE)       M. ハルデイン       1 3 全         春 英語V(AE)       T. ホサイン       1 3 全         春 英語V(AE)       臼井 芳子       1 3 全         春 英語V(AE)       鈴木 彩子       1 3 全         春 英語V(AE)       山本 英政       1 3 全         秋 英語V(AE)       松山 響子       1 3 全         秋 英語V(AE)       C. チアー       1 3 全         秋 英語V(AE)       K. A. クラウン       1 3 全	11 9 10 11
春 英語皿(W)       各担当教員       1       2       全         秋 英語IV(S)       各担当教員       1       2       全         秋 英語IV(W)       各担当教員       1       2       全         秋 英語IV(AE)       C. チァー       1       3       全         春 英語 V(AE)       K. A. クラウン       1       3       全         春 英語 V(AE)       M. ハルデイン       1       3       全         春 英語 V(AE)       T. ホサイン       1       3       全         日井 芳子       1       3       全         日井 芳子       1       3       全         春 英語 V(AE)       鈴木 彩子       1       3       全         春 英語 V(AE)       山本 英政       1       3       全         春 英語 V(AE)       山本 英政       1       3       全         春 英語 V(AE)       山本 英政       1       3       全         春 英語 V(AE)       公       1       3       全         本 英語 V(AE)       公       1       3       全	11 9 10 11
秋 英語IV(S)       各担当教員       1 2 全         秋 英語IV(W)       各担当教員       1 2 全         春 英語 V(AE)       C. チァー       1 3 全         春 英語 V(AE)       K. A. クラウン       1 3 全         春 英語 V(AE)       T. ホサイン       1 3 全         春 英語 V(AE)       臼井 芳子       1 3 全         春 英語 V(AE)       台井 芳子       1 3 全         春 英語 V(AE)       台本 英語 V(AE)       日井 芳子       1 3 全         春 英語 V(AE)       山本 英政       1 3 全         秋 英語 V(AE)       松山 響子       1 3 全         秋 英語 VI(AE)       C. チァー       1 3 全         秋 英語 VI(AE)       K. A. クラウン       1 3 全	9 10 11
秋 英語IV(S)       各担当教員       1 2 全         秋 英語IV(W)       各担当教員       1 2 全         春 英語 V(AE)       C. チァー       1 3 全         春 英語 V(AE)       K. A. クラウン       1 3 全         春 英語 V(AE)       T. ホサイン       1 3 全         春 英語 V(AE)       臼井 芳子       1 3 全         春 英語 V(AE)       台井 芳子       1 3 全         春 英語 V(AE)       台本 英語 V(AE)       日井 芳子       1 3 全         春 英語 V(AE)       山本 英政       1 3 全         秋 英語 V(AE)       松山 響子       1 3 全         秋 英語 VI(AE)       C. チァー       1 3 全         秋 英語 VI(AE)       K. A. クラウン       1 3 全	10 11
秋 英語IV(W)       各担当教員       1       2       全         春 英語 V (AE)       K. A. クラウン       1       3       全         春 英語 V (AE)       M. ハルデイン       1       3       全         春 英語 V (AE)       T. ホサイン       1       3       全         春 英語 V (AE)       臼井 芳子       1       3       全         春 英語 V (AE)       鈴木 彩子       1       3       全         春 英語 V (AE)       山本 英政       1       3       全         春 英語 V (AE)       松山 響子       1       3       全         秋 英語 VI (AE)       C. チァー       1       3       全         秋 英語 VI (AE)       K. A. クラウン       1       3       全	11
春 英語 V (AE)     M. ハルデイン     1 3 全       春 英語 V (AE)     T. ホサイン     1 3 全       春 英語 V (AE)     臼井 芳子     1 3 全       春 英語 V (AE)     鈴木 彩子     1 3 全       春 英語 V (AE)     山本 英政     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     松山 響子     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     C. チァー     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     K. A. クラウン     1 3 全	
春 英語 V (AE)     M. ハルデイン     1 3 全       春 英語 V (AE)     T. ホサイン     1 3 全       春 英語 V (AE)     臼井 芳子     1 3 全       春 英語 V (AE)     鈴木 彩子     1 3 全       春 英語 V (AE)     山本 英政     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     松山 響子     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     C. チァー     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     K. A. クラウン     1 3 全	
春 英語 V (AE)     M. ハルデイン     1 3 全       春 英語 V (AE)     T. ホサイン     1 3 全       春 英語 V (AE)     臼井 芳子     1 3 全       春 英語 V (AE)     鈴木 彩子     1 3 全       春 英語 V (AE)     山本 英政     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     松山 響子     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     C. チァー     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     K. A. クラウン     1 3 全	13
春 英語 V (AE)     T. ホサイン     1 3 全       春 英語 V (AE)     臼井 芳子     1 3 全       春 英語 V (AE)     鈴木 彩子     1 3 全       春 英語 V (AE)     山本 英政     1 3 全       春 英語 V (AE)     松山 響子     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     C. チァー     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     K. A. クラウン     1 3 全	14
春 英語 V (AE)     臼井 芳子     1 3 全       春 英語 V (AE)     鈴木 彩子     1 3 全       春 英語 V (AE)     山本 英政     1 3 全       春 英語 V (AE)     松山 響子     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     C. チァー     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     K. A. クラウン     1 3 全	15
春 英語 V (AE)     鈴木 彩子     1 3 全       春 英語 V (AE)     山本 英政     1 3 全       春 英語 V (AE)     松山 響子     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     C. チァー     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     K. A. クラウン     1 3 全	16
春 英語 V (AE)     山本 英政     1 3 全       春 英語 V (AE)     松山 響子     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     C. チァー     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     K. A. クラウン     1 3 全	17
春 英語 V (AE)     松山 響子     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     C. チァー     1 3 全       秋 英語 VI (AE)     K. A. クラウン     1 3 全	18
秋   英語Ⅵ(AE)   C. チァー   1   3   全     秋   英語Ⅵ(AE)   K. A. クラウン   1   3   全	19
秋   英語VI (AE)   K. A. クラウン   1   3   全	12
	13
秋   英語VI (AE)   M. ハルデイン   1   3   全	14
秋   英語Ⅵ(AE)	15
秋   英語VI (AE)   臼井 芳子   1   3   全	16
秋   英語Ⅵ(AE)   鈴木 彩子   1   3   全	17
秋   英語VI (AE)	18
秋   英語VI (AE)   松山 響子   1   3   全	19
春 スペイン語 I (総合1) 各担当教員 1 1 全	20
春 スペイン語 I (総合2) 各担当教員 1 1 1 全 1	21
春 スペイン語 I (入門) 各担当教員 1 1 全	22
春 スペイン語 I (会話) 各担当教員 1 1 全	23
秋 スペイン語 Ⅱ (総合1) 各担当教員 1 1 全	20
秋 スペイン語 Ⅱ (総合2)   各担当教員   1   1   全	21
秋 スペイン語 Ⅱ (基礎表現) 各担当教員 1 1 全	22
秋 スペイン語 II (会話) 各担当教員 1 1 2 全	23
春 スペイン語Ⅲ(総合) 各担当教員 1 2 全	24
春 スペイン語Ⅲ(講読) 各担当教員 1 2 全	25
春 スペイン語Ⅲ(会話1) 各担当教員 1 2 全	26
春 スペイン語Ⅲ(会話2)   各担当教員   1   2   全	

時間割 開講コード 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	<del></del> 全	24
秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	25
秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	26
秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	27
春	スペイン語 Ⅴ (応用1)	各担当教員		1	3	全	28
春	スペイン語 V (応用2)	各担当教員		1	3	全 全	29
秋	スペイン語VI(応用1)	各担当教員		1	3	全 	28
秋	スペイン語VI(応用2)	各担当教員		1	3		29
春	中国語 I (総合1)	各担当教員		1	1	全	30
春	中国語 I (総合2)	各担当教員		1	1	全	31
春	中国語 I (入門)	各担当教員		1	1	全	32
春	中国語 I (会話)	各担当教員		1	1	全	33
秋	中国語 Ⅱ (総合1)	各担当教員		1	1		30
秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	31
秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	32
秋	中国語 I (会話)	各担当教員		1	1		33
春	中国語皿(総合)	各担当教員		1	2		34
春	中国語皿(講読)	各担当教員		1	2	_ 全	35
春	中国語皿(会話1)	各担当教員		1	2	全全全全全全全全	36
春	中国語皿(会話2)	各担当教員		1	2		37
秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	 全	34
秋	中国語取(講読)	各担当教員		1	2	_ 全	35
秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2		36
秋	中国語取(会話2)	各担当教員		1	2	全	37
春	中国語 V (応用1)	各担当教員		1	3	全	38
春	中国語 V (応用2)	各担当教員		1	3		39
秋	中国語VI(応用1)	各担当教員		1	3		38
秋	中国語VI(応用2)	各担当教員		1	3	全	39
春	韓国語 I (文法·読解1)	各担当教員		1	1		40
春	韓国語 I (文法·読解2)	各担当教員		1	1	全	41
春	韓国語 I (コミュニケーション1)	各担当教員		1	1		42
春	韓国語 I (コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	_ 全 全	43
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	40
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全 全	41
	韓国語 Ⅱ (コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	42
	韓国語 Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	43
	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	44
	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	45
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	46
	韓国語皿(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	47
	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2		44
	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	45
	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2		46
	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	47
	韓国語 V (応用1)	沈 民珪	水3	1	3		48
	韓国語 V (応用2)	沈 民珪	木1	1	3	_ 全	49
	韓国語VI(応用1)	沈 民珪	水3	1	3		48
	韓国語VI(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	49

## 選択教養科目群

「外国語演習科目群」

_	<u>・77日日記</u>	次日1	7 C 9T J						
•	時間割コード	開講 学期		担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
:	18610	春	英語演習I	T. ホサイン	月3	2	3	全	50
	19816	-		横山 直美	火2	2	3	全	51
	18622	春		中込 知子	水3	2	3	全	52
	18597	春		担当者未定	未定	2	3	_ 全	53
	19414	春		M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
	18602	春		ロン 美香	木3	2	3	全	55
ľ	18606	春		J. ハント	木3	2	3	全	56
	18620	春		関戸 冬彦	木4	2	3	全	57
	18614	秋		T. ホサイン	月3	2	3	全	50
	19817	秋	英語演習 Ⅱ	横山 直美	火2	2	3	全	51
	18623	秋	英語演習 Ⅱ	中込 知子	水3	2	3	全	52
	18599	秋	英語演習 Ⅱ	担当者未定	未定	2	3	全 全	53
	19415	秋	英語演習 Ⅱ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
	18603	秋	英語演習 Ⅱ	ロン 美香	木3	2	3	全	55
	18607	秋		J. ハント	木3	2	3	全	56
	18621	秋		関戸 冬彦	木4	2	3	全	57
	19406	春		兒島 峰	月2	2	3	全	58
	19402	春		C. ガリード	火3	2	3	全 全	59
	19404	春		N. ウエチ	木3	2	3	全	60
	19407	秋		兒島 峰	月2	2	3	全	58
	19403	秋		C. ガリード	火3	2	3	全	59
	19405	秋		N. ウエチ	木3	2	3	全	60
	19410	春		武信 彰	水3	2	3	全	61
	19408	春		永田 小絵	金2	2	3	全	62
	18590	春		吉田 桂子	金2	2	3	全	63
	19411	秋		武信 彰	水3	2	3	全	61
	19409	秋		永田 小絵	金2	2	3	全	62
	18591	秋		吉田 桂子	金2	2	3	全	63
	18626	春		金 秀晶	水2	2	3	全 全	64
	18625	秋	韓国語演習Ⅱ	金 秀晶	水2	2	3	全	64

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

177.12	<u> </u>	ファブリカザカ件日矸」							
時間割 <u>コード</u>	開講 学期	開講科目名称	担当者		曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13167	春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門 I (スペイン)		博康	月3	2	1	全	65
13168	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究入門 II (ラテンアメリカ)		勘治	月5	2	1	全	65
14676	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究 I (ラテンアメリカの歴史と社会)	佐藤	勘治	木4	2	2		66
14584	春	スペイン・ラテンアメリカ研究 Ⅱ (ラテンアメリカの政治と社会)	浦部	浩之	月2	2	2		67
14848	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	今井:	圭子	月4	2	2		68
14596	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究™(スペイン語圏の言語文化)	中井	博康	月3	2	2		69
14677	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論 I (ラテンアメリカ近現代史)	佐藤	勘治	木4	2	2		66
14585	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論 II (ラテンアメリカ国際関係論)	浦部	浩之	月2	2	2		67
14849	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論皿(ラテンアメリカ経済発展論)	今井:	圭子	月4	2	2		68
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)	2010年	度不開講					
15045	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論 V (ブラジル研究)	矢澤 :	達宏	月5	2	2	全	70
		スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	2010年	度不開講				全	
14590	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 I (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラ=	ĵ	金4	2	2		71
14591	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 Ⅱ (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラコ	ĵ	金4	2	2		71
15044	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田	量介	火3	2	2	全	72
14938	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島	峰	火2	2	2	全	72

Γ	由	玉	研到	日利	.日	群
	т	_	WI 2		_	<b>41</b> T

_	時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
-	13470	春	中国研究入門	森保裕	金5	2	1		73
	14605	秋	中国研究 I (中国社会論)	山本 秀也	土2	2	2		73
	14586	春	中国研究 II (中国の思想・文学)	永田 小絵	月3	2	2		74
	14909	春	中国研究Ⅲ(中国史a)	張 士陽	木4	2	2	全	75
	14910	秋	中国研究Ⅳ(中国史b)	張 士陽	木4	2	2	全	75
	14594	春	中国研究各論 I (現代中国論a)	山本 秀也	土1	2	2	法	76
ı	14595	秋	中国研究各論 Ⅱ (現代中国論b)	山本 秀也	土1	2	2	法	76
	14678	春	中国研究各論皿(日中交流史)	武信 彰	月4	2	2		77
	14587	秋	中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)	永田 小絵	月3	2	2		74
	14679	秋	中国研究各論Ⅴ(言語文化論)	武信 彰	月4	2	2		77
ı	14691	春	中国特殊研究 I (日中比較文化論a)	易 友人	月2	2	2		78
	14692	秋	中国特殊研究 II (日中比較文化論b)	易 友人	月2	2	2		78
ı	14703	春	中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)	易 友人	火3	2	2		79
	14704	秋	中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)	易 友人	火3	2	2		79

## 「静国研究科日群」

	「髀凶伽		3 符】						
_	時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
•	13141	春	韓国研究入門	平田 由紀江	月1	2	1	全	80
	14675	春	韓国研究 I (韓国史)	佐藤 厚	金2	2	2		81
	14680	秋	韓国研究Ⅱ(韓国社会論)	平田 由紀江	月3	2	2	全	82
	14627		韓国研究皿(韓国の言語文化)	平田 由紀江	水2	2	2		83
	14567	春	韓国研究各論 I (韓国社会各論a)	平田 由紀江	水2	2	2		83
	14974	春	韓国研究各論 Ⅱ (韓国社会各論b)	全 載旭	火2	2	2	全	84
	14889		韓国研究各論皿(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	85
	14626	春	韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)	呉 吉煥	水1	2	2		86
	14667	秋	韓国研究各論 V (韓国文化各論b)	佐藤 厚	金2	2	2		87
	14892	春	韓国研究各論VI(韓国文化各論c)	金 貞我	月5	2	2	全	88
	14891	秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月4	2	2	全	89
	14894	秋	韓国特殊研究 I (日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	2	全	90
ı	14890	春	韓国特殊研究 II (日韓比較文化論b)	金 熙淑	火3	2	2	全	90
	14893	秋	韓国特殊研究皿(文献読解)	金 貞我	月5	2	2	全	88

#### 「日本研究科日群」

<u>'口平坝</u>		3 作十」						
時間割 <u>コード</u>	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13471	春	日本研究 I (日本文学古典)	福沢健	月2	2	1	<del></del> 全	91
13198	秋	日本研究Ⅱ(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	2	1	全	91
13199	春	日本研究皿(日本史a)	丸浜 昭	火5	2	1	全	92
13200	秋	日本研究IV(日本史b)	丸浜 昭	火5	2	1	全	92
13201	春	日本研究 V (日本経済論a)	波形 昭一	火5	2	1	全	93
13202	秋	日本研究VI(日本経済論b)	波形 昭一	火5	2	1	全	93
13203	春	日本研究Ⅷ(日本文化論)	飯島 一彦	木5	2	1	全	94
14674	秋	日本研究各論 I (民俗芸能)	飯島 一彦	火3	2	2	全	94
15072	春	日本研究各論Ⅱ(企業経営)	黒川 文子	木5	2	2	全	95
14851	秋	日本研究各論皿(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全	96
14673	春	日本研究各論Ⅳ(古典芸能)	飯島 一彦	火3	2	2	全	97
14850	春	日本特殊研究 I (民俗学)	林 英一	木1	2	2	全	96
14689	秋	日本特殊研究Ⅱ(文献読解)	飯島 一彦	木5	2	2		97
14645	春	日本特殊研究皿(写本を読む)	飯島 一彦	火4	2	2	全	98
14647	秋	日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)	飯島 一彦	火4	2	2	全	98

#### 「多言語間交流研究科目群」

	间火剂	<b>瓜切先件日群</b> 】							
時間割	開講 学期	開講科目名称	担当	者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13443	春	多言語間交流研究 I (言語学a)	安間	一雄	水3	2	1	全	99
13444	秋	多言語間交流研究 Ⅱ (言語学b)	安間	一雄	金1	2	1	全	99
13146	春	多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	安間	一雄	金1	2	1	全	100
13147	秋	多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)	安間	一雄	水3	2	1	全	100
13142	秋	多言語間交流研究V(英語圏の文学)	松山	響子	月2	2	1	全	101
14636	春	多言語間交流研究各論 I (応用言語学)	臼井	芳子	水2	2	2	全	102
14637	秋	多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)	臼井	芳子	水2	2	2	全	102
14852	春	多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)	片山	亜紀	金3	2	2	全	103
14853	秋	多言語間交流研究各論N(英語圏の小説b)	島田	啓一	木3	2	2	全	103
15238	春	多言語間交流研究各論 V (英語圏の詩a)	遠藤	朋之	木4	2	2	全	104
14888	秋	多言語間交流研究各論VI(英語圏の詩b)	白鳥	正孝	月4	2	2	全	104
14854	春	多言語間交流研究各論VII(英語圏の演劇a)	児嶋	一男	火2	2	2	全	105
14855	秋	多言語間交流研究各論\ (英語圏の演劇b)	児嶋	一男	火2	2	2	全	105
14617	春	多言語間交流研究各論区(国際語としての英語)	臼井	芳子	金3	2	2	全	106
14618	秋	多言語間交流研究各論X(多言語環境と英語)	臼井	芳子	金3	2	2	全	106
14592	春	多言語間交流研究各論XI(英語圏の文化)	山本	英政	月3	2	2	全	107
14593	秋	多言語間交流研究各論X II (英語圏事情)	山本	英政	水2	2	2	全	107
15211	春	多言語間交流特殊研究 I (翻訳通訳論·英語)	横山	直美	火1	2	2		108
14638	春	多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)	永田	小絵	水1	2	2		109
14615	春	多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田	バネッサ	火3	2	2		110
15212	秋	多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)	横山	直美	火1	2	2		108
14659	秋	多言語間交流特殊研究 V (翻訳通訳実習·中国語)	永田	小絵	水1	2	2		109
15034	秋	多言語間交流特殊研究VI(翻訳通訳実習·スペイン語)	柴田	バネッサ	火3	2	2		110

「多文化共生研究科目群」

		<u> </u>							
時間割 <u>コード</u>	開講 学期	開講科目名称	担当	者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 <u>不可</u>	ページ
13204	春	多文化共生研究 I (文化人類学a)	井上	兼行	月3	2	1	全	111
13205	秋	多文化共生研究 Ⅱ (文化人類学b)	井上	兼行	月3	2	1	全	111
13206	春	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	岡村	圭子	土1	2	1	全	112
13207	秋	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	岡村	圭子	土1	2	1	全	112
13210	春	多文化共生研究 V (異文化間コミュニケーションa)	岡村	圭子	木1	2	1	全	113
13211	秋	多文化共生研究VI(異文化間コミュニケーションb)	山本	英政	月2	2	1	全	113
14856	春	多文化共生研究各論 I (アメリカの多文化共生a)	佐藤	唯行	木3	2	2		114
14857	秋	多文化共生研究各論 II (アメリカの多文化共生b)	佐藤	唯行	木3	2	2		114
14565	春	多文化共生研究各論皿(異文化社会の認識と世界観a)	井上	兼行	火2	2	2	全	115
14566	秋	多文化共生研究各論IV(異文化社会の認識と世界観b)	井上	兼行	火2	2	2	全	115
14568	秋	多文化共生研究各論 V (比較社会論)	井上	兼行	木2	2	2		116
14663	春	多文化共生研究各論VI(比較文化論)	岡村	圭子	水2	2	2		117
15176	春	多文化共生研究各論Ⅷ(大衆文化論)	木本	玲一	火5	2	2	全	118
14664	秋	多文化共生研究各論垭(地域メディア論)	岡村	圭子	水2	2	2	全	117
15007	秋	多文化共生特殊研究 I (滞日外国人研究)	田房	由起子	土2	2	2	法	118
14699	春	多文化共生特殊研究 Ⅱ (アメリカ合衆国のラティーノ社会)	佐藤	勘治	水2	2	2		119
14569	秋	多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)	井上	兼行	金3	2	2		119

「国際交流研究科目群」

時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13145	春	国際交流研究 I (国際関係論)	山本 秀也	土2	2	1		120
13319	春	国際交流研究Ⅱ(国際協力論)	浦部 浩之	水3	2	1		121
13212	春	国際交流研究皿(国際機構論)	鈴木 淳一	木3	2	1	全	122
13143	秋	国際交流研究IV(NGO論)	清水 俊弘	水5	2	1	全	123
13320	秋	国際交流研究V(南北問題)	浦部 浩之	水3	2	1		121
13213	秋	国際交流研究VI(情報とメディア)	森 保裕	金5	2	1		124
14860		国際交流研究各論 I (国際政治論a)	星野 昭吉	月2	2	2	全	125
14861	秋	国際交流研究各論 II (国際政治論b)	星野 昭吉	月2	2	2	全	125

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14977	春	国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論a)	益山 光央	火3	2	2	全	126
14979	秋	国際交流研究各論IV(国際経済論b)	益山 光央	火3	2	2	全	126
14868	春	国際交流特殊研究 I (日本政治外交史a)	福永 文夫	金3	2	2	全	127
14869	秋	国際交流特殊研究 II (日本政治外交史b)	福永 文夫	金3	2	2	全	127
14870	春	国際交流特殊研究Ⅲ(アジア太平洋地域交流a)	高安 健一	金1	2	2	全	128
14871	秋	国際交流特殊研究IV(アジア太平洋地域交流b)	高安 健一	金1	2	2	全	128
14872	春	国際交流特殊研究 V (グローバル・ガバナンスa)	一之瀬 高博	火3	2	2	全	129
14873	秋	国際交流特殊研究VI(グローバル・ガバナンスb)	一之瀬 高博	火3	2	2	全	129

「宗教・文化・歴史研究科目群」

		E实听九件日析】						
時間割コード	開講学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始	履修 不可	ページ
			l	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>		
13144	春	宗教·文化·歴史研究 I (文化史入門)	古川 堅治	水2	2	1	全	130
13214	春	宗教·文化·歴史研究 Ⅱ (東洋思想史a)	川口 茂雄	水2	2	1	全	131
13215	秋	宗教·文化·歴史研究Ⅲ(東洋思想史b)	川口 茂雄	水2	2	1	全	131
13472	春	宗教·文化·歴史研究Ⅳ(文明史研究a)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	132
13473	秋	宗教·文化·歴史研究 V (文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	132
13148	春	宗教·文化·歴史研究VI(倫理学a)	川口 茂雄	金3	2	1	全	133
13149	秋	宗教·文化·歴史研究Ⅷ(倫理学b)	川口 茂雄	金3	2	1	全	133
14695	春	宗教・文化・歴史研究各論 I (地中海世界の宗教と文化a)	櫻井 悠美	水3	2	2		134
14696	秋	宗教・文化・歴史研究各論 II (地中海世界の宗教と文化b)	櫻井 悠美	水3	2	2		134
14874	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗教史)	谷口 郁夫	月2	2	2		135
14669	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ(日本思想史1)	川村 肇	木4	2	2	全	136
		宗教·文化·歴史研究各論 V (日本思想史2)	2010年度不開講				全	
14875	春	宗教・文化・歴史研究各論VI(アラブ文化・芸術a)	藤原 和彦	火2	2	2	全	137
14876	秋	宗教・文化・歴史研究各論WI(アラブ文化・芸術b)	藤原 和彦	火2	2	2	全	137
14711	秋	宗教・文化・歴史特殊研究 I (世界の宗教と文化――神教と多神教)	古川 堅治	水2	2	2		138
14700	秋	宗教・文化・歴史特殊研究 Ⅱ (思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		139

「日本語教育研究科目群」

		<u> </u>							
時間割 <u>コード</u>	開講 学期	開講科目名称	担当	首	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13216	春	日本語教育研究 I (日本語教育概説)	石塚	京子	月2	2	1	全	140
13217		日本語教育研究 II (日本事情とコミュニケーション教育)	小山	慎治	月2	2	1	全	141
14687	春	日本語教育研究各論 I (日本語教授法1a)	中西	家栄子	木1	2	2		142
14688	秋	日本語教育研究各論 Ⅱ (日本語教授法1b)	中西	家栄子	木1	2	2		142
14879	春	日本語教育研究各論皿(日本語音声学)	磯村	一弘	水5	2	2		143
14557	春	日本語教育研究各論Ⅳ(日本語文法形態論)	浅山	佳郎	月2	2	2	全※1	144
14558	秋	日本語教育研究各論 V (日本語文法統語論)	浅山	佳郎	月1	2	2	全※1	144
14559	秋	日本語教育研究各論VI(日本語談話論)	浅山	佳郎	火1	2	2	全※2	145
14563	春	日本語教育研究各論((日本語意味論・語用論)	浅山	佳郎	月4	2	2		145
14693	春	日本語教育特殊研究 I (対照言語学·誤用分析a)	中西	家栄子	火2	2	2		146
14694	秋	日本語教育特殊研究Ⅱ(対照言語学·誤用分析b)	中西	家栄子	火2	2	2		146
		日本語教育特殊研究Ⅲ(文献読解a)	20104	年度不開講					
		日本語教育特殊研究IV(文献読解b)	20104	年度不開講					
20835	春	日本語教育特殊研究 V (日本語教授法2)	浅山	佳郎	火1	2	4		147
20834	春	日本語教育特殊研究 V (日本語教授法2)	中西	家栄子	水2	2	4		148
20836	春	日本語教育特殊研究 V (日本語教授法2)	野村	美知子	金2	2	4		149
14668	秋	日本語教育特殊研究VI(日本語教育教材論)	中西	家栄子	水2	2	2	全※2	150
	春/秋	日本語教育特殊研究Ⅷ(教育実習)	各担	当教員	その他	2	4		151

※1:07年度入学者は除く、※2:08年度以降入学者は除く

「教育科学研究科目群」

「教育科	学研究	2科目群」						
時間割	開講	  開講科目名称	担当者	曜時			履修	ページ
<u>コード</u>	学期				数	学年	<u>不可</u>	
13219	秋	教育科学研究 I (教育の原理)	川村 肇	火3	2	1	全	152
13218	秋	教育科学研究 I (教育の原理)	川村 肇	木2	2	1	全	152
13220	春	教育科学研究 I (教育の原理)	小島 優生	月4	2	1	全	153
13221	秋	教育科学研究 I (教育の原理)	小島 優生	月4	2	1	全	153
		教育科学研究Ⅱ(教育の歴史1)	2010年度不開講				全	
14670	秋	教育科学研究皿(教育の歴史2)	川村 肇	木4	2	1	全	154
13225	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	155
13226	秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月5	2	1	全	155
13223	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	川村 肇	火3	2	1	全	156
13224	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	川村 肇	木2	2	1	全	156
13474	春	教育科学研究 V (発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	157
13475	秋	教育科学研究 V (発達と学習の心理学)	森川 正大	水1	2	1	全	157
13227	春	教育科学研究 V (発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	158
13228	秋	教育科学研究 V (発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	158
13476	春	教育科学研究VI(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	159
14749	春	教育科学研究各論 I (比較教育制度論)	桑原 憲一	月5	2	2	全	161
14751	春	教育科学研究各論 I (比較教育制度論)	小島 優生	水3	2	2	全	160
14750	秋	教育科学研究各論 I (比較教育制度論)	小島 優生	水3	2	2	全	160
14756	秋	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	月3	2	2	全	161
14758	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	月3	2	2	全	162
14757	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	水2	2	2	全	162
14672	春	教育科学研究各論皿(カウンセリング論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	163
19177	秋	教育科学研究各論Ⅳ(パーソナリティ理論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	163
14761	春	教育科学研究各論 V (学校カウンセリング)	森川 正大	水1	2	2	全	164
14759	春	教育科学研究各論 V (学校カウンセリング)	瀧本 孝雄	水2	2	2		165
14760		教育科学研究各論 V (学校カウンセリング)	鈴木 乙史	木4	2	2	全	166
14866	秋	教育科学研究各論VI(こども論)	小島 優生	木3	2	2		167
14862	春	教育科学研究各論Ⅷ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	168
14863	秋	教育科学研究各論Ⅷ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	168
14867	春	教育科学特殊研究 I (異文化理解教育)	小島 優生	木3	2	2	_ 全	167
14865	秋	教育科学特殊研究Ⅱ(教師と語る)	川村 肇	金3	2	2		169
14864		教育科学特殊研究皿(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木2	2	2	全	170
14649	春	教育科学特殊研究IV(スポーツコーチ学a)	依田 珠江	木3	2	2	全	171
14629		教育科学特殊研究V(スポーツコーチ学b)	梶野 克之	水2	2	2	全	172
14877	春	教育科学特殊研究VI(リーダーシップ論)	和田智	金3	2	2	全	173
14604	秋	教育科学特殊研究WI(体育経営スポーツマネージメント)	松原裕	木2	2	2	全	174
00 1	170	教育科学特殊研究価(ボランティア論)	2010年度不開講	-,,-	_	_	全	
		13/13/13/13/13/13/13/13/13/13/13/13/13/1	1					

「自然・環境研究科目群」

		九竹口杆」						
時間割 <u>コード</u>	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 <u>不可</u>	ページ
13229	春	自然·環境研究 I (科学史a)	東 孝博	月2	2	1	全	175
13230	秋	自然·環境研究Ⅱ(科学史b)	東 孝博	月2	2	1	全	175
13477	春	自然·環境研究Ⅲ(数学a)	福井 尚生	月3	2	1	全	176
13478	秋	自然·環境研究Ⅳ(数学b)	福井 尚生	月3	2	1	全	176
13231	春	自然·環境研究 V (宇宙論a)	福井 尚生	月1	2	1	全	177
13232	秋	自然·環境研究Ⅵ(宇宙論b)	福井 尚生	月1	2	1	全	177
13233	春	自然·環境研究Ⅷ(天文学a)	福井 尚生	金3	2	1	全	178
13234	秋	自然·環境研究垭(天文学b)	福井 尚生	金3	2	1	全	178
15182	春	自然·環境研究各論 I (地球環境論a)	北﨑 幸之助	金4	2	2	全	179
15183	秋	自然·環境研究各論 II (地球環境論b)	北﨑 幸之助	金4	2	2	全	179
14619	春	自然·環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究a)	加藤 僖重	火2	2	2	全	180
14620	秋	自然·環境研究各論IV(科学技術交流史研究b)	加藤 僖重	火2	2	2	全	180
14608	春	自然·環境特殊研究 I (自然観察a)	加藤 僖重	火1	2	2	全	181
14609	秋	自然·環境特殊研究 II (自然観察b)	加藤 僖重	火1	2	2	全	181

時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14882	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	水2	2	2	全	182
14611	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木2	2	2	全	182
14665	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木3	2	2	全	182
14883	秋	自然・環境特殊研究IV(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	水2	2	2	全	182
14666	秋	自然・環境特殊研究IV(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木3	2	2	全	182
14614	秋	自然・環境特殊研究IV(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木2	2	2	全	182

「多言語情報処理研究科目群」

'罗言品		心生听九件日矸」						
時間割 <u>コード</u>	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13235	春	多言語情報処理研究 I (コンピュータと言語)	呉 浩東	月2	2	1	全	183
15100	春	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	184
15078	春	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	内田 俊郎	木2	2	2	全	184
15084	秋	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	田中 雅英	火4	2	2	全	184
15101	秋	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	184
14642	春	多言語情報処理研究各論 Ⅱ(情報検索と加工)	呉 浩東	水1	2	2	全	185
15079	春	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	内田 俊郎	木3	2	2	全	186
15121	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	月3	2	2	全	186
15082	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	田中 雅英	火3	2	2	全	186
15080	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	内田 俊郎	木2	2	2	全	186
15088	春	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	長崎 等	水2	2	2		187
15181	秋	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	長崎 等	水2	2	2		187
14690	春	多言語情報処理研究各論V(統計と調査法)	安間 一雄	水1	2	2	全	188
14560	秋	多言語情報処理研究各論Ⅵ(コーパス言語学)	浅山 佳郎	水1	2	2		188
14697	春	多言語情報処理特殊研究 I (自然言語処理a)	呉 浩東	木3	2	2		189
14698	秋	多言語情報処理特殊研究 II (自然言語処理b)	呉 浩東	木3	2	2		189
14880	春	多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論a)	呉 浩東	月4	2	2		190
14881	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論b)	呉 浩東	月4	2	2		190
14610	秋	多言語情報処理特殊研究 V (コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	2	全	191
15083	春	多言語情報処理特殊研究VI(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	192

## 「卒業研究」

時間割  開講   コード   学期   開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
春/秋 卒業研究	各担当教員		2	4	全	193

全学総合科目 「スポーツ・レクリエーション部門」

時間割開講開講科目名称コード学期	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	各担当教員	土1/土2	1	1	<u>全</u>	194

「日本語科目」(外国人学生・帰国学生専用)

時間割 開講 コード 学期 開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
─────────────────────────────────────	各担当教員		1	1	全	195
春/秋中級日本語	各担当教員		1	1	全	196
春/秋 上級日本語 I	各担当教員		1	1	全	197
春/秋 上級日本語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	198

## 外国語学部言語文化学科授業科目(2003年度~2006年度入学者用)

## 目 次 学科基礎科目

「基礎講座」部門

時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08659	春	現代世界論	佐藤 勘治	月4	2	1	全	4
		コンピュータ基礎演習			2	1	全	

※「コンピュータ基礎演習」のシラバスは、外国語学部共通科目「情報科学各論」の頁を参照する。

※過去にコンピュータ基礎演習を修得した場合、過去に修得したコンピュータ基礎演習の副題の異なる

情報科学各論を登録すること。

## 「概論」部門

時間割コード	開講 学期		担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
02271	秋	比較思想概論	谷口 郁夫	月2	2	1		135
01969	春	日本文化論a	飯島 一彦	木5	2	1		94
02104	春	スペイン・ラテンアメリカ文化論a	中井 博康	月3	2	1		65
02105	秋	スペイン・ラテンアメリカ文化論b	佐藤 勘治	月5	2	1		65
01905	春	現代中国論a	山本 秀也	土1	2	1	法	76
01906	秋	現代中国論b	山本 秀也	土1	2	1	法	76

#### 学科共通科目

## 「外国語」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
02093	春		T. ホサイン	月3	2	3	全	50
11610	春		横山 直美	火2	2	3	全	51
13156	春		中込 知子	水3	2	3	全 全	52
10632	春		担当者未定	未定	2	3	全	53
13165	春		M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
13158	春		ロン 美香	木3	2	3	全	55
09780	春		J. ハント	木3	2	3	全	56
15265	春		関戸 冬彦	木4	2	3	全全全全全全	57
02094	秋	英語演習	Τ. ホサイン	月3	2	3	全	50
11611	秋		横山 直美	火2	2	3	全	51
13157	秋	英語演習	中込 知子	水3	2	3	全	52
10636	秋		担当者未定	未定	2	3	全	53
13166	秋		M. デル_ベツキオ	水4	2	3	全	54
13159	秋		ロン 美香	木3	2	3	全	55
09781	秋	英語演習	J. ハント	木3	2	3	全 全	56
15266	秋	英語演習	関戸 冬彦	木4	2	3	全	57
10639	春		兒島 峰	月2	2	3	全全全全全全	58
10638	春春		C. ガリード	火3	2	3	全	59
09417	春		N. ウエチ	木3	2	3	全	60
10642	秋		兒島 峰	月2	2	3	全	58
10641	秋		C. ガリード	火3	2	3	全	59
09416	秋	スペイン語演習	N. ウエチ	木3	2	3	全	60
10646	春	中国語演習	武信 彰	水3	2	3	全	61
10644	春		永田 小絵	金2	2	3	全	62
09420	春		吉田 桂子	金2	2	3	全	63
10649	秋		武信 彰	水3	2	3	· 全 全	61
10647	秋		永田 小絵	金2	2	3	全	62
09421	秋	中国語演習	吉田 桂子	金2	2	3	全	63

## 学科専門科目

I	E	4	ζ.	屻	·究_	<u> </u>	ßŀ	<u>"</u> ໆ
	_		_					

時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06317	春	日本思想史a	川村 肇	木4	2	2	全	136
06319	春	日本文化·芸能論a	飯島 一彦	火3	2	2	全	97
06320	秋	日本文化·芸能論b	飯島 一彦	火3	2	2	全	94
06479	春	日本近現代史a	丸浜 昭	火5	2	2	全全全全全全	92
06480	秋	日本近現代史b	丸浜 昭	火5	2	2	全	92
07116	春	日本経済論a	波形 昭一	火5	2	2	全	93
07117	秋	日本経済論b	波形 昭一	火5	2	2	全	93
06281	春	日本政治外交史a	福永 文夫	金3	2	2	全	127
06282	秋	日本政治外交史b	福永 文夫	金3	2	2	全	127
15110	春	日本研究特殊講義(企業経営)	黒川 文子	木5	2	2	全	95
15111	秋	日本研究特殊講義(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全 全	96
15112	春	日本研究特殊講義(民俗学)	林英一	木1	2	2	全	96
15113	秋	日本研究特殊講義(文献読解)	飯島 一彦	木5	2	2		97
15114	春	日本研究特殊講義(写本を読む)	飯島 一彦	火4	2	2	全	98
<u> 15115</u>	秋	日本研究特殊講義(碑文を読む)	飯島 一彦	火4	2	2	全	98

「日本語教育研究」部門

時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06321	春	日本語文法論a	浅山 佳郎	月2	2	2		144
06322	秋	日本語文法論b	浅山 佳郎	月1	2	2		144
06323	春春	日本語音声学a	磯村 一弘	水5	2	2		143
06325	春	対照言語学a	中西 家栄子	火2	2	2		146
06326	秋	対照言語学b	中西 家栄子	火2	2	2		146
14564	春春	日本語語彙·意味論	浅山 佳郎	月4	2	2		145
06327	春	日本語教授法Ia	中西 家栄子	木1	2	2		142
06328	秋	日本語教授法Ib	中西 家栄子	木1	2	2		142
02192	春春	日本語教授法Ⅱ	浅山 佳郎	火1	2	4		147
02080	春	日本語教授法Ⅱ	中西 家栄子	水2	2	4		148
02036	春	日本語教授法Ⅱ	野村 美知子	金2	2	4		149
01884	秋	日本語学a	中西 家栄子	水2	2	1	全 全 全	150
01885	秋	日本語学b	浅山 佳郎	火1	2	1	全	145
02163	春	日本語教育論	石塚 京子	月2	2	1	全	140
	春/秋	日本語教育実習	各担当教員	その他	2	4		151

「情報・コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06329	春	自然言語処理a	呉 浩東	木3	2	2		189
06330	秋	自然言語処理b	呉 浩東	木3	2	2		189
02291	春	通訳翻訳論	永田 小絵	月5	2	2	全	199
07121			呉 浩東	月4	2	2	全	190
07122		プログラミング論b(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉 浩東	月4	2	2	全	190
11818		プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	加藤 尚吾	月1	2	2	経∙法	200
07127		プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)		水1	2	2	経∙法	201
11815	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	森 園子	水3	2	2	経∙法	202
07123		プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	堀江 郁美	金2	2	2	経∙法	203
11819		プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	加藤 尚吾	月1	2	2	経∙法	200
07128	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	水1	2	2	経∙法	201
11816			森 園子	水3	2	2	経∙法	202
07124	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	堀江 郁美	金2	2	2	経∙法	203

	時間割コード	子别	開講科目名称	担当		曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
-	06331	春	異文化間コミュニケーション論a	岡村	圭子	木1	2	2	英	113
	06332	秋	異文化間コミュニケーション論b	山本	英政	月2	2	2	英	113
	11755	秋	マス・コミュニケーション論b	森保	?裕	金5	2	2		124
	02355		認知科学	田口	雅徳	水2	2	2		168
	02356		認知科学	田口	雅徳	水2	2	2		168
	06333	春	人間関係とカウンセリングa	瀧本	孝雄	木3	2	2		163
	06334	秋		瀧本	孝雄	木3	2	2		163
	08476		情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	岡田	圭子	月3	2	2	全	204
	08477		情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	岡田	圭子	月3	2	2	全	204
	07131	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(コーパス言語学入門)	浅山	佳郎	水1	2	2		188
	15116		情報・コミュニケーション研究特殊講義(国際語としての英語)	臼井	芳子	金3	2	2	全	106
	15117		情報・コミュニケーション研究特殊講義(多言語環境と英語)	臼井	芳子	金3	2	2	全	106
	15218		情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・英語)	横山	直美	火1	2	2		108
	16992		情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・中国語)	永田	小絵	水1	2	2		109
	14616	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田	バネッサ	火3	2	2		110
	15240	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・英語)	横山	直美	火1	2	2		108
	15118	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・中国語)	永田	小絵	水1	2	2		109
	15119	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田	バネッサ	火3	2	2		110

「地域研究」部門

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<u> </u>		T					
時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07132	秋	地域文化論 i a	佐藤 勘治	木4	2	2		66
07133	春	地域文化論 i b	佐藤 勘治	木4	2	2		66
07134	秋	地域文化論 ii b	中井 博康	月3	2	2		69
07136	春	地域文化論iiia	武信 彰	月4	2	2		77
07137	秋	地域文化論 iii b	武信 彰	月4	2	2		77
14588	春	地域文化論 iv a	永田 小絵	月3	2	2		74
14589	秋	地域文化論iv b	永田 小絵	月3	2	2		74
06278	春	地域経済論 i a	今井 圭子	月4	2	2		68
06279	秋	地域経済論 i b	今井 圭子	月4	2	2		68
07140	春	地域経済論 ii a	高安 健一	金1	2	2	経∙法	128
07141	秋	地域経済論 ii b	高安 健一	金1	2	2	経∙法	128
07144	春	地域経済論iiia	全 載旭	月2	2	2	経∙法	205
07145	秋	地域経済論iiib	全 載旭	月2	2	2	経∙法	205
07147	秋	比較社会論b	井上 兼行	木2	2	2		116
11820	春	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究a)		月2	2	2		67
11821		地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究b)		月2	2	2		67
07576	秋	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術b)	藤原 和彦	火2	2	2	全	137
07575	春		藤原 和彦	火2	2	2	全	137
07158	秋		櫻井 悠美	水3	2	2		134
12355	春	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史a)	櫻井 悠美	水3	2	2		134
07153	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーb)	佐藤 唯行	木3	2	2		114
07152			佐藤 唯行	木3	2	2		114
07151	秋	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化b)		金3	2	2		119
13466	春	地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	古川 堅治	水2	2	2	全	130
07156	春		P. ラゴ	金4	2	2		71
07157		地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明b)		金4	2	2		71
15179	春	地域社会文化論特殊講義(ブラジル研究)	矢澤 達宏	月5	2	2	全	70
15180		地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	72
15087			兒島 峰	火2	2	2	全	72
15089	春	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究古典)	易 友人	火3	2	2		79
15090	秋	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究現代)	易 友人	火3	2	2		79
15091	春	地域社会文化論特殊講義(韓国史)	佐藤 厚	金2	2	2	全	81
15092	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国社会論)	平田 由紀江	月3	2	2	全 全	82
15093	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国の言語文化)	平田 由紀江	水2	2	2	全	83

時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15094	春	地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論a)	平田 由紀江	水2	2	2	全	83
15095	春	地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論b)	全 載旭	火2	2	2	全	84
15096		地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	85
15097	春	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論a)	呉 吉煥	水1	2	2	全	86
15098		地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論b)	佐藤 厚	金2	2	2	全	87
15099	春	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論c)	金 貞我	月5	2	2	全	88
15102	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏の文化)	山本 英政	月3	2	2	全	107
15103		地域社会文化論特殊講義(英語圏事情)	山本 英政	水2	2	2	全	107
15104	春	地域社会文化論特殊講義(アメリカ合衆国のラティーノ社会)	佐藤 勘治	水2	2	2		119
15106	秋	地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		139
15107	秋	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	2	全	90
15108		比較文化論特殊講義(日韓比較文化論b)	金 熙淑	火3	2	2	全	90
15109	春	比較文化論特殊講義(大衆文化論)	木本 玲一	火5	2	2	全	118
15177	秋	比較文化論特殊講義(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	117
01822		比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化)	岡村 圭子	水2	2	2		117
01823	秋	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	田房 由起子	土2	2	2	全	118
07161	春	比較文化論特殊講義(日中文化比較論a)	易 友人	月2	2	2		78
07162	秋	比較文化論特殊講義(日中文化比較論b)	易 友人	月2	2	2		78

「国際交流」部門

_	時間割コード	開講 学期	開講科目名称	担当	<b></b>	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
_	07366	春	国際関係概論a	浦部	浩之	水3	2	2		121
	07367	秋	国際関係概論b	浦部	浩之	水3	2	2		121
	06275	春	国際機構論a	鈴木	淳一	木3	2	2	経∙法	122
	06276	秋	国際機構論b	鈴木	淳一	木3	2	2	経∙法	206
	07163	春	地球環境論a(地理学)	北﨑	幸之助	金4	2	2	全 全	179
	07164		地球環境論b(地理学)	北﨑	幸之助	金4	2	2	全	179
	07166	春	地球環境論a(太陽系)	福井	尚生	金3	2	2		178
	07167	秋	地球環境論b(太陽系)	福井	尚生	金3	2	2		178
	11823	春	国際経済論a	益山	光央	火3	2	2	経∙法	126
	11824	秋	国際経済論b	益山	光央	火3	2	2	経∙法	126
	07174	春	国際政治論a	星野	昭吉	月2	2	2	経∙法	125
	07175	秋	国際政治論b	星野	昭吉	月2	2	2	経∙法	125
	11753	春	国際交流特殊講義(蘭学を学んだ人たちa)	加藤	僖重	火2	2	2		180
	11754	秋	国際交流特殊講義(蘭学を学んだ人たちb)	加藤	僖重	火2	2	2		180
	13464	春	国際交流特殊講義(国際関係・日米中)	山本	秀也	土2	2	2		120
	13465	秋	国際交流特殊講義(NGO論)	清水	俊弘	水5	2	2	全	123

卒業研究

	開講 開講科目名称 学期	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
ì	通年 卒業論文	各担当教員	その他	4	4	全	207

## 外国語学部共通科目

 時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位数	開始学年	履修 不可	ページ
19598	総合講座	工藤 和宏	春	水3		2	1	養・経・法	208
	総合講座	工藤 和宏	秋	水3		2	1	養•経•法	208
07691	総合講座	廣田 愛理	秋	水2		2	1	養・経・法	209
	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	50	2	1	養・経・法	210
	情報科学概論b	休講							
	(入門)情報科学各論	各担当教員							
19458	(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	50	2	1	養・経・法	211
19460		田中 雅英	春	火3	50	2	1	養・経・法	211
19456		長崎 等	春	水1	50	2	1	養・経・法	211
19455		内田 俊郎	秋	木4	50	2	1	養・経・法	211
19592	(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	春	木3	50	2	1	養・経・法	212
19593		羽山 恵	秋	木3	50	2	1	養・経・法	212
15229	(情報処理演習)[ヨ―ロッパ言語]	金井 満	春	火2	45	2	1	養・経・法	213
14281		田中 善英	春	金4	45	2	1	養・経・法	213
15230		金井 満	秋	火2	45	2	1	養・経・法	213
14282		田中 善英	秋	金4	45	2	1	養・経・法	213
	(応用)情報科学各論	各担当教員							
19471	(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	30	2	1	養・経・法	214
19450		内田 俊郎	春	木2	30	2	1	養∙経∙法	214
19462		田中 雅英	秋	火4	30	2	1	養・経・法	214
19472		松山 恵美子	秋	水2	30	2	1	養∙経∙法	214
19463	(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	30	2	1	養•経•法	215
19464		金子 憲一	秋	月4	30	2	1	養•経•法	215
19465	(Word中級)	金子 憲一	春	月3	30	2	1	養•経•法	216
19467		金子 憲一	春	月5	30	2	1	養・経・法	216
19454		内田 俊郎	春	木4	30	2	1	養・経・法	216
19459		田中 雅英	秋	火2	30	2	1	養・経・法	216
19457		長崎 等	秋	水1	30	2	1	養・経・法	216
19453	( 1 (	内田 俊郎	秋	木3	30	2	1	養・経・法	216
19469	(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	30	2	1	養・経・法	217
19470	/ <del></del>	松山 恵美子	秋	水3	30	2	1	養・経・法	217
16993	(言語情報処理1)	羽山恵	春	木2	50	2	2	養・経・法	218
16994	( <del></del>	吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	養・経・法	219
15232	(言語情報処理2)	羽山恵	秋	木2	50	2	2	養・経・法	218
15234		吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	養・経・法	219
10451	(HTML)情報科学各論	各担当教員	I.I.	<b>+</b> 0	F0	_	4	<b>≠</b> 47 +	000
19451	(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	50	2	1	養・経・法	220
19452		内田 俊郎	春	木3	50	2	1	養・経・法	220
19466		金子 憲一	秋	月3	50	2	1	養・経・法	220
19461	(UTMI 由級)	田中 雅英	秋	火3	50	2	1	養・経・法	220
19468	(HTML中級) 経済原論a	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	221
	1=0.100	井上 智弘	春	水2	350	2	1	養・経・法	222
00088	経済原論b  なる心理学。	井上 智弘	秋	水2	350	2	1	養·経·法	222
	社会心理学a	休講							
	社会心理学b	休講							

<sup>※</sup>定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず結果を確認してください。 ※情報科学各論を履修する場合は、授業時間割の重複履修可否一覧を必ず確認してください。

養	基礎演習 a		担当者	各担当教員					
意義に過ごすための 降の専門研究に対対 そのために、読み	は、1年次に今後4年間の大学生活を有 のアドバイスおよびケアおよび2年次以 心できるよう準備することにある。 な書きの能力などのリテラシー、分析能 どのコンピテンシーを高めていくことを	キャリア形成) 3.問題や文献を記 ポート・、では がからいた。 がからいた。 がからが、では がからが、がでいた。 がからが、では がからが、では がからが、では がいるが、では がいるが、では がいるが、では がいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、では でいるが、でいるが、でいるが、でいるが、でいる でいるが、でいるが、でいるが、でいるが、でいるが、でいるが、でいるが、でいるが、	<ul><li>(1目)</li><li>(1目)</li><li>(1目)</li><li>(1目)</li><li>(1目)</li><li>(1目)</li><li>(1目)</li><li>(2を回り</li><li>(1日)</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li>(2を回り</li><li></li></ul>	課題)、将来展望(学習計画、 活動など の収集、図書館の利用法、レ 要約の仕方 取り方(2回) ーションのスキル、授業の受 り方 、テキストの読み方 の使い方、インターネットの ポイントの作り方と使い方 決定(2回) 降専門選択のためのオリエン					
テキスト、参考文献	·····································	評価方法	法						
各担当教員による		出欠状況およびレポートなどにより、総合的に評価する							

養	基礎演習 b		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę.	授業計画		
7名の教員によって 講義の目的、講義 学期に説明がなされ 演習と同時に、必 の科目履修計画に	目 b は、春学期の基礎演習 a を担当した 独自に行われる。	各担当教員による	3	
テキスト、参考文献	<del>*************************************</del>	評価方法		
各担当教員による		各担当教員による	3	

			担当者	
講義目的、講義概要	5	授業計画		
テキスト、参考文南	₹	評価方法		

講義目的、講義概要	授業計画		
〔講義目的〕	第1回「言語」と「文化」について		
言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言	第2回 スペイン・ラテンアメリカ, 国際交流, 各研究科	目群とゼミ	
語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを認識するた	第3回 中国,韓国,日本,各研究科目群とそのゼミ		
めの授業である。学科が設置している各選択教養科目群がお	第4回 英語圏, 多文化, 日本語教育, 各研究科目群と	そのゼミ	
おまかにどういう分野であり、それぞれの担当教員がどのような	第5回 宗教·歷史·文化,教育科学,各研究科目群	とそのゼミ	
演習を開講しているかを把握し、学生諸君自身による今後の履	第6回 自然・環境, 多言語情報処理, 各研究科目群と	そのゼミ	
修のための「設計図」をえがくことを目的とする。	第7回 研究科目群の編成について		
〔講義概要〕	第8回 特別トピックに関する研究討論(1)		
講義内容としては,各研究科目群についての概説,2年次以	以 第9回 特別トピックに関する研究討論(2)		
降の演習担当教員による内容紹介,「言語」と「文化」をキイワー	第10回 特別トピックに関する研究討論(3)		
ドとして複数の教員によって展開される議論の3種類で構成され	第11回 特別トピックに関する研究討論(4)		
る。第1の概説はこの科目の担当者による,第2,第3の内容は,	第12回 演習選択について		
毎回学科の専任教員をゲストにむかえておこなう。	第13回 言語文化と教養		
授業中の学生からの質問を,つよく要求する。	なお,この予定は,各研究科目群担当教員の状況	兄により,前	
	後する場合がある。		
テキスト、参考文献	評価方法		
言語文化学科『演習の手引き』	評価は、出席と期末のレポートによる。		

言語文化論

担当者

浅山 佳郎

養	哲学 I		担当者	松丸 壽雄
よびその例が示されるれぞれが興味ある分される課題研究を調査および討議によい一プが表表を行い共に全体討議を行ったの課題とは、人間流の意義、意識とは就できるか、他者の	て、概要説明と問題への取り組み方、おれる。この課題ごとに、グループ分けし、 お課題と取り組む。さらに後半に時間配 を表に向けて、前半部各グループは研究 より適切な解答を考える。後半には各グ い、最後に教師をも含めて、他の学生と のことを目指す。 引と世界との関係、愛とは、諸文化の交 は、感情の意味、教養は世界の平和に貢 の意味、幸福と倫理、言語の意味と殺割 くは、授業始めに、課題の一覧表を配る	授業計画  1. 課題説明と記念。 2. 各グルルプンプングルループである。第第一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一	で で で で で で で で で と の 調 調 査 で と の の 調 調 査 で グ ルループ グ ルループ グ ルーープ の の の ルーーガ グ ルーー グ が 発 発 発 発 発 発 キーハグルルー 第十十八ググルー	究 究 究 表と討論 表と討論 表と討論 表と討論 プの発表と討論 プの発表と討論 プの発表と討論
適宜指示。	ix .	ディスカッショ		授業への取り組み方を調査研 およびレポートから最終判

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

#### 講義目標

この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマについて受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとなることを目的とする。一年目の学生が主な履修対象者である。

現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。

#### 講義概要

言語文化学科所属教員や各界で活躍しているゲストスピーカーにそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当者の専門分野は、言語学、歴史、社会学、文学、生物学、文化人類学など多様である。とくに、統一のテーマを設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一面を論じてもらう。ゲストスピーカーには、作家の森まゆみ氏、ラテンアメリカを中心に幅広い取材経験をもつ工藤律子氏、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏、日本の音楽シーンに一石を投じている宮田信氏、エクアドル産チョコレートなどのフェアトレードを推進している藤岡亜美氏を予定している。

なお、順番などについて、変更の可能性がある。

#### 受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。 積極的な発言を期待している。

#### 評価方法

毎回、内容理解を確かめる小レポート課題が出される。また最終レポートを提出してもらう。

#### テキスト、参考文献

陳天璽『無国籍』(新潮社)2005年・工藤律子『ストリートチルドレン:メキシコシティの路上に生きる』(岩波ジュニア新書)2003年など

#### 授業計画

1 佐藤勘治:

総論 現代世界の歴史的位置 (4/12)

2 飯島一彦:

中華文明という幻想、日本文化の多様性(4/19)

- 3 森まゆみ(ゲストスピーカー):作家・編集者 「地域」から考えるということ(4/26)
- 4 井上兼行: カリブ海地域クレオールの現状 (5/10)
- 5 加藤僖重 プラントハンターが活躍した世界 (5/17)
- 6 陳天璽 (ゲストスピーカー): 国立民族学博物館 「無国籍」を生きるとは? (5/24)
- 7 臼井芳子:

日本の言語政策 (5/31)

- 8 工藤律子 (ゲストスピーカー) : ジャーナリスト ストリートチルドレンとは (6/7)
- 9 宮田信(ゲストスピーカー): **MusicCamp** チカーノコミュニティから沸き起こる音楽 (6/14)
- 10 依田珠江:

社会的弱者のスポーツする権利 (6/21)

- 11 山中千恵 (ゲストスピーカー) : 仁愛大学講師 東アジアにおける『はだしのゲン』 (6/28)
- 12 佐藤勘治:

アイデンティティの時代

+ $\nu$ ポート課題について (7/5)

- 13 藤岡亜美(ゲストスピーカー): Slow Water Café フェアトレードの現場と私たちの暮らし (7/12)
- 14 浅山佳郎:

漢字と文字の国際性(7/19)

養 哲学Ⅱ 担当者 松丸 壽雄 講義目的、講義概要 授業計画 1.現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。 現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎と なる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題へ 2.各グループの研究調査、発表準備。 の取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ 3.各グループの研究調査、発表準備。 分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、春学期 4.各グループの研究調査、発表準備。 の間取り組むことになる。各グループは研究調査および 5.第1、第2グループの発表とディスカッション ディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と 6.第3、第4グループの発表とディスカッション 解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今 7. 第5、第6グループの発表とディスカッション 度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学 8. 第7、第8グループの発表とディスカッション 生による発表と全体ディスカッションは英語でなされる。 9. 第9、第10グループの発表とディスカッション なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分 10. 第 11、第 12 グループの発表とディスカッション 担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等 11. 第 13、第 14 グループの発表とディスカッション を自主的に決めたうえで、発表に臨むこと。 12. 第 15、第 16 グループの発表とディスカッション 13. 第17、第18グループの発表とディスカッション 14. 第19、第20グループの発表とディスカッション

評価方法

く個人のレポート (80%)

発表とディスカッションの貢献度(20%)と、それに基づ

テキスト、参考文献

谪官指示

養	哲学Ⅱ		担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要	5	授業計画		
なる課題について、の取り組み方がます。分けした各班がことに、所以を与えるのは、ディスカッションに、解決を与えるの含め、性によるのでは、おいでは、おいでは、おいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	直面せざるを得ない諸問題の基礎と 簡単な概要説明といくつかの問題へ ず示される。この課題ごとに、グループ れぞれに興味を抱いた課題を、秋学期 なる。各グループは研究調査および より、自分たちならばどのような見解と 最適と考えるかを探り、発表を行い、今 て、他の学生との全体討議を行う。学 本ディスカッションは英語でなされる予 者の情況を見究めて、使用言語を最終 お、このグループ内で、研究調査計 旦、研究発表の手順担当者、および質 自主的に決めたうえで、発表に臨むこ	2.各グループの研究 3.各グループの研究 4.各グループの研究 5.第 1、第 2 グルー 6.第 3、第 4 グルー 7.第 5、第 6 グルー 8.第 7、第 8 グルー 9.第 9、第 10 グルー 10. 第 11、第 12 2 11. 第 13、第 14 2 12. 第 15、第 16 13. 第 17、第 18 14. 第 19、第 20	だ調査、発表を だ調査、発表を で調査、発表を で調査、発表を での発表表と ープの発表表と ープの発表表表と でループの発 ブループの発 グループの グループの	準備。 準備。 ディスカッション ディスカッション ディスカッション
テキスト、参考文献		評価方法	ションの香料	kr (900/) l. スカに甘る
適宜指示		発表とアイスガッ く個人のレポート		は度(20%)と、それに基づ

 養
 英語 I (IE)
 担当者
 各担当教員

#### 講義目的、講義概要

多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。

#### 授業計画

各担当教員が初回の授業で指示する。

#### テキスト、参考文献

上級 Advanced level: New Directions (Cambridge University Press)

中級上 Intermediate high level: Well Read 3 (Oxford University Press)

中級中**Intermediate mid level**: Well Read 2 (Oxford University Press)

中級下 Intermediate low level: Well Read 1 (Oxford University Press)

#### 評価方法

課題 (20%), 多読関連 (20%) , 語彙テスト (20%) , 期末 テスト (40%)

出席: 出席を大前提とする。8回以上欠席した場合は 不合格とする。

養 英語Ⅱ (IE) 担当者 各担当教員

#### 講義目的、講義概要

多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで,テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ,リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。

#### 授業計画

各担当教員が初回の授業で指示する。

#### テキスト、参考文献

春学期(英語 I)と同じ

#### 評価方法

春学期(英語 I)と同じ

養	英語 I (S)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>-</del>	授業計画		
基礎的な言語表現刑	ジ式を口頭で使いこな <b>す</b> 能力を養う.こ	各担当教員が初り	回の授業で指	示する.
こでは,音声言語の	)受容・産出効率を高めるために定型言			
語形式の使用練習べ	9発音練習をする.また,プレゼンテー			
ションスキルを学び	<b>が,身近なテーマに関するプレゼンテー</b>			
ションの練習をする	5.			
授業の使用言語は多				
テキスト、参考文献		評価方法		
	Dynamic Presentations (桐原書店) with You (Macmillan), Getting Ready for Speech			%), 口頭発表(30%), 期末
(Language Solutions)	wun 10m (wactimiati), Geumg Ready for Speech	ペアインタビュ-	一(30%),	<b>思到達度(30%)</b>

養	英語 II (S)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
「英語 I(S)」に示し	<b>」た内容と目標を継承し , さらに発展的</b>	各担当教員が初	回の授業で指	示する.
な学習を行う . 定型	型言語形式の使用練習においては,自発			
的な発話場面におし	<b>ヽ</b> ても,適切に使用できることを目標と			
する.				
授業の使用言語は英	語とする。			
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価方法		
春学期に同じ.		春学期に同じ.		

#### 講義目的、講義概要

エッセイライティングの基礎を学ぶ、パラグラフ内の論理 構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペー パー作成のための基礎練習を行う、実際のライティング作 業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重 視される、すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編 集などで、このためにブレーンストーミング、アウトライ ンプロセシング、資料の利用法といった新しい技法を学 ぶ、このほか随時正書法上の重要事項を学習する、授業の 主要な使用言語は英語とする、また、課外の作文課題は原 則として機械清書をして提出するものとする、

#### 授業計画

各担当教員が初回の授業で指示する.

#### テキスト、参考文献

上級 Advanced level: Writing Academic English (Pearson) 中級 Intermediate level: Effective Academic Writing 2 (Oxford)

#### 評価方法

テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%),期末 作文課題 (20%),授業参加態度 (20%),ポートフォリオ (10%)

養 英語Ⅱ(W) 担当者 各担当教員

#### 講義目的、講義概要

エッセイライティングの基礎を学ぶ「英語 I(W)」に示した内容と目標を継承し,さらに発展的な学習を行う.パラグラフ内の論理構成の技術をもとに,記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う.実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される.すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで,このためにブレーンストーミング,アウトラインプロセシング,資料の利用法といった新しい技法を学ぶ.このほか随時正書法上の重要事項を学習する.授業の主要な使用言語は英語とする.また,課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする.

#### 授業計画

各担当教員が初回の授業で指示する.

#### テキスト、参考文献

春学期に同じ.

#### 評価方法

春学期に同じ、

養	英語Ⅲ (IE)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	· 要	授業計画		
習を行う。主たる当ッションで、テーマでは、受講者は読んも再構築する。また知識・経験と結びでとが求められる。よ	き続き、様々なテーマに基づく統合的学習活動はリーディングおよびディスカマに関連した語彙学習も行う。この授業がだ内容を適格に要約し、それを口頭でき、読んだ内容を建設的に批判し、自らつけて問題解決方法を調査し提案することを総合の意見を文章にまとめる。	各担当教員が初	回の授業で指	示する。
テキスト、参考文献	状	評価方法		
	nguage (Pearson Education) emic Encounters: Life in Society (Cambridge	テスト (40%)		,語彙テスト(20%),期末 8 回以上欠席した場合は

養	英語IV(IE)		担当者	各担当教員
テーマに基づく統合 は読んだ内容を適る。また、読んだり と結びつけて問題	き続き、同じ授業形態の許で、様々な合的学習を行う。この授業では、受講者格に要約し、それを口頭でも再構築するを建設的に批判し、自ら知識・経験解決方法を調査し提案することが求めてのユニットで学んだことを総合的に評	<b>授業計画</b> 各担当教員が初口	回の授業で指	示する。
テキスト、参考文献 春学期(英語 III) と		評価方法 春学期(英語 III	[)と同じ	

養 英語Ⅲ(S)	英語Ⅲ (S)		各担当教員
講義目的、講義概要	授業計画		
柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養	各担当教員が初り	回の授業で指	示する .
う.「英語 II (S)」に引き続き,音声言語の受容・産出効			
率を高めるために定型言語形式の使用練習を行うほか,異			
文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッ			
ションやプレゼンテーションの練習を行う.ここでは,単			
に流暢さを増すだけでなく,正確に情報が伝わるように内			
容構成・表現形式の質を高める練習を行う.また,用意さ			
れた発話が適切に遂行できることのみならず,不測の場面			
においても適切に対処できることを目標とする.			
授業の使用言語は英語とする.			
テキスト、参考文献	評価方法		

上級: Academic Encounters: Life in Society (LS) (Cambridge University Press) ,

中級上・中:People Like Us, Too (Macmillan)

中級下: People Like Us (Macmillan)

参加態度·予習·努力等(10%),口頭発表(30%),期末ペアイン

タビュー (30%), 課題到達度 (30%)

養	英語IV(S)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
「英語 III(S)」に引	き続き,柔軟で応用性の高い口頭言語	各担当教員が初	回の授業で指	示する.
表現を使いこなす能	<b>能力を養う.異文化間理解に関する様々</b>			
なテーマに基づい	たディスカッションやプレゼンテーシ			
ョンの練習を行う.	ここでは,単に流暢さを増すだけでな			
く,より説得力があ	あるメッセージが伝わるように内容構			
成・表現形式の質を	E高める練習を行う.また,用意された			
発話が適切に遂行て	できることのみならず,不測の場面にお			
いても適切に対処で	できることを目標とする.			
授業の使用言語は英語とする。				
テキスト、参考文献		評価方法		
春学期に同じ .		春学期に同じ.		

養 英語Ⅲ (W)		担当者	各担当教員
 	授業計画		
実質的なエッセイライティングを学ぶ.1パラグラフ内の	各担当教員が初り	 回の授業で指	·示する .
■ 論理構成の技術をもとに,複数パラグラフによる文章構成			
法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現			
などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー			
作成のための基礎練習を行う.実際のライティング作業に			
おいては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視さ			
れる.すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集な			
どで,このためにブレーンストーミング,アウトラインプ			
ロセシング,資料の利用法といった新しい技法を学ぶ.こ			
のほか随時正書法上の重要事項を学習する.授業の主要な			
使用言語は英語とする.また,課外の作文課題は原則とし			
て機械清書をして提出するものとする.			

評価方法

(10%)

テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%),期末 作文課題 (20%),授業参加態度 (20%),ポートフォリオ

テキスト、参考文献

(Oxford)

上級 Advanced level: Sourcework (Cengage)

中級 Intermediate level: Effective Academic Writing 2

養	英語IV (W)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>Z</del>	授業計画		
「英語 III (W)」に	引き続き,実質的なエッセイライティン	各担当教員が初[	回の授業で指	示する.
グを学ぶ.1パラグ	ラフ内の論理構成の技術をもとに,複			
数パラグラフによる	る文章構成法・変化の記述・原因-結果・			
説得・分類・対立意	意見の表現などの内容構成法におけるレ			
ポートやリサーチ^	ペーパー作成のための練習を行うが,い			
ずれもより高度な内	内容を含み,より安定したスキルの証明			
が求められる.教和	斗書に基づいたフォーマルな課題の練習			
の他,受講者各自の	D知識・関心・経験に関連する課題作文			
の練習を行う.この	つほか随時正書法上の重要事項を学習す			
る.授業の主要な例	<b>吏用言語は英語とする.また,課外の作</b>			
文課題は原則として	て機械清書をして提出するものとする.			
テキスト、参考文献	<b>t</b>	評価方法		
	el: Sourcework (Cengage)	春学期に同じ.		
	level: Basic Steps to Writing Research			
Papers (Cengage)				

英語V (AE) (Basic Research and Discussion: C	ilture and Society) 担当者 C. チァー
講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students:  ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way  ② can objectively summarize academic articles and related materials  ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way  ④ can write a short opinion paper  ⑤ can narrow down a topic effectively  ⑥ can organize ideas in an outline format  ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources  ⑧ can write an abstract for the completed research paper  ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written	Course Objective: Students will discuss and research cultural/communicative issues focused on Japan and the world.  Coursework Part 1 Week 1 Orientation and Introduction to the course (mini workshops of skills involved) for diagnostic purposes  Week 2 to 5 Using academic articles (chose teacher)students will Take notes on main ideas Evaluate and criticize Discuss and debate the articles and issues involved Write a summary with opinion on the article Week 5 to 7 Repeat the above process with student chosen articles as above. Will do a mini presentation to a group using a simple visual aid.  Coursework Part 2 Weeks 7 to 14 Students will work on a Research Paper: Narrowing down a topic, writing an abstract and thesis statement, planning outline referencing and quoting, peer editing, work on a visual aid and use skills from Week 2 -7 to present their research and finally hand in a Research Paper
テキスト、参考文献	評価方法
Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Klube and Taylor, Thomson Learning Japan) ISBN 978-4-902902-89-1 Additional teacher texts Writing Academic English, 3rd Edition, Class Text TBA	評価基準:準備・参加(10%), 課題(10%), 小テスト(10%), opinion paper (20%), research paper (30%: outline 10%, drafts 10%, final product 10%), 口頭発表(20%) 出席: 出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。

Ē				_
養	英語VI (AE) (Research and Discussion: Global Issues)		担当者	C. チァー
講義目的、講義概要	ŧ	授業計画		
に基づく統合的学 paper, 口頭発表等の	語き、同じ授業形態の許で、当該テーマ 習を行う。 Opinion paper, research Oタスクに関しては、英語 V での経験を I服する)一段上のタスク完成度を目指	research global Coursework Par Orientation and Ir workshops of skills Week 2 to 5 Using academic ar Take notes on mai Evaluate and critic Discuss and debat Write a summary Week 5 to 7 Repeat the above pabove. Will do a m simple visual aid. Coursework Par Weeks 7 to 14 Students will work Narrowing down a statement, plannir editing, work on a	issues rt 1 Week 1 htroduction to s involved) for ticles (chose n ideas cize e the articles with opinion process with s ini presentat rt 2 c on a Researe t topic, writin ng outline ref visual aid an	and issues involved on the article student chosen articles as ion to a group using a
テキスト、参考文献		評価方法		
Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Klube and Taylor, Thomson Learning Japan) ISBN 978-4-902902-89-1 Additional teacher texts Writing Academic English, 3rd Edition, hand outs and articles Class Text TBA		春学期(英語 Ⅴ)	と同じ	

奏語V (AE) (Environmental Issues)		担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要  At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of	接業計画  1. Introduction to the course and make a critique of academic a convincing way ively summarize academic articles d materials  The willing to express their opinions in a convincing way a short opinion paper w down a topic effectively ize ideas in an outline format a research paper on a topic relevant  1. Introduction to the course 2. Shopping and Us: Consum 3. Shopping and Us: Fair Tra 4. Food and Us: Food safety 5. Review of prior units and 6. Writing an Opinion Essay 7. Health and Us: chemicals 8. Energy and Us: energy so 9. Transport and Us: cars vs 10. Nature and Us: environm 11. Nature and Us: endanger 12. Travel: effects of tourism 13. Review of prior units and 13. Review of prior units and 14. Introduction to the course 2. Shopping and Us: Consum 3. Shopping and Us: Fair Tra 4. Food and Us: Food safety 5. Review of prior units and 6. Writing an Opinion Essay 7. Health and Us: energy so 9. Transport and Us: energy so 9. Transport and Us: environm 11. Nature and Us: endanger 12. Travel: effects of tourism 13. Review of prior units and 14. Introduction to the course 2. Shopping and Us: Consum 3. Shopping and Us: Food and Us: Review of prior units and 6. Writing an Opinion Essay 7. Health and Us: energy so 9. Transport and Us: energy so 9. Transport and Us: environm 11. Nature 2. Shopping 2. Shopping 2. Shopping 2. Shopping 2. Shopping		Review Exam  Review Exam  s in food and cosmetics ources s. mass transit mental destruction ered wildlife n on local areas
reliable sources  8 can write an abstract for the completed research paper  9 can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written	評価方法		
Looking Back, Moving Forward: Reading and Discussion, Chris Summerville (Macmillan Languagehouse, 2006) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN 978-4-902902-89-1	opinion paper drafts 10%, fin	(20%), researchal product 10	課題(10%),小テスト(10%), ch paper (30%: outline 10%, %),口頭発表(20%) 上欠席した場合は不合格とする。

養	英語VI (AE) (Global Issues)		担当者	K. A. クラウン
に基づく統合的学 paper, 口頭発表等の	を 記き、同じ授業形態の許で、当該テーマ 習を行う。Opinion paper, research ウタスクに関しては、英語 V での経験を 近服する)一段上のタスク完成度を目指	1. Introduction to 2. Information an 3. Saving tropical 4. Concerning had 5. Review of prion 6. Writing an Opi 7. Gizmo addictio 8. Coping with no 9. The whaling do 10. Food: not just 11. Sweatshop lad 12. Japan's declir 13. Review of prion 14. Oral Presenta	ad misinform l rainforests ppiness r units and R union Essay on pise ebate a commodit poor ning population or units and	ation eview Exam y on
テキスト、参考文献  Confronting the Issues, David Peaty, (Kinseido, 2008) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN 978-4-902902-89-1		<b>評価方法</b> 春学期(英語 V)と同じ		

養	英語V (AE) (Role Models)		担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
Can evaluate articles in a can objective and related a can and are a discussion  a discussion  can write a second can organize can write a reliable sour  can write an research pape can make an	willing to express their opinions in in a convincing way short opinion paper down a topic effectively ideas in an outline format research paper on a topic relevant theme using sufficient amount of rees abstract for the completed per a effective visually aided a (e.g., power point) of the research	Research Paper 6 Nelson Mand Research Paper 7 Literature: H Ernest Heming Research Paper 8 Gandhi / Mar Research Paper 9 Film: Charlie Research Paper 10 Rulers: Tuta Research Paper 11 Horror and 1 Research Paper 12 Art: Vincent 13 Explorations	arles Schulz Woods htations rs: Harland S r: Topic ela // r: Outline haruki Murak gway // r: Introduction r: Body (1) r: Body (2) hkhamen / C r: Conclusion Magic: Mary r: First Draft Van Gogh / Captain Cod	Sanders / John Pemberton // kami / Charles Dodgson / on King // lint Eastwood // Cleopatra // n Shelley / Princess Tenko //
テキスト、参考文献		評価方法		
Cubic Listening: Strange But True (Second Edition). Timothy Kiggell. Macmillan Languagehouse, 2010. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN 978-4-902902-89-1		opinion paper drafts 10%, fir	(20%), research nal product 10	課題(10%),小テスト(10%), ch paper (30%: outline 10%, 1%),口頭発表(20%) 上欠席した場合は不合格とする。

養	英語VI (AE) (Japanese Culture Past and Present)		担当者	M. ハルデイン	
講義目的、講義概要	<u> </u>		授業計画		
に基づく統合的学 paper, 口頭発表等の	習を行う。O <sub>I</sub> Oタスクに関し <sup>*</sup>	杉態の許で、当該テーマ pinion paper, research ては、英語 V での経験を 上のタスク完成度を目指	3 Traveller from Window 4 Traveller from Presentations 5 Traveller from Research Paper: 6 Traveller from Research Paper: 8 Dogs and Demo Research Paper: 9 Dogs and Demo Research Paper: 10 Dogs and Demo Research Paper: 11 Dogs and Demo Research Paper: 12 Dogs and Demo Research Paper:	Tokyo: Telepl Tokyo: Educa Tokyo: Educa Tokyo: Langu Topic Tokyo: Enter Outline Tokyo: The S Introduction ons: Construct Body (1) ons: The Env. Body (2) tons: Kyoto a Conclusion tons: Manga First Draft tons: Educations: To chan	tatus of Women // etion State // ironment // and Tourism // and Anime // ion – Following the Rules// age or not to change? //
テキスト、参考文献		D 1 01 1 1045	評価方法	1. 🗆 10	
Traveller from Tokyo. J Dogs and Demons: Tales Kerr. Hill & Wang, 200 Basic Steps to Writing R Learning) ISBN978-4-90	from the Dark Sid 12. esearch Papers (K	de of Modern Japan. Alex	春学期(英語 V)	)と同じ	

養	英語V(AE)(Using NGOs to Promote Literacy in Bangladesh)		担当者	T. ホサイン
講義目的、講義概要	₹	授業計画		
1 can evaluate articles in a 2 can objective and related 3 can and are a discussion 4 can write a s 5 can narrow 6 can organize 7 can write a s to the class 6 reliable sour 8 can write an research pag 2 can make an presentation paper they h	willing to express their opinions in in a convincing way short opinion paper down a topic effectively e ideas in an outline format research paper on a topic relevant theme using sufficient amount of rees a abstract for the completed per a effective visually aided a (e.g., power point) of the research pave written	Socioeconomic     Opinion pape     Education and I     research or pt     Dakar EFA goals     Education inequaline     T.Education inequaline     T.Edu	Development: Toster presentation is and strategies and strategies and strategies // uality and power of literacy and // research paper f literacy and // peer review in Bangladesh: ent in promoting odels and Present in promoting odels and draft #/ uparation and Coand group present in group prese	d education systems in Bangladesh// oward Education for All(EFA)/ Mini n // research paper topic // research paper topic finalize // research paper topic finalize // research paper topic finalize // research paper // research paper // research paper // in Bangladesh// research paper // literacy campaign by government // draft #1 // literacy campaign by government // watering a neighbour's tree? // gliteracy and expanding the // tation Preparation // literacy and expanding the // 2 and Course Overview // orderencing // research paper // research paper // draft #1 // literacy campaign by government // gliteracy and expanding the // 2 and Course Overview // orderencing // research paper //
テキスト、参考文献		評価方法		
Articles will be provided in the classroom Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		opinion paper drafts 10%, fin	(20%), resear nal product 10	課題 (10%), 小テスト (10%), ch paper (30%: outline 10%, 1%), 口頭発表 (20%) 上欠席した場合は不合格とする。

1			Г		
養	英語VI(AE)(Japan's Educational Development)		担当者	T. ホサイン	
講義目的、講義概要	<u>.</u>	授業計画			
に基づく統合的学 paper, 口頭発表等の	き、同じ授業形態の許で、当該テーマ 習を行う。 Opinion paper, research Oタスクに関しては、英語 V での経験を T服する)一段上のタスク完成度を目指	faced by Developing of 2. Problems faced by 3. Aid Concerned with 4. Introduction of a 5. The Development topic finalize 6. Education Reform research paper of 7. The Expansion of E research paper of 8. The Third Education Reform 10. Education Reform 11. Historical Changes	Japan and Deve Education// Min Modern Educat and Expansion of as and Their Modern as and Their Modern ducation and The titline finalize titional Reform// form Debate // Finithe 1990's // Japan's Education and Seducation and The seducation of the seducati	Presentation Preparation ional Policy//Draft #2 Policies on Developing Nations, and course overview.	
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献		評価方法		
Articles will be pro	vided in the classroom	春学期(英語 V)	)と同じ		

養	英語V (AE) (Diversity in Japan)		担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
1 can evaluate articles in a 2 can objective and related 3 can and are a discussion 4 can write a s 5 can narrow 6 can organize 7 can write a s to the class a reliable sour 8 can write an research page 9 can make ar	willing to express their opinions in in a convincing way short opinion paper down a topic effectively e ideas in an outline format research paper on a topic relevant theme using sufficient amount of rees abstract for the completed per a effective visually aided a (e.g., power point) of the research	Week 7: researd Week 8: Readin Week 9: researd Week 10: Readin Week 11: researd Week 12: researd Week 13: researd Week 14: oral p  Temporary read Japanese A Chapters for Films:	g 1 // opinion ing 2 // opinion g 3/4 ch paper topich paper detag 5 ch paper drang 6 rch paper dranch from Brokere rom Koreans	n paper 1 con paper 2 cc & bibliography ailed outline ft 1 & conferencing 1 aft 2 & peer review aft 3 & conferencing 2 ce // abstract entributions story Overview d Homeland
テキスト、参考文献		評価方法		
	iting Research Papers (Kluge&Taylor, ISBN978-4-902902-89-1 および配布資	opinion paper drafts 10%, fin	(20%), resear nal product 10	課題(10%),小テスト(10%), ch paper (30%: outline 10%, %),口頭発表(20%) 上欠席した場合は不合格とする。

養	英語VI (AE) (Japanese Images in the World)		担当者	臼井 芳子
に基づく統合的学 paper, 口頭発表等の	是き、同じ授業形態の許で、当該テーマ習を行う。Opinion paper, research ウタスクに関しては、英語 V での経験を 「服する)一段上のタスク完成度を目指	Week 10: Reading Week 11: research Week 12: research Week 13: research Week 14: oral pre Temporary readin - Polite Lies by - Beauty and Coby Michael P - "For Beautifu Japan by Jar - Why is the M Chizuko Uen - Reading the	1 // opinion pg 2 // opinion pg 2 // opinion 3/4 paper topic opaper detail 5 paper draft g 6 n paper draft h paper	Saper 1 a paper 2 & bibliography ed outline  1 & conferencing 1 a 2 & peer review a 3 & conferencing 2 // abstract
	ting Research Papers (Kluge&Taylor, SBN978-4-902902-89-1 および配布資	<b>評価方法</b> 春学期(英語 V)	)と同じ	

養	英語V (AE) (The Global Spread of Englis	sh and Society)	担当者	鈴木 彩子
1 can evaluate articles in a 2 can objective and related 3 can and are a discussion 4 can write a 5 can narrow 6 can organize 7 can write a to the class reliable sour 8 can write ar research page 9 can make an presentation	n of the course, students: e and make a critique of academic convincing way ely summarize academic articles materials willing to express their opinions in in a convincing way short opinion paper down a topic effectively e ideas in an outline format research paper on a topic relevant theme using sufficient amount of rees a abstract for the completed	Week 2: Readir Week 3: Readir Week 4: Readir Week 5: Opinio Week 6: Readir Week 7: Readir Week 8: Opinio Week 9: Readir Week 10: Readir Week 11: Readir Supplemental 1 Week 12: Opinio Week 13: Supplemental 1	g 1 (2) / Oping 2 – Demog g 3 – Econor n paper (2) ag 4 – Technor g 5 – Society n paper (3) ag 6 (1) – Laring 6 (2) ng 7 – A Traireading 1 on Paper (4) lemental rea	rraphy ny plogy raphy nguages nsitional Stage /
Available <u>http://www.britisl</u> Supplemental materials wi	lish Next. London: The English Company/British Council.	opinion paper drafts 10%, fir	(20%), researchal product 10	課題(10%),小テスト(10%), ch paper (30%: outline 10%, %),口頭発表(20%) 上欠席した場合は不合格とする。

養	英語VI (AE) (The Global Spread of Engli	sh and Education)	担当者	鈴木 彩子
講義目的、講義概要 「英語 V」に引き続	を 記き、同じ授業形態の許で、当該テーマ	授業計画 Week 1: Introduction / Reading 1 (1) – The Educational		
paper,口頭発表等の	習を行う。Opinion paper, research Dタスクに関しては、英語Vでの経験をI服する)一段上のタスク完成度を目指	Week 10: Reading Week 11: Reading Week 12: Opinion Week 13: Suppler	2 – Higher F 3 (1) – Learr paper (2) 3 (2) 3 (3) paper (3) 4 – Global E g 4 (2) g 4 (3) / Supp n Paper (4) mental readi	Education aing English anglish as an Innovation alemental reading 1
テキスト、参考文献	ŧ	評価方法		
Available <a href="http://www.british.">http://www.british.</a> Supplemental materials will	sh Next. London: The English Company/British Council. council.org/learning-research-english-next.pdf   be provided. arch Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning)	春学期(英語 <b>V</b> )	) と同じ	

養	英語V(AE)(繋がる世界の課題とは)		担当者	山本 英政
1 can evaluar articles in 2 can object and relate 3 can and a a discussion 4 can write 5 can narro 6 can organ 7 can write to the clareliable so 8 can write research 9 can make presentate	tion of the course, students: ate and make a critique of academic a convincing way cively summarize academic articles ed materials re willing to express their opinions in con in a convincing way a short opinion paper w down a topic effectively cize ideas in an outline format a research paper on a topic relevant ess theme using sufficient amount of cources an abstract for the completed	2. UN's fight 3. Hollywood 4. World's new 5. Pluto demo 6. New citizer 7. X-pigs and 8. Local leade 9. Two more n 10. Globalizati 11. Japanese t 12. Media liter 13. No cash, no 14. The makin	in need of Jaw seven won oted, no long in judge system bioclip ers of post-Kinations join from urn to China accy o cure? g of a plagia 業である。英	erty in Africa apanese ders chosen er a true planet em yoto plan the EU a for organ transplants
Basic Steps to V	文献 mporary World (Tsurumi Shoten) Vriting Research Papers (Kluge&Taylor, ing) ISBN978-4-902902-89-1	opinion paper drafts 10%, fir	(20%), resear nal product 10	課題(10%),小テスト(10%), ch paper(30%:outline 10%, 9%),口頭発表(20%) 以上欠席した場合は不合格とする。

養	英語VI (AE) (アメリカと試練)		担当者	山本 英政
講義目的、講義概要	5	授業計画		
に基づく統合的学 paper, 口頭発表等の	語き、同じ授業形態の許で、当該テーマ 習を行う。 Opinion paper, research Oタスクに関しては、英語 V での経験を I服する)一段上のタスク完成度を目指	2. Gambling wi 3. Think differe 4. War comes he 5. War for sale 6. Barbara Lee 7. Isamu Nogue Japanese-Am 8. The spirit of 9. The limits of 10. Eugene Debs 11. The end of "s 12. Wounded Kn 13. Ethnicity	t survival cont come votes 'No' chi and the intericans aloha forgiveness and Joseph eparate but ee である。英文答する。後半	McCarthy
テキスト、参考文献	<u></u>	評価方法		
	(Kinseido) ting Research Papers (Kluge&Taylor, ISBN978-4-902902-89-1	春学期(英語 V)	) と同じ	

奏語V (AE) (First Encounter with E	glish Literature)	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要	授業計画		
At the completion of the course, students:  ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way  ② can objectively summarize academic articles and related materials  ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way  ④ can write a short opinion paper  ⑤ can narrow down a topic effectively  ⑥ can organize ideas in an outline format  ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources  ⑧ can write an abstract for the completed research paper  ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written	第 2 週 ・ Shakespe 第 3 週 ・ Shakespe 第 4 週 ・ Shakespe 第 5 週 ・ Shakespe 第 6 週 ・ Shakespe 第 7 週 ・ Shakespe 第 8 週~第 9 週 ・ Short Sto 第 10 週~第 11 ・ Poetry 第 12 週~第 14	eare's Much 2 eare's Much 2 eare's Much 2 eare's Much 2 eare's Much 2	Ado About Nothing(Intro) Ado About Nothing(Act 1) Ado About Nothing(Act 2) Ado About Nothing(Act 3) Ado About Nothing(Act 4) Ado About Nothing(Act 5)
テキスト、参考文献 Much Ado About Nothing (William Shakespeare, The Arden	評価方法	<b>参加(10%)</b>	課題 (10%), 小テスト (10%),
Shakespeare) Short Stories と Poetry (配布プリント) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN 978-4-902902-89-1	opinion paper drafts 10%, fir	(20%), researchal product 109	課題(10%),

養	英語VI (AE) (Folklore's in English	Literature)	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
基づく統合的学習を 口頭発表等のタスク	き、同じ授業形態の許で、当該テーマに ・行う。Opinion paper, research paper, に関しては、英語 V での経験を生かし が)一段上のタスク完成度を目指す。	第 2 週 · Shakespeare's 第 3 週 · Shakespeare's 第 4 週 · Shakespeare's 第 5 週 · Shakespeare's 第 6 週 · Shakespeare's 第 7 週	A Midsumme A Midsumme A Midsumme A Midsumme A Midsumme	信景説明 ner Night's Dream(Intro) er Night's Dream (Act 1) er Night's Dream (Act 2) er Night's Dream (Act 3) er Night's Dream (Act 4) er Night's Dream (Act 5)
テキスト、参考文献		評価方法		
Shakespeare) Short Stories & Poetry (	esearch Papers (Kluge&Taylor, Cengage	春学期(英語 V)	) と同じ	

養	スペイン語 I (総合 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
る。現在形までのま を作り、自ら積極的 (総合)は、スペ 法項目をおいなが とで、あいさつや自 日の出来事、予定な 的初級スペイン語の	スペイン語初習者向け入門の授業であ 基礎的文法事項をまなび、また簡単な文 別に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 ペイン語 I の中心となる授業である。文 ら基礎的な単語を使った短文を学ぶこ 自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一 などを伝え、聞き取ることができる総合 り習得を目的とする。 はスペイン語 I(総合 2) とのペア授業で	<ul><li>で ser, estar 動</li></ul>	セ数数 詞詞…法 書慮いい説 説説説帰帰沿って、 一… 書慮して、 一… 書慮して、 一… 書慮して、 一… 書慮して、 一… まりまります。	見在規則活用 見在不規則活用 見在不規則活用 司

F			
養	スペイン語Ⅱ (総合 1)	担当者	各担当教員

評価方法

#### 講義目的、講義概要 授業計画

スペイン語 II (総合 1) は、スペイン語 I (総合 1,2) の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法 事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。

テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 "Plaza Mayor I (青い表紙)" 朝日

また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。

(総合) は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。

なお、この授業はスペイン語 II (総合 2) とのペア授業である。

- ① 春学期の復習
- ② 動詞の活用 --- 再帰動詞

小テストをおこなう場合がある。

- ③ 再帰動詞と諸用法
- ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形

出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては

- ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形
- ⑥ 比較表現
- ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去
- ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去
- ⑨ 点過去と線過去の違い
- ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形
- ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形
- ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形
- ③ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形
- (4) 命令表現

基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。

#### テキスト、参考文献

テキスト、参考文献

#### <u>テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 "Plaza Mayor I(青い表</u> <u>紙)" 朝日出版社</u>

#### 評価方法

出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては 小テストをおこなう場合がある。

養	スペイン語 I (総合 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>.</del>	授業計画		
授業である。つまり	合 2) はスペイン語 I (総合 1) とのペア、受講生は週にスペイン語 I (総合 1) とつを同時に履修することになる。	スペイン語 I(紅	総合 1 )に同	。。 。
テキスト、参考文献	t e	評価方法		
スペイン語 I (総合	1)(総合) に同じ。	基本的にスペインじ成績がつく。	ン語Ⅰ(総合	1) と同じ評価基準であり、同

養	スペイン語Ⅱ (総合 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	ξ.	授業計画		
スペイン語 II (終 ア授業である。つま	総合 2) の継続授業である。 (合 2) はスペイン語 II (総合 1) とのペミり、受講生は週にスペイン語 II (総合 1) なららふたつを同時に履修することになる。	スペイン語 II (糸		
テキスト、参考文献		評価方法		
スペイン語 Ⅱ (総合	・1) に同じ。	基本的にスペイン 同じ成績がつく。		1) と同じ評価基準であり、

### 講義目的、講義概要

スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。

(入門)では、英語以外の言語としてあらたに学ぶこと 学習項目に関してになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語 I(総合1, 2)の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。

#### 授業計画

学習目標となる文法項目は、スペイン語 I (総合 1,2)の項目と同じであるが、(入門) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。

学習項目に関してはスペイン語 I (総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。

#### テキスト、参考文献

担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)

## 評価方法

授業計画

出席状況、定期試験によって評価する。担当者によって は小テストをおこなう場合がある。

養 スペイン語Ⅱ(基礎表現) 担当者 各担当教員

#### 講義目的、講義概要

スペイン語 I (入門)の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。

(基礎表現)では、(総合1,2)の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。

学習目標となる文法項目は、スペイン語 II (総合 1, 2)の項目と同じであるが、(基礎表現)ではそれを用いた練習・運

用に重きが置かれる。

学習項目に関してはスペイン語 II (総合 I, 2) の「授業計画」を参照のこと。

## テキスト、参考文献

担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)

#### 評価方法

出席状況、定期試験によって評価する。担当者によって は小テストをおこなう場合がある。

### 講義目的、講義概要

スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 (会話) では、スペイン語 I (総合 1, 2)での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。

#### 授業計画

学習目標となる文法項目は、スペイン語 I (総合 1, 2)の項目と同じであるが、(会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。

学習項目に関してはスペイン語 I (総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。

#### テキスト、参考文献

担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)

## 評価方法

出席状況、定期試験によって評価する。担当者によって は小テストをおこなう場合がある。

養 スペイン語Ⅱ (会話) 担当者 各担当教員

#### 講義目的、講義概要

スペイン語 I (会話) の継続の授業である。

接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、 日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、 自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 初級スペイン語文法を終える。

(会話)では、スペイン語Ⅱ (総合 1, 2) での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話) の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。

# 授業計画

学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ(総合 1, 2)の項目と同じであるが、(会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。

学習項目に関してはスペイン語Ⅱ(総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。

#### テキスト、参考文献

担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)

#### 評価方法

出席状況、定期試験によって評価する。担当者によって は小テストをおこなう場合がある。

養	スペイン語Ⅲ(総合)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	- C	授業計画		
た接続法を中心に提去来・大過去・関高度な表現方法をなる。そのため、作業	初級文法のうち、一年目で不十分だっ 扱い、中級用の教材を用いて、未来・過 関係詞、前置詞などについて補い、より 学ぶことで、表現力の増強を目的とす でには力を入れる。 こ予習が不可欠である。	14 回分の授業授業で説明する。		、各担当者が 4月の最初の
テキスト、参考文献	<del>*************************************</del>	評価方法		
担当者が指定する着	枚科書(授業開始時に指示する)	出席状況、定期は小テストをお		て評価する。担当者によって ある。

養	スペイン語IV(総合)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
総合の授業では、 た接続法を中心に提 去未来・大過去・関 高度な表現方法を守 る。そのため、作り この授業では特に	こ予習が不可欠である。	14 回分の授業 明する。	構成について	、各担当者が最初の授業で説
テキスト、参考文献		評価方法	Lu = h mt A	and the law and the block of the second
担当者が指定する着	枚科書(授業開始時に指示する)	出席状況、定期は小テストをおる		て評価する。担当者によって ある。

養	スペイン語Ⅲ(講読)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
用いて、読解力の 業で学んだ新たな せることを目的とす 強も意図する。	比較的平易な物語・小説・評論などを 意成をおこなう。それとともに総合の授 文法項目について講読を通じて定着さ する。多様な教材を使うことで語彙の増 こ予習が不可欠である。	14 回分の授業授業で説明する。		、各担当者が 4月の最初の
テキスト、参考文献	<b>*</b>	評価方法		
担当者が指定する着	枚科書(授業開始時に指示する)	出席状況、定期は小テストをおい		て評価する。担当者によって ある。

養	スペイン語IV(講読)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	ĘĘ.	授業計画		
講読の授業では、 用いて、読解力の割業で学んだ新たな! せることを目的とす 強も意図する。	構読)の継続である。 比較的平易な物語・小説・評論などを 能成をおこなう。それとともに総合の授 文法項目について講読を通じて定着さ する。多様な教材を使うことで語彙の増 こ予習が不可欠である。	14 回分の授業 明する。	構成について	、各担当者が最初の授業で説
テキスト、参考文献 担当者が指定する教	<b>犬</b> 枚科書(授業開始時に指示する)	<b>評価方法</b> 出席状況、定期	朝試験によっ	て評価する。担当者によって
		は小テストをお、		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

養	スペイン語Ⅲ(会話 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
(会話 1)(会話 2)	のいずれかの担当教員が LL の授業を	14 回分の授業 授業で説明する。		、各担当者が 4月の最初の
担当し、他方が会請	舌の授業を担当する。			
(会話) の授業でに	は、総合の文法事項の進度に合わせて、			
基本的な会話文を依	<b>吏いながら練習するとともに、より高度</b>			
な聞き取り能力と表	長現力を身につけることを目的とする。			
中級用の教材を用	いてその文法項目にそって口答練習を			
中心に授業を進める	5.			
(LL) の授業で <i>l</i>	は、総合的オーディオヴィジュアル教材			
を用いて、基本文法	去事項に沿った聞き取り能力の定着と、			
場面設定にあわせた	と受け答えができるように練習する。ま			
た語彙力の強化も認	式みる。			

評価方法

出席状況、定期試験によって評価する。担当者によって

は小テストをおこなう場合がある。

テキスト、参考文献

担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)

養	スペイン語IV (会話 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	E C	授業計画		
(会話 1)(会話 2) 担当し、他方が会話 (会話)の授業でに とともに、自らの意 を養成する。中級用 練習を中心に授業を 発表を行う練習おこ 習をおこなう。 (LL)の授業でに を用いて、Ⅲに引き	会話 1) の継続である。 のいずれかの担当教員が LL の授業を括の授業を担当する。 は、総合での文法項目に沿った口答練習意見を述べる力、他の意見を聞き取る力間の教材を用いて文法項目にそって口答と進めるとともに、テーマを定めて意見よびニュースや映画などの聞き取り練せ、総合的オーディオヴィジュアル教材を続いて、聞き取り能力の定着と、場面は答えができるように練習する。また語	14 回分の授業明する。	構成について	、各担当者が最初の授業で説
テキスト、参考文献	<b>*</b>	評価方法		
担当者が指定する参	<b>枚科書(授業開始時に指示する)</b>	出席状況、定期は小テストをおり	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	て評価する。担当者によって ある。

養	スペイン語Ⅲ(会話 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>.</del> <del>2</del>	授業計画		
スペイン語 III (名	会話 1) を参照。	14 回分の授業 授業で説明する。		、各担当者が 4月の最初の
テキスト、参考文献		評価方法		
担当者が指定する	枚科書(授業開始時に指示する)	出席状況、定其は小テストをおく		て評価する。担当者によって ある。

養	スペイン語IV(会話 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	ξ	授業計画		
スペイン語 IV (名	会話 1) を参照。	14回分の授業明する。	構成について	、各担当者が最初の授業で説
テキスト、参考文献	<del>*************************************</del>	評価方法		
担当者が指定する勢	<b>対科書(授業開始時に指示する)</b>	出席状況、定期は小テストをおく		て評価する。担当者によって ある。

_				
養	スペイン語V (応用 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>-</del>	授業計画		
(応用1)の授美	業では、スペイン語Ⅲ, IVまでに培った	14 回分の授業 授業で説明する。		、各担当者が 4月の最初の
スペイン語力を基礎	些に、講読を中心とした「読み」の訓練			
をする。専門的な文	文章の一部や、新聞記事等、文化的背景			
を押さえた上での講	<b>講読ができる力を養う。できるだけ多く</b>			
の種類の文章に触れ	1、それぞれのジャンルが持つ独自の文			
体に馴染むことを目	目標とする。また、多様な教材を使うこ			
とで語彙の増強も意	意図する。			
この授業では特に	こ予習が不可欠である。			

評価方法

出席状況、定期試験によって評価する。担当者によって

は小テストをおこなう場合がある。

テキスト、参考文献

担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)

養	スペイン語VI(応用 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	5	授業計画		
(応用1)の授業スペイン語力を基礎をする。専門的ななを押さえた上での課の文章に触れ体に馴染むことを目とで語彙の増強も意	正用1)の継続である。 とでは、スペイン語Ⅲ,IVまでに培った をに、講読を中心とした「読み」の訓練 で章の一部や、新聞記事等、文化的背景 構読ができる力を養う。できるだけ多く は、それぞれのジャンルが持つ独自の文 目標とする。また、多様な教材を使うこ 意図する。 こ予習が不可欠である。	14 回分の授業明する。	構成について	、各担当者が最初の授業で説
テキスト、参考文献 担当者が指定する教	<b>犬</b> 枚科書(授業開始時に指示する)	評価方法 出席状況、定期 は小テストをおる		て評価する。担当者によって ある。

養	スペイン語V(応用 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę.	授業計画		
(応用2)の授美	業では、スペイン語Ⅲ, IVまでに培った			こ、各担当者が 4月の最初の

(応用2)の授業では、スペイン語Ⅲ, IVまでに培った スペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のア ウトプットの訓練をする。

スペイン語Ⅲ,IVまでにある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きはおかず、むしろ、文書や会議での発言といったパブリックな場面に耐え得るスペイン語の獲得を目標とする。 (応用2)の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。この授業では特に予習が不可欠である。

テキスト、参考文献	評価方法
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によって は小テストをおこなう場合がある。

養	スペイン語VI(応用 2)	ペイン語VI (応用 2)		各担当教員
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
(応用2)の授業スペイン語力を基礎ウトプットの訓練をスペイン語Ⅲ,IV きるかもしれない。きはおかず、むしゃックな場面に耐え(応用2)の担当者イン語で積極的に意	正用2)の継続である。 業では、スペイン語Ⅲ,IVまでに培った 達に、作文・発話を中心とした言語のア さする。 までにある程度の「通じる会話」はで この授業では「通じる会話」のみに重 6、文書や会議での発言といったパブリ 得るスペイン語の獲得を目標とする。 皆はスペイン語を母語としている。スペ 意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 こ予習が不可欠である。	14 回分の授業明する。	構成について	、各担当者が最初の授業で説
テキスト、参考文献	<b>*</b>	評価方法		
担当者が指定する参	枚科書(授業開始時に指示する)	出席状況、定類は小テストをおく		て評価する。担当者によって ある。

中国語 I (総合 1) 担当者 各担当教員 講義目的、講義概要 授業計画  $1 \sim 3$ 発音・ピンイン 「学習の基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイ 4 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞"不" 5 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連 ン)・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と 体修飾 聞き取りのトレーニングを行い, 人称代詞・指示 6 形容詞述語文、選択疑問文 代詞・量詞・前置詞等の虚詞(機能語)を学び、 中間試験 かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身 につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、 8 復習 二重目的文、量詞 9 その学習の基盤を作る」中国語 I の学習目標の下、 連動文、年月日・曜日の言い方 10 有/没有、几/多少、方位詞、数詞 11 文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力

12 在、金額の表現

13 助動詞、語気助詞"了"

テキスト、参考文献 評価方法

『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』(好文出版)

を養成する。

文出版)

授業への出席,授業への積極的参加,授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

14 動態助詞"了"、禁止の表現、反語の表現

時量・回数と時点、時間量の言い方

中国語Ⅱ (総合1) 担当者 養 各担当教員 講義目的、講義概要 授業計画 1 主述述語文、程度補語、離合詞 「実詞(名詞・動詞・形容詞等)面においても基 2 進行相、動詞の重ね型 本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単 3 方向補語、結果補語 な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き 4 持続相、可能補語 取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニング 5 経験相、将然相、時刻の表現 を積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで 6 存現文 初級段階において習得すべき基本文法事項を学 び,中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの 7 中間試験 学習目標の下、文法を中心として全般にわたって 総合的に基礎力を養成する。 8 復習 "把"字文、定着表現、到達表現 9 10 比較の表現 11 受身文 12 様熊補語 13 使役文、後置修飾 14 "(是)…的"構文 テキスト、参考文献 評価方法 授業への出席,授業への積極的参加,授業へ積極的参加し 『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』(好

た成果 (定期試験) を総合して評価する。

中間試験と適宜小テストを実施する。

養	中国語 I (総合 2)		担当者	各担当教員			
講義目的、講義概要	<del>.</del> <del>2</del>	授業計画	<u> </u>				
ン)・簡体字等に 聞き取りのトレ 代詞・量詞・前 かつ基本的な語。 につけ、中国語	なる中国語表音ローマ字(ピンイ 間れるとともに、徹底した発音と ーニングを行い、人称代詞・指示 置詞等の虚詞(機能語)を学び、 順や修飾構造等の文の構成法を身 がどのような言語であるかを知り、 を作る」中国語 I の学習目標の下、 基礎を養成する。	7 8 9~11 12~14 ※ 上	第第中復第第第第第 記書 は まままままままままままままままままままままままままままままままままま	験 程度の表 行為の表 時間の表 所有の表 で表は、各名	現 現 ( I ) 現 現 現		
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献			評価方法			
『表現の達人 I 』	『[基本ブック](白帝社)	た成果	(定期試		的参加,授業へ積極的参加して評価する。 と施する。		

養	中国語Ⅱ(総合2)			担当者	各担当教員
本語彙の獲得に経 な文を作る練習と 取り理解する練習 を積む。アスペク 初級段階におい び、中国語学習の	動詞・形容詞等)面においても基 為め、その語彙を活用して、簡単 と相手の話す簡単な中国語を聞き 習を行い、基礎的なトレーニング フト体系や補語を用いる表現まで て習得すべき基本文法事項を学 つ基礎力を養成する」中国語 II の 構文・作文力の基礎を養成する。	$4 \sim 6$ 7  8 $9 \sim 11$ $12 \sim 14$ $\stackrel{*}{\times}$ $\pm i$	第第第第第第 中 復 第第第第第 記   課課課課課課課	可願条状程比断動可能とという。というでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	の表現 可の表現(I) 青の表現 択の表現 続と経験の表現 現(II) 現(I) 間的な量と回数の表現 果の表現(I)
テキスト、参考文献		評価方法			
『表現の達人Ⅰ』	[基本ブック] (白帝社)	た成果	(定期試験	業への積極的 )を総合して テストを実施	

養	中国語I(入門)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>.</del> <del>2</del>	授業計画		
イン)・簡体字等 と聞き取りのト 示代詞・量詞・同 かつ基本的な語 につけ、中国語 その学習の基盤	なる中国語表音ローマ字(ピン に慣れるとともに、徹底した発音 レーニングを行い、人称代詞・指 前置詞等の虚詞(機能語)を学び、 順や修飾構造等の文の構成法を身 がどのような言語であるかを知り、 を作る」中国語 I の学習目標の下、 に、簡単な挨拶表現・応答表現な		験 行表は,各ク	クラスの授業の進度によっ ことがあります。
テキスト、参考文献	· 状	評価方法		
『新版例解中国 帝社)	語入門 你问我答〔第2版〕』(白	授業への出席, た成果(定期試 中間試験と適宜	験)を総合し	- 11.1 11-1 / 0

養	中国語Ⅱ(基礎表現)			担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	į	授業計画	<u> </u>		
本語彙の獲得に発 な文を作る練習る 取り理解する練習 を積む。アスペク 初級段階におい び、中国語学習の	動詞・形容詞等)面においても基	$4 \sim 6$ 7  8 $9 \sim 11$ $12 \sim 14$ * $\pm$		表は,各クラ	ラスの授業の進度によっ とがあります。
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献 評価方法		_		
『新版 <mark>例解中国語帝社)</mark>	吾入門 你问我答〔第2版〕』(白	授業への出席,授業への積極的参加,授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。			評価する。

養	中国語 I (会話)		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画	1		
ン)・簡体字等に 聞き取りのトレ 代詞・量詞・前 かつ基本的な語 につけ、中国語 その学習の基盤	なる中国語表音ローマ字(ピンイ 慣れるとともに、徹底した発音と 一ニングを行い、人称代詞・指示 置詞等の虚詞(機能語)を学び、 順や修飾構造等の文の構成法を身 がどのような言語であるかを知り、 を作る」中国語 I の学習目標の下、 す楽しさを学ぶ。(積極性を養成す	7 8 9~11 12~14 ※ 上譚	第第 中 復 第第 第第第 の 日 1 2 間 習 3 4 5 6 7 進 で 課課 試 課課 課課課 進行	<ul><li>程度の表</li><li>行為の表</li><li>時間の表</li><li>所有の表</li><li>存在の表</li><li>行表は、各々</li></ul>	現 現(I) 現 現 現 現
テキスト、参考文献 評価方法			評価方法		
『表現の達人Ⅰ』	] [発展ブック] (白帝社)	評価方法 授業への出席,授業への積極的参加,授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。			

養	中国語 II (会話)			各担当教員
本語彙の獲得に新な文を作る練習と取り理解する練習を積む。アスペク初級段階においび、中国語学習の	動詞・形容詞等)面においても基 務め、その語彙を活用して、簡単 と相手の話す簡単な中国語を聞き 習を行い、基礎的なトレーニング ウト体系や補語を用いる表現まで て習得すべき基本文法事項を学 の基礎力を養成する」中国語 II の 中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。	第 13 7 中間試 8 復習 9~11 第 14 第 15 第 16 12~14 第 17 第 18	果果課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課課	の表現 可の表現(I) 情の表現 計の表現 試験の表現 現(II) 現(I) 間的な量と回数の表現 果の表現(I) 現(II)
テキスト、参考文献 『表現の達人 I 』	【発展ブック】(白帝社)	評価方法 授業への出席, た成果(定期試 中間試験と適宜	験)を総合して	

養	中国語Ⅲ(総合)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
ともに、単文で ングとスピーキ 中心に初級段階 得ていない文法 に語彙力を増強 学習目標の下、	文章を読み読解力の基礎を作るとはなく一定の長さをもったリスニングの訓練を行う。また、補語をでは運用するところまでは習得し事項についての能力を深め、同時し、識字数も増やす」中国語Ⅲの作文のための基本文法を整理し、能語)・文型を学んで、文の組み立かませる。		行表は,各	·クラスの授業の進度によ ·ることがあります。
テキスト、参考文献		評価方法	1 VIII	
『作文ルール6日出版社)	6 一 日中翻訳技法 — 』(朝	授業への出席, た成果(定期試 中間試験と適宜	験)を総合し	-

養	中国語IV(総合)		担当者	各担当教員
基礎を確かなものについて、リスコ み、基礎的運用的からなる文型表現 作文力と読解力を標の下、作文の方	文章を読む練習を通して読解力ののとし、一定の長さをもった内容にングとスピーキングの訓練を積む力を養う。また、多く呼応関係現を学び繰り返し練習し、もってを向上させる。」中国語IVの学習目をめの基本文法を整理し、併せて文型を学んで、文の組み立てをし			ラスの授業の進度によっことがあります。
テキスト、参考文献 『作文ルール6 ( 日出版社)	<b>t</b> 6 — 日中翻訳技法 — 』(朝	評価方法 授業への出席,授 た成果(定期試験 中間試験と適宜小	)を総合して	/ = 0

養	中国語Ⅲ(講読)			担当者	各担当教員		
講義目的、講義概要	문	授業計画	i				
ともに、単文では ングとスピーキ、 中心に初級段階 得ていない文法 に語彙力を増強	文章を読み読解力の基礎を作るとはなく一定の長さをもったリスニングの訓練を行う。また、補語をでは運用するところまでは習得し事項についての能力を深め、同時し、識字数も増やす」目標の下、一般的な文章を読み読成する。	4~6 7 8 9~11 12~14 ※ 上言	第 第 第 第 第 第 第 第 前 習 ま る る る は ま ま の の の の は の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に 。 に の に 。 に の に に に る に に に に に に に に に に に に に	験 (プリント教 <b></b> <b>:</b>	が) プラスの授業の進度によっ ことがあります。		
テキスト、参考文献			評価方法				
『中国語Ⅱ — □	中級読解コース — 』(白帝社) 皆作成の)プリント教材	授業へのた成果(	· )出席, (定期試		的参加,授業へ積極的参加し て評価する。 施する。		

養	中国語IV(講読)		担当者	各担当教員		
講義目的、講義概要	i.	授業計画	画			
基礎を確かなもの	文章を読む練習を通して読解力の のとし、一定の長さをもった内容 ニングとスピーキングの訓練を積	1~3	第8課 第9課			
について, リスニングとスピーキングの訓練を積み, 基礎的運用能力を養う。また, 多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し, もって		$4 \sim 6$	第10課 第11課			
	を向上させる」中国語Ⅳの学習目 な文章を読み読解力の基礎を養成	7	中間試験			
する。	→ ◇ 中で m゚ットm/h/ノ ッノ 坐鞭で 後以	8	復習			
		9~11	第 12 課 第 13 課			
		12~14	第 14 課 読み物(	プリント教材	r)	
					ラスの授業の進度によっ とがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法				
	P級読解コース — 』(白帝社) 作成の)プリント教材	た成果	(定期試験	業への積極的 ) を総合して テストを実施		

養	中国語Ⅲ(会話 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>E</del>	授業計画		
会話文のリスニン	· グとスピーキングの訓練を行う。	第1課~33課ま 1. Scene1~3	でを学びます	•
予習:本文の音話	売を三回以上行うこと	<ol> <li>Scene4~6</li> <li>Scene7~9</li> </ol>		
3. Scer 訓練内容 ・単語のクイックレスポンス ・本文のリピーティング ・ペア・ワーク ・シャドーイング ・日→中訳 LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動 かして練習することが求められる。 3. Scer 5. 中間 6. Scer 7. Scer 8. Scer 10. 中間 11. Scer 12. Scer 13. Scer		3. Scene7~9 4. Scene10~12 5. 中間テスト 1 6. Scene13~15 7. Scene16~18 8. Scene19~21 9. Scene22~24 10. 中間テスト 2 11. Scene25~27 12. Scene28~30 13. Scene31~33 14. 学期のまとめ		
テキスト、参考文献	状	評価方法		
『中国語会話ルー】	▶ 66』東方書店	出席率、授業に対		を50%、小テスト、中間テスで評価する。

養	中国語IV(会話 1)		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要		授業計画			
会話文のリスニン	グとスピーキングの訓練を行う。	第 34 課~66 課ま	でを学びます		
		1. Scene34∼36			
予習:本文の音読	を三回以上行うこと	2. Scene37∼39			
		3. Scene40∼42			
訓練内容		4. Scene43∼45			
• 単語のクイック	レスポンス	5. 中間テスト1			
<ul><li>本文のリピーテ</li></ul>	<ul><li>・本文のリピーティング</li></ul>		6. Scene46~48		
・ペア・ワーク		7. Scene49~51 8. Scene52~54 9. Scene55~57 10. 中間テスト 2 11. Scene58~60			
・シャドーイング	,				
<ul><li>日→中訳</li></ul>					
, , , , , ,					
・自由作文					
let . l		12. Scene61~63			
	となるため、学生は積極的に口を動	13. Scene64~66			
かして練習するこ	とが求められる。	14. 学期のまとめ			
テキスト、参考文献		評価方法			
『中国語会話ルート	66』東方書店	出席率、授業に対 ト・期末テストの		・50%、小テスト、中間テス	
		1、一別本ノヘトの	<b>点奴と 90%</b> ∫	、 FT   Щ ソ る。	

養	中国語Ⅲ(会話 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
ともに、単文で ングとスピーキ 中心に初級段階 得ていない文法 に語彙力を増強 中国語Ⅲの学習 った内容を話す と内容の深さを	文章を読み読解力の基礎を作るとはなく一定の長さをもったリスニングの訓練を行う。また、補語をでは運用するところまでは習得し事項についての能力を深め、同時し、識字数も増やす」目標の下、話題をめぐってまとま練習を行い、会話力に話題の広さ具わせる。 ~33 の話題について会話練習を行	4 授業 I・II 5 テルバス 6 アルバ試 7 中間習気、、、イ験 9 病、暇、、、、、 10 余旅行、メット 11 がショッ、 12 グショッ、 14 恋愛、	事ジ、留、 、一バグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カーバグ・ 、カードの 、カーに 、カードの 、カーに 、カードの 、カードの 、カードの 、カードの 、カードの 、カードの 、カードの 、カードの 、カーに 、カードの 、カードの 、カーに 、	ま 1 スの授業の進度によってそれ
テキスト、参考文献	tt en	評価方法		
『中国語会話ルー	ト 66』(東方書店)	授業への出席,	授業への積極	的参加、授業へ積極的参加し

た成果(定期試験)を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

養	中国語IV(会話 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	講義目的、講義概要			
基礎を確かなものについて、リスコみ、基礎的運用能からなる文型表現作文力と読解力を標の下、話題をと習を行い、会話がわせる。	文章を読む練習を通して読解力ののとし、一定の長さをもった内容にングとスピーキングの訓練を積ま力を養う。また、多く呼応関係見を学び繰り返し練習し、もってを向上させる」中国語IVの学習目めぐってまとまった内容を話す練りに話題の広さと内容の深さを具った。	4 故郷 大	<ul><li>パク</li><li>ト・格国</li><li>ホでお</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボでお</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボでお</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボでお</li><li>ボであ</li><li>ボでお</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボであ</li><li>ボでお</li><li>ボであ</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li><li>ボーン</li></ul>	ス、生活、ことば 本と中国、 レストランで が お別れ ラスの授業の進度によっ
テキスト、参考文献		評価方法	All and the All	
『中国語会話ルート	· 66』(東方書店)	授業への出席,授 た成果(定期試験 中間試験と適宜小	)を総合して	

養	中国語V(応用 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	₹	授業計画		
てさらに高度な中国 オーラル面において 心がける。中国人教 【予習】 ・基本の会話、場品 認したうえで朗読を ・討論の質問に対す 【授業】 コミュ質唱練習後、 討論:教師の質問に 習を行う。	図で身につけた、話す・書く能力を用い 国語能力を養成するための学習を行う。 ては発音の不自然な癖を修正するよう 対員が担当し、以下にそって授業を行う。 面の会話を漢字表記に変換して意味を確 東習を行う。 する回答を準備する。 との文型:ペアで会話を作り発表する。 指名された学生が朗読の発表を行う。 こ回答する。単語と表現を用いて作文練	1. ガイダンス         2. 入国手続き         3. 申請きしいる         5. ひをきする         6. 道転習シー         8. 複クが         10. 旅箱行         12. 銀買い物         14. 郵便		
テキスト、参考文献	tt .	評価方法		
『情景漢語』 朋友	<b>支書店</b>			を50%、復習テスト・期末テ
		ストの点数を50%	%で評価する	0

	V = 7.1.			,	
講義目的、講義概要		授業計画			
用いるが、学生のレッりも長くする。オーラつけるよう心がける。 【予習】 ・基本の会話、場面の したうえで朗読練習 ・討論の質問に対す 【授業】 コミュニケーション 朗読:復唱練習後、 討論:教師の質問に原	) 会話を漢字表記に変換して意味を確認 を行う。	5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13.	春電学外ホ茶復映公ダ観病天体では、「大き」が、「大き」では、「大き」が、「ないます」が、「ないます。」は、「ないます」が、「ないます」が、「ないます。」は、「ないます。」は、「ないます。」は、「ないます。」は、「ないまり、「ないます。」は、「ないまり、「ないます。」は、「ないまり、「ないまり、「ないまり、「ないまりまり、「ないまり、「ないまり、「ないまり、「ないまり、「ないまりまり、「ないまり、「ないまり、「ないまり、「ないまり、「ないまりまり、「ないまり、「な	•	
テキスト、参考文献		評価	五方法		
『情景漢語』 朋友	書店		野率、授業に対 、・期末テスト		250%、小テスト、中間テ るで評価する。

担当者

各担当教員

中国語VI(応用 1)

養	中国語 V (応用 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<b></b>	授業計画		
能力を向上させる。 し、以下にそって技 【予習】 ・基本の会話、場面 【授業】 基本の会話、場面の して意味を理解した テキストを見ずに中 練習問題:漢字表記 朗読:日本語に訳し 【復習】	と同じテキストを用い、読解力と聞く ことを目的とする。日本人教員が担当 受業を行う。 面の会話を漢字表記に変換する。 の会話:漢字表記を確認し、日本語に訳 た後にペアで発話練習を行う。 中国語を聞いて日本語へ訳す。 記と解答を確認し、日本語に訳す。 して意味を確認する。 返し声に出して読み、正しい発音を身に	1. ガイダンス         2. 入国手続き         3. 申請告しいる         5. ひとをき取り         6. 道を転車スト         7. 自習テスト         9. タクシー         10. 旅 泊         12. 銀行         13. 買便		
テキスト、参考文献		評価方法		
『情景漢語』 朋友	<b>支書店</b>	出席率、授業に対	対する積極性	を50%、復習テスト・期末テ
İ		ストの点数を50%	%で評価する	٥

養	中国語VI(応用 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
を行う。 【予習】 基本の会話、場面の会 たうえで朗読練習を 【授業】 基本の会話、場面の会 て意味を理解した後 テキストを見ずに中 練習問題:漢字表記 朗読:日本語に訳し 【復習】	会話:漢字表記を確認し、日本語に訳し にペアで発話練習を行う。 国語を聞いて日本語へ訳す。 と解答を確認し、日本語に訳す。	<ol> <li>春学期の復習</li> <li>電話</li> <li>学校の食堂</li> <li>外でのよればスト</li> <li>被習一を記している。</li> <li>機画を見る</li> <li>ダンンス行り</li> <li>親気候とされる</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本ののでは、</li> <li>(基本のでは、</li> /ol>	イー 酒	
テキスト、参考文献 『情景漢語』 朋友		評価方法 出席率、授業に対 スト・期末テスト		≥ 50%、小テスト、中間テ %で評価する。

養	韓国語 I (文法・読解 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	講義目的、講義概要			
し、主に「読み」 みからはじまって ショッピングをする と共に、基礎的かっ く。 よく、「韓国語に と言われるが、そ	の基礎的知識を習得することを目標と「書き」に重点を置く。ハングルのしく 簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねる、 るなど、旅行や日常生活に必要な基本文 つ重要な文法をしっかりと身につけてい は日本語と似ているから習得しやすい」 うした思い込みは捨てて欲しい。カタカ はなく、「生きた韓国語」に接する機会 提供していきたい。	1ハングルのし 2ハングルのし 3ハングルのし 4あいさつ① 5あいさつ② 6自己紹介① 7自己紹介② 8道をたずねる 9道をたずねる 10 ショッピング 11 ショッピング 11 ショッピング 12 カラオケに行 13 まとめと復習 14 まとめと復習	、 くみ② くみ③ ① ② が① が② デく 登①	
テキスト、参考文献	<b>状</b>	評価方法		
生越直樹・曺喜撤	『ことばの架け橋』白帝社	出席、中間テス	ト、期末テス	. }

養	韓国語Ⅱ(文法・読解 1)		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	<u>.</u>	授業計画			
に「読み」「書き」 予定をたずねる、 様な場面で使用され 礎的な文法習得の仕 よく、「韓国語は と言われるが、そう	説明書を読む、手紙を読む等、より多る文章を身につけていくとともに、基上げをする。 日本語と似ているから習得しやすい」 した思い込みは捨てて欲しい。カタカなく、「生きた韓国語」に接する機会	1 待ち合わせをす 2 映画をみる① 3 映画をみる② 4 キャンパスを歩 5 キャンパスを歩 6 予定をたずねる 7 説明書を読む 8 友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む① 12 手紙を読む② 13、14 まとめと後	<① <②		
テキスト、参考文献		評価方法			
生越直樹・曺喜撤『	『ことばの架け橋』白帝社	出席、中間テスト、期末テスト			

養	韓国語 I (文法・読解 2)		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要		授業計画			
			くみ①		
本講義は「韓国語 I (文法・読解 1)」で学んだ文法や単 語を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を		2ハングルのし	くみ②		
	鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。		くみ③		
土に「読み・書き					
		5あいさつ②			
		6 自己紹介①			
		7自己紹介②			
		8道をたずねる①			
		9道をたずねる②			
		10 ショッピング①			
		11 ショッピング②			
		12 カラオケに行く			
		13 まとめと復習①			
	14 まとめと復習②				
テキスト、参考文献	<b>#</b>	評価方法			
生越直樹・曺喜撤	『ことばの架け橋』白帝社	出席、中間テス	ト、期末テス	, h	

養	韓国語Ⅱ(文法・読解 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	講義目的、講義概要               授			
語を教室内で使用し えることに重点を置	と の 準備段階として、主に「読み・書	1 待ち合わせをす 2 映画をみる① 3 映画をみる② 4 キャンパスを歩 5 キャンパスを歩 6 予定をたずねる 7 説明書を読む 8 友達と話す① 9 友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む① 12 手紙を読む② 13、14 まとめと後	< ① < ②	
テキスト、参考文献	<u> </u>	評価方法		
生越直樹・曺喜撤『	『ことばの架け橋』白帝社	出席、中間テスト	 、期末テスト	

養	養 韓国語 I (コミュニケーション 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	要	授業計画		
話の構成をとる。こ	の授業。文法・言語文化的基礎知識・会文法の授業では項目をおいながら基礎的取りができる総合的能力の習得を目的と	<ol> <li>イ. バッチム</li> <li>カングル key</li> <li>間き取り練習</li> </ol>	母音、激音、 対 board 練練 す 文型 全 文紹介 を 文型の表制 表話の表制 表話の表 もままの表別 ままの表別 表話の表別 表話の表別 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、	音、鼻音、流音) 何すか。 @ です。  註日)
テキスト、参考文献	<b>就</b>	評価方法		
	育院,『韓国語 1』Moonjin Media, 2006 育院,『韓国語 1 Practice Book』, 006	100%が原則		ctivity 参加が必要。出席 トテスト 30%、課題提出 10%

養	韓国語Ⅱ (コミュニケーション1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	5	授業計画		
事項をまなび初級文 な語彙力の増加、見	、文法では、連体形までの基礎的文法 法を終える。初級学習者に不足しがち 法をとしがちな正しい発音への矯正にも 学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層	1. 前期の復習 2. 第13課 提案 3. 第15課 受 目 が	表現、指示表の確認 間 も 接続表現 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	<b>君など)</b> 表現 形
テキスト、参考文献	<b>t</b>	評価方法		
	『院,『韓国語 1』Moonjin Media, 2006 『院,『韓国語 1 Practice Book』, 06	100%が原則		ivity 参加が必要。出席 テスト 30%、課題提出 10%

養 韓国語 I (コミュニケーション 2)		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	授業計画		
事項をまなび初級ではいる。韓国語の増加、見配慮する。韓国語の獲得を目指す。	き、文法では、連体形までの基礎的文法文法を終える。初級学習者に不足しがち見落としがちな正しい発音への矯正にもを学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層	1. ハングルの系 2. 母音字(短程 3. 子音字(知程 4. バッグル key 6. 聞き取り練程 7. 第 2 課 基 りません など 8. 第 4 課 天気 10. 第 8 課 位置 11. 第 10 課 7 12. 第 12 課 日 13. 第 14 課 3 14. 復習(聞き取	母音、二重母 音、激音、激音 を がboard 練練 習・文型 ・表現表表 表の表数 表の表数 表の表数 表の表数 表の表数 表の表数 表の表数 表の表数 表の表数 表の 表の 表の 表の との にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる	音、鼻音、流音) 、@です。いいえ、@ではあ form) 化・漢数字
テキスト、参考文献	<del> </del>	評価方法		
	育院,『韓国語 1』Moonjin Media, 2006 育院,『韓国語 1 Practice Book』,	100%が原則		ctivity 参加が必要。出席

出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%

Moonjin Media, 2006

養	韓国語Ⅱ (コミュニケーション 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	\$	授業計画		
話の構成をとる。文	及接業。文法・言語文化的基礎知識・会法の授業では項目をおいながら基礎的なりができる総合的能力の習得を目的と	1. 前期の復習 2. 第14課 理由 3. 第16課 招規 4. 第16課 不明 5. 復習(韓国 趣味 6. 第18課 趣味 7. 第18課 終訴 8. 第20課 旅行 9. 第20課 旅行 9. 第22課 談話 11. 第22課 談話 12. 第24課 談話 14. 復習(語彙・問	則活用、時間 聞き取り・ac り表現、理由 形 計画 話表現・未来に 話表現・ まで表現	引表現 etivity など) ロ・提案表現 時制
テキスト、参考文献	t	評価方法		
	『院,『韓国語 1』Moonjin Media, 2006 『院,『韓国語 1 Practice Book』, 06	100%が原則		ivity 参加が必要。出席 テスト 30%、課題提出 10%

養	韓国語Ⅲ(文法・読解 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
彙・表現の習得を目 具体的には、韓国 正しく使いこなせる 法を身につけること	国語Ⅱで学んだ「変則活用」シリーズを るようになることと、さまざまな間接話	1 韓立 2 交頭 3 3 軍事 4 家買い行 5 買旅中間動話 9 電病事 9 電病事 11 事長 12 長 13 長 14 長 14 長 14 長 14 長 14 長 16 で 17 で 18 で 18 で 18 で 18 で 18 で 18 で 18 で 18		
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価方法		
연세대학교한국어학 適宜プリントを配存	막당 편『한국어 2』연세대학교 출판부 Fする。	出席、中間テス	ト、期末テス	s. F.,

養	韓国語IV(文法・読解 1)		担当者	各担当教員
メディア教材を使 やすことで、韓国語 く。	る。 の習得を目指す。 E用し、生きた韓国語に触れる機会を増 独自のリズムとメロディーに慣れてい	授業計画  1 下で 2 に かっと 2 に かっと 2 に かっと 2 に かっと 3 を 3 を 4 を 4 を 5 の 第のテスしお俗解 2 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 5 を 5 を 6 を 7 を 8 を 7 を 8 を 7 を 8 を 7 を 8 を 7 を 8 を 9 お 後 解 2 を 9 な 2 を 5 を 6 を 7 を 8 を 9 お 8 を 9 お 8 を 9 を 8 を 9 を 9 を 9 を 9 を 9 を 9 を 9 を		
テキスト、参考文献 ・	·당 편『한국어 3』연세대학교 출판부	出席、中間テスト	、期末テスト	0

養	韓国語Ⅲ(文法・読解 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	E	授業計画		
彙・表現の習得を目 具体的には、韓国 正しく使いこなせる 法を身につけること	国語Ⅱで学んだ「変則活用」シリーズを るようになることと、さまざまな間接話	1 韓 2 3 3 4 7 8 9 8 9 8 9 8 9 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9		
テキスト、参考文献	jt .	評価方法		
연세대학교한국어 適宜プリントを配布	막당 편 『한국어2』 연세대학교출판부 Fする。	出席、中間テス	ト、期末テス	

養	韓国語IV (文法・読解 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
メディア教材を使用	á。 の習得を目指す。 りし、生きた韓国語に触れる機会を増や 自のリズムとメロディーに慣れていく。	1 下信 2 忙 3 貯 4 お 5 週 東 6 健 生 5 週 東 5 の 5 の 5 の 5 の 5 の 5 の 5 の 5 の		
テキスト、参考文献	<del>.</del>	評価方法		
연세대학교한국어학 適宜プリントを配布	·당 편『한국어 3』연세대학교 출판부 iする。	出席、中間テスト	、期末テスト	•

養	韓国語Ⅲ(コミュニケーション 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	문	授業計画		
の増強を目指す。こ	力の養成、ヒアリング力の強化、表現力 文法では、韓国語 I、IIで学んだ初級文 ドルの説明では不十分である文法項目を 深化と定着を図る。	1. 復習       2. 第 25 課         2. 第 25 課       課         4. 第 27 課       課         5. 第 27 課       課         6. 第 29 課       表         7. 第 29 課       課         8. 第 3 課       課         10. 第 3 課       課         11. 第 3 課       課         12. 第 3 課       課         13. 第 3 課       課         14 復習	請表現 (株みの計画 (無紹介) (特別) (特別) (特別) (特別) (特別) (特別) (特別) (特別	į 表現(会話、読解)
テキスト、参考文献	<b>状</b>	評価方法		
ソウル大学言語教育Moonjin Media, 2006	完,『韓国語 1』Moonjin Media,2006 完,『韓国語 1 Practice Book』, 架け橋 中級表現編』,白帝社,2009	100%が原則		ctivity 参加が必要。出席 トテスト 30%、課題提出 10%

養	韓国語IV (コミュニケーション 1)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	5	授業計画		
	京、文法の補強、購読力の養成、ヒアリ党力の増強を目指す。	1. 復習 2. 第5課 引用形 3. 第5課 引用形 4. 第5課 引用形 5. 引用形の active 6. 第7課 受身 7. 第7課 受身 8. 第7課 受身 10. 第9課 使役 11. 第9課 使役 12. 第9課 使役 13. 使役形の active 14. 復習(聞き取り	形(表現、文法 形(作文、発音 vity(news, ド 形(会話、読) 形(表現、文 形(作文、発 vity(news, ト と形(会話、読 形(表現、文 ながでいた。 ではず(news, ト ながでいた。 ではずいでいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながいた。 ではながながいた。 ではながいた。 ではながながながながながながながながながながながながながながながながながながなが	(ま) (デ) (ラマなど) (解) (法) (注) (注) (発音) (ドラマなど)
テキスト、参考文献	<b>*</b>	評価方法		
生越直樹、『ことば	の架け橋 中級表現編』,白帝社,2009	100%が原則		ivity 参加が必要。出席 ・スト 20%、課題提出 10%,

養	韓国語Ⅲ(コミュニケーション 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>.</del>	授業計画		
の増強を目指す。プ	力の養成、ヒアリング力の強化、表現力 な法では、韓国語 I、IIで学んだ初級文 ドルの説明では不十分である文法項目を 深化と定着を図る。	3. 第 26 課 感 4. 第 28 課 計 5. 第 28 課 比 6. 第 30 課	画 較表現 末の出来事 定疑問文 善幹用言(2)、 来連体形を使現、 ではまな表現	到用言(1) 作文 ごう表現(会話、読解) 1(2)、作文
テキスト、参考文献	t	評価方法		
ソウル大学言語教育院 Moonjin Media, 2006	完,『韓国語 1』Moonjin Media,2006 完,『韓国語 1 Practice Book』, 架け橋 中級表現編』,白帝社,2009	100%が原則		ctivity 参加が必要。出席 トテスト 30%、課題提出 10%

養	韓国語IV (コミュニケーション 2)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
韓国語Ⅲに引き続き ング力の強化、表現	大文法の補強、購読力の養成、ヒアリーの増強を目指す。	1. 復習       2. 第6課 名詞(       3. 第6課 名詞(       4. 第6課 名詞(       5. 名詞(と話尾の)       6. 第8課 さまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	と語尾(表現、 と語尾(作文、 activity がまな慣用句 がまな慣用句句 にまなででである。 をことばの表 きことばの表 される。 される。 される。 される。 される。 される。 される。 される。	文法) 発音) (会話、読解) (表現、文法) (作文、発音) ty 現(会話、読解) 現(表現、文法) 現(未見、文法) 現(作文、発音) tivity
テキスト、参考文献		評価方法		
生越直樹,『ことばの	の架け橋 中級表現編』,白帝社,2009	100%が原則		ivity 参加が必要。出席 スト 20%、課題提出 10%、

養	韓国語V(応用 1)		担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要	<del>.</del> <del>2</del>	授業計画		
力の発展を目指し、 するとともに長文を	W」に引き続き、文法力、読解力、語彙 新しい文型を用いた例文作りの練習を を読んでいく。また、会話能力や聞き取 旨し、授業はほとんど韓国語で行う。	1 復習 2 第 7 課 3 第 8 課 4 Review 5 第 9 課 6 第 1 0 課 7 第 1 1 課 8 第 1 2 課 9 Review 10 第 1 3 課 11 第 1 4 課 12 第 1 5 課 13 第 1 6 課 14 Review		
テキスト、参考文献	tt en	評価方法		
『総合韓国語IV』》	由谷差利ほか著	出席、中間テス	ト、期末テス	· 卜、課題

養	韓国語VI(応用 1)		担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画		
高度な韓国語運用力	〜V」で学んだ事項をふまえ、さらに Dを習得するためのものである。そのた 国語で行い、意思伝達の能力を向上されができる場とする。	1 大衆文化につい 2 風習や慣習につい 3 作文の構想/記 4 韓国語学習の紹 5 効果的な外国記 6 男女平等につい 7 Review 8 趣味について 9 各国の人気(記 10 旅行の計画を記 11 好きなインター 12 未来の生活の認 13 絵をつかって特	ついて 意見交換 経験につか法に 一 一 一 で で で で で の で の の の の の の の の の の の の の	ツについて トについて る
テキスト、参考文献	14 Review         テキスト、参考文献       評価方法			
初回講義時に提示す	~る。	出席、中間テスト	、期末テスト	、課題

養	韓国語V(応用 2)		担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要	<del>.</del> <del>2</del>	授業計画		
力の発展を目指し、 するとともに長文を	W」に引き続き、文法力、読解力、語彙 新しい文型を用いた例文作りの練習を を読んでいく。また、会話能力や聞き取 旨し、授業はほとんど韓国語で行う。	1 復習 2 第 7 課 3 第 8 課 4 Review 5 第 9 課 6 第 1 0 課 7 第 1 1 課 8 第 1 2 課 9 Review 10 第 1 3 課 11 第 1 4 課 12 第 1 5 課 13 第 1 6 課 14 Review		
テキスト、参考文献		評価方法		
『総合韓国語IV』》	由谷差利ほか著	出席、中間テス	ト、期末テス	· 卜、課題

養	韓国語VI(応用 2)		担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画		
高度な韓国語運用力	〜V」で学んだ事項をふまえ、さらに 1を習得するためのものである。そのた 国語で行い、意思伝達の能力を向上さ はができる場とする。	1 引用形の縮約形 2 ジャンル別文章 3 仮定法 4 丁寧度による机 5 擬声語と擬態語 6 用言の名詞化 7 Review 8 動詞「보다」の 9 回想の表現 I 10 回想の表現 II 11 推測の表現 II 11 推測の表現 I 12 依存名詞 I 13 依存名詞 II	章表現法 様々な表現 番	
テキスト、参考文献		14 Review 評価方法		
初回講義時に提示す		出席、中間テスト	、期末テスト	、課題

英語演習 I (Education and global society) 担当者 T. ホサイン 外言 英語演習 (Education and global society) 授業計画 講義目的、講義概要 1. Introduction and Syllabus review The focus of this course will be education and society. This course examines the role of education in the society, 2. Read article on Japan and lecture on Japan globalization. We will read four articles from which we have the glimpse of 3. Continued reading article on Japan different societies. These articles will help us to understand the educational systems, successes, and problems of different 4. Group Discussion and In- class writing countries. We will also learn how education creates inequalities in the society. This course will enable you to understand global 5. Read article on Bangladesh and lecture on Bangladesh realities. 6. Continued reading article on Bangladesh In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise and academic prose. We will be Discussion on the educational system of Japan and using readings from articles to launch our inquiries. From there, Bangladesh we will be drawing on a variety of media to help us explore these Group presentation final paper topic discuss questions. Research, and the collection of ideas and materials, Read article on India and lecture on India will be very important. You will be given the opportunity to use 10. Continued reading article on India our texts from the class and follow interests of your own that will 11. Group Discussion and In- class writing help to explain and expand the points that we are making. You 12. Read article on Pakistan and lecture on Pakistan will be making reference to film, newspapers, magazines, 13. Discussion on comparative study and course review. 14. Final paper due and group presentation journals, articles, books, and - of course - the Internet. We will learn how to use such sources to advance our thinking and our The instructor has the right to amend the syllabus. ideas, cite them correctly, and use them in creative written argument, evaluation, and explanation.

テキスト、参考文献	評価方法
Articles will be provided in the classroom	Group presentation     20       In-class writing     20       Long paper     50       Written commentaries, home work, participation     10

英語演習 II (English as an International Language) T. ホサイン 担当者 外言 英語演習 (English as an International Language) 講義目的、講義概要 授業計画 1. Introduction and Syllabus review This course examines English language issues at societal and 2. Read why a global language? (selection) and lecture on the global levels. It will discuss the historical context of the global above-mentioned topic development of English, status of English as a first and second language, and issues involving English that are currently 3. Continued reading why a global language? developing in and across diverse societies. 4. Group Discussion and In- class writing In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise and academic prose. We will be 5. Read why English? The historical context (selection) and using readings from articles to launch our inquiries. From there, lecture on the historical context. we will be drawing on a variety of media to help us explore these questions. Research, and the collection of ideas and materials, Continued reading why English? The historical context will be very important. You will be given the opportunity to use 7. Discussion on the previous sections our texts from the class and follow interests of your own that will 8. Group presentation final paper topic discuss help to explain and expand the points that we are making. You Read why English? The cultural foundation (selection) and will be making reference to film, newspapers, magazines, lecture on the above-mentioned topic journals, articles, books, and - of course - the Internet. We will 10. Continued reading why English? The cultural foundation learn how to use such sources to advance our thinking and our 11. Group Discussion and In- class writing ideas, cite them correctly, and use them in creative written 12. Read why English? The cultural legacy (selection), argumentation, evaluation, and explanation. lecture on the above-mentioned topic Discussion on comparative study and course review 13. Final paper due and group presentation The instructor has the right to amend the syllabus. テキスト、参考文献 評価方法 David, Crystal. English as a Global Language. Cambridge University Press Articles will be provided in the classroom, if necessary. Written commentaries, home work, participation ........... 10

養外言	英語演習 I (英語字幕) 英語演習 (英語字幕)		担当者	横山 直美
講義目的、講義概要	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	授業計画		
この講義では、「英 る『スキル』にする 成するために、翻訳の技能を修得いこれ せることを狙う。 翻訳の技能を修得いこれ せることを狙う。 翻訳の技能を修得いこれ がよれ、知識の増弱 なお、8回目以降の なお、8回目以降の	語を単なる『知識』ではなく、活用できること」を目標ととらえ、その目標を達訳の実技演習をおこなう。つまり、翻訳とさせることにより、「知識」としての英なせる「スキル」へと質的変化を起こさずる過程では、複合的な分野を強化して英語の運用能力のみならず、日本語の運強なども行う予定である。の授業では、専用のソフトウェアを使用い、グループごとに作品を仕上げる。	1 オリエンテー 2 翻訳とはない 3 英文和訳・和 4 リサーチの力 5 産業翻訳 6 文芸翻訳(1) 7 文芸翻訳(2)	こか 中文英訳から 方法 何を使 ) ) ) 字幕翻訳 プトラフトープリングループワワグループワワ	ってどう調べるのか は 起こし アの使い方 ーク ーク
テキスト、参考文献	<b>t</b>	評価方法		
随時プリントなどを	を配布する。	出席 30% 発表 20%	授業参加	50%

養外言	英語演習Ⅱ(英語通訳) 英語演習(英語通訳)		担当者	横山 直美
る『スキル』にする成するために、主に、主に、主に、主に、主に、主にの技能を修得・の英語を実際に使いこさせることを狙う通訳の技能を修得すいくことになる。増強和により、知識の増強	語を単なる『知識』ではなく、活用できてと」を目標ととらえ、その目標を達通訳の実技演習をおこなう。つまり、向上させることにより、「知識」としていてなせる「スキル」へと質的変化を起いる過程では、複合的な分野を強化して語の運用能力のみならず、日本語の運なども行う予定である。		けく自己コツ(1) リテドス(2) シャイトの(3) サイ強本(2) シャイトの(4) 東海(4) 東海(5) 日本(4) 東海(6) 日本(5) 東京(7) 東京(5) 東京(7) 東京(5) 東京(8) 東京(5) 東京(9) 東京(5) 東京(10) 東京(5) 東京(11) 東京(5) 東京(12) 東京(5) 東京(12) 東京(5) 東京(13) 東京(5) 東京(14) 東京(5) 東京(15) 東京(5) 東京(16) 東京(5) 東京(17) 東京(5) 東京(18) 東京(5) 東京(19) 東京(5) 東京 <t< th=""><th>分析をしよう の2通りのリスニング) ョン・リプロダクション イング ランスレーション</th></t<>	分析をしよう の2通りのリスニング) ョン・リプロダクション イング ランスレーション
テキスト、参考文献 随時プリントなどを		<b>評価方法</b> 出席 50%	授業参加	50%

養外言	英語演習 I(映画英語) 英語演習(映画英語)		担当者	中込 知子
講義目的、講義概要	要	授業計画		
ョン業界を背景として される英語のスピーす。 講義内容 オーバーラッピン いき、かんーションには グやグルーない。 かく。ま考えている の含みを考えている	目指す 20 代の女性が主人公のファッシ した映画 The Devil Wears Prada を教材 文化を学び、日常生活またビジネスで話 ードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指 グやシャドーイングをしながら発音、イリエゾン等のプロソディーを身に付けて 映画のいくつかのシーンを英語でダビン コールプレイができるよう台詞に慣れて ープディスカッションで登場人物の会話 く。 で、必ずやってくること。	1. Introduction 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Presentation 8. Presentation 9. Unit 6 10. Unit 7 11. Unit 8 12. Unit 9 13. Unit 10 14. Exam		
テキスト、参考文献	状	評価方法		
Aline Brosh McKe	nna, <i>The Devil Wears Prada</i> 松柏社	出席(30%) 口頭発表(40%		スト、授業への積極的参加度, スト (30%)

養外言	英語演習Ⅱ(映画英語) 英語演習(映画英語)		担当者	中込 知子
た Good Will Hung 背景を学びながら日 聴解力と自分の意見 を目指す。 講義内容 各シーンの台詞のP まとめ、グループデ 変化、登場人物の発 を行う。また、監督 定の持つ意味も考え	ー賞やゴールデングローブ賞を受賞しtingを教材として現代アメリカの社会常に話される英語のスピードに慣れ、見をまとめて発表できる発話力の向上内容を理解した後に、それぞれの意見をディスカッションを通して主人公の心の語言の意味、性格等について意見の交換の意図するテーマに対しての各場面設	1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 1 0. Chapter 9 1 1. Chapter 10 1 2. Chapter 11 1 3. Chapter 12 1 4. Exam		
テキスト、参考文献 Alan Rosen 楠元実	子, Good Will Hunting 松柏社	評価方法 出席(30%) 認 口頭発表(40%)		ト、授業への積極的参加度,ト(30%)

養 外言	英語演習 I 英語演習		担当者	未定
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
テキスト、参考文南	ŧ	評価方法		
7イスト、参与人用	۸			
<b></b>				
養外言	英語演習Ⅱ 英語演習		担当者	未定
養 外言 講義目的、講義概要	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定
外言 講義目的、講義概要	英語演習		担当者	未定
外言	英語演習	授業計画	担当者	未定

養 外言	英語演習 I (Advertising Strategies an 英語演習(Advertising Strategies and	-		担当者	М.	デルベッキオ
講義目的、講義概要		授業計画	Ī			
However, not all companies use to the techniques us course will invest organizations or care produced, how or groups and how Students will be experience, knowledge.	a mass of advertising on a daily basis.  of us are aware of the strategies market their goods or services, or, of sed to influence our behavior. This igate the context of advertising, the ultures that produce them, how they advertisements represent individuals we, the audience responds to them.  Expected to do research and share their edge and opinions with their peers.  Idents will enjoy taking an active role remediate	11. 12. 13.	Purpos Consur Measur Advert Persua Appeal Visual Style a Relatio Stereot	m/Technology es Explored mer Markets ring Emotion ising and the sion Techniq s features/tech nd Language nships and I types lling Adverti	ns e Media ues nniques e Roles	
テキスト、参考文献		評価方法		.11	.1 0.73	
Students should ha	dictionary, thesaurus		rforman			wing: attendance, ntation and one

養外言	英語演習 II (Media Studies) 英語演習(Media Studies)		担当者	M.	デルベッキオ	
講義目的、講義概要	E C	授業計画	Ī			
You are likely to l	have a good knowledge of the media	1.	Introd			
already. This cou	rse aims to help you use and develop	2. 3.		sion: reality s sion: reality s		
your understandin	ng of how and why media texts are	3. 4.		sion: reanty s sion: situatio		
produced, how p	eople respond to them and what	5.	Televis	sion: chat she	ows	
messages and valu	es they contain.	6.	Televis	sion: talk sho	ows	
	,	7.	Popula	ar music		
G. 1		8.	-	papers (1)		
Students will be ex	spected to do research and share their		9. Newspapers (2)			
experience, knowle	edge and opinions with their peers.		10. Advertising			
			11. Magazines			
_	adents will enjoy taking an active role	12. Magazines 13. Movies				
in this class.			Presen			
Language level: In	termediate to advanced					
テキスト、参考文献	<b>*</b>	評価方法	₹			
	rovided by the instructor.	The final grade will combine the following: attendance,				
Students should hat English to English	ave: dictionary, thesaurus	class performance, quizzes, one presentation and one written report.				
and access to the in	**	771100011	торого.			

養 外言	英語演習 I(Effective Presentation Ski 英語演習(Effective Presentation Skil	担当者	ロン 美香	
overall English prepracticing various  Students will revies structure. They will English expression academic context to Class will be held to actively engage research on suggest class.  Attendance is especially actively engage class.	s course is to improve students' officiency through learning and presentation skills.  The weak basic English presentation all also deepen their knowledge on as that are commonly used in the offectively convey viewpoints.  The English and students are expected in class. Students will also conduct sted topics and give presentations in exially important and it is your take-up for all missed work.	Week 6 Creating Week 7 Presents Week 8 Describing Week 9 Presents Week 10 Express Week 11 Express Week 12 Introduce	orming, defination of a surveying survey reaction in a process action is sing opinion is sing opposing ucing news sing about details	cation sults using visual aids g opinion tories ils in news stories
テキスト、参考文献 "Present Yourself 2	t 2: Viewpoints" by Steven Gershon	評価方法 Attendance 20% Participation 20 Assignments 30 Presentations 3	)%  %	

養外言	英語演習 II (Taking sides on current issues) 英語演習(Taking sides on current issues)		担当者	ロン 美香		
講義目的、講義概要	į	授業計画				
overall English skilissues.  Students will receive skills such as time gradually learn to be effectively in English They will also expaissues by conducting arguments in a deliberation of the lessons will be expected to actively	This course will focus on further developing students' overall English skills through debating controversial issues.  Students will receive instruction on basic presentation skills such as time management and eye contact, and gradually learn to build/defend their arguments effectively in English.  They will also expand their knowledge on controversial issues by conducting research in groups and present the arguments in a debate format.  The lessons will be held only in English and students are expected to actively engage in class activities.  Attendance is especially important.		授業計画  Week 1 Introduction Week 2 Agree/Disagree, Policy & Fact Week 3 Reasoning by comparing and contrasting Week 4 Supporting opinion Week 5 Organization of debate Week 6 Refutation Week 7 Testing supports Week 8 Analysis of NC Week 9 Responding to attacks Week 10 Trial debate Week 11 Full debate 1 Week 12 Full debate 2 Week 13 Full debate 3 Week 14 Review of the course			
テキスト、参考文献	t	評価方法				
"Discover Debate" by Lubetsky, Le Beau, and Harrington		Attendance 20% Assignments 20% Participation 20% Debates 40%	, D			

養外言	英語演習 I(Planet Earth – An Introduction to the Earth Sciences) 英語演習(Planet Earth – An Introduction to the Earth Sciences)		担当者	J. Hunt	
講義目的、講義概要		授業計画			
subject of Earth discussion and p will be used to be formation of our	introduce students to the Science. Reading, group bractical interpretation exercises build an understanding of the planet, its evolution, and the ses that continue to shape our	Week 2: The :	Earth in s Earth in s orical ide	-	
The goals of this course are to improve English ability, develop an understanding of the processes active on planet Earth and develop critical thinking skills.  Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present		Week 6: Structural Geology 1 - rocks  Week 7: Structural Geology 2 - interior  Week 8: Structural Geology 3 - processes 1  Week 9: Structural Geology 4 - processes 2  Week 10: Test 2  Week 11: Geological Time & Dating Methods			
we hope to have	o the class. Most importantly fun improving our of the planet on which we live.	Week 12: Geological History 1 Week 13: Geological History 2 Week 14: Test 3			
テキスト、参考文献	状	評価方法			
a computer and pr	uired, but students will need access to inter to download and print out class from the course website.	participati	on, seve	pased on class and writing activities.	

養外言	英語演習 II (Life – An Introduction to Evolutionary Biology) 英語演習(Life – An Introduction to Evolutionary Biology)		担当者	J. Hunt
講義目的、講義概要		授業計画		
This course will introduce students to the subject of Evolutionary Biology. Listening to lectures, reading, group discussion and practical interpretation exercises will be used to build an understanding of the origins of life, its evolution, and its many wonderful forms.		Week 1: Introduction, outline, evaluation Week 2: What is "Life"? Week 3: The origin of Life on Earth Week 4: Understanding Geological Time Week 5: Test 1		
ability, develop a of life on planet appreciation of I and their impact	course are to improve English an understanding of the variety Earth (and beyond), and an Darwinian evolutionary ideas to current scientific thinking. It to develop critical thinking	Week 7: Evolu	tionary Th tionary Th 2	eory 1 - Pre Darwin eory 2 - Darwin eory 3 - Post Darwin Darwinism
Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the miracle of life.		Week 11: Amazing adaptations 1 Week 12: Amazing adaptations 2 Week 13: Amazing adaptations 3 Week 14: Test 3		
access to a compute	ounced. Students will also need er and printer to download and print ach class from the course website.	participatio	n, severa	ased on class al tests and riting activities.

養外言	英語演習 I(News & Songs with Exercises) 英語演習(News & Songs with Exercises)		担当者	関戸 冬彦	
講義目的、講義概要	5	授業計画			
この「英語演習」(News & Songs with Exercises)ではニュース、歌(歌詞)、あるいは映画、などのメディアを用いながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力を駆使し、さらなる総合的な英語力向上を図ろうというのがねらいである。最初はこちらである程度、話題・素材提供をするが、集まった学生諸君の興味・関心によってはいい意味で大いに逸脱する可能性もある。いずれにせよ、積極的に参加しようという姿勢が必要であり、単位取得のために仕方なく、というのでは歓迎されない。(欠席が特段の理由なく3回を越えたならばその時点で単位取得にはならず。)現段階で予定している内容は、Watching news programs with exercises, Listening to the music with exercises or presentation など。また、受講生の興味如何では Songsが Movies になることもある。なお、あくまで「英語演習」なので、授業内は基本的に英語での参加・進行となる。		1 Introduction 2 News & Songs with Exercises 1. 3 News & Songs with Exercises 2. 4 News & Songs with Exercises 3. 5 News & Songs with Exercises 4. 6 News & Songs with Exercises 5. 7 News & Songs with Exercises 6. 8 News & Songs with Exercises 7. 9 News & Songs with Exercises 8. 10 News & Songs with Exercises 9. 11 News & Songs with Exercises 10. 12 News & Songs with Exercises 11. 13 News & Songs with Exercises 12. 14 Final Evaluation			
through watching It is necessary for you cannot get you	urse is to improve your English skills news programs, or listening to music. you to attend classes positively, and ir credit if you are absent more than 3 particular reasons. Basically, we will the classes.				
テキスト、参考文献	t l	評価方法			
To be announced a	t the first lesson	Attendance 30% Class work, Hor Final Test, Pape	nework 50%		

養外言	英語演習 II (News & Songs with Exercises) 英語演習(News & Songs with Exercises)		担当者	関戸 冬彦
一ス、歌(歌詞)、 がら、各自がすでにる総合的な英語力向 初はこちらである程 学生諸君の興味・関 可能性もある。り、単 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	lews & Songs with Exercises)ではニュ あるいは映画、などのメディアを用いな 持つあらゆる英語能力を駆使し、さらな 上を図ろうというのがねらいである。最 度、話題・素材提供をするが、集まった 心によってはいい意味で大いに逸脱する れにせよ、積極的に参加しようという姿 位取得のために仕方なく、というのでは 常が特段の理由なく3回を越えたならば にはならず。)方針は春学期と同じであ 容は異なる。また、受講生の興味如何で になることもある。なお、春学期同様、 」なので、授業内は基本的に英語での参 urse is to improve your English skills news programs, or listening to music. you to attend classes positively, and r credit if you are absent more than 3 particular reasons. Basically, we will he classes. (In this term the policy for same as Spring semester, but the	1 Introduction 2 News & Songs 3 News & Songs 4 News & Songs 5 News & Songs 6 News & Songs 7 News & Songs 8 News & Songs 9 News & Songs 10 News & Songs 11 News & Songs 12 News & Songs 13 News & Songs 14 Final Evaluation	s with Exerci	ses 2. ses 3. ses 4. ses 5. ses 6. ses 7. ses 8. ses 9. ses 10. ses 11.
テキスト、参考文献 To be announced at		評価方法 Attendance 30% Class work, Hom Final Test, Paper		ion 20%

養       スペイン語演習 I         外言       スペイン語演習		担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要	授業計画		
すでに文法を修了した学生を対象に、スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。	2. El viaje a	Perú (Intro	
スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。	<ol> <li>El viaje a Perú (Lectura)</li> <li>Conocer Perú</li> <li>Ejercicios</li> <li>Presentar el plan del viaje</li> </ol>		
ひとつのテーマについて、2~3 時間かけて、購読、 ディスカッション、応用練習を行ない、読解、会話、 聞き取り能力の向上をはかる。	<ul><li>7. Debate</li><li>8. Examen</li><li>9. Conocer la cultura andina (Introducción)</li></ul>		
受講学生は入念な予習をする必要があることを覚悟すること。中途半端な予習と受講態度を取る学生は、たとえ授業に出席していても欠席とみなす。欠席が続く学生は学期末試験への受験資格を失なうので注意すること。	11. Música andina (Lectura)		
テキスト、参考文献	評価方法		
テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。		筆記、ディ	、学期末試験を総合的に評価 スカッション、聞き取り、な

養外言	スペイン語演習Ⅱ スペイン語演習			兒島 峰
講義目的、講義概要	<del>[</del>	授業計画		
スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。 ひとつのテーマについて、2から3時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習、および、グループ討論を行ない、読解、会話、聞き取り、および理解力を高めることを、本講義の目的としている。 スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。 受講学生は入念な予習をする必要がある。中途半端な予習と受講態度を取る学生は、たとえ授業に出席していても欠席とみなす。グループ討論やディスカッションも評価の対象になる。この期間中に欠席をした場合、学期表表		1. オリエンテーション・受講上の注意 2. Ver la película sin subtítulo (Introducción) 3. Ver la película sin subtítulo (primera parte) 4. Ver la película sin subtítulo (segunda parte) 5. Ver la película sin subtítulo (tercera parte) 6. Ver la película sin subtítulo (cuarta y última		
		parte) 7. Debate 8. Examen 9. Tango argen 10. Tango argen	entino (Lec	tura)
		11. Tango argentino (Lectura) 12. Debate 13. Examen		

どが総合的に含まれる。

うことがあるので、注意すること。

テキストは当方で用意する。

テキスト、参考文献

西和辞典は必携。

13. Examen

授業への参加態度、小テスト、グループ討論、報

告発表、および学期末試験を総合的に評価する。

評価方法

養外言	スペイン語演習 I スペイン語演習		担当者	C. ガリード
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
ため、授業は基本的と豊かな表現力を見た文法事項を必要にひとつのテーマを発表したり、ペアーをションをする。 積極的な授業への参	を修了している学生を対象としている 的にスペイン語で行う。より深い読解力 別につけることを目的とし、既に学習し に応じて復習をしながら発展させる。 2、3時間かけ状況に応じて、個人で発 組んだり、グループを作りディスカッ 参加態度を重視し、評価する。 予習をし西和和西辞典を携帯すること。	tiempo disponib  1~3. Volver a en nosotros, aficion cambios)  4~6. El turista a anécdotas)  7~9. ¿Cómo com amigo o amiga y hechos pasados.  10~12. El tiemp hacemos en nue película)	le y del avar npezar (Conc nes, gustos, c accidental (E ociste a tu m r explicar cón .) oo libre (Conc stro tiempo l	ocernos. Hablar sobre ostumbres. Verbos de lablar sobre viajes. Contar lejor amigo? (Describir a un mo lo conociste. Narrar lertar citas. Hablar de lo que libre. Valorar y describir una lar de planes y viajes y de
テキスト、参考文献	<del>戊</del>	評価方法		
テキストは使用せる西和和西辞典を必っ	げ、毎回プリントを配布する。 げ持参すること。	2回の試験、授業への積極的参加態度、課題提出などを 合的に評価する。		

養外言	スペイン語演習Ⅱ スペイン語演習	I		C. ガリード
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
ため、授業は基本的と豊かな表現力を身た文法事項を必要にひとつのテーマを2表したり、ペアーをションをする。 積極的な授業への参	を修了している学生を対象としている 的にスペイン語で行う。より深い読解力 がにつけることを目的とし、既に学習し に応じて復習をしながら発展させる。 2、3時間かけ状況に応じて、個人で発 を組んだり、グループを作りディスカッ 参加態度を重視し、評価する。 予習をし西和和西辞典を携帯すること。	tiempo disponib  1~3. Caracter y caracter de una preguntas para  4~6. Buenas no comentarla. Hal  7~9. Yo nunca le imaginarias. Ex  10~12. Sentimie pena o lástima. pasado)  13~14. Futuro	le y del avar relaciones p persona. Ex conocer a al ticias (Referi blar sobre m o haría (Habi presar desec entos (Expres Formular hi Hablar sobre	<i>ersonales</i> ( Describir el presar gustos. Hacer
テキスト、参考文献		評価方法		
<ul><li>テキストは使用せす</li><li>西和和西辞典を必す</li></ul>	"、毎回プリントを配布する。 "持参すること。	2回の試験、授業	業への積極的	参加態度、課題提出などを総
		合的に評価する。		

養 外言	スペイン語演習 I スペイン語演習		担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
		Plan de estudio	sujeto a can	nbios.
スペイン語の総合	的応用能力を高めると同時にスペイン			
とラテンアメリカの	D社会、文化などにも理解を深める。ま	1. Presentación	del curso, e	valuación de nivel.
た、口頭発表、スペ	ペイン語レポートを書くこと等を通じて	2. España: grar	ndes protago	nistas de la pintura.
わりあい高い表現能	と力を伸ばし、会話力の強化を目指す。	3. Presentación	oral sobre p	intores españoles.
積極的に授業に参加	叩する姿勢が必要です。	4. 5. Antonio Gaudí y sus obras más emblemáticas.		
		6. Cine español. Análisis de una película.		
		7. Cine hispano. Grandes protagonistas.		
		8. 9. Discusión sobre películas.		
		10. Ecuador: información general, Quito.		
		11. Islas Galápagos: parte 1		
		12. Islas Galápagos: parte 2		
		13. Medio Ambiente: calentamiento global.		
	14. Presentación y discusión sobre posibles soluciones.			
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献 評価方法			
教室で配布				参加ならびに提出課題、口頭 040%を2回の試験によって行

養外言	スペイン語演習Ⅱ スペイン語演習	П		N. ウエチ
とラテンアメリカの た、口頭発表、スペ わりあい高い表現能	内応用能力を高めると同時にスペイン 社会、文化などにも理解を深める。ま イン語レポートを書くこと等を通じて 力を伸ばし、会話力の強化を目指す。 日する姿勢が必要です。		Márquez. Ron y discusión ero. Sus obras ormación genina. entina. eral. eción general. y Cuba. de Hispanoa las tradicion	eferencia biográfica. sobre partes de sus s. ueral.
テキスト、参考文献 教室で配布				加ならびに提出課題、口頭 0%を2回の試験によって行

養外言	中国語演習 I 中国語演習		担当者	武信 彰
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
講義目的、講義概要  長編推理小説≪刑警队长≫ (王亚平: 上海文艺出版社, 1980年)をダイジェストで読む。  受講生各自が中国語IVまでで身につけた語彙力・文法知識や中国理解を動員して読んでいき,もって読解力の養成を目指す。 常套表現・方言的色彩・文化的な背景などの面にも目配りし、言語と文化をともに読み解く姿勢で臨む。 工具書なども適宜紹介したい。		3 (3) 一 4 (4) 夏 5 (5) 关 6 (6) 重 7 (7) 震 8 (8) 震 9 (9) 震 10 (10) 往 11 (11) 重 12 (12) "— 13 (13) "—	, 张张夜系大撼撼撼事、请请惨学嫌人人的的监案家疑心心心回的味。	夜(二) 夜(三) 内一夜(一) 内一夜(二)
テキスト、参考文献		評価方法		
プリント配布。				的参加(発表),授業へ積極 を総合して評価する。

養外言				武信 彰
版社,1980年) 受講生各自が 力・文法知識やい もって読解力の記 常套表現・方言	刊警队长≫(王亚平:上海文艺出をダイジェストで読む。 中国語IVまでで身につけた語彙 中国理解を動員して読んでいき、 養成を目指す。 言的色彩・文化的な背景などの面 言語と文化をともに読み解く姿勢	2 (16) 夜 3 (17) 夜 4 (18) 证 5 (19) 幽 6 (20) 幽 7 (21) 爱 8 (22) 爱 9 (23) 明 10 (24) 冤 11 (25) 行	鬼之谜 使回避权 检察长王子豪 与子(一)	一) 二)
テキスト、参考文献 プリント配布。				内参加 (発表), 授業へ積極 と総合して評価する。

養外言	中国語演習 I 中国語演習		担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要	5	授業計画		
語に翻訳する作業を ことを目的とします。 ・原文を正確に読み スラッシュリーラ・ 成語や新語を含め 文脈における語の ・一般常識・専門欠 とくに中国に関す ・日本語の文章力	。 解く文法力 ディングの技法を用いた訓練。 のた語彙力 の用い方を検討する。	1.ガイタニュススーイタニュュュラララスインスークスタークスタークスタークスタークスタークスタークスタークスタークスタークス	ス 2 ス 2 1 2	
テキスト、参考文献	t .	評価方法		
授業中に配布しますん。	一。テキストを購入する必要はありませ	出席率、授業に対する積極性を50%、復習テスト・期末 ストの点数を50%で評価する。		

養外言	中国語演習Ⅱ 中国語演習		担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画		
読みやすい日本語の 語彙を用いた中国語 達成目標は以下の通 ・翻訳を目的とした ・中国語の文章記号 ・中国語のロジック ・辞書、参考図書、へ 能力を強化する。	での翻訳を指導します。 文章を用いて、文法的に正確で、的確な に翻訳する訓練を行います。 当りです。 に原文の解析方法を身につける。 でを正確に使えるようにする。 や考え方を理解する。 インターネット検索などを駆使した調査 能な語彙を用いて中国語を書く作文力を	<ul> <li>4. 中国語文法の 比較の構文、</li> <li>5. 中国語文法の 補語の用法</li> <li>6. 作文練習 1</li> <li>7. 作文練習 2</li> <li>8. やや専門ない重</li> <li>9. 翻訳練習 1</li> <li>10. 翻訳練習 2</li> <li>11. 翻訳練習 3</li> <li>12. 翻訳練習 4</li> </ul>	<ul><li>総文</li><li>2 を</li></ul>	見 文を訳してみる 号を使いこなす くる文 になの散文 随筆 /資料 明
<b>テキスト、参考文前</b> 授業中に配布します ん。	<b>、</b> っ。テキストを購入する必要はありませ	13. 翻訳練習 5 14. 学期のまとめ 評価方法 出席率、授業に対 50%で評価する。	)と期末試験の	*

_					
養外言	中国語演習 I 中国語演習		担当者	吉田 桂子	
講義目的、講義概要		授業	計画		
サブタイトル:中	『国語ビジネス文書	1	日中貿易棚	<b>无説</b>	
中国は、2009 年	丰輸出額世界1位、2010年上海万博	2	中国語のと	ごジネスレタ	'一の概要
開催と、国際社会における存在感が益々高まっていま	3	業務取引の	)申し込みと	CIF	
す。こうした近年の中国の急成長を背景に、現在、中 国語を自由に操れる人材の育成が急務となっていま		4	業務取引の申し込みと CFR		
す。	, = , , =		見積書の送付依頼		
			見積書の送付依頼と FOB		
	約書」など、中国語による様々な表  : す。授業は、ビジネス実務の現場に	7	サンプル送付に対する回答(一) サンプル送付に対する回答(二)		
	で実際に使用されている実務資料を	8			
_ ·	また、中国語とともにビジネス分野易業務」に関する基礎知識の理解を	9	製品紹介のレターと Form A		
	あ来伤」に関する基礎和職の理解を   路選択の一助とします。	10	オッファー	-シートの送	É付と L/C
実際の授業では、毎回中国語で「ビジネスレター」		11	1 L/C と船積書類 2 契約書(I)(契約内容)		
を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進め全員に発言の機会を提供します。理解をより深める為、秋学期中国語演習Ⅱ(金2限)の受講を薦めます。	12				
	13	契約書(I	[)(支払方	法)とインボイス	
		14	実習とまる	とめ	
テキスト、参考文献	<del></del>	評価	5方法		

・毎回配布するプリント

・出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して

評価。総合成績が60点以上で単位取得。

養 外言	『国語演習Ⅱ 『国語演習		担当者	吉田 桂子		
講義目的、講義概要		授業計画				
サブタイトル:中	国語ビジネス会話	1	商談の基礎/	アポイント	メント	
		2	アポイントス	メントの取得	<del>]</del> 于	
躍進する中国経	済を背景に日本企業の積極的な中	3	引き合い			
国進出が続く中、「	中国語で直接コミュニケーションが	4	オッファー			
でき、且つ中国社会	会や現地の商習慣を理解し得る人材	5	商品及びメー	ーカの紹介		
が今、あらゆる分野	予で求められています。	6	カウンターb	ニット		
本講では、日中	間のビジネス分野で使われる基本的	7 コミッションに関する話し合				
なビジネスの会話	を中心に、ビジネス業務をスムーズ	8	8 オーダーを確認する			
に遂行するため中	国現地のビジネスマナーも併せて、	9 支払条件				
聞いて話せる中国	<b>語能力</b> の習得を目指します。同時	10 船積期日				
に、様々なビジネ	ス分野の専門用語を含め、実際の日	11 パッキング条件				
中貿易業務の一端	に触れることにより、「ビジネス業	12	インシュラン	インシュランス(保険)と A/R、WA、FPA		
務」全般の基礎知	識の習得も目指します。	13	クレームの目	の申し立て		
実際の授業では	、毎回全員にビジネス会話のチャン	14	実習とまとめ			
<b>スを配分</b> しながら	ゼミ形式で授業を進めます。					
	テキスト、参考文献 評価方法			☆ 坐 刀 ∠ № 宀 ↓	MISARA OLAGERA (M. A.). —	
・『実習ビジネス中国語―商談編』白水社 ・出席率、平 評価。総合成				明試験の成績を総合して トで単位取得		
		HI II		4 0 0 W/FV=	□〈十四次1寸0	

養	韓国語演習 I	担当者	金 秀晶		
講義目的、講義概要		授業計画			
本講義は、高度な韓国語運用力を習得するためのもので		1. Chapter 1			
ある。ある程度まと	こまった文章を読むことによって、豊か	2. Chapter 1			
な表現力を身に付い	けていく。	3. Chapter 2			
		4. Chapter 2			
		5. Chapter 3			
		6. Chapter 3			
		7. Chapter 4			
		8. Chapter 4			
		9. Chapter 5			
		10. Chapter 5			
		11. Chapter 6			
		12. Chapter 6			
		13. Chapter 7			
		14. Chapter 8			
テキスト、参考文献	<b>;</b> ;	評価方法			
李ソニ、『外国人の	ための韓国現代文化』,韓国文化社,2007	出席 100%、 調	果題提出、 期	末試験	

養	韓国語演習Ⅱ		担当者	金 秀晶
	を学ぶ。 講義はすべて韓国語で行わ には高度な韓国語運用能力が要求され	授業計画1. ハングルの化2. 漢字語①3. 漢字語②4. ことわざ①5. ことわざ③7. 擬声語と擬態9. 擬声語と擬態10. 慣用語①11. 慣用語②12. 慣用語③13. 日韓対照言語14. 日韓対照言語	集語① 集語② 集語③ 番表現①	
テキスト、参考文献 必要な資料をコピー 授業中に参考文献を		<b>評価方法</b> 出席 100%、小テ	スト、期末試	· 験

養外言	スペイン・ラテンアメリカ研究入門 I スペイン・ラテンアメリカ文化論 a	ン・ラテンアメリカ研究入門 I (スペイン) ン・ラテンアメリカ文化論 a		中井 博康
講義目的、講義概要	e E	授業計画		
ながら通時的に概認な知識を獲得していない学生に を関係していない学生に 実践について共に表なお、スペイン記 ン・ラテンアメリン	多様な文化事象を、視聴覚資料を利用し 说します。スペイン語圏について基礎的 もらうことを目的に、地理や世界史を学 も配慮しながら、スペインにおける文化 考える場にしたいと考えています。 番圏の総体的な理解のためには、「スペイ か研究入門 II(ラテンアメリカ)」の受講 履修を強く勧めます。	03. 中世(2): 04. 1492 05. 16世紀( 06. 16世紀( 07. 17世紀( 08. 17世紀( 09. 18世紀( 10. 19世紀( 11. 19世紀( 12. 20世紀(	イスラーム・2 キリスト教ス。 (1):エル・グレ (2):神秘主義な (1):セルバンテ (2):ベラスケス ゴヤ、闘牛な (1):ロマン主義	ペイン コ、セレスティーナなど ど ス、ピカレスク小説など 、演劇など ど 、フラメンコなど モ、98 年の世代など ンコ体制など

外言 講義日的 講義期	スペイン・ラテンアメリカ文化	論 b 超業計画	江水水 际71日
養	スペイン・ラテンアメリカ研究力	人門Ⅱ(ラテンアメリカ) 担当者	佐藤 勘治

#### **講義日**的、講義概要

テキスト、参考文献

介します。

この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎 知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。

特定のテキストは使用しません。参考文献は講義で随時紹

高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 佐藤と浦部で担当する。

春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている 人は必須である。

#### 授耒計画

評価方法

佐藤担当 1 導入: 「ラテンアメリカ」とは: そのイメージを問う

確に要約・コメントできているかを評価します。

2 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況

平常点(授業時のレスポンスカードなど)および学期末の書評レ

ポートにより、総合的に行ないます。レポートは、課題図書を的

- 3 ラテンアメリカ史入門
- 4 カリブ海地域の概要 歴史と社会
- 5 メキシコ・中米地域の概要 歴史と社会
- 6 現代のラテンアメリカの文化 : 文学、音楽、絵画

# 浦部担当

- 7 環境と生活1:アンデスの自然環境と食料生産
- 8 環境と生活2:アマゾンの自然環境と資源利用
- 9 人と社会1:宗教・価値規範と人間関係
- 10 人と社会2:家族・大土地所有制と社会格差
- 11 政治と経済1:政治体制と人権・民主主義
- 12 政治と経済2:経済政策と貧困・社会公正

### 佐藤担当

13 米国のラテンアメリカ系住民

# テキスト、参考文献

参考文献:増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』(中 公新書)

### 評価方法

期末テスト、出席・発言など

スペイン・ラテンアメリカ研究各論 I (ラテンアメリカ近現代史) 担当者 佐藤 勘治 地域文化論 i h 外言 講義目的、講義概要 授業計画 この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ 問題の所在1 米国とラテンアメリカ ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得な 問題の所在2 「ラテンアメリカ」概念が生まれた場 2 所 パナマ いラテンアメリカとその自立の動きを現代までおってい く。基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それと 3 メキシコ米国関係史1 テキサス共和国の独立 ともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資する 4 メキシコ米国関係史2 米墨戦争から20世紀初頭 5 メキシコ米国関係史3 メキシコ革命から現代 ものとしたい。現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひ とつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移 6 中米・カリブ海域と米国1:米国の運河:ニカラグア 動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反 とパナマ +ニカラグア革命 する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれ 7 中米・カリブ海域と米国2:米西戦争と米国による中 からどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供 米・カリブ海支配 していき、履修生が自ら考える場としたい。 8 中米・カリブ海域と米国3:米国からの自立の模索 ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、秋学期に +キューバ革命 別の授業が用意されている。 9 権威主義体制から民主化へ(南米を中心に) 10 ラテンアメリカにおけるアイデンティティ・ポリティ クスの展開:先住民 なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆 11 カリブ海地域におけるアイデンティティ・ポリティクス 芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関 連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入とした の展開:クレオール 12 新しい「人種」カテゴリーの誕生:米国ラテンアメリ カ系住民=ラティーノ 13 現代ラテンアメリカにおける反「新自由主義」運動と対 抗文化 14 まとめ テキスト、参考文献 評価方法

ラテンアメリカの歴史』(中

### 講義目的、講義概要

参考文献:增田義郎『物語

(世界の歴史 18)』(中央公論社)

この講義の目的は、ラテンアメリカおよびカリブ海地域を対象として、人の移動とその結果生まれることになる「人種・エスニック」間関係史に焦点をあてながら、ラテンアメリカ史(カリブ海域史も含まれる)の基礎的事項とその特徴を世界史の展開と関係付けて理解することにある。歴史理解を通じて、ラテンアメリカ的特質とは何かを探っていく場としたい。その際、米国史の諸特質との差異や類似点には特に注意を向けたいと思う。

公新書) / 高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡

また、上記と密接に関係するが、史上、欧米列強の支配 領域(公式、非公式)であったラテンアメリカの自立の道 のりを概観する。

この講義では、先コロンブス期から現代までを概観していく。なお、より詳しい 20 世紀史については春学期に別の授業が用意されている。一部、重なる部分がある。

現代ラテンアメリカの動向を履修者に常に注意を向け させるよう、導入などで音楽や絵画、文学を紹介したい。

### 授業計画

- 1 問題の所在
- 2 1492 年 コロンブスの新世界「発見」

小テスト、レポート、出席、発言の総合評価

- 3 カリブ海の征服
- 4 先コロンブス期のアメリカ諸文明
- 5 アステカとインカの征服
- 6 スペイン植民地支配の特徴
- 7 ラテンアメリカの独立
- 8 国家形成の模索と「ラテンアメリカ」概念の成立
- 9 西欧列強のカリブ海地域支配:近代世界システムのゆりかご
- 10 イギリス非公式帝国と米国の覇権
- 11 20世紀革命の時代:メキシコ革命、キューバ革命、チリ革命、ニカラグア革命
- 12 アジアとラテンアメリカの関係史
- 13 21世紀を迎えて
- 14 ラテンアメリカの世界史における位置

# テキスト、参考文献

参考文献:増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』(中公新書) /高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡(世界の歴史 18)』(中央公論社)

# **評価方法** 小テスト、レポート、出席、発言の総合評価

養 外言 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ (ラテンアメリカの政治と社会) 地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究 a)

担当者

浦部 浩之

#### 講義目的、講義概要

本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、 またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを 目標とする。

ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸的規模で同質的な 文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同 質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが 分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異 質な言語や文化をもつ小国家群も存在する。

本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に取り上げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか(取り組むべきか)を考えていく。

(※できるだけ秋学期の同一時間帯に開設の「スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)」と合わせ、春・秋学期を通して履修のこと)

#### 授業計画

- I. ラテンアメリカ 政治と社会の歩み
- 1. ラテンアメリカ諸国の独立
- 2. 近代化・中間層の拡大とポピュリズム政権
- 3. 国家発展の追求と軍事政権
- 4. 民主化の波
- Ⅱ. ラテンアメリカ 地域的多様性
  - 5. アンデス地域 (ペルー・ボリビアなど)
  - 6. コノスール地域 (アルゼンチン・ブラジルなど)
  - 7. メキシコ・中米地域 (メキシコ・グアテマラなど)
  - 8. カリブ地域(英語・蘭語・仏語圏の小国)
- Ⅲ. 現代ラテンアメリカの諸問題
  - 9. ネオリベラリズムと貧困・社会格差
  - 10. 先住民問題と多文化主義
  - 11. 麻薬問題と暴力・ゲリラ
  - 12. 人権と自由
- Ⅳ. ラテンアメリカ 政治と社会の展望
  - 13. 民主主義は根付くのか?
  - 14. 社会的公正は実現できるのか?

# テキスト、参考文献

参考文献は授業で随時紹介する。

# 評価方法

期末試験(これに出席状況を加味する)。

外言

スペイン・ラテンアメリカ研究各論  ${\rm I\hspace{-.1em}I}$  (ラテンアメリカ国際関係論) 地域社会文化論特殊講義 (現代ラテンアメリカ研究 b)

担当者

浦部 浩之

### 講義目的、講義概要

本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。

ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化 的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立 国としても 200 年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性 質をもつ地域である。

本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州(南北アメリカ)やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、経済グローバル化とその副作用、ラテンアメリカで強まりつつある反米・左傾化の流れを把握し、この地域が抱える21世紀の課題について考えていきたい。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。

(※できるだけ春学期の同一時間帯に開設の「スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ (ラテンアメリカの政治と社会)」と合わせ、春・秋学期を通して履修のこと)

# 授業計画

- I. ラテンアメリカの国際関係史
- 1. コロンブスとラテンアメリカ
- 2. 19世紀の世界経済とラテンアメリカの近代化
- 3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ
- 4. 地域協調時代のラテンアメリカ
- Ⅱ. 米州域内の国際関係
  - 5. キューバと米国
  - 6. ラテンアメリカの軍事政権と米国
  - 7. 経済再建とワシントン・コンセンサス
  - 8. 米州機構と民主主義支援
- Ⅲ. 現代ラテンアメリカの国際関係
  - 9. 自由貿易の拡大とインフラ統合
  - 10. 経済のグローバル化と貧困の悪化
  - 11. 反グローバリズムと社会運動
- 12. 反米・左傾化するラテンアメリカ
- IV. 日本とラテンアメリカの関係
  - 13. 日本人移民と日系社会
  - 14. 日本の対ラテンアメリカ協力

# テキスト、参考文献

参考文献は授業で随時紹介する。

### 評価方法

期末試験(これに出席状況を加味する)。

 養
 スペイン・ラテンアメリカ研究III (ラテンアメリカの経済と社会)
 担当者
 与井 圭子

 外言
 地域経済論 i a
 1
 日
 日
 1
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日
 日

#### 講義目的、講義概要

- 1. ラテンアメリカ経済社会構造の特質を、アジア、アフリカとの比較において理解し、ラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。
- 2. ラテンアメリカ地域の経済社会の歴史的変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、経済社会構造の変容を理解する。
- 3. こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な経済社会問題について考察する。そしてこれらの問題に対する各国政府や国際機関の取り組みを紹介する。
- 4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について紹介し、コスタリカ・モデル(非武装・中立・教育・福祉・環境重視)と呼ばれる開発政策を中心に、持続可能な開発のあり方について考える。
- 5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代における日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について考える。主として講義形式で授業を進めるが、テーマに応じて受講生によるディスカッション形式もとり入れたい。

#### テキスト、参考文献

(参考書) 国本伊代・中川文雄編著『ラテンアメリカ研究への招待』新評論、2005 年、今井圭子編著 『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004 年、西島章次・細野昭雄編著『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004 年。

#### 授業計画

- 1. ラテンアメリカ概観―ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較
- 2. 第1章 ラテンアメリカ経済社会の歴史的変遷過程 第1節 時期区分 ラテンアメリカ経済史の時期区 分
- 3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期 (-15世紀 末) コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観
- 4. 第3節 植民地期(15世紀末-19世紀初め)
- 5. 第4節 独立期 (19世紀初め-19世紀半ば)
- 6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期(19世紀半ばー 1929 年恐慌)
- 7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期 (1929 年恐 慌-現在)
- 8. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題
- 9. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題
- 10. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題
- 11. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策
- 12. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策
- 13. 第4章 日本とラテンアメリカの関係
- 14. まとめ

#### 評価方法

授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。リアクション・ペーパーとレポート、出席、授業参加 状況を合わせて評価する。

 養
 スペイン・ラテンアメリカ研究各論III (ラテンアメリカ経済発展論)
 担当者

 外言
 地域経済論 i b

### 講義目的、講義概要

- 1. ラテンアメリカの経済を理解するために、まず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。
- 2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。
- 3. 以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、 今後の望ましい方向性について考える。

授業は、講義、関連資料の解読、ディスカッション等の形 で進められるので、積極的参加を歓迎する。

### 授業計画

- 1. 序、第1章 経済学の基礎 第1節 経済学的な考え 方、ミクロ経済学・マクロ経済学 第2節 市場原理―需要・供給と価格
- 2. 第3節 公共部門・経済政策
- 3. 第4節 雇用・失業問題・雇用政策
- 4. 第5節 インフレ・デフレ、財政・金融政策
- 5. 第6節 貿易・対外投資・国際収支・為替レート
- 6. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題 第1節 マクロ経済の諸問題、経済の自由化
- 7. 第2節 経済開発と政府の役割
- 8. 第3節 経済成長と企業
- 9. 第4節 人的資本と教育、技術開発
- 10. 第5節 雇用・格差・貧困問題と労働・社会政策
- 11. 第6節 農業と土地所有制度、第一次産品輸出経済
- 12. 第7節 経済のグローバル化と貿易、国際資本移動
- 13. 第8節 環境問題と環境政策
- 14. 第9節 日本とラテンアメリカの経済関係、まとめ

### テキスト、参考文献

(参考書) 字佐見耕一他共著『図説 ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009 年、石黒馨編『ラテンアメリカ経済学一ネオ・リベラリズムを超えて』世界思想社、2003 年、ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学』 東洋経済、最新版、今井圭子『アルゼンチン研究の基礎資料―国勢調査・経済社会統計―』上智大学、イベロアメリカ研究所、2008 年。

#### 評価方法

授業中に課したリアクション・ペーパーと最後の授業まで に提出するレポートおよび出席・授業参加状況を合わせて 評価する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
ニナフト 全本介料	======================================		
テキスト、参考文献	評価方法		

養外言	スペイン・ラテンアメリカ研究IV (スペイ) 地域文化論 ii b	ン語圏の言語文化)	担当者	中井 博康		
講義目的、講義概要	Ē	授業計画				
		01. スペイン・ラ	テンアメリカ	1の言語		
スペイン語圏にお	おける言語文化の多様性を、文学を中心	02. 中世				
に通時的に概説しま	(す。講義ではスペイン語のテクストを	03. 神秘主義、ビ	゚カレスク小説	Ĺ		
扱いますが、いわゆ	る「講読」の授業ではありません。翻	04. クロニカ				
訳(を利用しながら	。) で構いませんので、できる限り多く	05. セルバンテス				
の作品を実際に読み	、スペイン語圏の言語文化に関する知	06. ロペ、ティルソ、カルデロンなど				
識を身体化すること	:を目標とします。	07. ゴンゴラ、ケベド、グラシアンなど				
			08. 18世紀			
		09. ロマン主義、リアリズム、自然主義など				
		10. 98年の世代、モデルニスモ				
		11. 20世紀前半				
		12. 現代: スペイン				
		13. 現代:ラテンアメリカ				
テキスト、参考文献	t	評価方法				
特定のテキストは使 介します。	5用しません。参考文献は講義で随時紹					

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論V (ブラジル研究) 地域社会文化論特殊講義(ブラジル研究)		担当者	矢澤 達宏
講義目的、講義概要	要	授業計画		
サらドのとにジーの了生る会まを富しとといいている。 てでる顔社心未き時当いルい、からがまい横の奇「て出し盾少すだの在のル好たれし目くラ味業あのでは、 でいる 顔社心未き時当いルい、よるのでは、 でいる 変素 を まる	間いて、何を思い浮かべるであろーである一、何を思い浮かべるで、日系ないである――一ともよいである――一ともよいである。とれて、かし、インルと、これでではないではないではないではないではないではないではないではないではないではな	<ol> <li>ブラジルと</li> <li>ブラジルリサラジルリサラジルリサラジルリサラジを</li> <li>ブラジルリサラジルリサラジを</li> <li>多人種社会</li> <li>多人種社会</li> <li>多人種社会</li> <li>多人種社会</li> <li>11. 多人種社会</li> <li>12. 多人種社会</li> <li>13. 国民文化</li> <li>14. 国民文化</li> </ol>	はいう国型の 国型② Enon概概 Enon概概 Enon概概 Enon概で Enone E	世界のなかのブラジル既観:地域的多様性を中心に「ブラジル性」をめぐる議論「発見」から植民地支配へ直民地から独立国へ。 直民地から独立国へ。 を民の受け入れと国家建設の楽園」という神話主義への転回・ブジル文化 :保護と開発のはざまで・安に、日系ブラジル人 :国民的スポーツへの道:民の文化から国民文化へ ・映像資料もまじえて授業を
テキスト、参考文献	<b>状</b>	評価方法		
テキストとして特	<b>寺定の書籍を用いることはないが、必要</b>	基本的には学	期末の筆記詞	<b>、</b> 験による評価を予定してい

るが、履修者数が比較的少ない場合は、出席や授業内ペー

パー、レポート等を加味した評価とする可能性もある。

に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、

『現代ブラジル事典』(新評論、2005年)を挙げておく。

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
テキスト、参考文献	<del>`</del>	評価方法		

養外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 I (スペイン・ラテンアメリカ研究 a) 地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と		担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要	要	授業計画		
españolas des Se pondrá énfimportantes, a destacadas de 2. Desarrollar: -La comprensitextos escritos -La expresión llevan a cabo de -La comprenside la profesora -Expresión esc que realizar a Destinatarios: alungeneral de la gram	de la cultura y la civilización de sus orígenes hasta la actualidad. asis en los periodos históricos más así como en los artistas más cada época.  tión lectora a través de la lectura de s. oral mediante los diálogos que se durante la clase. tión oral a través de las explicaciones a. crita por medio de las tareas que hay l finalizar cada tema . mnos que posean un conocimiento tiática española.	<ol> <li>Los albores of</li> <li>Los iberos y</li> <li>Los iberos y</li> <li>La romaniza</li> <li>La romaniza</li> <li>Las invasion visigodo.</li> <li>La invasión sárabe.</li> <li>la Alhambra</li> <li>La Reconqui</li> <li>La sociedad</li> <li>Película sobr</li> </ol>	Egeografía y ridel arte españo los celtas. Sus los celtas. Sus ción y sus conción y sus conces germánicas musulmana (see Granada y a de Granada y sta (ss.XI-XIII medieval. Cas	ol: La cueva de Altamira.  manifestaciones artísticas I.  manifestaciones artísticas II.  secuencias I.  secuencias II  s (s. V). La sociedad y el arte  . VIII). Sociedad, cultura y arte  los jardines del Generalife I.  y los jardines del Generalife II. ).  tillos y ciudades medievales .
テキスト、参考文献 No es necesario.	IA.			cada tema estudiado.
		La asistencia a	clase es imp	ortantísima.

養外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン・ラテンアメリカ研究 b) 地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と			担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要	要	授第	<b>Ě計画</b>		
Ver el apartado an	tterior.	11. 12.	El arte durar El Camino de La Celestina: La Celestina: Los Siglos de El Greco (154 La arquitecta Escorial. Los Siglos de Diego de Velá Otros pintore (1598-1664) y Francisco de Romanticism Francisco de Romanticism	e Santiago (Pa e Santiago (Pa e I paso de la e I paso de la e Oro: el Rena 11-1614), un p ura renacentis Oro: el Barro izquez (1599-1 es barrocos: M y Ribera (1591 Goya (1746-18 o y la Ilustrac Goya (1746-18	trimonio de la humanidad). Edad Media al Renacimiento I Edad Media al Renacimiento II. acimiento (XVI). intor manierista. ta: El Monasterio de El co (s. XVIII). 1660), un pintor barroco. urillo (1617-1682), Zurbarán -1652). 828), un pintor entre el itón I. 828), un pintor entre el
テキスト、参考文献	・キスト、参考文献 評価方法		<b>五方法</b>		
No es necesario.			entrega de u <b>asistencia a</b> (		cada tema estudiado. ortantísima.

スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)

担当者

倉田 量介

#### 講義目的、講義概要

この講義では、スペインと旧植民地ラテンアメリカ諸国の音楽実践について理解を深めることを目的とする。この地域の音楽はダンスと不可分に展開されてきたことから、その身体技法についても随所で言及する。クレオール概念をはじめ、文化混淆が鍵となるため、前半では、キューバの音楽を重点的に取りあげ、成分といわれる各音楽的要素を再検討する。音楽研究一般の可能性を吟味したうえで、各自の関心に応じたレポートを準備してもらう。後半では、スペイン語圏、非スペイン語圏の音楽環境を広く概説する。楽器の実物に触れる機会も設けたいが、議論の基盤を文化人類学に据える。例年、ヒップホップやブラジルなどへの強い興味が見受けられるため、進捗に応じて内容の配分を変える。スペイン語履修者以外の受講にも配慮する。比較文化論的なポピュラー音楽研究への入り口を提示したい。

### 授業計画

- 1. イントロダクション: VTR による見取り図の紹介
- 2. 文化混淆の現況: キューバの音楽を事例として
- 3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を中心に
- 4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を中心に
- 5. 「ブラックミュージック」と「ラテン音楽」の連関
- 6. 「フォルクローレ」と「ヌエバ・カンシオーン」の連関
- 7. 民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展望
- 8. スペイン語圏の音楽①: カリブ海地域
- 9. スペイン語圏の音楽②: 中央アメリカ
- 10. スペイン語圏の音楽③: 南アメリカ
- 11. ポルトガル語圏の音楽: ブラジル
- 12. 英語圏、フランス語圏ほかの音楽
- 13. 合衆国移民(ラティーノ、チカーノ、クバーノ)の音楽
- 14. まとめ

### テキスト、参考文献

適宜プリントを配布するほか,要望を踏まえて,その都度 指示する。

#### 評価方法

評価方法: 平常授業における感想提出などの実績(30%)と 期末レポート(70%)。

外言

スペイン・ラテンアメリカ特殊研究IV (スペイン・ラテンアメリカの社会文化) 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)

担当者

兒島 峰

### 講義目的、講義概要

この講義の目標は、ラテンアメリカの社会と文化の 特徴を歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、 現在におけるラテンアメリカ文化と社会との関係に ついて理解することにある。

そして、ラテンアメリカとは何か、および、ラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。

この講義では、ラテンアメリカの社会と文化について、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。

毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画のトピックスについて講義する。

スペイン語の知識は必ずしも必要ではない。ラテン アメリカの社会と文化に対する関心と学ぶ意欲が重 要である。

### 授業計画

- 1. オリエンテーション 受講上の注意
- 2. ラテンアメリカの全体的特徴
- 3. ラテンアメリカの地域と諸国家の特徴
- 4. ラテンアメリカ社会における男と女
- 5. ラテンアメリカの社会構造
- 6. ラテンアメリカ社会における人種概念
- 7. ラテンアメリカ各地域における異なる男女観と 人種概念
- 8. ラテンアメリカにおける言語と宗教
- 9. ラテンアメリカにおける文化的差異
- 10. ラテンアメリカにおける国家の概念
- 11. ラテンアメリカにおける国民の概念
- 12. 国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ
- 13. 今日のラテンアメリカと今後の展望
- 14. 総括

# テキスト、参考文献

参考文献については授業中にその都度指示する。 授業中に参考資料を配布する。

### 評価方法

学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。

養	中国研究入門	F究入門		森 保裕
講義目的、講義概要 現代中国を知るために必要な基礎知識を幅広く身に着けてほしい。将来、中国、中国人とかかわる仕事に携わったり、さらに深く中国を研究するために役立つように。私は通信社記者として約20年間、国際ニュース、特に中国・台湾を中心に取材。今は編集・論説委員として、中国や台湾に関するフィーチャー記事や論説、コラムなどを執筆している。中国・台湾関係のニュースを同時進行の形で取り上げながら、政治、経済、国際関係、社会問題、文化などの各分野について概観する。高度経済成長の中、北京五輪を成功させ、国際社会で影		2、 3、 4、 5、 6、 7、 8、 社	国を知るために 国史概観 治体制(共産党 済体制(市場経 際関係 中関係 台関係 会問題(貧富の 主化問題	2012/04/
歩むのか。探ってV 中国語の記事や資 ることが望ましい。	資料も用いるので、中国語を学習してい	11、環 12、言 13、台 14、ま	境問題(温暖化) 語や文化(方言・ 湾概観	ベット、ウイグル) 問題を含む) 、映画、流行歌)
	   中国に生きる-興竜の実像』(共同通信   10』(共同通信)=購入は任意、図書	<b>評価方法</b> 出席、レポー	·	

養	中国研究 I (中国社会論)		担当者	山本 秀也
げつつ、その背景になっています。 はいい という はい という はい で いっぱい はい	する上で欠かせない社会問題を取り上 ある歴史や政治について分析を加えるこ 記える等身大の課題について理解を深め 民の茶碗の中身という微細な現象から、 した大地という巨視的な背景までを対 日の課題分析にとどまらず、将来的な俯 っ すべてのテーマにおいて、中国の伝統文 支配という複層的な要因が絡み合ってい解することになるであろう。英語、中国 するが、中国語を履修していない諸君が になることのないよう配慮する。隣国・ 広い諸君の理解を促すと同時に、将来本 は諸君には研究の糸口を提供する講座	2 中暦 4 宗染症ににを与にににを与に敗症ににを与に敗悪制のにはを与に敗悪制のミ護 1 2 権と 1 3 まとと 1 3 まと 2 1 3 1 2 1 2 1 3 1 2 1 2 1 3 1 3 1 2 1 3 1 3	ける社会は 市本権に 大とした をするが でいまい でい でいまい でいまい でいまい でいまい でいまい でいまい でいまい でいまい でいまい でいまい でい でい でい でい でい でい でい でい でい で	けの状況 愛の課題 ジー問題 対執行
テキスト、参考文献 山本秀也著『本当の ズ、環境、司法』(1	・ 中国を知っていますか?-農村、エイ	評価方法 期末定期試験を主 や課題提出)も評	_ ,	学常の受講状況(出席、発言)。

養 外言	中国研究Ⅱ(中国の思想・文学) 地域文化論iva			永田 小絵	
講義目的、講義概要	Ę.	授業計画			
中国中央テレビ局の	の古典普及番組「百家講壇」で爆発的な	1回 ガイダンス、	『論語』およ	び『論語心得』について	
人気を集めた、北京	京師範大学の于丹教授の『論語』を読み	2~4回 「交友之	[道] ;よい友道	<b>幸づきあいとは何でしょうか?孔</b>	
解くシリーズ講座の	DDVD を利用して、中国思想において	子の言う「益者三	友、損者三友」	の概念を用いて友達づきあいの	
最も重要な位置を占	占める『論語』と儒教の真髄について学	重要さについて学びます。			
習します。儒教と道	道教は中国のみならず、東洋人の精神世	5~7回 「理想之道」:人はいかなる理想を抱いて人生を歩むべ			
界形成に大きな役割	<b>劇を果たしました。社会の中で生きる規</b>	きでしょうか?理想や目標の実現のために、私たちが今なすべき			
範(社会的人格の刑	<b>形成)を儒教に求め、人生を楽しむため</b>	ことを孔子のことばから探っていきます。			
の哲学を道教に求め	める思想はアジアに共通のものです。	8~10 回 「処世之道」:複雑な現代社会において誠実に生きて			
とくに『論語』は日	日本でも古くから研究が進んでおり、不	いくための方策とは? 社会の中でよりよい人間関係を築くため			
朽の価値を持ってレ	いる書物であると言えましょう。	の生き方を考えましょう。			
テキストに使用する『論語心得』は上述テレビ番組の講演		11~13 回 「人生之道」:孔子は「十五にして学に志し、三十に			
を忠実に書き起こし	を忠実に書き起こしたものですが、この番組では論語を非		して立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」と述べて		
常に分かりやすく	(中学生にも分かるように) 解説してい	います。人は自分の一生をどのように計画すべきでしょうか?			
ます。		最終回:学期のま	とめ		

テキス	١,	参考文献

講義資料は、大学ホームページにアクセスし、教員 紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウ ンロードしてください。

# 評価方法

出席率、授業に対する積極性を50%、期末テストの点数を 50%で評価する。

養外言	中国研究各論IV(中国の芸能・芸術) 地域文化論ivb		担当者	永田 小絵	
講義目的、講義概要	į.	授業	計画		
していただきます。 第4回目から1は学 よび小テストによる 教材で使用するDVD A八千里路雲和月 B中華五千年的文化 C中国自然文化遺産 D中国大紀行 以上のDVDで実際に「 国の芸術を育んだ風 毎回、グループごとの	は以下のとおりです。 ど紀錄	11. 12.	ガ京京古古陶陶絵庭庭書書 1 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	2	
		評価			
以上のDVDの他、事前に提出されたプレゼン資料を用いる。特にテキストを購入する必要はない。		,,,,,	率、授業に対 0%で評価する	, - ,, ,	50%、期末レポートの点数

養 中国研究Ⅲ(中国史 a)	中国研究Ⅲ(中国史 a)		担当者	張 士陽
講義目的、講義概要	授業	計画		
<ul> <li>[講義目標] この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</li> <li>[講義概要] 19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</li> <li>[受講生への要望]</li> <li>教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること。</li> </ul>	5 6 7 8 9 10 11 12 13	太平天国 体制の反撃 洋務運動 中体西用の 開港場の社 農村社会の 周辺地域宗 日清戦争	光と冊封・朝貢 諸会変 主権 経済 変 権の 喪失 と 台湾	
テキスト、参考文献	評価	ī方法		

教科書:並木頼寿・井上裕正『世界の歴史19 中華帝国の 期末定期試験による。

危機』(中公文庫S22-19) 中央公論新社,2008年。

養	中国研究IV(中国史 b)		担当者	張 士陽	
講義目的、講義概要		授業	計画		
「講義講師」は、 は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	この中国と東アジアの国際関係をより深 その成立の背景となる中国近代史につ こよって清朝体制の存続は危機的状況に に伝統の創造により中国の変革を目指 変革を求めて「革命」を選んだ人々な 設計し、また地方自治改革と地域社会の ながら、中華民国初期の近代国家建設 を検証します。	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	講義の成革の成本を表現である。 一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	足運動 方自治の試み 壊と中華民国 世凱政権の成 ベットの独立 閥混戦	の成立 c立
テキスト、参考文献	<b>k</b>	評価方法			
	井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の 22-19)中央公論新社,2008 年。	期末	<b>定期試験によ</b>	る。	

養外言	中国研究各論 I (現代中国論 a) 現代中国論 a		担当者	山本 秀也
講義目的、講義概要	<del>.</del>	授業計画		
て、現代中国の視点 発展が注目を集める 史、地理、文化など 輪郭とその足跡を立 である。 文化大革命はむる 間が経過しているこ 的なイメージを描き 工夫してゆきたい。	客を形成する歴史、人文地理などについ をからテーマごとに検討を加える。経済 3中国だが、今日に至るまでの流れを歴 2多面的にとらえることで、現代中国の 位体的に描き出すことがこの講義の目的 5ん、天安門事件からも1世代以上の時 ことに鑑み、授業の中では受講生が具体 きやすいように視聴覚資料の活用などを 中国研究に欠かせない事項に関しては、 を通じて理解度を確認する。	2 言語・風俗 2 現代中国の 3 アヘン戦争 4 中国民民共 5 中華人タリ 7 改革・開放	とと近現現代史の代史の代史の代史の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本	中華」の形成 上近代以前とその意義 の変遷 住 国内支配 合 最経済化への道 E化運動 した日中関係
テキスト、参考文献	t	評価方法		
山本英史著『現代中	国の履歴書』(慶應義塾大学出版会、2003	期末定期試験を	主とするが、	平常の受講状況(出席、発言

や課題)も評価対象とする。

年)

養外言	中国研究各論Ⅱ(現代中国論 b) 現代中国論 b		担当者	山本 秀也
え、秋学期の講義で検討してゆく。民族の宗教的背景とともる。食の安全や中国強い関心を抱かざるでも高い頻度で取りいずれもすぐれて講義の中では日英西	現在までを主な対象としたことを踏ま は現代中国が直面するテーマについて 問題ではチベット、ウイグル問題をそ に詳述し、今後の動静にまで眼を向け の軍事動向は、隣国である日本にとり を得ない分野であり、ジャーナリズム	4 中国軍事概論 5 宗教・少環境民 6 中国の環安全」 7 「食の安口と都 9 農業・農村・ 10 医療・共和・ 11 中国共産党	ける中国の影 (上) - 軍の (下) - 核問題の 族問題の 対策 題とそのとした 市を中心とし	で・軍令の枠組みを中心に 通常戦力の増強とその影響 ! : : : : : : : : : : : : : : : : : :
テキスト、参考文献 講義の中で適宜紹介		<b>評価方法</b> 春学期と同じ		

養 中国研究各論Ⅲ(日中交流史) 外言 地域文化論ⅲa			担当者	武信 彰
講義目的、講義概要	授業計	画		
日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが、2つの時期の状況がとりわけ注目を引く。 唐代においては、日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。 そして、近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み、当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。中国語を学ぶ日本人の観点から、これを論ずる中国人学者の論文を読み、われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。 〈隔在中西之间的日本 ― 现代汉语中的日语"外来语"问题 ―〉(王彬彬、《上海文学》1998年)を読みつつ進行する。	1     2       3     4       5     6       7     8       9     10       11     12       13     13	代象本語語合き整復様用訳と出かの過過淘淘(主王音)の過過淘淘(主王音)のはない。	象にとります。 また ない ない ない ない ない ない ない かい はい かい はい かい にい はい かい にい かい	
テキスト、参考文献 適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		の出席,打		的参加,授業へ積極的参加し て評価する。

養外言	中国研究各論V(言語文化論) 地域文化論iiib		担当者	武信 彰	
講義目的、講義概要 授業計画					
は、古代より中間り酸成してきた。おいてでかつでないでかられていからいとされているというできないというではないというではないというでは、日本語母語話がは、古本語母語話がは、古本語母語話がは、古本語母語話がは、	文化圏の一員に数えられる日本 国文明の波打ち際でその文化を創 「一衣帯水」という微妙な距離を 長い交流の中で両言語の関係は実 受いである。日本語母語話者が化 別様、独特のものがある。 者の中国語学習においては、この で背景に対する深い理解が欠かせ	5 6 7 8 9 10	中漢代代 現 中 中 こ が 東 日 飲 中 国 と と と と と と と と と と と と と と と と と と	= 漢語文化圏 音韻 の ユニケー	) ンの特色 現 !
テキスト、参考文献			<b>五方法</b>	VIII ~+ 1 1.1	
適宜プリントを配 参考文献は適宜紹			巻への出席,授		参加,授業へ積極的参加し 評価する。

養外言	中国特殊研究 I (日中比較文化論 a) 比較文化論特殊講義(日中文化比較論 a)		担当者	易友人
講義目的、講義概要	<del>.</del>	授業計画		
す。遥遠という感して形成されたと思い方式、文化心理などれぞれの文化の特殊	文帯水の隣国ですが遥かに遠いようで ごはやはり両国の文化などの相違によっ います。中国人と日本人との居住、行為 ごを通じて両国文化の相違点を追究しそ 株性をまとめ両国民の各自深層的文化特 が出来ると思います。	1、1、2、3、4、5、6、7、8、3、4、4、5、6、7、8、3、4、6、6、7、8、4、6、6、7、8、8、9、6、6、7、8、8、9、6、6、6、7、8、8、9、6、7、8、8、9、6、7、8、8、9、7、8、7、8、7、8、7、8、7、8、7、8、7、8、7、8	宅宅宅宅児夏式差差差会代代現与誉和和和和方令的異異異現模模代「観四四榻榻式営相(((代式式模恥合合合榻榻比談似123模的的式」院院米米較起点)))式特特的院院米	(2) (1) (2) (2) (2) (1) (3) (2) 平価
テキスト、参考文献		評価方法		
テキストは初授業時間の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の				5果(70%)によって評価する トなどの平常点(30%)も評価

養外言	T III TO TO TO THE TOTAL TO THE			易友人
遥遠という感じはや成されたと思います 文化心理などを通じ の文化の特殊性をま 解することが出来る	所水の隣国ですが遥かに遠いようです。 ではり両国の文化などの相違によって形 で、中国人と日本人との居住、行為方式、 でで両国文化の相違点を追究しそれぞれ をとめ両国民の各自深層的文化特徴を理 のと思います。	授業計画  1、伝統的分分, 日本中国 人民性別 「外 的 的 分分 小 「 的 的 分分 小 「 的 的 分分 小 「 的 的 的 一 大 本 本 「 人	与与性性性团团族族 到列 列 计 公会 经 好 好 的人人 「 ( )	<ul> <li>(土地位(2)</li> <li>(三異(1)</li> <li>(三異(2)</li> <li>(支 (1)</li> <li>(支 (2)</li> <li>(意識」</li> <li>()</li> <li>()</li> <li>()</li> <li>()</li> </ul>
テキスト、参考文献 テキストは初授業時 『日中辞典』を用意	・ Fに配布する。			と(70%)によって評価する などの平常点(30%)も評価

養外言	中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典) 地域社会文化論特殊講義(中国文学研究理	見代)	担当者	易友人	
講義目的、講義概要	5	授業計画			
すでに中国語の基	基礎的な文法や表現などを学んだ学生さ	1、李白《静	夜思》 《青	争夜思》 等	
んが一歩進んで中国	国古典を楽しむために、授業を進めたい	2、杜甫 《春	序夜喜雨》等	<b>等</b>	
と思います。		3、孟浩然、	王維《春暁	》《紅豆》等	
内容は、中国人な	よら誰でも知っているものですが、唐詩	4、蘇軾《水調歌頭》(名月幾時有)			
や宋詞など古典のま	ままで、一部の古代文学作品については	5、羅貫中《三国演義》節選(1)			
現代文の改作版を依	<b></b> 臣用するものもあります。この授業を通	6、羅貫中《三国演義》節選(1)			
じて学生さんに、中	中国古典に、ある程度興味をもたせるよ	7、呉承恩《西遊記》節選(1)			
うにしたいです。さ	古典(唐詩、宋詞、古文)は勿論音読し	8. 呉承恩《西遊記》節選(2)			
ますが、先生の指導	尊のもとで現代中国語文に改作作業をす	9、呉承恩《	西遊記》節	選(3)	
る予定です。とにか	っく楽しい授業を進めたいと思います	10、施耐庵《水滸伝》節選(1)			
		11、施耐庵《	水滸伝》節	選 (2)	
		12、蒲松齢《	聊斎志異》	節選(1)	
		13、蒲松齢《	聊斎志異》	節選 (2)	
		14、曹雪芹《	紅楼夢》節	i選	

評価方法

象とする。

評価方法:期末定期試験の結果(70%)によって評価する

が、授業における課題レポートなどの実績(30%)も評価対

テキスト、参考文献

テキストは初授業時に配布する。

『日中辞典』を用意するよう。

養外言	中国特殊研究IV(中国文学研究現代) 地域社会文化論特殊講義(中国文学研究	現代)	担当者	易友人		
講義目的、講義概要		授業計画				
すでに中国語の基	は礎的な文法や表現などを学んだ学生さ	1、朱自清《背	影》			
んが一歩進んで現代	(中国文学を楽しむために、授業を進め	2、曹禺《雷雨	》節選			
たいと思います。		3、巴金《家》	節選			
内容は、中国人な	ら誰でも知っている現代名作もありま	4、巴金《春》	節選			
すが、近年最新の人	気作家の作品もあります。中国改革開	5、巴金《秋》	節選			
放政策実施以来の、	特につい最近中国の変化を反映する作	6、氷心《桜花賛》				
品も含まれています	-。この授業を通じて学生さんに、近代	7、氷心《桜花和友誼》				
以来、中国人の各時代	代の考え方を了解させたいと思います。	8、金庸《射鵰	英雄伝》節	i選		
		9、六六《蝸居》節選(1)				
		10、六六《蝸居》節選(2)				
		11、六六《蝸居》節選(3)				
		12、石康《奮闘》節選(1)				
		13、石康《奮闘》節選(2)				
		14、石康《奮闘》節選(3)				
テキスト、参考文献 評価方法						
テキストは初授業時 『日中辞典』を用意			,,,,,,	k(70%)によって評価する などの実績(30%)も評価対		

養	韓国研究入門		担当者	平田	由紀江
講義目的、講義概要	Ę	授業計画			
「韓国を旅する」 的な知識を総合的に 同時に、日本から ルートを通じて、野 とかについても触れ 履修者には、課題 される。	研究のための最初の一歩である。という設定で、現代韓国に関する基本と幅広く身につけることを目標とする。6韓国へ、そして再び日本へという旅の現代韓国を「まなざす」とはどういうこれでいく。 夏の提出と講義への積極的な参加が期待は必ず出席すること※※	1 イントロ①ー 2 イントロ②ー 3 韓国の若者と 4 韓国のインタ 5 韓国大衆文化 6 グローバルシ 7 韓国のなかの 8 政治から文化 9 ソウル・オリ 10 朝鮮半島と月 11 独裁政権と月 12 朝鮮戦争と南 13 「朝鮮近代史 14 まとめ一再の	旅の準備 出会う ーネット事情 事情 - Kpop の ティ・本」 へ ンピッカ 記憶 マミ北分本」 と 北分本」 と ないので、こ	の世界へと「外国人」	
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献 評価方法				
適宜プリントを配布	Fする。	出席、中間およ	び期末レポー	・ト、期末テス	٢

		担当者	
講義目的、講義概要	 授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
77777	# 1 11mm C. 2 (mm)		

養 外言	韓国研究 I (韓国史) 地域社会文化論特殊講義(韓国史)		担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
れやすくなった。し とが多いと思う。こ 時期に入ってきたと に日本の歴史をでは も大事な受業では かには、 いに基づい なお知識を定って なおれて なおれて なおれて なおれて なおれて なおれて なおれて なおれ	図(朝鮮半島)の通史を講義する。具体 O内容をまとめたプリントを配布し、そ	1.講義ガイダンプ 2.古代がら統一等 3.古代から統一等 4.高麗時代(1) 5.高麗時刊の成立 7.社会のの変優と 9.列強の世を 10.列強民地支配下 12.植民かから南北 14.解放から南北	新羅へ(1) 新羅へ(2) 立 実学(1) 実学(2) 近代化(1) ごの朝鮮(1) ごの朝鮮(2)	
テキスト、参考文献	<del></del>	評価方法		
	平著『韓国の歴史』(河出書房新社、2007 文献は授業時に指示する。	毎回の小レポー	ト (30%)、期	<b>]末試験(70%)</b>

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
		-π/π- <b>-</b>		
テキスト、参考文献		評価方法		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養外言	韓国研究Ⅱ(韓国社会論) 地域社会文化論特殊講義(韓国社会論)			平田 由紀江
講義目的、講義概要	Ţ	授業計画		
マで現代韓国社会の描きだす。 朝鮮半島や韓国との政治問題が主な関「日本と韓国」あるらわれずに、韓国にテーマから現代韓国 計論を通じて隣のするため、受講者に	ダーで読み解く韓国社会」というテー諸問題について考察し、その社会像をいえば、歴史問題や日韓・日朝関係等心事となることが多いが、本講座では、いは「日本と朝鮮半島」という枠にと住む人々の日常生活と密接に関連した社会を読み解いていく。 社会を読み解いていく。 社会や人々について「考える」時間には講義への積極的な参加が望まれる。 などず出席すること※※	1 イントロ①-ジョ 2 イントロ② - 韓 3 韓国人の恋愛観 4 韓国人の恋愛観 5 韓国人の恋愛観 6 ジェンダーと制 8 軍隊とジェンダ 9 軍隊とジェンダ 10 歴史とジェンタ 11 歴史とジェンタ 12 韓流とジェンタ 13 韓流とジェンタ	国社会とジェ ・結婚観・ ・結婚観・ 度① 度② 一〇 ブー〇 ブー〇 ブー〇	ンダー 族観① 族観②
テキスト、参考文献 評価方法				
適宜プリントを配布	する。	出席、期末テスト		

養外言	韓国研究各論 I (韓国社会各論 a) 地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論			平田	由紀江
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画			
どまらず、文化的社 単なる国際政治のなく、分断社会における分断の表象論じていく。 「分断」とは朝鮮 そして日本に住むわか、共に考えていき	島分断の歴史と現状を、政治的視点にと見点も交えて概観するものである。 の枠組みとしての「分断」を語るのではおける「日常のなかの分断」、メディアをから国際社会のなかの「分断」までを詳半島に住む人々やその日常にとって、いたしたちにとってどのようなものなのまたい。	1イントロ①2イントロ②3朝鮮半島分断4朝鮮戦争①5朝鮮戦争②6世界情勢と朝7世界情勢と朝9アジアと朝鮮10 日本と分断車11 日本と分断車12 南北の社会②13 南北の社会②14 まとめ	鮮半島① 鮮半島② 半島① 半島② 明鮮① 明鮮②		
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献 評価方法				
講義初回に提示する	5.	出席、期末テスト。			

接義目的、講義概要	養 外言	韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化) 地域社会文化論特殊講義(韓国の言語文化)		担当者	平田 由紀江
現代韓国社会についての読み物をテキストとし、それを 翻訳しながら韓国語独特の言い回しを学び、韓国文化についての理解を深める。 受講者は、韓国語初級までの学習を終えていること。 ※ ※初回講義には必ず出席すること※※  デキスト、参考文献  評価方法	講義目的、講義概要		授業計画		
	翻訳しながら韓国語いての理解を深める 受講者は、韓国語	独特の言い回しを学び、韓国文化につ。 ・ ・ ・ ・ 初級までの学習を終えていること。	3~7回 翻訳の	基礎	
初回講義時に提示する。 翻訳課題と期末レポート	テキスト、参考文献		評価方法		
	初回講義時に提示す	る。	翻訳課題と期末レ	ポート	

養 外言	韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論 b) 地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論	ib)		担当者	全 載旭
講義目的、講義概要	Ę.	授業計	十画		
年ばか、	しい国の一つであった韓国が、40 国に変貌し、経済的に成功した。 の成功は韓国社会に大きな社会変いる。この講義は、この40年間に 展過程において社会はどのようのは 経済成長と社会変容を担ったのは とを明らかにすることを目的とす 以前の韓国社会の構造を家族、風 検討する。韓国社会の経済かを考察す こもたら韓国社会の変化を人に検討 しまいて「財閥」と呼ばれる ・グループがなぜ、いかに形成さ	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13.	韓家社経経二経韓韓工のののの成成構発のの化	、間関係会 を を を を を を を で で で で で で で で で で 後 成 成 と て り た と 済 成 た し 、 と に り て し て し て し て し て し て し て し て し て し て	(2) ハトワーク 内考察 ーか レイス・モデル) 川益 )
テキスト、参考文献			方法		
服部民夫 (2005) 発展と社会変容-	『開発の経済社会学−韓国の経済 −』文真堂	出席	状況と試験	験によって	評価する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
	l		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	11 lm/2 /24		

養 外言	韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史) 地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)		担当者	*** ひぃţヾ 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要	į	授業計画 1. 韓国の歴史の	<u></u> 流れ	
面での交流が行れ 経済的にあるという 関係に至る。その際、 具体的る。また、 はついても焦点を についても焦点を		2. 王仁博士と漢 3. 日本の中代の記 4. 高麗時中のの代記 5. 『三国史記史信 6. 朝鮮通信言と明鮮通信にと雨が 9. 申取重報が 10. 安韓がと 11. 日津川の 12. 淺とめ 13. まとめ	済文化 会状況 : 『三国遺事』 舜臣 寿洲 博文	
テキスト、参考文献		評価方法	-245	- 10 1 1 1 1 2 M A //
レジュメを配布する 参考文献:授業時に		最終レポート及び   価する。 	、感想文、小	レポートなどを総合的に評

養 外言	韓国研究各論IV(韓国文化各論 a) 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論	韓国研究各論IV(韓国文化各論 a) 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 a)		呉 吉煥(オー・キルハン)
授業の対象時期に 授業の対象時期に がら、まず近代以前に概観する。そして に時期を分け、各時 それを中心に説明しため、必要に応じて 本講義を通して、	図の政治・政治史・政治文化を学ぶ。 は近現代が中心であるが、政治史の視点 前における朝鮮半島の歴史の流れを簡略 こそれ以後については、政治主体を基準 期の重要な政治的出来事を取り上げて、 していく。また授業内容の理解を助ける には映像資料を使って説明する。 韓国の政治に対する理解を深めていき、 の政治を創り出した韓国の政治文化につ	授業計画  1. ガイダン 3. 朝鮮 2. 朝鮮 2. 朝鮮 4. 米軍承 3. 大米軍承 3. 本本 4. 米軍 4. 米軍 4. 大半軍 4. 大半軍 4. 大半軍 4. 大半軍 4. 大半軍 4. 大半車 4. 大半	日本の植民地期① 期② 期② 期② 期② は期② を権期② を権力 を は で は り は り り は り り り り り し を は り り し を は り り し を は り り を は り と し り を は り と し と し り と し と し と し と し と し と し と し	
テキスト、参考文献 初回の授業時に指示		<b>評価方法</b> 出席、授業への	参加度、期末	試験

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
<u> </u>		1	

養外言	韓国研究各論V(韓国文化各論 b) 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論	; b)	担当者	佐藤 厚
るが異なる点も多い 宗教分布をみると、 さらに宗教が社会に 異なる。本講義では 分けて、講義を行う 講義の方法はプリ る。なお知識を定着 ポート作成に充てる	※教を講義する。韓国と日本は隣国であい。宗教もそのひとつで、現在の韓国のキリスト教と仏教がほぼ同率である。 注おいて持っている意味合いも日本とは、仏教、儒教、キリスト教、民間信仰に	提業計画  1.講義ガイダンス 2.仏教(1) 3.仏教(2) 4.仏教(3) 5.仏教(4) 6.儒教(1) 7.儒教(2) 8.儒教(3) 9.キリスト教(1) 10.キリスト教(2) 11.キリスト教(3) 12.民間信仰(1) 13.民間信仰(2) 14.講義のまとめ		
<b>テキスト、参考文献</b> テキストは無し。フ 文献は授業で随時紹	・ プリントを配布して授業を進める。参考	<b>評価方法</b> 毎回の小レポート	(30%)、期	末試験(70%)

養 外言 韓国研究各論VI(韓国文化各論 c) 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 c)

担当者

金 貞我 (キム・ジョンア)

#### 講義目的、講義概要

今学期の韓国文化論のテーマは「風俗画のなかの朝鮮文化-描かれた朝鮮文化を読む」である。14世紀末から20世紀初頭まで続いた朝鮮時代の文化の諸像を、朝鮮時代に描かれたさまざまな風俗画から読み取り、その図像に表象される歴史や社会、文化を学ぶのが今学期における韓国文化論の目的である。

授業はスライドやビデオなどの視覚的な資料を用いながら行われる。描かれた朝鮮時代の生活文化を理解し、それらが現代韓国の社会にどのように継承され、生きているのかまで、韓国文化の歴史の諸像を視覚(図像)資料からアプローチすることが主な内容である。

#### 授業計画

- 1、韓国の時代区分と歴史の概要
- 2、姿の朝鮮文化
  - 女性の表象-封建社会の理想の女性像
  - 立身出世の表象-寺小屋と科挙
  - ・ 妓女の姿と上流社会
  - ・ 装身具と服飾が象徴する身分社会
- 3、しぐさの朝鮮文化
  - 食文化と食事作法
  - 片立膝と正座
  - ・ 顔を隠す女性・扇子越しにみる男性
  - ・ いただく女・背負う男-労働する庶民

※以上の内容に基づいた詳しい授業日程は、授業の初日に 配布する。

### テキスト、参考文献

参考書および参考資料は、授業中に随時紹介する。必要な 資料はコピーして配布する。

# 評価方法

出席と平常点を重視する。出席と平常点(50%)とレポート(50%)を総合して評価する。

養 韓国特殊研究Ⅲ(文献読解) 担当者 金 貞我 (キム・ジョンア)

### 講義目的、講義概要

時事韓国語の読解力強化を目的とする。今学期は、毎週、新聞・雑誌や短いエッセイなどを取り上げ、一つの記事を読み通す。日本語と同じ漢字用語が多い時事韓国語の習得とともに、記事の読解力を高め、文化、経済、政治など、韓国社会全般にわたる理解をも深める。中級以上の韓国語の知識が必要である。

### 授業計画

エッセイや新聞・雑誌など時事に関する文章を読解する。 毎週一つのテーマを読み通すことを目標とし、記事に出てくる特殊表現、専門的用語などをまとめながら、全体の内容を掴む訓練を重ねる。必要な資料は毎週、授業中に配布する。

- 1、韓国の新聞を読む(5回)
- 2、韓国の政治・経済雑誌を読む(5回)
- 3、韓国版『リーダーズ・ダイジェスト』を読む(3回)

# テキスト、参考文献

必要な資料はコピーして配布する。

### 評価方法

出席と平常点を重視する。授業中に出される課題の達成度 と授業参加の積極性を総合評価する。

			担当者	
講義目的、講義概要	;	授業計画		
テキスト、参考文献	1	評価方法		
テイスト、参考文献		11川ノノム		

養	韓国研究情報収集法		担当者	eto 金	かいすく 熙淑(김 さ	희숙)
講義目的、講義概要	Ę	授業計画				
か、その方法論を理 講義である。韓国 ら、資料収集法、理 そして研究成果の多 4名のグループをつ て研究を行い、最終 修者にはグループ も質疑応答の積極的 ・韓国語を理解で 注意:はじめの授業	笑で演習のグループ分け、発表担当者と ご必ず出席すること。欠席は遠慮し極力	1、ガイダンス 2. 各 2 3 . ハンググルルの 5. ハンググルルの 6. 調調調調査査査発発表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	タイピング練 タイピング練 タイピング練 表 (a) 表 (b) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c	평① (평② (광영)		ルドワーク
テキスト、参考文献		評価方法				
適宜プリントを配布	<b>市する。</b>	主に調査、発表する。	の取組、研究	成果の	つ課題レポー	トで評価す

養 外言 韓国特殊研究Ⅱ (日韓比較文化論 b) 比較文化論特殊講義(日韓比較文化論 b)

担当者

\*\*\* 欧淑(김 희숙)

# 講義目的、講義概要

本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを 絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体 的な方法を模索し、それを身につけていくことを 目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高 等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育 と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日 韓両国(両地域)の比較を行っていく予定である。 身近なテーマであるため、履修者には積極的な授 業参加が期待される。

#### 授業計画

- 1. 講義の概要
- 2. 書堂と寺子屋
- 3. 三国時代の教育と文化
- 4. 高麗時代の教育と文化
- 5. 朝鮮時代の教育と文化①
- 6. 朝鮮時代の教育と文化②
- 7. 植民地支配の教育政策
- 8. 植民地支配の国語教育
- 9. 日韓生涯教育と社会
- 10. 日韓ジェンダー教育
- 11. 日韓女性の教育
- 12. 韓国における日本語教育の歴史
- 13. 日本における韓国語教育の歴史
- 14. まとめ

### テキスト、参考文献

レジュメを配布する。 参考書:授業時に紹介する。

#### 評価方法

積極的な授業参加を評価する。

課題レポート:講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。

養 外言 韓国特殊研究 I (日韓比較文化論 a) 比較文化論特殊講義(日韓比較文化論 a)

担当者

\*\*\* ひいすく 金 熙淑(김 희숙)

# 講義目的、講義概要

私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自 分の属している社会や文化を念頭において同質性 と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ 韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれ がちになってしまい、「文化比較」がきちんと行わ れない場合が多い。本講座ではこのような点をふ まえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を 学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信 仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標と し、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日 韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に 取組むことを期待したい。

●参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) ◎注意:テーマごとにグループ分けし話し合う場 を設け発表する形式を取る。極力1回目の授業か ら出席すること。

### 授業計画

- 1. 日韓比較文化概説 ガイダンス
- 2. 韓日の建国神話
- 3. 韓日の国土構造
- 4. 韓日の村落
- 5. 韓日の歳時風俗
- 6. 韓日の祭祀風習 7. 韓日の民俗信仰
- 8. 韓日の家族
- 9. 韓日の食文化①
- 10. 韓日の食文化②
- 11. 韓日の住生活
- 12. 韓日の服飾
- 13. 韓日の福祉レジーム
- 14. まとめ

# テキスト、参考文献

適宣プリントを配布する。

参考文献:講義においてその都度紹介する。

### 評価方法

授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化 比較」を行い、レポート提出による評価。

養	日本研究 I (日本文学古典)		担当者	福沢 健
講義目的、講義概要	· 要	授業計画		
室町)・近世(江戸)の間の中でこの全ての能なので、春学期にする。講義概要 奈良・風土った。 具体代とり おとしていきたい。 宮崎市 はいった にいった にいった にいった にいった にいった にいった にいった に	は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・の五つの時代に区分される。限られた時の時代のテクストを取り扱うことは不可は奈良時代の文学テクストについて講義ウストの代表的なものは、古事記・万葉この中で、興味が持てそうなストー党・風土記に載せられている神話伝説をこは、古事記のヤマタノヲロチ神話を題見代の人々の自然観の違いについて話をれて際して、同一のテーマを扱った現代奇駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴ吸うことを予定している。	1神話ととはフノフランなり3ヤマタタ人遙遙「「「6日本本体験験で7宮宮崎崎崎9宮宮崎崎爆大大大13「水水とので14ま大けたい	チチ族なのののゴゴゴ たities.jp/nofu	2 -3 -3 -3 -3 -3 -3 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -3 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1
テキスト、参考文献	式	評価方法		
テキスト なし		試験・レポート	・出席の総合	合によって決める。

参考文献 授業時に指示する

養	日本研究Ⅱ(日本文学現代)	担当者	佐藤 毅	
講義目的、講義概要		授業計画		
(講義目標)		第1回 ガイダンス		
現代日本におけるべ	ストセラーの傾向と特色を分析する	第2回 ①人間関係な	いらの癒し	
ことで、現代人がど	のような世界に住み、どのような世界	第3回②同上		
を望んでいるか考察	する	第4回 ③ 同上		
(講義概要)		第5回 ①時間からの	り救い	
現代文学のベストセ	ラーを詳細に分析する。秋学期は「癒	第6回② 同上		
しの現代文学」と題	して、癒しややさしさを扱った作品を	第7回③同上		
ブックレビューし、	その本質に迫る。	第8回 ①笑いの持つ救い		
(受講生への要望)		第9回②同上		
	は、できるだけ読破してほしい。読書ではなく、読書の楽しみを伝えて行く	第10回①美しい生き方		
	とにかく楽しんでほしい。	第11回② 同上		
		第12回①原作を映像で見る		
		第13回② 同上 第14回 まとめ (総集編)		
		3	2 (50)1007	
テキスト、参考文献		評価方法		
その都度紹介する。		出席。レポート(定期試験)。		

養外言			担当者	丸浜 昭	
講義目的、講義概要	Ę	授業	計画		
一般に、1945年に	こ終わった戦争の相手はアメリカだった	1	1945 年に終	やわった戦争の のは<	の相手・呼称をめぐって
ととらえられている	るだろう。しかし、それだけでいいだろ	2	日中戦争と	対米英戦争	
うか。この戦争を何	可と呼ぶか。そもそも、いつ、どこで始	3	真珠湾から	か、コタバル	からか
まったのか。これら	らの問いへの答えをみると、日本人のこ	4	被害の問題	①―空襲は何	「を示すか
の戦争への認識が浮	孚かび上がってくる。 戦後 60 年を越えた	5	被害の問題	②—原爆投下	をどうとらえるか
今日でも、田母神諸	<b>命文が登場するなど、日本人のこの戦争</b>	6	6 加害の問題①-731部隊とは何か		
への認識は多くの調	<b>果題をかかえており、政治的な争点にも</b>	7	7 加害の問題②―南京事件をどうとらえるか		
なっている。春は、	現代との関わりを意識しながらこの戦	8	加害の問題	③一三光作戦	えをめぐって
争をとらえることを	を中心課題とする。	9	兵士と民衆	①—日本軍隊	での特徴をみる
被害や加害の事実	実をしっかりと見たい。見るのがつらい	10	兵士と民衆	②―教育でと	う兵士が育てられたか
ところもあるが、b	ごデオをかなり使う。そして、教育のあ	11	戦時下の社	会―天皇制 と	: 国家神道・戦争への動員
り方など社会の状況	兄、経済との関わりなども含めて、戦争	12 戦争と経済の関わりを考える①			fえる①
の全体像を考える。	できれば、秋学期とあわせて受講して	13 戦争と経済の関わりを考える②			きえる②
欲しい。			まとめとし	て一この戦争	+の原因をどうとらえるか
テキスト、参考文献	tt en	評価	方法		
授業の中で紹介する		/ -//			さの形式で試験を実施する らか加味する予定

養 外言	日本研究IV(日本史 b) 日本近現代史 b			担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画			
1945年8月15日	日に敗戦を迎えた戦争は、戦後60年を	1	沖縄戦が私た	ちに投げかけ	たこと
越えた今日でもさま	ざまな課題を残している。そこには、	2	本土決戦と日	本の戦争の終	わり方
戦後のアメリカとの	関係が、講和や賠償問題、また日本人	3	日本国憲法は	どう生まれた	カュ
の戦争認識にも大き	な影響を与えてきた事実がある。	4	東京裁判をめ	ぐって	
この問題を体現し	ているひとつに、沖縄がある。なぜ沖	5	サンフランシ	スコ講和のも	った問題
縄には、本土にはな	いたくさんの米軍基地があるのか…。	6	6 日本とドイツの戦後補償①		
戦後の沖縄の歩みを	知らなければ、今日の沖縄の問題をと	7	7 日本とドイツの戦後補償②		
らえることはできな	い。また、今もなお中国や韓国・朝鮮	8	8 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか		
の人々から戦後補償	が求められ、戦争の認識をめぐる論議	9	9 日中国交回復を考える		
が起こる背景にも、	この戦後の歴史がある。	10	沖縄の復帰が	「日本」に問	]いかけていること
秋は、戦後の出来	芸事を取り上げて、戦争の実相もふり返	11	アジアの民衆	からの戦後補	償要求
りながら、日本の政	内が、また民衆が、この戦争をどうと	12	「731 部隊展」	の取り組みな	が意味したこと
らえどう対処し、ど	のような課題を残してきたのか考えて	13	13 戦後 50 年の国会決議をめぐって		
みたい。できれば、春学期とあわせて受講して欲しい。			14 戦争の歴史から私たちは何を学ぶか		
テキスト、参考文献		評価	方法		
授業の中で紹介する					形式で試験を実施する か加味する予定

養 外言	日本研究V (日本経済論 a) 日本経済論 a		担当者	波形 昭一		
講義目的、講義概要		授業計画				
っておくことが重いての知識が不可では、高度成長期 義する。	を理解するには、その生い立ちを知 重要である。とりわけ高度成長期につ 「欠である。そのため「日本経済論 a」 における日本経済の問題を中心に講 に内容上、春学期・秋学期を通して聴 い。	1. はじめに 2. 戦後民主化 3. 戦後民主化 3. 戦後経済復 4. ドッジ・ラ 5. 朝鮮戦争 6. 高度成長の 8. 高度成長の 9. 高度成長の 10. 戦時経済と 11. 高度成長の 12. 高度成長の 13. 高度成長の 14. 日本経済の	興対策 インとシャウ 日本経済 とそ 構造(1) 構造(2) 結果 戦待神的土台 終焉(1) ドル 終焉(2) オー	· プ勧告 · の時期区分 · の関係 レ・ショック		
テキスト、参考文献		評価方法				
主に統計表など	ごのプリントを配布。	学期末試験の で評価する。相		義は春学期・秋学期の合計)  採用。		

養 外言	日本研究VI (日本経済論 b) 日本経済論 b		担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要  1970 年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえつつ、70 年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた 10 年」について論述し、そのうえで近年たたかわされた日本経済再建論議の当否、小泉内閣の構造改革の位置づけ、さらにサブプライム問題および世界同時大不況下の日本経済を検討したい。 なお、本講義は内容上、春学期・秋学期を通して聴講するのが望ましい。		授業計画         1. はじめに         2. スタグフレーションとその原因         3. レーガノミクスとアメリカ経済         4. プラザ合意後の経済変化         5. バブル経済の発生とその原因         6. バブル経済の崩壊         7. 平成不況の特徴 一複合不況一         8. 金融自由化と日本版ビッグ・バン         9. 「失われた 10 年」         10. 景気対策か構造改革か(1)         11. 景気対策か構造改革か(2)		
テキスト、参考文献		13. サブプライ 14. 世界同時大 評価方法		とリーマン・ショック 本経済
春学期と同じ。		春学期と同じ。		

日本研究VII(日本文化論) 担当者 飯島 一彦 外言 日本文化論 a 講義目的、講義概要 授業計画 日本は世間一般がぼんやりと信じているような単一民族 1 オリエンテーション・導入 国家でもないし単一言語国家でもない。当然そこに見られ 2 文化と文明…政治と現実 る「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的 な歴史を持っているわけではない。そしてそれは日本に限 3 日本文化の歴史的複合重層性 ったあり方でもない。 4 日本は閉鎖的な国か? 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持 5 「日本」はいつから「日本」か? するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」 6 季節感…「四季」の嘘と作られた感受性 の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみ を言うのではない。 7 文字の輸入…漢字・片仮名・平仮名 「日本」が含む諸地域の持つ文化的特徴を「歴史的複合 8 ものの行き来、人の行き来 重層性」ととらえ、周辺諸地域(朝鮮半島・ユーラシア大 陸・南島諸地域)との文化交流によって複合し、新たな形 9 日本人の振る舞い…正直・清潔・契約 熊を産み出していく文化のあり方と、ある時代に盛期を迎 10 律令の輸入…「天皇」と「国家」 えた典型的な文化的特徴が積み重なり、時代を超えて重層 化するあり方が現在の文化を形作っているという立場か 「鎖国」…開かれていた国「日本」 ら、海外との交流、国内交流、文字表記、振る舞い、季節 12 明治維新の文化史的意味付け…「和魂洋才」 感、信仰、文芸、美術・建築、芸能、思想、東西・都鄙観 などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。 13 「日本人」の暮らしと死生観 14 まとめ

#### テキスト、参考文献

【参考文献】日本史年表と国語便覧(大学受験程度の内容、 どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるも の、世界史との対照ができるもの)

# 評価方法

学期末試験(論述式)の成績による。

 養
 日本研究各論 I (民俗芸能)
 担当者
 飯島 一彦

 外言
 日本文化・芸能論 b

#### 講義目的、講義概要

「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために 必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文 化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを 言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、 暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて「文化」である。 その中でも民俗芸能は、民衆生活との結びつきの深さとい う点からは特徴的な「文化」である。

日本の民俗芸能は世界にもまれに見る濃厚さで民衆生活 と結びついてまだ残存している。いわゆる先進国に属する 国としては唯一と言って良い。

そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義していく。「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点から東西日本の様々な民俗芸能を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料を用いて視点を呈示し、概念と「表現」や「型」、「振り(演出)」の実際がどう機能しているかに留意する。

#### 授業計画

- 1 オリエンテーション・導入
- 2 日本文化の複合重層性と「見えないもの」
- 3 神の来訪と芸能①…春日若宮のおん祭
- 4 神の出現と芸能②…八重山の祭と芸能 I
- 5 異人の出現と芸能①…八重山の祭と芸能Ⅱ
- 6 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞
- 7 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植
- 8 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り I
- 9 稲作の習俗と芸能③…東北の田植踊りⅡ
- 10 稲作の習俗と芸能④…能登のアエノコト
- 11 年齢階梯と芸能①…福島県の成人儀礼「幡祭」
- 12 年齢階梯と芸能②…兵庫県の宮座 I
- 13 年齢階梯と芸能③…兵庫県の宮座Ⅱ
- 14 まとめ

# テキスト、参考文献

テキスト『日本の伝統芸能』錦正社、(税込 3,500 円) ISBN4-7646-0109-5 参考文献は随時教室で示す。

#### 評価方法

数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績

養 日本研究各論Ⅱ(企業経営) 外言 日本研究特殊講義(企業経営)		担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要	授業計画		
本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるだけでなく、市場からの消滅の恐れもある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。  テキスト、参考文献	<ol> <li>3. 日本の会社</li> <li>4. 現代企業の</li> <li>5. 現代企業の</li> <li>6. 現代企業の</li> </ol>	発機生景堡が基発祭一おシとと的経戦モ形形争ル化了スープを表がした。	レート・ガバナンス ション論へ 産管理 国籍企業 咯
黒川文子『21 世紀の自動車産業戦略』(税務経理協会、2008年)	4.1	席によって	、総合的に評価する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養外言	日本特殊研究 I (民俗学) 日本研究特殊講義(民俗学)			担当者	林 英一
ら受け継が明ってきたが が明まっながりでも が明まっながができた。 では問題をしている。 本は問題をはいる。 本は問題をはいる。 本は問題を正してものののでは、 本は、は問題を正してもののである。 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	いきなり始まったものではなく、先祖か さもの。受け継がれてきた物や心意会価 が民俗学である。だからといって過去の として研究するものではない。現在にど 現在の我々の「存在」をどのようにし きるのかという目的のもとで研究が行わ が必要とのいきさつから始め、具体的に なり出し、これまでの研究成果を学び、 身がどのようなものであったのか、そし のように受け継がれているのかというこ いたいと思っている。	2	一 イ 谷 民 祭 な 異 異 異 年 年 人 日 イ イ 谷 民 統 り ぜ 界 界 界 中 中 生 本 と し い 能 り 間 問 間 間 事 事 礼 の の の が 題 題 題 1 2 ( 死	は何か、 (研究) (研究) (研究) (で対し、 (でする) ( (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*)	の中で芸能が演じられるのか は何か、幽霊・妖怪) 可か) 幽霊・神の関係) どこにあるのか) 目をめぐって)
テキスト、参考文献	<del>戊</del>	評価ス	方法		

養外言	日本研究各論Ⅲ(地域文化) 日本研究特殊講義(地域文化)	担当者	林 英一
-----	---------------------------------	-----	------

#### 講義目的、講義概要

授業時に適宜指示

現在、特に都会では隣にどのような人がすんでいるのかわからない状況にある。しかし少なくとも江戸時代以降には、地縁的共同体が形成され、それにより個々の生活が支えられていた。

また阪神淡路大震災において、地縁的共同体が相互の助け合いに大きく役立ったという報道がなされている。

しかし都市化やネットの普及で、近隣との縁が薄くなった現実であり、社会が子どもを守り成長を促すということがなくなってしまった。従来の「地域」が崩壊しているといえる。その中での阪神淡路大震災での「地域」の役割は興味深いものがある。

本講義では従来の「地域」がどのようなものであり、どのように機能してきたか、そして現在ではどのように機能しているか、祭りや実際の「地域」構造を例示しつつ説明するものである。本講義により、「地域」とは何か、また崩壊したといわれる地縁性をどのようにすればよいのか、「地域」の再生か、再生せずに別の在り方があるのか考えるきっかけになればと思う。

#### 授業計画

- 1 講義の概要
- 2 地名の成り立ちと地域差の問題
- 3 地域形成と生活構造
- 4 地域の働き (ビデオと解説)
- 5 地域認識の問題(地名と地域の関係)

刻扱いとし、遅刻2回で欠席1回とする。

- 6 地域文化としての祭り
- 7 地域の重層的構成
- 8 重層的地域における祭祀組織
- 9 伝統的祭りの方向性(過疎地域の問題、具体例を通して)

試験による。ただし欠席回数が4回を超えた者については 評価対象とはしない。また授業開始30分を超えた者は遅

- 10 都市と伝統的祭り(都市地域の問題、具体例を通して)
- 11 地域文化の方向性と伝播の問題
- 12 地域文化とフォークロリズムの問題
- 13 地域文化と新興の祭り(盆踊りと阿波踊り・よさこい 祭りなど伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説)
- 14 地域とボーダレス社会 (現在にとって地域とは何か、 シャッター商店街、子どもへの目の問題も含めて)、 まとめ

# テキスト、参考文献

授業時に適宜指示

#### 評価方法

試験による。ただし欠席回数が4回を超えた者については評価対象とはしない。また授業開始30分を超えた者は遅刻扱いとし、遅刻2回で欠席1回とする。

養外言	日本研究各論IV (古典芸能) 日本文化・芸能論 a			担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業	計画		
		1	オリエンテ	ーション・導	入
「ある特定の人間集	集団が生活をし、それを維持するために	2	「日本」に	おける「古典	」と「芸能」
	助きが形として表れたもの」の総体を「文 て優れた美術作品や代表的な建築のみを	3	雅楽…「音	楽」の「古典	」という幻想
· · ·	その意味で日本の「古典芸能」は意図的	4	歌舞伎…派	手と粋、世話	と人情
に民衆の心の動きを	を表現し、維持・伝承してきた。	5	文楽…人形	の表現、声の	表現
1. 1. 1	日本における「芸能」の概念が歴史的にどう形成された		能…「幽玄	」とは何か?	
かを講義した上で、各分野における古典芸能の粋を鑑賞し、 それぞれの分野で日本的な「美」がどのような価値観に支 えられて表現されているかを分析し、講義する。		7	狂言…「笑	い」の原点	
		8	相撲…「芸	能」と「スポ	<b>ニ</b> ーツ」と
具体的には「雅楽」「歌舞伎」「文楽」「能・狂言」「相撲」		9	筝曲・地唄	…庶民の教養	・情操
* * * - > * * *	「筝曲・地唄」「長唄」「日本舞踊」「茶道」「華道」「古典落語」等をとりあげ、映像資料を用いて視点を呈示し、概念		長唄…芝居	と音楽的独立	<u>:</u>
	「振り(演出)」の実際がどう機能してい	11	日本舞踊…	「所作」と「	- ふり」と
るかに留意する。		12	茶道・華道	…わび茶と生	:け花
	なお、4~7月に歌舞伎・文楽・日本舞踊・落語の実際		古典落語…	庶民の生活と	:「ことば」
の鑑賞(参加費各回 1500~2000 円)を行う。		14	まとめ		
テキスト、参考文献		評価	5方法		
テキスト・参考文献	状…その都度指示する		回実施するた	<b>小レポート、</b>	学期末試験もしくはレポ

養外言	日本特殊研究II(文献読解) 日本研究特殊講義(文献読解)			担当者	飯島 一彦
して という にん という にんだい という にいり という にいう にいう にいう にいう にいう にいう にいう にいう にいう に	とだが、現代の日本が先進国の一員とれるのは、19世紀後半に明治維新を経からである。 (上を経て、いわゆるグローバリゼーシの功罪の渦中にある現在、日本が如何に国際社会に躍り出るに至ったかを振りばあるだろう。)	2 概説	(イザ代 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ 8 9 ⑩ ① ①	ラ・バードに	文献の提示等)
考文献】『イザベラ・バ	行』(税別 1500 円)ISBN4-582-76329-4【参 ベードの『日本奥地紀行』を読む』宮本常一、 兑別 1,200 円)ISBN4-582-76453-3	<b>評価方法</b> 学生諸君に による。	こよる発	表の成果と学	:期末試験(論述式)の成績

養外言	日本特殊研究Ⅲ(写本を読む) 日本研究特殊講義(写本を読む)			担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要	Ę	授業	計画		
日本には、いわら 多量に残されたと流 (版本を含む)が、そ の版産なのだがない。 要な基本のか技能(要な基本的)を、 要な基本的)を、 具体的にはれたシャーの 型的な例を影印でえる 量の少なは毛筆でのを ものには毛筆でのも ものには手を重	ゆる古典文献以外にも、近代になっても 話に関わる文書等、筆墨で記された文献 無数に存在している。それらは貴重な文 とれらを読み解くものがいなければただ この授業はそれらを読み解くために必 連綿体・変体仮名・書類上の日本漢文を 事本類を読むことで養う。 体仮名を読む訓練を徹底的にした後、近 気(物語・和歌類)・地方文書・実用書(版 いから様々な様態を示すもののうち、典 にして読解の指導と作業を行う。 を養った後に架蔵の写本類から比較的分 が印で与えて翻刻を課する。余裕のある	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	オリエンテ	習① 習② 習③ 習④ ① ② ① ②	(人) 日の歴史、変体仮名)
		14	まとめ		
テキスト、参考文献		評価	<b>五方法</b>		
テキスト…プリント 参考文献(必携)… 『 <b>字典かな</b> 』 定価		数回	団の提出物、	および学期末	試験の成績による。

養外言	日本特殊研究IV (碑文を読む) 日本研究特殊講義(碑文を読む)		担当者	飯島 一彦	
講義目的、講義概要		授業	計画		
神類(道標・では、 神類解文・近に的 いここと を で後ること を で変研体ですない	子の碑文のうち、典型的な例を写真など での指導と作業を行って基礎力を養った 単文の採集と解釈を行い、教室で報告す をから教えることはしないので、日本特 活む)をすでに履修したもの、もしくは とが履修の最低条件である。その上で 言まなくてはならないので、勉強しなく	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	オリエンテ碑とは、大明の大学では、大明の大学では、大学では、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	種類・ ・ 対ま字の を読む で を読む を読む を読む 告令 告令 告令 告告 告告 告告 告告 告告 告告 告告	た文字達)
		評価	i方法		
テキスト・参考文献	t…プリントして配布	数回	の提出物、お	よび碑文の採	集・報告の成果による。

テキマ	L	参考文献
1 4 4	г.	<b>多有</b> 又 瞅

G. ユール/今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館,

1987; ISBN: 4-469-21145-1)

#### 評価方法

コーパス言語学

定期試験 🛽 出席率 + 平常授業における課題

養	多言語間交流研究Ⅱ (言語学 b)	担当者	安間 一雄

#### 講義目的、講義概要

人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共に デジタル的要素がある.メッセージを単位記号(デジタル 信号)に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり,文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである.この授業では言語の基本的な構造 を取り上げ,理論的枠組みを理解すると共に,ハンズオン 的学習を通して言語資料の分析練習を行う.対象言語は英 語を初め各国語にわたる.教材の事前予習を前提とする.

#### 参考文献

Edward Finegan, Language: Its Structure and Use, 5th ed. (Wadsworth, 2007; ISBN: 978-1413030556)

David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)

#### 授業計画

- 1. 形態論 (1) 形態素の同定 (ハンガリー語,スペイン語)
- 2. 形態論 (2) 形態素の同定 (現代ヘブライ語,マレー・インドネシア語,ペルシア語)
- 3. 形態論 (3) 形態素の同定 (ラテン語,ラコタ語)
- 4. 音声学・音韻論 (1) 発音記号,音素・異音(英語)
- 5. 音声学・音韻論 (2) 音韻の同定 (ウィチタ語,古典ヘブライ語,ラコタ語)
- 6. 音声学・音韻論 (3) 音素の同定 (スペイン語,ヒンディー語,日本語)
- 7. 音声学・音韻論 (4) 超分節音素の同定 (中国語,アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語)
- 8. 音声学・音韻論 (5) 音韻現象,生成音韻論(トルコ語,英語)
- 9. 統語論 (1) 直接構成素分析,句構造規則(英語)
- 10. 統語論 (2) 句構造規則 (英語,イタリア語・ギリシア語)
- 11. 統語論 (3) 構造形成,語順,格(英語,中国語,ドイツ語, クリンゴン語)
- 12. 意味論 上位概念・下位概念,同意語・反意語(英語,日本語,ペルシア語)
- 13. 語用論 新旧情報,言語行為,話題化(英語,中国語)
- 14. 書記法(英語,イタリア語,ギリシア語,ヘブライ語)

# テキスト、参考文献

Paul R. Frommer & Edward Finegan, Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 4th ed. (Heinle, 2007; ISBN: 978-1413030853)
Paul R. Frommer & Edward Finegan, Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 4th ed. [e-textbook] (CourseSmart, http://www.coursesmart.com/9781413030853) (180 日間有効)

#### 評価方法

定期試験 🗴 出席率 + 平常授業における課題

養	多言語間交流研究Ⅲ(英語学 a)			担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要	Ę	授業	計画		
英語学の基礎的諸領	頁域の広範な理解を目標とする.扱う領域と	1.	英語の文法	理論(6章)	
しては発音・音声学・	形態論・統語論・意味論・語用論・談話論	2.	音声学 (1)	(7章)	
などがある.随時,日	本語との対照学習を取り入れ, 外国語とし	3.	音声学 (2)	(7章)	
ての英語学習が容易に	こなるよう試みる.それぞれのテーマについ	4.	音韻論 (1)	(8章)	
て理論的研究を紹介し	<i>、</i> た後,実際に当該項目が習得されるよう練	5.	音韻論 (2)	(8章)	
習課題を行う.授業内	n外における練習課題の遂行と学習記録の継	6.	強勢・イン	トネーション	ノ(8章)
続が求められる.		7.	形態論・語	形成(9章)	
高橋作太郎,『続・英語教師 橋内武,『ディスコース: 4-87424-172-7) M. A. K. Halliday & R ISBN: 978-0582550414) http://home.eserver.or 高橋作太郎,『英語の演習 第	,	11.		(10章)	,
西光義弘他,『日英語対照 4874241697)	第3巻:語彙・表現』(大修館書店) 《による英語学概論』(くろしお出版, 1999; ISBN: 寅習 第1巻:音韻・形態』(大修館書店)	13.	テキスト言 ディスコー	語学	· <del>- /</del>
テキスト、参考文献	###	評価	方法		
石黒昭博他,『現代 4-523-30047-X)	英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN:	定期	試験 x 出席	[率 +平常授]	業における課題

養 多言語間交流研究Ⅳ(英語学 b)	担当者    安間 一雄
講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して,英語世界がいかに成立し,どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ.視聴覚資料を補助的に用い,学習を支援する.また,英語史に関連する観光スポットを随時紹介する.後半は英語を特徴づけ,他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ,現代社会における英語の位置づけを学ぶ.参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる.参考文献 David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 x / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, English: History, Diversity and Change (Routledge, 1996; ISBN: 0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, The Story of English: Special Complete Edition (マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242) 石黒昭博他、『現代英語学要説』(南雲堂、1987; ISBN: 4-523-30047-X)宇賀治正朋、『英語史』(開拓社、2000; ISBN: 4 7589 0218 6)	1. 英語の概要:ヨーロッパの言語分布 2. 英語以前(1):印欧語族の成立 3. 英語以前(2):ゲルマン語族の成立 4. 英語の夜明け:古英語とその社会 5. 英語の変動期:ヴァイキングおよび政治的変動 6. 英語の変明け:中世とは?そしてその英語 7. 英語の充実:初期近代英語とイギリス社会の発展 8. 英語の黄金期:近代英語とヴィクトリア朝文化 9. 英語の多様性:イギリスの英語から世界の英語へ(地理的変異) 10. 英語の現状:アメリカ英語・第3世界の英語・コックニー 11. 英語使用の現状:公用語・第2言語・英語学習・辞書 12. 英語の特徴(語彙・語源):本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング,(発音と綴り):大母音推移・発音・文字・正書法 13. 英語の特徴(文法):語順・修飾・統御,(談話構造):パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 14. 英語の特徴(社会的変異):社会階層・レジスター・ジャンル 15 回 まとめ
テキスト、参考文献	評価方法

定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

随時プリントを配布する.

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養	多言語間交流研究V (英語圏の文学)		担当者	松山 響子	
講義目的、講義概要	e	授業計画			
講義目的、講義概要  講義目的  文学というと通常みなさんはどのようなイメージを持つだろうか?「古臭くて、長くて、面白くない。」そのような言葉が頭に思い浮かぶのではないだろうか。しかし文学は文化の中で中核をなす要素でもある。なぜなら、文学は該当する言語を使用する人間の考え方、知識、宗教的・歴史的背景を、その言語の最も洗練された形で記録しているものだからだ。結果として、時間という最も厳しい読者が選別をしているベストセラーリストでもある。この講義では、そのベストセラーリストの一端に触れて、「英語圏」の人々がどのようなものを文学と見なしているのか、少しでも理解してほしい。  概要  ひとくちに「英語圏」といっても、イギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、インドなど数多くある。そして文化の中核をなす「文学」を取り上げるとなると、当然だが秋学期の授業だけでは足りない。したがって、この授業では最も歴史が長く、さまざまな英語圏の文学に影響を与えた「イギリス文学」を中心に、他の地域の文学も合わせて取り上げていく。		第1週:オリエンテーション・背景説明 第2週:古英語から中世へ 第3週:ルネッサンスと演劇時代の到来			
テキスト、参考文献	献	評価方法			
<b>テキスト</b> 川崎寿彦著『イギ!	リス文学史入門』(研究社、1986 年)			ポート(20%)、出席(20%)	

(2/3 以上の出席がないと単位を認定しません。)

養	多言語間交流研究各論 I (応用言語学)		担当者	臼井 芳子	
講義目的、講義概要	5	授業計画			
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である(言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である)。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。		第 1 週 : 概論 第 2~3 週 : 言語習得 - 言語習得 - 言語喪失 - 言語維持			
		- 教室における	語と社会 リズム デンティティ ィ言語 国語教育 guage vs. For る第2言語習 公用語化、小	reign language	
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価方法			

レポート(20%)、期末テスト(80%)

第1回目の講義で発表します。

配布資料等有り。

養	多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習行	号)	担当者	臼井 芳子
るかということを核 分野における専門月 理論をどのように言 多言語間交流研究名 とが望ましい。 出席を前提とする。 また、課題(主にリ ークシート)をして	度 語習得がいかにダイナミックなものであ 様々な理論をもとに考える。また、この 問語を日英の両言語で認識し、これらの言語教育に応用していくかを考える。	第 1 週:概論 第 2~6 週: SLA 理論・仮説 -普遍文法 -モニターモデル -認知プロセス -インプット・アウトプット・インターアクション( 第 7~12 週:学習者要因 -年齢 -動機・態度(諸理論) -学習ストラテジー・学習スタイル -適正 -多重知能理論など		
テキスト、参考文献 第1回目の講義で多 配布資料等有り。		<b>評価方法</b> レポート(20%)	)、期末テス	├ (80%)

#### 講義目的、講義概要

講義目的 イギリスを中心とした英語圏の小説に親しんで もらうことがねらいです。だれもが知っている有名なもの から「問題作」まで、原則として一回一作品ずつ、できる だけ幅広く、年代順に取り上げます。また、少しずつです が、原文も味わいます。

講義概要 毎回課題が出ます。作品の一部を和訳してもら う課題です。受講者には、知らない単語を自分で調べ、自 分なりの訳を作って提出してもらいます。授業では、課題 の答え合わせのあと、作者がどんな人で、作品のあらすじ と読みどころはどこにあるのか、文化的背景はどんなもの だったかを、担当者が解説します。一部映像を使用します。

#### \*\*\*注意事項\*\*\*

- ・ TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としていま す。600 点以下でも受講できますが、その分、課題に時間 をかけて取り組んでください。
- ・ 作品の選択は、若干変更する可能性があります。
- ・ 辞書を持参してください。電子辞書でかまいません。

#### 授業計画

- 1. イントロダクション
  - English literature? Literature in English?
- 2. Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719)
- 3. Jane Austen, Pride and Prejudice (1813)
- 4. Charles Dickens, Oliver Twist (1837-39)
- 5. Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847)
- 6. Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (1865)
- 7. Arthur Conan Doyle, "Adventure of the Speckled Band" (1892)
- 8. J.M. Barrie, *Peter Pan* (1911)
- 9. Virginia Woolf, Orlando (1928)
- 10. D.H. Lawrence, Lady Chatterley's Lover (1928)
- 11. Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (1966)
- 12. A.S. Byatt, *Possession* (1990)
- 13. Nick Hornby, About a Boy (1998)
- 14. まとめ

#### テキスト、参考文献

プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。

#### 評価方法

毎回の課題と学期末試験(英文和訳等を出題)。 欠席が四回を越える場合は評価の対象としません。

多言語間交流研究各論Ⅲ (英語圏の小説 b) 担当者 島田 啓一

#### 講義目的、講義概要

#### 講義目的

アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの 作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説などの抜粋 を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ小説の 魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考 える。

# 講義概要

まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リ アリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識 した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上 げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深 めることに重点を置く。

#### 授業計画

- 1: アメリカ小説の概略 (歴史・文化・社会)
- 2: アメリカ小説の創生期とアメリカン・ルネッサンス 3: リアリズム小説1 (第一世代と第二世代のリアリズ ム作家たち)
- 4: リアリズム小説 2 (Mark Twain と *The Adventures* of Huckleberry Finn)
- 5: リアリズム小説 3 (The Adventures of Huckleberry Finn
- 6: モダニズム小説 1 (アメリカ小説のモダニストたち)
- 7: モダニズム小説 2 (William Faulkner と"That Evening Sun")
- 8: モダニズム小説 3 (William Faulkner と *The Sound* and the Fury)
- 9: モダニズム小説 4 (William Faulkner の世界)
- 10: 多文化主義小説 1 (多文化主義とアメリカ小説)
- 11: 多文化主義小説 2 (黒人作家とユダヤ系作家)
- 12: 多文化主義小説 3 (Bernard Malamud と The
- 13: 多文化主義小説 4 (Philip Roth と"The Conversion of the Jews")
- 14:まとめ

# テキスト、参考文献

テキスト: プリントを使用 参考書:随時、授業にて紹介する

#### 評価方法

定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニ レポート。定期試験を重視する。

遠藤 朋之

#### 講義目的、講義概要

「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。 「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか? この授業では、 Native American (いわゆるインディアン)の口承詩から始める。 そして、着地点は、獨協に2度も来てポエトリー・リーデ ィングをした、ピュリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大 詩人、 Gary Snyder だ。さて、ネイティヴ・アメリカンの 詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重 要だ。なぜ、 Snyder とNative American の詩がつながる のか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、 それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできない ので、代表的な詩人の作品を精読する。詩は、れっきとし た言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といっ た表現に感動するのは、誰かが言ってから、日本文化の常 套となったものを、再確認して安心しているだけだ。この 授業では、太古、そして19世紀、20世紀の「前衛」、 つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たち の言語表現を、現在まで、大まかにたどる。

#### 授業計画

授業へは予習をして、なおかつ、頭をカラにしてくること。受講生には ときおり、質問をする。7、80人のまえでも、はっきりと自分の考えを、恥 ずかしがらずに言えるようにすること。

第1回:Introduction

第2回:Native American の詩

第3回:Walt Whitman, "Poets to Come!," "I Hear America Singing"など

第4 回: Emily Dickinson, "Because I could not stop for Death," "I taste a liquor never brewed" など

第5 回: Robert Frost, "Stopping by Woods on a Snowy Evening," "After Apple-Picking" など

第6回:Ezra Pound, Imagism 期の短詩、"Hugh Selwyn Mauberley I" など

第7回:Ezra Pound の The Cantos のいくつか

第8回:William Carlos Williams, "The Red Wheelbarrow," "Nantucket," "Poem" などの初期の短詩

第9回:Wallace Stevens, "The Snow Man," "Thirteen Ways of Looking at a Blackbird"

第10回:H. D., "Oread," "Heat" など

第11回:T. S. Eliot, "Preludes" など

第12回:Robert Lowell, "For the Union Dead" など

第13回:Sylvia Plath, "Daddy," "Lady Lazarus" 第14回:Gary Snyder, "Magpie's Song,""For the Children" など

第15回:モダニズムからポストモダンへの移行、そのまとめ

担当者

# テキスト、参考文献

現在、検討中。プリントにするか、それともテキストを使 うか、開講時に指示する。

多言語間交流研究各論VI(英語圏の詩 b)

#### 評価方法

2000 字以上のレポート。

講義目的、講義概要

# 講義の目的

ワーズワス (W.Wordsworth 1770-1850) の『水仙』な どの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味 わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る 能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギ リス詩である。

#### 講義概要

初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグース について講ずる。 次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派 そして最後にグレイ、ミルトン、シェ に焦点を当てる。 ークスピアの代表的な詩について管見する。 なるべく video などの視聴覚教材を利用する。

#### 参考文献

新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987

#### 授業計画

- 1. 詩形について
- 2. <マザーグース> I
- 3. <マザーグース>II video鑑賞、字幕なし、以下同

白鳥 正孝

- 4. <現代英詩アラカルト>I T.S.Eliot (1888-1965) DVD, video 鑑賞
- 5. <同>II T.Hughes(1992-1985))など,video 鑑賞
- 6. Alfred Tennyson(1809-92), Robert Browing(1812-89) DVD 鑑賞
- 7. <ロマン派の曙>W.Blake(1757-1827), DVD,video 鑑
- 8. <ロマン派の詩> I ワーズワス、DVD,video 鑑賞
- 9. <ロマン派の詩> II S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824) DVD 鑑賞
- 10. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) DVD 鑑賞
- 11. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞
- 12. Thomas Gray(1716-1771), "Elegy Written in a Country Churchyard"(1751)を読む。 video 鑑賞
- 13. John Milton(1608-74) Paradise Lost(1667)のさわ り、ソネット23. DVD,video 鑑賞

#### テキスト、参考文献

テキスト:薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』 北星堂 1987 (プリント)

#### 評価方法

テストを課す。 数回の video は、時に字幕なしなので、 100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努 力具合を見、平常点とする。

#### 講義目的、講義概要

英米の劇作品の台本(抜粋英文プリント)を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト(英文プリント)を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。

なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英 米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども とりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・ パフォーマンスであることを知って下さい。

遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。

授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として理由の如何を問わず、単位を認めません。

# \*\*\*注意事項\*\*\*

を進めていく予定です。

だ頃に説明します。

授業計画

全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ a」は英語 学科と国際教養学部の学生は「英語圏の演劇 a」として登録して ください。

教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品を

なるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業

レポートに関することなど、授業計画の詳細は履修登録が済ん

毎回の課題(英文プリントを舞台台本用に翻訳)はTOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600点以下でも 受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでくださ い。他に作品読み解きレポートを授業時に提出してもらいます。

#### テキスト、参考文献

英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。

#### 評価方法

観劇レポート (800 字) 2 編で 60%。授業で 40%。学期末定期 試験はしない。レポート (必修) 未提出者には単位を認めません。

講義目的、講義概要

養

多言語間交流研究各論Ⅷ (英語圏の演劇 b)

担当者

児嶋 一男

英米の劇作品の台本(抜粋英文プリント)を読みながら、現代 の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示 されているかについて考えてみましょう。テキスト(英文プリン

ト)を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本 語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その 翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施し てもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。

なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英 米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども とりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・ パフォーマンスであることを知って下さい。

遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。

授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として理由の如何を問わず、単位を認めません。

# 授業計画

教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品を なるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業 を進めていく予定です。

レポートに関することなど、授業計画の詳細は履修登録が済ん が頃に説明します。

#### \*\*\*注意事項\*\*\*

全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ b」は英語 学科と国際教養学部の学生は「英語圏の演劇 b」として登録して ください。

毎回の課題(英文プリントを舞台台本用に翻訳)はTOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600点以下でも 受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでくださ い。他に作品読み解きレポートを授業時に提出してもらいます。

# テキスト、参考文献

英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。

# 観劇レポート (800 字) 2 編で 60%。授業で 40%。学期末定期 試験はしない。レポート (必修) 未提出者には単位を認めません

評価方法

養外言	多言語間交流研究各論IX (国際語としての英語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(国際語としての英語)		担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
使用する人々をひえる。 用する人々を全全が 月からのでは、20億人では、「世界 大にとではるこな英語とは 本講義のような英語を がいるのような英語を でする。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般ではる。 一般では、こと、 一般では、こと、 一般では、こと、 一般では、こと、 一般でする。 一般で。	S英語母語話者に、公用語として英語を 外国語または「国際語」として英語を使 Sと 20 億人あまり英語話者がいるとい 同じ英語を話しているのだろうか。日本 は何なのであろうか。 英語(World Englishes)」そのものの理 目的とする。また、非英語母語話者とし を学習し、指導していけばいいかを模索 ディングやフィールドワーク)をしてき に講義である。 かれた文献を課題として出すこともあ	- Hawaii Creol - Ebonics - Spanglish な。 第8週:世界英語 - インド英語 - Singlish 第9~11週:世界 - ョーロッパと: - 中国と英語、 第12~14週:日2 - 日本での英語 - 日本の英語教	DOOP DOOP	イギリス英語など ける多様化 こおける多様化 - 英語

評価方法

スト (60%)

課題およびフィールドワークに基づいたレポート(40%)、期末テ

テキスト、参考文献

配布資料等有り。

第1回目の講義で発表します。

養外言	多言語間交流研究各論 X (多言語環境 信報・コミュニケーション研究特殊講義(多			臼井 芳子	
講義目的、講義概要 本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」(教育、サービス含む)の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのか考える。 出席を前提とする。また、課題(リーディングとフィールドワークなど)をしてきたことを前提とした講義である。 留意点:英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第 2~4 週:言語権、言語サービス、複言語主義、多言語主義など 第 5~10 週:日本の中の多言語と英語 -日本の中の多言語 -言語政策と教育 -各地方自治体の言語政策・言語サービス -言語意識教育 第 11~13 週:世界の言語政策と英語の位置づけ -内部圏:アメリカ、オーストラリアなど -外部圏:インド、シンガポールなど -拡大圏:フランス、韓国など 第 14 週:まとめ			
テキスト、参考文献 第1回目の講義で発 配布資料等有り。		<b>評価方法</b> 課題およびフィー スト (60%)	ルドワークに碁	<b>生づいたレポート (40%)、期末</b> テ	

養外言	多言語間交流研究各論 X I (英語圏の文 地域社会文化論特殊講義(英語圏の文化)		担当者	山本 英政	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画			
年間、50万人	5の移民を受け入れているアメリカ。現	1. ガイダンス			
在、その総数は3.	500万にも達し、総人口の12%も占	2. 国家建設とワ	'スプ主義		
めている。白人の割	副合は減る一方で、2050年には5割	3. 工業化と新移	民の流入		
を切るという。		4. 多民族社会の	問題		
国家の黎明期、万	アメリカはイギリス文化を模したワスプ	5. 異文化と差別			
(WASP <white anglo-saxon="" protestant="">) 社会を創造</white>		6. メルティングポット論			
した。19世紀末、	工業化に伴い膨大な数の移民を受け入	7. ビートニック	ス		
れた同国は多民族社	土会へと急速に変貌していったが、ワス	8. 冷戦とベトナ	ム戦争		
プ文化は依然として	て社会の根幹をなしていた。	9. カウンターカ	ルチャー		
冷戦下のベトナ	ム戦争は既存の文化に対抗するカウンタ	10. カウンター:	カルチャー		
ーカルチャーを生み	み、それまでのアメリカ的価値観に大き	11. 映像			
な揺らぎをもたらした。		12. 文化多元論			
	年、叫ばれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷 社会の変化を捉えながら辿り、この国の文化の特徴を		ョン		
明らかにする。		14. 多文化主義			
テキスト、参考文献	<b>#</b>	評価方法			
テキスト:なし		学期末試験			

受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

参考文献:授業で紹介する

養 外言	多言語間交流研究各論XⅡ(英語圏事 地域社会文化論特殊講義(英語圏事情)	青)	担当者	山本 英政	
講義目的、講義概要	į	授業計画			
グローバル化の理想	は、多国間の共生である。しかし、現状は欧	1. ガイダンス			
米、とくに経済と軍事	の強大な力をもつアメリカの影響力に圧倒さ	2. 銃社会アメリ	リカ		
れている。他方、世界に	はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力	3. "			
の虜となっている。硬質	軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界の	4. 9 1 1			
あるべき姿を考える。		5. アメリカと単	战争		
イスラム世界に対す	る軍事力の行使は、「力」を信望するアメリ	6. ベトナム戦争			
カの姿をわたしたちに	再認識させた。アメリカはその歴史において	7. 湾岸戦争			
自国の要求を受け入れ	ない相手国に対し、ときに容赦なく武力を用	8. イラク戦争			
いてきたのである。		9. "			
反面、大衆文化とい	う柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ	10. もう一つの911			
的なるもの」を発信し	つづけ、それは「文化帝国主義」との非難を	11. 映像			
誘起するほどに、人び	との生活様式を単一化させている。アメリカ	12. ソフト・パワー			
のハードとソフトの両	面パワーを明らかにし、グローバル化がすす	13. アメリカンポップカルチャーの力			
む世界に与える影響を考える。		14. "			
テキスト、参考文献	t	評価方法			
_	バリゼーションの文化政治』吉見俊哉 パワー』ジョセフ・ナイ 日本経済新聞	学期末試験受講希望者はガク	イダンスに必す	"出席してください	

養外言	多言語間交流特殊研究 I (翻訳通訳論・ 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳		担当者	横山 直美
講義目的、講義概要	ξ	授業計画		
の理解を目的とする 通訳・翻訳において その実技がどのよう が、ともするとおる 本講義では、通訳・ 介するとともに、 シー般についての理 第1回目の講義では	では、その実技面が強調されるあまり、 うな理論に立脚したものなのかという点 がなりになるきらいがある。 ・翻訳の一般的な理論・モデルなどを紹 通訳・翻訳を含む言語コミュニケーショ	1 2 3 言 注 3 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 2 3 3 2 3 3 4 4 3 3 3 3 4 4 3 3 3 3	ーとはた シュとなり リュとなり リカンカー リカンののでは、 野語 諸諸 関題 リカンカー リカンカー リカののでは、 野語 諸諸 リカンカー リカン リカン リカン リカン リカン リカン リカン リカン リカー リカン リカン リカン リカン リカン リカン リカン リカン リカン リカン	ーション ケーション
テキスト、参考文献	<b>†</b>	評価方法		
『初めて学ぶ翻訳』 『通訳の英語 日本	通訳 言語コミュニケーション入門』 語』	出席 30% レポート 30%	42 -27	3ける発表 40%

養外言	多言語間交流特殊研究IV(翻訳通訳実情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻	担当者	横山 直美	
ている英語の「知識を記したト信力を鍛える。 春学期の特殊研究 I 第1回目の講義では すること。基本的は 受講を認めないので なお、期末テストは トを実施する。	Rのトレーニングを通して、すでに持っ 成」を「スキル」に転化することを目的 トレーニングを行い、英語の受信力・発 を受講していることが望ましい。 は細かい指示を出すので、かならず出席 で初回の授業に欠席した者は、その後の で注意すること。 は実施しないが、毎回の授業で単語テス	授業計画  1 オットング スティン・アング スティング ステング トトテー アング トトテー アング トトテー アング トトテー アング ステーション スティング ステーション ステーシー ステーション ステーシー ステーシー ステーシー ステーション ステーション ステーション ステーション ステーシー ステーシー ステーシー ステーシー ステーシー ステーシー ステーン ステーシー ステーシー ステーン ステーン ステーシー ステーン ステーン ステーン ステーン ステーン ステーン ステーン ステー	ブ リプロダク: イックレスポ: スレーション スレーション ング (1) ング (2) (1) (2) (1) (2) (1)	ンス (1)
テキスト、参考文献 『トレンド日米表明 その他、随時プリン		<b>評価方法</b> 出席 30% 小テスト 20%	授業参加	50%

養外言	多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻		担当者	永田	小絵
講義目的、講義概要	講義目的、講義概要				
翻訳交流の歴史なかを探ります。 学期の後半では、写	中国における翻訳研究の歴史、日中間のどから翻訳がいかなる役割を果たしたとから翻訳作品を例にとって、日本語か中国語から日本語へ翻訳された場合の言対します。	<ol> <li>中国の翻訳</li> <li>中国の翻訳</li> <li>日中間の翻</li> <li>日中間の翻</li> <li>日中間の翻</li> <li>日中間の翻</li> </ol>	作品による言 作品による言 作品による言 作品による言 作品による言	2) 3) て(1) て(2) て(3) 語表現の比較 語表現の比較 語表現の比較 語表現の比較 語表現の比較 語表現の比較	
テキスト、参考文献	<b>;</b>	評価方法			
授業でプリントを配 指定教科書は使用し	, ,	出席率と期末レ	ポートで評価	します。	

養外言	多言語間交流特殊研究V(翻訳通訳実習・中国語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・中国 語)			担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要			計画		
毎回、短いテキス 応力と適切な表現え 【予習】 1. 日→中翻訳 課題の日本語を中間 2. スピーチの準備 毎回のテーマをも ります。 【授業】 (1) テキスト学習 1.復習と確認:(10	双方向の通訳練習をします。 トを徹底的に訓練することで、素早い反力を身につけることを目的とします。 国語に訳します。 とに自分で 200~250 字のスピーチを作 分間) て復習と確認をします。 分間)	<ol> <li>サマータイム導入に賛成か反対か(2)</li> <li>多動症(ADHD)(1)</li> <li>多動症(ADHD)(2)</li> <li>分煙化(1)</li> <li>分煙化(2)</li> </ol>		か反対か (2) 良くなるのか?(1) 良くなるのか?(2) ション(1)	
テキスト、参考文献 授業中にそのつど面			i <b>方法</b> に対する積	<b>亟性と期末</b> テ	ストで評価します。

多言語間交流特殊研究Ⅲ (翻訳通訳論・スペイン語) 柴田 バネッサ 担当者 外言 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・スペイン語) 講義目的、講義概要 授業計画 翻訳・通訳とは何か。実践例や演習を通して、翻 1. コミュニカティブな通訳・翻訳 訳・通訳の概要、西語と日本語の違いを把握する。 2. 通訳・翻訳の共通点と相違点 3. 通訳のプロセス・翻訳のプロセスと倫理 翻訳・通訳とは何か。日本語と西語の違い、文化 4. 通訳方法:同時通訳 • 逐次通訳 の違いは何か。こういった翻訳・通訳の基礎を、 5. 通訳·翻訳技法(1) 実践例を通して自分たちで探り、学習する。よい 6. 通訳・翻訳技法(2) 翻訳・通訳をするための基本を把握すると同時に、 7. 通訳·翻訳技法(3) 英語力を高める。 8. 通訳·翻訳技法(4)· 本講は、通訳とは何か"what"と、通訳者の役割 9. 通訳·翻訳技法(5) "why" と, そのための勉強/訓練方法 "how" の説 10. 字幕翻訳 明を行い、通訳技術を応用した翻訳方法について 11. 通訳・翻訳プレゼンテーション(1) 論じる。日本と欧米における翻訳通訳教育や研究 12. 通訳・翻訳プレゼンテーション(2) のアプローチの違いと問題点についても言及す 13. 試験 る。映画の字幕や広告のコピーの翻訳のようにエ 14. 予備日 ッセンスを効果的かつ端的に表現する方法につい ても解説する。

評価方法

授業への出席(30%)、参加度(30%)、課題(30%)、試験(10%)を総合して判定する

テキスト、参考文献

柏社

教科書 ローでリックジョーンズ『会議通訳』松

参考文献 河野一郎『翻訳のおきて』DHC

養外言	多言語間交流特殊研究VI(翻訳通訳実習・スペイン語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・スペイン語)		担当者	柴田 バネッサ
	- や文化について書かれたエッセイ 素材を実際に通訳・翻訳しながら	授業計画  1. オリンティンティス 3. 演演習 4. 額演習 5. 課題 1 5. 課題 1 7. が対 1 8. 課題 2 10. 課題 3 11. 課題 3 12. Make-up 14. 予備日	アル : : <sup>°</sup> ーカーによ	
テキスト、参考文献 プリント及び YouT	tube クラス内で指示する。	<b>評価方法</b> 出席・参加 (4 翻訳提出 (3 実技/語彙試験(	0 %)	

養	多文化共生研究 I (文化人類学 a)		担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要	₹	授業計画		
'primitive'と表現 表現されてきた)、 として始まった学問 つあるが、今までの は、文化の多様性を は、この学問の誕生 簡単に述べ、後半いて説明する。 注:文化人類学の 会」です。そ	9世紀後半、当時の西欧社会によってされた(日本では、おおむね「未開」と極めて異なった文化をもつ社会の研究間である。現在こうした文化は消滅しつ資料によってこれを追求してゆくことが知る上で無駄ではないだろう。春学期とまでの経緯、対象、視点などを前半ではこうした文化の事例と、その理解につい研究対象は上に述べたように「未開社らいうものに興味があるかどうか、よくどうか決めてください。		(2) (3) 「文化」の概 一歴史的視点 ら現在的視点 文化の事例と	
テキスト、参考文献		評価方法		
テキストはない。参	参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の	の試験による	٥

養	多文化共生研究 II (文化人類学 b)		担当者	井上	兼行
を明らかにしてゆく のあとこうした文化 うに理解するかを明 解の過程でわれわれ 加える努力もしてき 思う。 注:強制はできま	生基礎に、まず「異文化」(「未開」文化) 文化人類学の方法について述べる。そ との事例を具体的に示し、それをどのよ 月らかにする。また文化人類学はその理 自身の文化について意識化し、批判を きた。その点についても話ができればと とせんが、なるべく春学期の a を受講し くれることを望みます。	<b>授業計画</b> 1 方法としての第 2 同上 3 この回以降は第 可能になる自動になる自動に話す事例は、	(2) 文化の事例と 文化の意識化	その理解、また について話をす	
テキスト、参考文献 テキストけない 参	<b>状</b> ☆考文献は随時紹介する。	<b>評価方法</b> 定期試験期間中(	の試験による		
- / -1 / N   T    は/み V '。 多	2つ人間ATみ機型写相月 りる。	人工対J P VegX 2対J [日] 丁 V	ソファイの犬 (しょく)	0	

岡村 圭子

#### 講義目的、講義概要

私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。

本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会学的視点、社会学的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。

#### 授業計画

- 1. イントロダクション——社会学的な視座とは
- 2. 社会学の歴史 (1) ——A.コント、H.スペンサー
- 3. 社会学の歴史 (2) ——E.デュルケム
- 4. 社会学の歴史(3) M.ウェーバー
- 5. 社会の類型(1) ― コミュニティとアソシエーション
- 6. 社会の類型 (2) 一ゲマインシャフトとゲゼルシャフト
- 7. 社会の類型 (3) ——第一次集団
- 8. Identity形成と社会(1) ——鏡に映った自己
- 9. Identity形成と社会 (2) ——重要な他者
- 10. Identity形成と社会 (3) ——マージナル・マン
- 11. Identity形成と社会(4) 未定
- 12. 補完的アイデンティティについて(1)
- 13. 補完的アイデンティティについて(2)
- 14. まとめ

# テキスト、参考文献

G.ジンメル『社会学の根本問題 (個人と社会)』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社

M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣

# 評価方法

出席とレポート (履修者多数の場合、期末試験を行う)

養 多文化共生研究Ⅳ (社会学 b) 担当者 岡村 圭子

#### 講義目的、講義概要

わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。

本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会学的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。

#### 授業計画

- 1. イントロダクション
- 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム
- 3. 同調様式の3類型——D.リースマン
- 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ
- 5. 同心円地帯説——E.バージェス
- 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク
- 7. 「社会」問題と社会的視座(1)
- 8. 「社会」問題と社会的視座(2)
- 9. 予言の自己成就——R.K.マートン
- 10. 誇示的消費——T.ヴェブレン
- 11. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー
- 12. 文化的再生産——P.ブルデュー
- 13. コンフルエント・ラブ——A.ギデンズ
- 14. まとめ

# テキスト、参考文献

E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房

W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書原 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか 評価方法

出席とレポート (履修者多数の場合、期末試験を行う)

多文化共生研究V(異文化間コミュニケーション a) 担当者 岡村 圭子 外言 異文化間コミュニケーション論 a 講義目的、講義概要 授業計画 1. オリエンテーション あなたにとってなにが異文化/自文化か?そう訊ねら 2. 異-文化と自-文化 れたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文 4. コミュニケーションの構造 化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なと ――コンテクストとステレオタイプ ころにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異 5. 異文化へのまなざし(1)「日本」の表象 文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じ 6. 異文化へのまなざし(2) 自文化中心主義 ることもある。 7. 異文化へのまなざし(3) 未定 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研 8. 内なる異文化(1) 究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関 9. 内なる異文化(2) 係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化 10. マルチカルチュラリズムについて(1) 的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることであ ――文化的差異の承認をめぐるジレンマ る。そのうえで、異文化への/からの「まなざし」につい 11. マルチカルチュラリズムについて(2) て、また多文化共生の理想と現実について考えていきた -多文化教育の視点 い。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテー 12. マルチカルチュラリズムについて(3) マであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の ――多層的アイデンティティ 糸口を探してほしい。 13. 相互行為分析と異文化研究 14. まとめ

lead 1 Tr 1 II N E		п	) W) W)		
養外言	多文化共生研究VI(異文化間コミュニケーション b) 異文化間コミュニケーション論 b		ンョン b)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要	Ţ	授業	計画		
本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハ ワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め		<ol> <li>2. モザイク国家アメリカ</li> <li>3. ロス暴動に見る共生の現実</li> </ol>			
合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、 人種、民族間に生じる摩擦により、ときに多大な犠牲		<ol> <li>4. 奴隷制下の人種共存</li> <li>5. 奴隷解放?現実は?</li> <li>6. 自由と平等への戦いのはじまり</li> </ol>			
が払われた。 11週目までは、黒人による差別撤廃運動の過程を 紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、どれだけ人		<ol> <li>公民権運動の共生理念</li> <li>非暴力不服従 ガンジーとキング</li> <li>急進派ブラック・パワーとは</li> </ol>			
種間の対話は進展を見たのだろうか。		10.	モハメッド・	アリ	

評価方法

合もある)

出席とレポート(履修者の状況によってはテストになる場

テキスト、参考文献

中心に解説する。

岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社

残りの週では、多民族共存のひとつのモデルともい 11. 映像

われるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの

島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を

# テキスト、参考文献 評価方法 『アメリカ黒人の歴史』本田創造 岩波新書 学期末試験 『キング牧師とマルコム X』上坂昇 講談社現代新書 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください 『ハワイの日本人移民』山本英政 明石書店

12. 多民族混合社会ハワイ

13. ハワイの経験-多民族の取り込み-

多文化共生研究各論 I (アメリカの多文化共生 a) 担当者 佐藤 唯行 外言 地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリー a) 講義目的、講義概要 授業計画 1. 日本のマイノリティ、アイヌ 日米に定住する代表的マイノリティ(被差別少数派)の 2. 日本のマイノリティ、在日(日系)ブラジル人 歴史と現状について学ぶ。とりわけ多数派の側から加えら 3. 日本とユダヤ れてきた抑圧・差別を生み出すメカニズムについて詳しく 4. 反ユダヤ主義 解明する。同時に多数派側からの抑圧をはねのけ共生の道 5. ビジネスの世界のユダヤ人 6. ユダヤの文化 を模索してきたマイノリティ集団側の主体的努力につい 7. ユダヤの宗教 ても学ぶ。 8. 多民族社会イスラエル 9. 合評会第1回、文庫本 第4章まで 10. 合評会第2回、文庫本 第5章以降 11. 在日中国人 12. 在日コリアン 13. 被差別部落問題 14. 在日黒人

養	多文化共生研究各論 II (アメリカの多文化共生 b)	担当者	佐藤 唯行

地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリー b)

# 講義目的、講義概要

外言

テキスト、参考文献

映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的と します。

佐藤唯行著,「雑学3分間,ビジュアル図解シリーズ,日本人

が知らない!ユダヤの秘密」(PHP 研究所, 2009年) 1300円、こ

の他、合評会用に400円程の文庫本を入手していただく。

毎回十数本の映像ソフトを担当者が持参し、具体的場面をピックアップしながら、各エスニック・グループが抱えているジレンマ・課題などを解説していく。つまりエスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。

かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では 20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。

#### 授業計画

評価方法

合評会

出席

- 1. はじめに
- 2. 先住民インディアン
- 3. 越境するヒスパニック

16 点

- 4. 今を生きる黒人
- 5. 歴史の中の黒人
- 6. " "
- 7. 等身大のユダヤ人
- 8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター

定期試験 70点 試験はテキスト持ち込み可。

14点 でカウントする。

- 9. 歴史の中のユダヤ人
- 10. アジア系-日系・中国系・韓国系-
- 11. ホワイト・エスニック-アイルランド系・イタリア系 など過去において蔑視された白人集団
- 12. 異人種・異教徒間カップル
- 13. "
- 14. おわりに

# テキスト、参考文献

佐藤唯行著,『映画で学ぶエスニック・アメリカ』(2008 年 NTT 選書) 1600 円

#### 評価方法

出席は14点分でカウントする。定期試験は86点分。試験は8択、20題のクイズ形式。テキスト持ち込み可。

井上 兼行

#### 講義目的、講義概要

養

わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方も世界観も、われわれ(文明)のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。

注:文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。

#### 授業計画

詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」「動物」といったテーマを考えている。それぞれのテーマについて「未開」文化における認識の事例を挙げ、それを理解し、そのことを通してわれわれの認識の仕方の特徴を少しは客観化して考えることができる。

# テキスト、参考文献

テキストはない。参考文献は随時紹介する。

#### 評価方法

受講者が多ければ(例えば50人以上なら)定期試験中の試験によるし、少なければ(例えば30人程度なら)レポートにすることもありうる。

講義目的、講義概要

多文化共生研究各論IV(異文化社会の認識と世界観 b)

担当者

井上 兼行

わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方も世界観も、われわれ(文明)のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。

注:文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に卿味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。

#### 授業計画

「世界観」を頭において話をしてゆく。詳細な内容も回数も明示できないが、「創世神話」「祖先崇拝」「呪術」「象徴的二元論」といったテーマを考えている。こういう現象のなかに「未開」の「世界観」を見ることができると思うし、それを通してわれわれの世界観の特徴を少しは客観化して考えることができる。

#### テキスト、参考文献

テキストはない。参考文献は随時紹介する。

#### 評価方法

受講者が多ければ(例えば50人以上なら)定期試験中の試験によるし、少なければ(例えば30人程度なら)レポートにすることもありうる。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養外言	多文化共生研究各論 V (比較社会論) 比較社会論 b	担当者	井上 兼行
-----	--------------------------------	-----	-------

#### 講義目的、講義概要

どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げる。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解するようにしたい。

「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などについて、まず講義を行う。

またいくつかの社会の家族については、論文を用意し、 受講者に配布して、読んでもらい、発表してもらう。そう いう形をとって「異文化」の(文化人類学だから内容的に は「未開」の)さまざまな家族について知識を得てもらい たい。そうすることでわれわれのもつ家族についても批判 的な知見をもてるはずである。

#### 授業計画

人間の「家族」は、動物がもたぬ「婚姻」によって成立する、ということから話を始める。婚姻のいろいろな形、意味、親族との関係など、話すことはいくらもある。その間に家族について読んでもらう論文を用意し、配布する。今予定しているのは、アフリカ、ネパール、バングラデシュ、サモア、カナダ・インディアン、インドなどの社会のものである。これらのなかから選択して読んでもらうと同時に、希望に応じて発表してもらい、また読まないものについては、その発表を聴くことで知識を得てもらう。何回目に何をするか、授業が始まってから決めることになる。

# テキスト、参考文献

論文は用意する。しかし登録者が多い場合、みんなに論文 を配布し、読んでもらうことはできない。希望者に限る。 また、その他、必要な文献については随時紹介する。

#### 評価方法

レポートを書いてもらって評価したいと思っているが、登録者が多い場合は試験にすることも考えている。

多文化共生研究各論VI(比較文化論) 担当者 岡村 圭子 外言 比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化) 講義目的、講義概要 授業計画 本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーショ 1. オリエンテーション ンという現象に注目しながら、異文化を比較するというこ ―異文化を比較するということ と、さらに、グローバリゼーションがもたらした「文化の 2. グローバル化するローカル文化(1) 融合」あるいは「文化変容」について考える。受講者は本 ---情報化社会と文化産業 講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置か 3. グローバル化するローカル文化(2) れるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な ――文化のオリジナリティ 点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらた めて意識してもらいたい。さらに、そこで考えたことをべ 4. 異文化を比較する(1)時間、空間 ースに、実際に自分でみつけた事例の異文化比較をし、レ 5. 異文化を比較する (2) Japanimation と Disney ポート発表をしてもらう。 6. 異文化を比較する(3)未定 講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較すること 7. 異文化を比較する(4)未定 によって、なにが見えてくるのか、異なった文化を「比較 8. 文化帝国主義と「英語」使用 する」ということはどのようなことなのか、そして、異な 9. オリエンタリズムをめぐって った文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわ 10. 異文化の翻訳「不」可能性について(1) れているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳可能性を 異文化の翻訳「不」可能性について(2) テーマに、具体的な事例(資料映像・記事など)を用いて 11. 文化変容と異文化の融合(1) 1.2 ディスカッションする。 13. 文化変容と異文化の融合(2) 14. まとめ

	<u> </u>		
養外言	多文化共生研究各論\( (地域メディア論) 比較文化論特殊講義(地域メディア論)	担当者	岡村 圭子

評価方法

出席とレポート

# 講義目的、講義概要 授業計画

Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。

■村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社

本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた/いる/いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。

学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・ 発表してもらう。

- 1. イントロダクション
- 2. グローバル化とローカルコミュニティ
- 3. 地域・地方文化の復権とメディア
- 4. 各地の地域メディア(1)
- 5. 各地の地域メディア (2)
- 6. 各地の地域メディア (3)
- 7. メディアによる地域文化の創造(1)
- 8. メディアによる地域文化の創造(2)
- 9. 多文化共生と地域メディア(1)
- 10. 多文化共生と地域メディア(2)
- 11. 多文化共生と地域メディア(3)
- 12. 受講者による発表(1)
- 13. 受講者による発表(2)
- 14. まとめ

#### テキスト、参考文献

テキスト、参考文献

早川善治郎編『現代社会理論とメディアの諸相』中央大学 出版部

田村紀雄編『現代地域メディア論』日本評論社

#### 評価方法

出席と発表 (履修者多数の場合、レポート)

養外言	多文化共生研究各論VII(大衆文化論) 比較文化論特殊講義(大衆文化論)			担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要	E	授第	<b>禁計画</b>		
理解を深めることをした産業の成長は、せてきた。講義では領域を対象に、文イく。講義の軸は社会		10 11 12 13 14	20世ッサッサッサッ産ヤヤ複複まのサイクブグラブププ業ンン合合といいが、ルモルッルッ文ーーデデルのサチ入チのチプチプ化文文イイ	・ブカルチャーフカルルチャーフカルングローン とうかい とうが がったい かんとの かい かい がり がり がり がり がったい かい	
テキスト、参考文献	<del>戊</del>		五方法		
随時指定する		試懸	食により評価	する	

養外言	多文化共生特殊研究 I (滞日外国人研究) 比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)		担当者	田房	由起子	
講義目的、講義概要		授業計画				
本講義の目的は、	日本社会における外国人の状況を知る	1.	ガイダンス	<ul><li>日本におけ</li></ul>	トる外国人の概	況(1)
ことにより、国際和	多動によって「異文化」の中で生活する	2.	日本におけ	る外国人の概	<b>モ</b> 況(2)	
人々の抱える問題に	こついて理解を深めることである。	3.	なぜ人は移	動するのか		
まず、かれらのキ	犬況について理解するために、人の国際	4.	人種とエス	ニシティ		
移動や、人種、エス	スニシティに関する理論について紹介す	5.	オールドカ	マーとニュー	カマー (1)	
る。次に、いくつた	かのエスニック集団を紹介し、特に子ど	6.	6. オールドカマーとニューカマー (2)			
も達が直面する問題	夏について取り上げたい。また、受け入	7. オールドカマーとニューカマー (3)				
れ社会側の人々が、	国際移動してきた人々についてどのよ	8. エスニシティとジェンダー・階層				
うに認識し対応して	ているかといった点についても検討し、	9. 子どもたちと教育				
そこから「多文化却	+生」の可能性を模索したい。	10. 子どもたちと教育・アイデンティティ				
なお、本講義では	は受講者が講義内容を理解しやすいよう	11. 差別と「多文化共生」				
に、新聞記事、テレ	<ul><li>ビ番組などの教材を使用する予定であ</li></ul>	12. 統合と「多文化共生」				
<b>ప</b> 。		13.	総括			
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献		評価方法			
テキストは特になし 参考文献は授業時に	ン。必要に応じてプリントを配布する。 こ紹介する。				ぶ必要条件、20 険(40%)によ	%)、授業内で り評価。

養 外言 多文化共生特殊研究Ⅱ (アメリカ合衆国のラティーノ社会) 地域社会文化論特殊講義(アメリカ合衆国のラティーノ社会)

担当者

佐藤 勘治

#### 講義目的、講義概要

この講義では、米国におけるラティーノ概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーノ社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。

一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーノの「人種」化である。ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。

#### 授業計画

第1回

はじめに:複数形のアメリカ「アメリカス」の時代へ

#### ラティーノ(米国のスペイン語系住民)

- ①センサスから見る米国の人種・民族集団概念
- ②米国ラティーノの特徴と出身地域ごとの特徴
- ③ヒスパニックからラティーノへ:人種化するラティーノラテンアメリカから米国への人の移動
- ④なぜ人は移動するのだろうか。
- ⑤移動の歴史1:キューバ系とプエルトリコ系
- ⑥移動の歴史2:メキシコ系
- ⑦移動の拡大と最近の移民規制: 北米自由貿易協定と国境 線の警備強化

### チカノ(米国のメキシコ系住民)

- ⑧チカノ・ルネサンス 壁画運動など
- ⑨セサル・チャベスとチカノ運動
- ⑩チカノと先住民:アストラン伝説と「アストラン宣言」
- ⑪プエブロ・インディアン:米国先住民とはだれか
- +メキシコ先住民の米国への移民
- ② 米国における多文化主義とラティーノ
- 第14回 講義のまとめ 小テスト

#### テキスト、参考文献

参考文献:中條献『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など 授業中に必読文献リストを配る **評価方法** 小テスト、レポート、出席、発言の総合評価

外言

多文化共生特殊研究Ⅲ (カリブ海域社会の民族関係) 地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化 b)

担当者

井上 兼行

#### 講義目的、講義概要

カリブ海域社会は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまずその歴史をしっかり知ってもらいたい。そしてそれを基礎にした、複雑な民族構成、錯綜した民族関係とその意識を知り、さらにこの地域の特徴とされるクレオル語を中心とした複雑な言語および言語構成を理解する。ただ、これだけだとあまりに基礎的な知識を得てもらうだけでつまらないとも考えている。それで、わたしが調査した「家族」「マーケット」、人口に膾炙した「音楽」などについて話を挟むことになるかもしれない。右の授業計画は暫定的なものと考えてもらいたい。

注:この地域の社会は規模も小さく、資源もありません。 したがって世界のなかで政治的・経済的に全く力をもっていません。ただ人間はいるのだし、それぞれに独特の文化や意識をもって生活していることだけは確かです。そういうことだけで十分興味があるという人が受講してください。

### 授業計画

- 1カリブ海域鳥瞰
- 2資料(本、ビデオ、CDなど)紹介
- 3 歴史(1)
- 4 歴史(2)
- 5 歴史(3)
- 6民族・住民---白人と黒人
- 7民族・住民——黒人同士(1)
- 8 民族・住民——黒人同士 (2)
- 9民族・住民---黒人とインド人
- 10 言語分布鳥瞰
- 11 クレオル語の成立
- 12 各クレオル語解説(1)
- 13 各クレオル語解説 (2)
- 14まとめ

# テキスト、参考文献

テキストはない。参考文献は随時紹介する。

#### 評価方法

受講者が少ない場合は、何度もレポートを出してもらうことも含め、出席を厳しく取る。また提出レポートで評価する。多い場合は、試験にすることも考えている。

養 外言	国際交流研究 I (国際関係論) 国際交流特殊講義 (国際関係・日米中)		担当者	山本 秀也		
講義目的、講義概要	į	授業計画				
とする諸君を対象についる。 は、教子の関係の事的なの国際教育のの国際教育のの国際教育のの国際教育ののののの理解を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	(く国際的な視野で教養を身につけようと、現代の世界を読み解くために必要ない、現代の世界を読み解くために必要ないな学ぶ。柱となる国際政治についた。 後安全保障といった今日的な課題についたがではく。国際紛争や軍備・軍縮についた。 がではとどまらない専門分野にも一部路は、トを活用した理論の把握に加え、現在 がはたが、は、は、で、 は、上では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	2 多様保証 ・ 和のリ化人宗発報 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1 4 1	一編の流れ 維持 潮流 ゼーション 防止をめぐる 道問題	国際動静課題		
テキスト、参考文献		評価方法				
村田晃嗣・君塚直隆 際政治学をつかむ』	を・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国 (有斐閣、2009 年)	期末定期試験をや課題)も評価		平常の受講状況(出席、発	言	

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
テキスト、参考文献		評価方法		

養 外言	国際交流研究Ⅱ (国際協力論) 国際関係概論 a		担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
一向になくならない 〇 (平和維持活動) 構築や経済開発・負 有機的に結びつける 険な状況下で効果 の重要課題のひとへ 本講義ではこれ 事例、成果や限界に	也域紛争が絶えない。また貧富の格差もい。こうした諸問題を前に、我々はPKやODA(政府開発援助)を軸に平和資困緩和に取り組んできた。この2つを3こと、すなわち紛争中やその前後の危的な開発援助を進めていくことも今日のである。 らの国際協力の基本的枠組みや具体的こついて学び、それを通じて国際関係を養することを目標とする。	4. 日本のPl II. 地域紛争と 5. 武力紛争。 6. 和平合意 7. 地域紛争。 8. 地域紛争。 III. 平和協力と III. ア和協力と	と原具K平ととと終期爱全とと展・P以体のわれ平平括発助保復予望平区の変:法力を維めののので興防の本籍を助保を予望でいる。 できる できる できる できる いっこう はいい しょう はいい しょう はいい はい	ンビークの場合 エルサルバドルの場合(1) エルサルバドルの場合(2) 果と限界 合 ) の理念と枠組み 模索 課題

参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験(これ	に出席状況を	加味する)。	
養 外言	国際交流研究 V (南北問題) 国際関係概論 b		担当者	浦部 浩之	
講義目的、講義概要	授業計画				
る。そして世界人口 ル以下の生活を強い から向き合わなけれ 要だがそれを環境に と自由競争の社会で	引の約8割は発展途上国に暮らしていいの約5分の1(約12億人)は1日1ドいられている。我々は今この問題に正面はならない。たとえば、経済開発は重に負荷を与えずに行えるのか。市場経済で脆弱な貧困層にいかなる社会政策(教と進めていけばよいのか。先進国によるいるべきか。	<ul><li>2. 貧困と環</li><li>3. 持続可能</li><li>4. 地球温暖</li><li>Ⅲ. 南北問題と</li><li>5. 第三世界</li></ul>	問題と南北対 境破壊 な開発の模索 化(気候変動 開発援助	・ 枠組み条約)と南北関係 ナショナリズム	

評価方法

本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課 題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を 涵養することを目標とする。

テキスト、参考文献

8. 南々格差の拡大と新しい開発援助戦略

7. 石油危機と第三世界の結束

- Ⅲ. 南北問題の争点 9. 経済のグローバル化と貧困問題
  - 10. 世界の食糧問題
  - 11. 世界のエネルギー問題
  - 12. 世界の水問題と砂漠化問題

# IV. 南北問題の展望

- 13. 国連ミレニアム開発目標
- 14. 日本の国際協力のあり方

# テキスト、参考文献 評価方法 参考文献は授業で随時紹介する。 期末試験(これに出席状況を加味する)。

養外言	国際交流研究Ⅲ(国際機構論) 国際機構論 a		担当者	鈴木 淳一	
とえば、安全保障に関するとは、大きなは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが	国際社会が抱える地球規模の問題(たテロ、世界規模の感染症等)とそれへ国際組織)の取り組みについて理解する。 以政府は存在しません。しかし、多様なとともに、国際社会の共通利益の実現のと担っています。本講義では、これら野をとりあげて、国際組織が各分野をとりあげて、国際法の知識は必ずしも必ず、大国際法の知識は必ずしも必ず、共変のは主に国際法の規点から一連の講義に先立ち、国際社会と国際社会と国際法レクチャーを行います(なお国際教養学の場合は2年生以上で受講することをお数室で行う通常の授業を補うため、授業な等を活用して、教員とのコミュニケー	3 4 分争 Ø G G G G G G G G G G G G G G G G G G	織平平障障理人易助文健関と和和にに・道・と化にわ	的解決に関わ 関わる国際組 関わる国際組 軍難民問題に 国際金融に関	織(2) に関わる国際組織 関わる国際組織 わる国際組織 わる国際組織 組織
7 1 1 1 1 2 3 2 1 1 1 1	▲ 〈わかる国際法』(ミネルヴァ書房)		期末	に実施する試	験と出席により評価します。

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
テキスト、参考文献	<del>\</del>	評価方法		

講義目的、講義概要	ξ	授業計画		
		=== /== >		
テキスト、参考文献	Χ	評価方法		

養外言	国際交流研究IV(NGO 論) 国際交流特殊講義(NGO 論)		担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要	; ;	授業計画		
講義目的、講義概要  紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発(貧困)問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助(ODA)の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 さらには、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程(オタワプロセス)やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する  (受講生への要望) 世界各地で起きている諸問題について、自分なりの視点で考えてみたいと思う人に受講していただきたい。		③~④「対テロ戦 状 ⑤パレスチナの現 ⑥NGOによる復 ⑦~⑧ 対人地雷	争」と市民社 状とNGOの 興・開発協力 の廃絶キャンペー 単禁止条約の) る紛争と復興 るHIV/A NGO の日本と私た	の事例 (カンボジア) ->に学ぶNGOのネットワーク 成立過程に学ぶ市民社会の
テキスト、参考文献	<del>-</del>	評価方法		
	9-著『NGO の選択』(めこん 2005年) スター爆弾なんてもういらない』(合同	リポート提出。平常技	受業の課題な	ど。

			担当者		
講義目的、講義概要	Ē	授業計画			
テキスト、参考文献	<b>*</b>	   評価方法			
養外言	国際交流研究VI(情報とメディア) マス・コミュニケーション論 b		担当者	森 保裕	
講義日的 講義概要	<u> </u>	<b>超業計画</b>		ı	

養外言	国際交流研究VI(情報とメディア) マス・コミュニケーション論 b			担当者	森	保裕
日本のエストーストーストーストーストーストーストーストーストーストーストーストーストース	な割、実態、問題点について考える一方、 報道、中国や台湾のメディアの在り方に	2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、	際報の報のと・ビ報の報の報のと・ビ報の報のと・ビ報の報のと・ビ報報を報道と・	- ドディア ・ディア ・ ・ 権 ・ 論説の功罪 ・ 道 ・ 道	機	
テキスト、参考文献 新聞購読を推奨	*	評価方法 出席、リポー	- F			

国際交流研究各論 I (国際政治論 a) 担当者 星野 昭吉 外言 国際政治論 a 講義目的、講義概要 授業計画 国際政治(世界政治)の現在は著しく日常化し、我々の 1 国際政治学の基本的課題-グローバル政治の構造-生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、 2 国際政治の構造的変動 - 冷戦構造崩壊の意味 -核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛 3 現代国際政治の新しい枠組み-湾岸危機・戦争- (1) 争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・ 4 現代国際政治の新しい枠組み-湾岸危機・戦争- (2) エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、など 5 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー(1) の地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑 6 現代国際政治の新しい枠組み-ソ連邦の崩壊- (2) で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、そ 7 グローバル政治の形成と意義 の特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済、文 8 世界政治と平和財 化、地球環境破壊などの実態や問題を地球環境財という視 9 世界政治と安全保障財 点から検討していく。 10 世界政治と人権保障財 11 世界政治と貧困・不平等・不正義 12 世界政治と環境保全財 13 知識財 14 グローバル政治の中の日本

星野昭吉『世界政治と地球公共財』同文舘(テキスト)

# 評価方法

試験、レポート(書評)、出欠状況による総合評価。

#### 講義目的、講義概要

今日の我々の生存と日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治(世界政治)の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性と必要性などの検討が要求されている。そうした国際政治の形成・維持・展開・変容・変革の過程が現状維持志向秩序勢力(コミュニタリアニズム中心的秩序勢力)と現状変革志向秩序勢力(コスモポリタニズム中心的秩序勢力)との弁証法的運動によって規定されている。それらの勢力を構成する政治権力、経済秩序勢力、安全保障秩序勢力、アイデンティティ勢力、環境保全勢力などから国際政治(世界政治)の弁証法的運動をみていく。

#### 授業計画

- 1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論
- 2 事例-戦後日米関係の展開過程- (1)
- 3 事例-戦後日米関係の展開過程- (2)
- 4 事例-戦後日米関係の展開過程- (3)
- 5 事例-戦後日米関係の展開過程- (4)
- 6 世界政治における権力の弁証法- (1)
- 7 世界政治における権力の弁証法- (2)
- 8 世界政治における安全保障の弁証法- (1)
- 9 世界政治における安全保障の弁証法- (2)
- 10 世界政治における経済勢力の弁証法- (1)
- 10 世外政府にわける経済努力の弁証伝ー(1
- 11 世界政治における経済勢力の弁証法- (2)
- 12 世界政治におけるアイデンティティ政治の弁証法
- 13 世界政治における環境問題の弁証法

#### テキスト、参考文献

星野昭吉『世界秩序の変動と弁証法』(テイハン)

#### 評価方法

試験、出欠状況、レポート(任意)による総合評価。

養 外言	国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論 a) 国際経済論 a			担当者	益山 光央		
講義目的、講義概要	Ę	授業計画					
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な 考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般 均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすす んだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展		<ol> <li>国際貿易概観</li> <li>リカード的比較優位説</li> <li>ヘクシャー・オリーン定理</li> <li>ヘクシャー・オリーン定理</li> <li>国際貿易の一般均衡</li> </ol>					
開を心がけたいと思ます。私語厳禁。	思います。受講生には予習と復習を求め	6 7 8 9 10 11 12 13 14	経済成 国際資 関税・ 関税・ 関税・ 輸入補	易の一般均衡 長と移動と移入入と 輸入入数量制出 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	主規制		
テキスト、参考文献		評価方法	<b>.</b>				
大山道広・伊藤え	正重『国際貿易』 岩波書店	定期記	式験 8 0 °	%、出席20	%		

養外言	国際交流研究各論IV(国際経済論 b) 国際経済論 b			担当者	益山	光央
講義目的、講義概要	Ę	授業計画	Ξ .			
春学期に扱った貿易	B理論とともに国際経済学の大きな柱	1	国際収	支と国民所得	勘定	
である国際収支調整	<b>をメカニズムに関連する事柄を学びま</b>	2	国際収	支と国民所得	勘定	
す。国際収支の赤穹	と、黒字からはじまり、だんだんと高度	3	外国為	替市場		
な内容へと移行しま	ミす。すべて基本的内容なので、きちん	4	外国為	替市場		
と理解する必要があ	らります。	5	5 外国為替市場			
春学期の国際経済諸	âa を履修しているほうがより理解が	6	6 固定相場制下の所得決定			
深まります。私語崩	<b>焚禁</b> 。	7	固定相場制下の所得決定			
		8	8 変動相場制下の所得決定			
		9	9 変動相場制下の所得決定			
		1 0	0 国際収支と財政・金融政策			
		1 1	1 国際収支と財政・金融政策			
		1 2	2 国際資本移動と財政・金融政策			
		1 3	3 国際資本移動と財政・金融政策			
		1 4	質問と	まとめ		
テキスト、参考文献		評価方法	<b>.</b>			
未定		定期記	式験 8 0 °	%、出席20	%	

 養
 国際交流特殊研究 I (日本政治外交史 a)
 担当者
 福永 文夫

 外言
 日本政治外交史 a

#### 講義目的、講義概要

21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。

本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力ーとくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを見てみる。

受講者には、歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えるという姿勢をもってもらいたい。

#### 授業計画

- 1. はじめに―戦後日本と国際環境―
- 2. 日米戦争への道
- 3. 米国の占領政策(1) -ローズベルト政権
- 4. 米国の占領政策(2) 国務省知日派の闘い
- 5. 米国の占領政策 (3) ーヤルタからポツダム
- 6. 敗戦
- 7. 占領の開始
- 8. 政党の復活―戦前と戦後
- 9. 新憲法の誕生(1)
- 10. 新憲法の誕生 (2)
- 11. 占領改革
- 12. 戦後日本の出発-政党政治の復活
- 13. 中道政権の形成と崩壊―改革から復興へ―
- 14. おわりに

#### テキスト、参考文献

【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生-1945~1964年』 丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳-戦後保守とは何か』中公新書。

#### 評価方法

講義中に行う平常試験(50点)と年度末の定期試験(50点)によって判定する。詳細は講義中に指示する。

養 国際交流特殊研究 II (日本政治外交史 b) 相当者 福永 文夫 和言

#### 講義目的、講義概要

21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。

本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から 55 年体制を経て 70 年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力-とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。

受講者には、歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えるという姿勢をもってもらいたい。

### 授業計画

- 1. はじめに一国際社会と戦後日本一
- 2. 吉田茂の再登場
- 3. 講和への胎動
- 4.「全面講和論」の展開
- 5. 講和をめぐる国際関係
- 6. サンフランシスコ講和
- 7. 保守勢力の混迷
- 8. 「55年体制」の成立-保守合同と社会党の統一
- 9. 鳩山・岸内閣
- 10. 60年安保騒動と政党政治
- 11. 高度成長期の政治-池田・佐藤政権
- 12. 混迷の 70 年代(1)
- 13. 混迷の 70 年代 (2)
- 14. おわりに

# テキスト、参考文献

【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生-1945~1964年』 丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳-戦後保守とは何か』中公新書。

#### 評価方法

講義中に行う平常試験(50点)と年度末の定期試験(50点)によって判定する。詳細は講義中に指示する。

養 外言 国際交流特殊研究Ⅲ (アジア太平洋地域交流 a) 地域経済論 ii a

担当者

高安 健一

#### 講義目的、講義概要

この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。

講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の 多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概 念が定着してから半世紀も経っていません。

もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国 を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発 展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、 日本との経済関係などについて解説します。加えて、各国 が直面している経済的課題を取り上げます。

受講生が講義内容を、就職活動のみならず卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 b (国際交流特殊研究IV (アジア太平洋地域交流 b)・地域経済論 ii b) も履修して下さい。第1回の講義に必ず出席すること。

#### 授業計画

- 1. 講義の目的、成績評価
- 2. 東南アジア経済の概要と課題
- 3. タイ:経済発展の軌跡と特徴
- 4. タイ:タクシン元首相と経済的停滞
- 5. シンガポール:経済発展の軌跡と特徴
- 6. シンガポール:産業高度化戦略
- 7. シンガポール: 多国籍企業の活動
- 8. マレーシア:マハティール元首相の発展戦略
- 9. インドネシア:経済再生への課題
- 10. ベトナム:ドイモイ(刷新)政策
- 11. カンボジア:経済復興から経済成長への道筋
- 12. ミャンマー:長期経済停滞の背景
- 13. ラオス:対外開放戦略への転換
- 14. 講義のまとめ

# テキスト、参考文献

教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義 で紹介する。

#### 評価方法

出席 20%、学期末テスト 80%

外言

国際交流特殊研究IV (アジア太平洋地域交流 b) 地域経済論 ii b

担当者

高安 健一

#### 講義目的、講義概要

この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合(ASEAN)について学習します。

講義の柱は3つです。第1は、1967年に発足したASEAN がいかなる経緯を経て地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを学習することです。ラオス、カンボジア、タイ、ベトナムなどで構成されるメコン地域の開発構想についても解説します。

第2は、ASEAN における経済発展の担い手である華橋・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。

第3は、我が国が ASEAN のさらなる経済発展のために 担うべき役割を考えることです。

受講生が講義内容を、就職活動のみならず卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 a (国際交流特殊研究Ⅲ (アジア太平洋地域交流 a)・地域経済論 ii a) も履修して下さい。第1回の講義に必ず出席すること。

#### 授業計画

- 1. 講義の目的、成績評価等
- 2. 経済発展の軌跡と課題
- 3. 地域経済共同体としての ASEAN: 形成過程
- 4. 地域経済共同体としての ASEAN : 共同体の実現
- 5. 地域経済共同体としての ASEAN: 将来構想
- 6. ASEAN の域外自由貿易協定(FTA)戦略
- 7. 大メコン圏開発: 開発構想と南部経済回廊
- 8. 大メコン圏開発:東部経済回廊
- 9. わが国自動車メーカーの事業展開
- 10. 邦銀の事業展開
- 11. 経済発展と華僑・華人資本
- 12. わが国と東南アジアの経済関係: ASEAN の視点
- 13. わが国と東南アジアの経済関係:日本政府の視点
- 14. わが国と東南アジアの経済関係:日本企業の視点 講義のまとめ

#### テキスト、参考文献

教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義 で紹介する。

#### 評価方法

出席 20%、学期末テスト 80%

一之瀬 高博

# 養

#### 講義目的、講義概要

#### [講義目的]

国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。

#### 〔講義概要〕

主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。

#### [注意事項]

この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては3年生以上に開講されるが、国際教養部必須教養科目「グローバル・ガバナンス a」としては2年生以上に開講される。国際教養学部生が2年生で受講する場合には、「国際交流研究Ⅲ(国際機構論)」、全カリ「国際法 1」、「国際法2」のいずれかを受講していることが望ましい(並行しての受講でもよい)。

#### 授業計画

- 1 講義の概要
- 2 環境問題と国際社会
- 3 国際環境問題の法的紛争類型
- 4 越境汚染と領域使用の管理責任
- 5 無過失責任条約
- 6 国際公域の環境保全と責任
- 7 国際環境法の生成と諸原則
- 8 環境責任論の進展
- 9 国際環境保全規範と事前防止
- 10 事前防止の手続的規則①
- 11 事前防止の手続的規則②
- 12 国際環境保全とソフト・ロー
- 13 国際環境保全と国内公法・私法
- 14 まとめ

#### テキスト、参考文献

テキストは開講時に指示する。参考文献: 『地球環境条約集』第4版、中央法規2003年

#### 評価方法

期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。

国際交流特殊研究VI(グローバル・ガバナンス b)

担当者

一之瀬 高博

# 講義目的、講義概要

#### 〔講義目的〕

国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。

#### 〔講義概要〕

環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。

#### [注意事項]

この講義は、法学部専門科目「国際環境法 b」としては3年生以上に開講されるが、国際教養部必須教養科目「グローバル・ガバナンス b」としては2年生以上に開講される。国際教養学部生が2年生で受講する場合には、「国際交流研究Ⅲ(国際機構論)」、全カリ「国際法 1」、「国際法2」のいずれかを受講していることが望ましい(並行しての受講でもよい)。

# 授業計画

- 1 講義の概要
- 2 長距離越境大気汚染、酸性雨
- 3 地球大気圈·気候変動問題①
- 4 地球大気圏·気候変動問題②
- 5 海洋環境の保全①
- 6 海洋環境の保全②
- 7 南極の環境保護
- 8 廃棄物の越境移動
- 9 化学物質、原子力と環境
- 10 自然環境の保全
- 11 生物多様性の保全
- 12 環境と貿易
- 13 環境と武力紛争
- 14 まとめ

# テキスト、参考文献

テキストは開講時に指示する。参考文献: 『地球環境条約集』第4版、中央法規2003年

#### 評価方法

期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。

養 外言	宗教・文化・歴史研究 I (文化史入門) 地域社会文化論特殊講義(文化史入門)			担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要	Ę	授業	計画		
属テがは味つし概ば様る帰あくがは味つし概ば様る帰あくがは味ったでらもを高か義講術のためには、的体本となず自らとは学生、でいか代や明要で文を観がとないが代や明要で文を観がないがでいる。いか代や明要で文を観がないができまれる。	上現代社会にあって、私たちは自分の帰 上揺らぎを感じ、改めて自分のアイデン の必要性を意識します。そのとき、自分 と文化が大きな役割を果たします。文化 がまな文化遺産や文化事象を包括意 にはそれら文化遺産や関考の様式を表わら されてきた生活や思考の様でも表わてきた生活の個性や特質をして考えを はされてきた生活の個性や特質をして考え思いた社会や集団の個性や特質をして考え思いたが、があいたとならも歴史的総体と生活・いる。 は、から、個別と密接におが、中では、から、個別と密接におが、中では、どちらも歴史的にとりあげ、可の 識にとっていかに文化理解が不可欠で ですることを目的にしています。 は地中海世界で体現された技術文化、造 別など会との関係を示した技術文化、造 別など会との関係を示した技術文化、造 別など会との関係を示した技術で大化、造 別など会との関係を示した技術で大化、造 別など会との関係を示した後、宗教と祭 競争的人間類型などの生活られていっ	2	ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	そ生そけそ「そ設建ク:化:は(相アの産のるの三の道築・叙の神「男(ゴ)で)一)程2」とス事普々神と男と)にあ:マ:船とととス事等を持たし、一、動の水人とした。 あいて 船 陸 高 い演 間を 行り間	の供給・処理と農業・牧畜の の執上輸送 の脅威 上輸送 の脅送 連道路」 の劇 信じていたか? その1): 異性愛 (その2): 異性愛 類型 ロネジ関係
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価	 方法		

学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出

席点を加味して総合的に評価します。

テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の

授業時に「参考文献一覧表」を配布します。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
/ (ハ) ( シ <sup>,</sup> つへm/	- 日本の		

#### 講義目的、講義概要

#### [講義目標]

養

日本および仏教を中心に、〈東洋〉の思想史を概観する。

とはいえ、〈東洋〉という概念が何を・どこからどこまでを指すのかは、 〈西洋〉のそれほどにははっきりとしていない。宗教と非宗教とのあいだの 区切りも、〈東洋〉の歴史的過去においてはやや曖昧であったようにも見え る。結局、〈東洋〉とは、〈非 - 西洋〉〈非 - 近代〉というような枠組み、つ まりエキゾティズム・オリエンタリズムにおいてしか語られえないものなの であろうか?

そうした、〈東洋〉を語ること自体のむずかしさもふまえつつ、様々な思 想家・思想書を検討していくことが本講義の目標である。

(イスラム文化圏については、ユダヤ教・キリスト教と共通の一神教文化 圏ともみなされうるため、本講義では取り扱わない。)

#### [講義概要]

春学期は、重要思想家などによるいわゆる古典的な思想テクストを幾つか

取り上げるという仕方で、(東洋) 思想の精髄に触れることを試みる。 扱われるテクストは、『バガヴァッド・ギーター』、原始仏典、『歎異抄』、 『正法眼蔵』、『五輪書』、などである。

近代化・西洋化した文明のなかで生きている現代日本人にとって、〈東洋〉 の古典的思想と自分とのあいだの距離感を測ることは様々な意味でむずか しく、複雑なものである。近いような気もするし、遠いような気もする。そ うした〈東洋〉のテクストを改めて眼差してみることは、21世紀人として の自分たちの存在のあり方・世界観・人生観を見つめ直す機会にもなるだろ う。「当たり前だと思っていたことを考え直してみる」姿勢が肝要である。

#### 「受講生への要望]

ものの考え方・捉え方を前もって決めつけず、どのようなことにもいろい ろな考え方の角度があるということを自然に意識できる社会人になること を目指してほしい。

### 授業計画

- 1. 〈東洋〉思想とはなにか?
  - オリエンタリズムという問題
- 2. インド古代思想(1)
- 3. インド古代思想(2)
- 4. 原始仏教(1)
- 5. 原始仏教(2)
- 6. 大乗仏教(1)
- 7. 大乗仏教(2)
- 8. ここまでのまとめと、小テスト
- 9. 鎌倉仏教(1)
- 10. 鎌倉仏教(2)
- 11. 鎌倉仏教(3)
- 12. 江戸期日本思想(1)
- 13. 江戸期日本思想(2)
- 14. まとめ

# テキスト、参考文献

授業中に適宜指示する。

#### 評価方法

小テスト (25%) および学期末試験 (75%) による。 各試験の論述テーマは、授業中に事前提示されるかもしれ ない

宗教·文化·歷史研究Ⅲ (東洋思想史 b) 担当者 養 川口 茂雄

### 講義目的、講義概要

#### [講義目標]

日本および仏教を中心に、〈東洋〉の思想史を概観する。

とはいえ、〈東洋〉という概念が何を・どこからどこまでを指すのかは、 〈西洋〉のそれほどにははっきりとしていない。宗教と非宗教とのあいだの 区切りも、〈東洋〉の歴史的過去においてはやや曖昧であったようにも見え る。結局、〈東洋〉とは、〈非・西洋〉というような枠組み、つまりエキゾティズム・オリエンタリズムにおいてしか語られえないものなのであろうか? そうした、(東洋) を語ること自体のむずかしさもふまえつつ、様々な思想家・思想書を検討していくことが本講義の目標である。

(イスラム文化圏については、ユダヤ教・キリスト教と共通の一神教文化圏 ともみなされうるため、本講義では取り扱わない。)

#### 「謹義概要]

★学期は、やや春学期とは観点の角度を変えて、重要思想家によるテクストではなく、〈民衆史〉的観点からの東洋思想史・精神史・宗教史の検討を試 みたい

近代に入るまでは、社会におけるほとんどの人間たちは十分な読み書きが できなかった。では、そうした者たちにとって、思想とはどのようなもので あり、どのように彼彼女らの世界観・死生観に影響するものであったのか。 こうした問いかけの角度から、東洋思想史というものを改めて考え直してみ たい

具体的には、主として日本における、民間の説話や風習(の記録)といっ たものの研究考察から、〈東洋〉的な思考様式というものがどのようなもの であるのかを、探索していく。そうした思考様式が、〈西洋的近代〉にどっぷり浸かったわれわれにとって異質なものなのか、それともわれわれのうちでひそかに深く根づき続けているものなのか、「祟り」「憑依」「供養」「靖 国問題」といった諸事象に焦点を向けつつ、詳しく分析していく。

#### [受講生への要望]

ものの考え方・捉え方を前もって決めつけず、どのようなことにもいろいろ な考え方の角度があるということを自然に意識できる社会人になることを 目指してほしい

### 授業計画

- 1. 日本列島人の「死生観」とは?
- 2.「纂り」という発想(1)
- 3.「祟り」という発想(2)
- 4. 「祟り」という発想(3)
- 5.「供養」と「修行」(1)
- 6.「供養」と「修行」(2)
- 7.「供養」と「修行」(3) 8. ここまでのまとめと、小テスト
- 9. 「憑依」とはなにか(1)
- 10.「憑依」とはなにか(2)
- 11.「憑依」とはなにか(3)
- 12. 現代における「供養」(1) 13. 現代における「供養」(2)
- 14. まとめ

# テキスト、参考文献

授業中に適宜指示する。

### 評価方法

小テスト (25%) および学期末試験 (75%) による。 各試験の論述テーマは、授業中に事前提示されるかもし れない。

評価方法

評価します。

学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に

テキスト、参考文献

考文献も紹介します。

テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参

養	宗教・文化・歴史研究V(文明史研究	b)	担当者	櫻井 悠美
存、さらには経済活きとのをしているを歴やトングラーの範・をはいるであります。 まず としている は 要の まず で世界の他地域へに まず まず としている は という は は という は という は という は ない は は という は ない は は という は ない は は ない は は は ない は は は ない は は は ない は は は は	ッパにおけるEUの統合や多文化の共動のグローバル化とあいまって、これく変えてきました。本講義ではシュペーの文明論を概観し、文明の世代交代ヨーロッパ文明について考察します。で代に体現された古典文明がその後どのいったのかを辿ります。 してのヨーロッパの歴史をとりあげたはじめ、ヨーロッパとは何かを論じまが思想的にも物質的にもどのような形が思想的にも物質的にもだかを検証しま存のためにヨーロッパに求められて	2、 ヨーロッパ 3、 ヨーロッパ 4、 アレクサン 5、 ローマ帝国	とは何か か で が源と で の の の で で で で の の の の の の の で で の の の の の の の の の の の の の	ニズム文明
テキスト、参考文献 テキストは使わずブ 考文献も紹介します	・ プリントを配布します。また授業時に参	<b>評価方法</b> 学期末試験と小レ 評価します。	ポート、さら	に出席点を加えて総合的に

#### 講義目的、講義概要

#### [講義目標]

西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、どのように思索されてきたかを、古代ギリシアから近現代にいたる様々な思想にそくして、広く全般的に概説する。

社会科教職科目でもあることを鑑みて、正確で専門的な哲学知識の網羅的 取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄に ついての考え方を、高校生などにも理解可能な仕方で言語表現できる実践的 能力の習得が、目標として設定される。

一語一句にまでこだわる哲学というものの姿勢は、ある意味では、人間相 互間のコミュニケイション全般に通じるものである。哲学の学習は、「言葉 を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにと らえてもよい。

#### [講義概要]

春学期は「自己」および「主体」を緩やかな統一テーマとしながら、近代 思想の幕開けとなったデカルトの「私は考える、ゆえに私は存在する」から 始めて、古代のアリストテレス・プラトン、近代のカント、20世紀のハイ デガー・レヴィナスといった、西洋哲学の重要思想家らの哲学を、その倫理 学的論点に焦点を当てつつ、概観していく。

もちろん、時代や場所によって倫理思想のありようは様々に変化してきた。したがって本講義の扱う範囲はきわめて幅広いものになるが、それは哲学的倫理学というものが多様な角度から物事を検討する姿勢を必要とすることにも対応している。

受講者人数を見たうえで詳細を決定するが、出席学生が発信をするレポート報告・ディスカッションの回を1回以上設けることを予定している。

#### [受講生への要望]

他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させ、他人 の言葉をできる限りていねいに受け取れるようにしてみよう。

### 授業計画

1. デカルト(1)「私は考える、ゆえに私はある」

川口 茂雄

- 2. デカルト(2)「仮の道徳」
- 3. プラトン(1)「無知の知」
- 4. プラトン(2)「私がここにいる理由」
- 5. アリストテレス (1) 「エートス」
- 6. アリストテレス(2)「テオーリア」
- 7. ハイデガー (1) 「世界 内 存在」
- 8. ハイデガー(2)「死への存在」
- 9. ハイデガー (3) 「決意と歴史」
- 10. カント(1)「理性のアンチノミー」
- 11. カント(2)「定言命法」
- 12. カント(3)「実践理性の要請」
- 13. レヴィナス「他者」
- 14. まとめ(※レポート報告とディスカッション)

#### テキスト、参考文献

『哲学の歴史』第1巻、第6巻(中央公論新社) その他、授業中に適宜指示する。

## 評価方法

学期末試験による。 ただし、ディスカッションの回などにレポート報告を担当 した学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

養 宗教・文化・歴史研究VII (倫理学 b) 担当者 川口 茂雄

### 講義目的、講義概要

#### [講義目標]

現代の西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、 どのように思索されてきたかを、包括的に概説する。

社会科教職科目でもあることを鑑みて、正確な哲学知識の全般的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄についての考え方を、高校生などにも理解可能な仕方で言語表現できる実践的能力の習得が、目標として設定される。

一語一句にまでこだわる哲学というものの姿勢は、ある意味では、人間相 互間のコミュニケイション全般に通じるものである。哲学の学習は、「言葉 を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにと らえてもよい。

#### [講義概要]

秋学期は「言語」および「社会」を緩やかな統一テーマとしながら、ヴィトゲンシュタイン、リクール、デリダ、ラカンといった、20世紀を代表する西洋の重要思想家らの思想内容を、その倫理学的論点に焦点を当てつつ、広く概観していく。学期終盤には、〈困難な赦し〉というテーマのもとで、個人や共同体のアイデンティティの問題と複雑に絡み合った、アクチュアルな倫理学的問題の考察にも取り組む。

20世紀哲学はそれ以前の時代の哲学と比して、用いられる概念が良くも悪くもやや精密化する傾向にあったものである。この講義ではそうした諸概念を幅広く視野に入れながら、丹念に整理・分析をおこなっていく。

受講者人数を見たうえで詳細は決定するが、出席学生が発信をするディスカッションないしレポート報告の回を1回以上設けることを予定している。

#### [受講生への要望]

他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させ、他人 の言葉をできる限りていねいに受け取れるようにしてみよう。

### 授業計画

- 1. ヴィトゲンシュタイン(1)「言語の限界」
- 2. ヴィトゲンシュタイン (2)「私的言語の不可能性」
- 3. リクール(1)「時間と物語」
- 4. リクール (2) 「歴史記述」
- 5. リクール(3)「フィクション物語」
- 6. リクール (4) 「記憶と歴史」
- 7. リクール (5) 「歴史と表象」
- 8. デリダ (1)「差延」
- 9. デリダ (2) 「起源の補欠」
- 10. ラカン(1)「鏡像段階」
- 11. ラカン(2)「シニフィアン」
- 12. 〈困難な赦し〉をめぐって(1)
- 13. 〈困難な赦し〉をめぐって(2)
- 14. まとめ(※レポート報告とディスカッション)

# テキスト、参考文献

### 『哲学の歴史』第11巻、第12巻(中央公論新社) その他、授業中に適宜指示する。

### 評価方法

学期末試験による。

ただし、ディスカッションの回などにレポート報告を担当 した学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

宗教・文化・歴史研究各論 I (地中海世界の宗教と文化 a) 担当者 櫻井 悠美 外言 地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史 a) 講義目的、講義概要 授業計画 <講義目的> 1, はじめに(講義の目的、概要、その他) 国家や民族・宗教・文化などは個々人のアイデンティテ 古代ギリシア人の信仰 ィー創出に大きな役割をはたしてきました。とりわけ家族 2, 3、 デルフォイの神託 や地域共同体といった身近な集団は、日常生活にも深く関 穢れと浄め、呪い 4、 与してきたのです。 本講義では古代ギリシアの都市国家ポリスをとりあげ、 5、 エレウシスの秘儀と死生観 葬儀、埋葬、墓碑 そこに暮らす市民のアイデンティティー創出に宗教や文化 6、 7、 女性と祭儀 などがどのように関わったのかを検証していきます。 アスクレピオス神 8、 <講義概要> シュンポシオン 9、 10、ディオニュッシア祭 古代ギリシア人にとって宗教とは教義も経典もなく、行 為として供犠や祭儀を行うことに他なりませんでした。古 11、ギリシア悲劇 典期アテナイでは年間120日にも及ぶ祭儀がおこなわれ 12、ギリシア喜劇 たのです。その中にはアテナイの市民の娘たちも祭儀を通 13、オリュンピア競技会 じてポリス存続のために子どもを産むことを自覚していっ 14、まとめ たことがわかります。 このような事例を通じてポリスで暮らす市民や市民の娘 たちが自らのアイデンティテイーをどのように育んでいっ たかを考察します。

参考文献を紹介します。	に評価します。

テキストは使用せずプリントを配布します。また授業時に | 学期末の試験と小レポートさらに出席点を加えて総合的

養 宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ(地中海世界の宗教と文化 b) 担当者 櫻井 悠美 外言 地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史 b)

### 講義目的、講義概要

テキスト、参考文献

#### <講義目的>

歴史的に形成されてきた生活や思考の様式も含む文化は、多くの遺跡や建造物を残しました。それらは当時の社会や集団の特性を表現しているのです。

古代ギリシア、ローマ世界に見られる遺跡や建造物から、当時の人々との関係を提示し、文化理解の必要性を明らかにしたいと考えます。

#### <講義概要>

本講義では、地中海世界で見られる神殿をはじめ、劇場や道路などを生み出した文化的背景について説明します。

また、人々の信仰したキリスト教が、迫害を受けながらもやがて国教となり、ローマ帝国の下の広範な諸地域に広まっていった過程を考察します。さらに、西ローマ帝国が滅亡した後も、キリスト教の信仰がどのように受け継がれていったのかを検証します。

### 授業計画

評価方法

- 1、 はじめに (講義の目的、概要、その他 )
- 2、 パルテノン神殿
- 3、 エピダウロスの遺跡
- 4、 シチリアの遺跡
- 5、ペルガモンの遺跡
- 6、 オリュンポスの神々の変容
- 7、 ローマ建国神話
- 8、 ローマの道路と橋
- 9、 ポンペイ遺跡
- 10、ディオニュッソス神への信仰
- 11、ローマ市民と奴隷
- 12、キリスト教徒への迫害
- 13、キリスト教の広がり
- 14、まとめ

# テキスト、参考文献

テキストは使用せずプリントを配布します。また授業時に 参考文献を紹介します。

### 評価方法

学期末の試験と小レポートさらに出席点を加えて総合的 に評価します。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
	== /= >+		
テキスト、参考文献	評価方法		

養外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗 比較思想概論	教・文化・歴史研究各論Ⅲ (比較宗教史) 較思想概論		谷口 郁夫
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
ラム教の比較対照を これほど宗教・民族 かを念頭に、書物を れる人々の考えを知 どを使いながらごく	縦糸に、ユダヤ教、キリスト教、イス 試みます。 に関わる争いが絶えないのはなぜなの 通じて哲学者・思想家・宗教家と呼ば るだけではなく、映画、絵画、地図な 普通の人々の思いを考える予定です。 状の報告を行ないます。	の時代まで 7. オスマントル: ダヤ教、キリスト 8. ルネッサンス時 9. イスラム圏にお 10&11. 近代におい ける反ユダヤ主義	でのユダヤ民が 延生 ユダヤ教―― コ時代の中東 教の関係 寺代 おける反ユダ・ ける民族主義	イスラム教誕生から十字軍における、イスラム教、ユ
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献 評価方法			
講義中に資料を配布します		学期末のレポート		

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論IV(日本思想日本思想史 a	見史 1 )	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要	ξ	授業計画		
と こ 2 た 古 理 現 に 日 報 に 日 を ら る れ こ と 、 た に 日 ま に 日 ま に 日 ま に 日 ま に 日 ま に の の の の に の の の に の の の に の の の に の の の に の の の に の の の に の の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の の に の の の の の の の の の の の の の	世に至る日本思想史の概略的な流 ちを奥深く規定している日本の諸 察する。 日本文化」について、様々な角度	3 日本文化の 4 4 5~6 本のの思想 7 日儒子学の思想 9 朱貝荻水武士 12 水武士 13 13	丘野でのいた。 でに、 でに、 大世界日本とのでに、 日本とのでは、 日本とのでは、 日本とのでは、 日本には、	
テキスト、参考文献	†	評価方法		
配布プリント類に	こよる/参考文献は、適宜紹介する。	最終レポートは ど。出席は6		宜課すレポート、感想文な

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

宗教・文化・歴史研究各論VI (アラブ文化・芸術 a) 担当者 藤原 和彦 外言 地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 a) 講義目的、講義概要 授業計画 1 セム族の唯一神、ヤハウェとアッラー イスラム教(イスラーム)は西暦7世紀、アラビア半島 メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受 2 セム族の特徴、最後の審判と終末論 けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン(コーラン) 3 唯一神の啓示と預言者 4 モーゼの「十戒」と偶像崇拝の禁止 と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の 信徒(ムスリム)数は約13億人。また、ムスリム国家は 5 メッカ・カアバ神殿の偶像 西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及 6 「申命記」とブタなどの食物禁忌 Š., 7 共通最高聖地「エルサレム旧市街」 8 「第二神殿」のマネー・チェンジャー 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。 9 「神殿の丘」と「岩のドーム」の岩 毎時限の講義は、授業計画に基づいたイスラム教の解説 10 「夜の旅」と「キブラ(礼拝の方向)」 とイスラム世界のビデオ紹介の2部構成とする。また、テ 11 メッカのクライシュ族とハーシム家 キストはコピー配布する。 12 ヒジュラ(聖遷)とイスラム暦 13 イスラム教徒のウンマ (信仰共同体) 14 講義のまとめ テキスト、参考文献 評価方法 藤原和彦著『アラブはなぜユダヤを嫌うのかー中東イスラ 出席率 (60%)、試験 (40%) による

ム世界の反ユダヤ主義』(ミルトス,2008年)

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ (アラブ文化・芸術 b) 地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 b)		担当者	藤原 和彦	
講義目的、講義概要	5	授業	<b>美計画</b>		
イスラム教(イス	ラーム) は西暦7世紀、アラビア半島	1	イスラム以前	]のアラビア社	社会はジャーヒリーヤ
メッカの預言者ム	ハンマドが唯一神アッラーの啓示を受	2	三大唯一神教	なと利子の是ま	¥
けて宣教を開始した	こ。この啓示集がクルアーン (コーラン)	3	シャリーア(	(イスラム法)	は「水場に至る道」
と呼ばれ、イスラム	教の聖典になっている。現在、世界の	4	「詠め」で始	まる、アップ	ラーの最初の啓示
信徒(ムスリム)数	対は約 13 億人。また、ムスリム国家は	5	メッカ啓示と	メディナ啓	त्र
西のモーリタニアか	いら東のインドネシアまで 57 か国に及	6 シャリーアの第一の法源クルアーン			
కో.		7	第二の法源ハ	ディースと	ムハンマドの無謬性
木講美けイスラ /	▲教の基礎的知識の学習を目標とする。 ■ 「おいまではないできる」できます。 ■ 「おいまではないできます」 ■ 「おいまできます」 ■ 「おいまできまます」 ■ 「おいまできます」 ■ 「おいまできます」 ■ 「おいまできます」 ■ 「おいまできます」 ■ 「おいまできまます」 ■ 「おいまできまます」 ■ 「おいまできまます」 ■ 「おいまできまます」 ■ 「おいまできまます」 ■ 「おいまできままます」 ■ 「おいまできまままます」 ■ 「おいまできままままままままままままままままままままままままままままままままままま	8	ウンマ(信仰	『共同体)の~	イジュマーウ(合意)
一个時我はイハノン	14次シン全版出入出版シファロでは1分でする。	9 イスラム教の四つの法学派とワッハーブ派			
	授業計画に基づいたイスラム教の解説 ごデオ紹介の2部構成とする。また、テ	10	「五行」の領	第一は「信仰	J告白 (シャハーダ)」
キストはコピー配布		11	シーア派の	シャハーダと	ワリー (友) の概念
		12	イスラムの	2 大祭、犠牲	祭と断食明けの祭り
		13	防衛的ジハ	ードは全ムス	リムの「個人的義務」
		14	講義のまと	め	
テキスト、参考文南	<b>†</b>	評価	五方法		
	ĭはなぜユダヤを嫌うのか―中東イスラ Ξ義』(ミルトス, 2008 年)	出席	<b>居率(60%)、</b> 記	試験 (40%) <i>[</i>	こよる

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
	Ĺ		

養	宗教・文化・歴史特殊研究 I (世界の宗教と文化ー一神 教と多神教)		担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要	5	授業計画		
た地中神教が文化を含まる。 地中神教が文化を含まる。 り、宗考さい。 り、なることが、表考で、表考で、表考で、表考で、表考で、表考で、表考で、表考で、表考で、表考で	と的にこれまで大きな役割を果たしてき教と文化」に焦点を絞り、キリスト教とする過程を歴史的に考察することによいを対していかに密接に関連し、しかもま方(心性)の変化と連動しているかをひ私たちの自己認識や帰属意識がどこになるとを目的にしています。  進めていきますが、関連するテーマのビなどの映像資料もできるだけ使って、受いと考えています。授業ないではなく、そこに問題を提起し、それについて考えな音記してもらおうというのではなて考えないでいるので、積極的かつ活発な質にが期待されています。その意味でももこうなアト・ホームな雰囲気で講義を進し、	2メスシンシ宗ニモレ神ーリー3来エーパパギオギ密へコ567オギ密へコ111111	で間宗ピ宗と地地宗の宗エのタム合国教国られのと教ラ教ツ域域教神教レ宗ニの(ののの一宗不とミとタののと々とウ教ズ宗シ宗成宗神教死ないドレカ教教化合化シスととととととくととく、文る(一とと(理(の化内文レ文そ文の	神々 その1) その2) メンの死 文化(その1) カナンの宗教 文化(その2) ユダヤ教 その1) 主義 その2) 秘儀、オルペウス信仰) に(その1) 向きの心性 化(その2) ティ(その1) の意義 化(その2) グノーシス主義
テキスト、参考文献	t t	評価方法		
テキストは使用せて 文献一覧表」として	デ、参考文献を初回の授業時に、「参考 「配布します。	学期末のレポー席点を加味して	>>	レポート・報告の成績に、出 します。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
	Ĺ		

養 外言	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ (思想とご地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	文化)		担当者	松丸	壽雄
をではず一大大る。またかののをではず一大大名。このではず一大大名。ではず一大大名。ではず一大大名。ではず一大大名。ではず一大大名。ではず一大大名。では、一大大名。では、一大大名。では、一大人名。では、一大人名。では、一大人名。では、一大人名。では、一大人名。では、一大人名。では、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。をは、一大人名。また、一大人名。	「人間の存在にとってどのような意味」。 「人間の存在にとってどのような意味」。 「人間の存在にとってどのような意味」。 「一大きないる自己とは如何なる存在。」 「一大きないる。」 「一大きないので、では、一大きなが、この哲学者・思想家の考えだけのもので、では、一大きないのかられて、いることを聴講者に投げかけるので、対して次ぎに、各グループに分かれて、と、主体に授業が進められるのでループを作って、このグループには、からのグループを作っている。 「中国語ないしは理解可能言語とする留意がある場合には、英語によって講義、ションがなされることがある。	世 (大学計画) 1. 概要説明とと、 2. が題ののので、表に、 3. 「「和」というでは、 5. 「私」としている。 6. 「私」としている。 7. 「人人間ととというです。 8. 「人人間間とというです。 10. 「ティョー」のでははは、 カー・ディョー」ののでは、 11. デ「自己」ののでは、 12. 「13. 「14. 「15. 「15. 」にはははいいます。 12. 「15. 「15. 「15. 」にはいる。 15. 「15. 「15. 」にはいる。 16. 「15. 「15. 」にはいる。 17. 「16. 」にはいる。 18. 「16. 」にはいる。 19. 「16. 」にはいる。 10. 「16. 」にはいる。 11. 「16. 」にはいる。 12. 「16. 」にはいる。 15. 「16. 」にはいる。 16. 「16. 」にはいる。 17. 「16. 」にはいる。 18. 「16. 」にはいる。 19. 「16. 」にはいる。 19. 「16. 」にはいる。 10. 「16. 」にはいる。 11. 「16. 」にはいる。 11. 「16. 」にはいる。 12. 「16. 」にはいる。 15. 「16. 」にはいる。 16. 「16. 」にはいる。 17. 「16. 」にはいる。 18. 「16. 」にはいる。 19. 「16. 」にはいる。 19. 「16. 」にはいる。 10. 「16. 」にはいる。 11. 「16. 」にはいる。 11. 「16. 」にはいる。 12. 「16. 」にはいる。 15. 「16. 」にはいる。 16. 「16. 」にはいる。 17. 「		ショとと かい かい かい かい で かい 関 関 で がい がい かい かい かい かい に が に に グ に と と 関 関 関 で に し が に 己 ル るるる で で で す も し で で で で で で で で で で で で で で で で で で	-	ッション スカッション ッション ッション ンョン ッション ついてのディス ついての全体 スカッション
テキスト、参考文献 授業中に指示	<del> </del>	評価方法 ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定および試験から最終判定。				

養外言			担当者	石塚	京子
ようなも、といいでは、これでは、これでは、これでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	は何か、「日本語教師」の仕事とはどのいったことを概説します。 而を目指す学生に限定するものではありしての日本語、日本語教育の歴史と現状、言語や教育に広く興味を持っている学 度内容となります。尚、日本語教師養成 性にとっては、日本語教授法1の内容とりますが、実践的な指導法を学ぶためのて授業に臨んでください。 国語教育の違いを知る。 歴史と現状を知る。 国語教授法を概観する。 西として客観的に捉える。 の日本語の指導法を考える。	②日本語教 3. 国内・海外 4. 外国語教授 5. 外国語教授 6. 外国語教授 7. 第二言語習 8. コースデザ	と育育に 法 法 法 得 イ、イシくく活と何国歴け 歴 紹 紹 学 とデとバとと例評か語史る 史 介 介 習 シィシス指指傷 は サイン・ 導導の は カー・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	での違い 語教育の現状 に に ス(1) い分析 に ス(2) のポイント(1)	召介
テキスト、参考文献	<b>;</b>	*進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。 評価方法			あります。
ひつじ	表子 『ベーシック日本語教育』 書房、2007 於子 『実践日本語教授法』バベル出版	期末定期試験に	出席率を加味	らして評価します	<b>-</b> °

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養	日本語教育研究Ⅱ(日本事情とコミュニケー	ション教育)	担当者	小山 慎治		
講義目的、講義概要	5	授業計画				
生、および外国人に を大きな展標であると、 を展現すると、 を表現を通り、 をはまれると、 を表現である。 を表現であると、 を表現であると、 を表現である。 を表して、 をまして、 をまして をまして、 をまして、 をまして、 をまして をまして、 をまして をまして をまして、 をまして をまして、 をまして、	時間題について、異文化理解、多文化共工対する日本語教育に関する話題を中心授業では、まず異文化コミュニケーシを問的なアプローチについて現実について見られる。日本社会においてきるようになることがある。いては、日本社会での異文化理解、多文の関値をテーマとした調査活動おる。これものでのので、積極的できるが、ラスを活性化してくれる学生を特に歓	1 2 3 4 リ文字・ミニー 2 3 4 4 リ文文文学・ミニー 3 4 4 リ文文文文 2 3 4 4 5 6 6 7 7 8 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	ユニケーショ ユニケーショ と多文化共生( と多文化共生( を) ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	ンの基礎概念② ①		
テキスト、参考文献		評価方法				
	.ない 化社会への道』明石書店 2003 年 D定住と日本語教育』ひつじ書房 2004 年	出席(10%)、クラ および定期試験	2 1	10%)、クラスでの課題(20%)、 総合評価		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養 外言	日本語教育研究各論 I (日本語教授法 1 a) 日本語教授法 I a		担当者	中西家栄子
講義目的、講義概要	5	授業計画		
語て学う 介観語と動介教 一を外生観言しす運でのす材課ワえ人対か教上。能り開。作研クたと象ら育で主力、、最成究の形とので、たをそ文終すの形との、たをそ文終すの形とない。 まんがん は 基主る育の型的る発態の かったしました。 まんがん 他本要目がたい。 またまる かった 他本要目がたい。 またまる かった 他本要目がたい。 またまる かった 他本要目がたい。 またまる かった しょう	いは海外で日本語教師として日本に して日本に して日本に して日本に して日本に には、ボランとである。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、おいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、かいれた。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	ネス分析とコ 2. 教授法の理 3. 教材・教具 4. 教科書分析 5. 個別声教育(1) 音声教育(2) 6. 聴解指導(1) 7. 聴解指導(2) 8. 聴解教材の約 9. 文字の指導(10) 10. 文字の指導(10)	- 一ズ分析) 論: 学習理 論	コースデザイン(レディ 論 を解教材の作成> こグループで評価)
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価方法		
	ント 対授法』 中西家栄子他 )その他さまざまな参考文献は授業	①課題提出 ②前期テスト	③出席率	3

養外言	日本語教育研究各論 II (日本語教授法 日本語教授法 I b	1 b)	担当者	中西家栄子	
講義目的、講義概要		授業計画			
前期に	こ同じ	1. 読解指導(1) 2. 読解指導(2) <課題:読解教材の作成> 3. 読解指導(3) 4. 作文指導(1) 5. 作文指導(2)と評価 6. 文法/文型の紹介 - 初級文型 7. 中級文型の紹介 8. 会話指導 ドリルの種類 - グループでの検討機械的なドリルからコミュニケーション活動 9. クラス活動全体の展開(1) 教案の書き方 - 導入からまとめまで クラスマネージメント 10. クラス活動全体の展開(2)<課題:教案の作成 11. 教案<クラス内でのグループ発表> (文型) 12. 4技能を統括したクラス展開 13. テスト理論)と評価 14. 評価と測定			
テキスト、参考文献	t t	評価方法			
前期に	司じ	①課題提出 (教案の作成、その他) ②後期テスト ③出席率			

養外言	日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学) 日本語音声学 a		担当者	磯村 一弘
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
ないで話している日本なることを目標とするそのうえで、外国人点や、これを教えるたい。 世界 は 当講師が 7 月末以下の通り行う。 ・定期試験に代わる授業時間内に行き・定期試験期間中に	学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題 こめの具体的な方法について考える。 より海外赴任となるため、今期の評価は るものとして、「まとめテスト」を7月7日の	1. 言語音を作 2. 母音(1) 4. 子音(2) 5. 有時殊子(2) 6. 特殊とりセセトネー 10. アインント 11. イイま 13. 「 13. 「	(声音、母音の) (2) (3) (4) (5) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	D無声化
テキスト、参考文献		評価方法		
国際交流基金 (2009 2 音声を教える』 そのほか、適宜プリ		「まとめテストと)。出席は取ら		る(講義概要の項を参照のこ

		担当者	
講義目的、講義概要	 授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
77777	# 1 11mm C. 2 (mm)		

養外言	日本語教育研究各論IV(日本語文法形態日本語文法論a	(論)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要	要	授業計画		
論としての文法とは、 制している規則のセ 日本語教育に即して て対象とする学習項 は、この文法を獲得 なることである。本授 て、体系的に理解し 得することを目的とす 〔講義概要〕 講義資料は、講義 毎回、授業前によん 質問と、その内容に による。文法上の問題 論とする、ということを	支援ポータルサイトに掲示される。それを、でくることが要求される。授業は資料への対する課題をクラスで議論し、発表すること題をたて、解答をつくり、それを解釈して理せ授業で実践したい。の文献の読解も同時に要求するので、	第1回 文法概論 第2回 語の構成 第4回 語の構成 第4回 知詞の諸 第5回 助詞の 第7回 動詞の 第8回 動詞の 第9回 形容詞 第10回 述語の 第11回 述語の 第13回 述語の 第14回 形態論	と形態素 , 派生と複合 問題 用 語尾(1) 語尾(2) 格パターン(1) 格パターン(2) 各パターン(3)	まとめ

評価方法

試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。

の参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。

テキスト、参考文献

ータルサイト」に掲示される。

ータルサイト」に掲示される。

担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポ

養外言	日本語教育研究各論 V (日本語文法統 日本語文法論b	日本語教育研究各論 V (日本語文法統語論) 日本語文法論b		浅山 佳郎
講義目的、講義概要	<u>.</u>	授業計画		
架構によるが、生成なく、あくまで日本語の解することを中心的な日本語教育に即し学習項目と同一視で比較して、実際の発記から点で、やや直接的しかし、学習者が脳やはりなんらかの言語とくしては下の教育も成〔講義概要〕 講義資料は、講義資料は、講義資料は、講義資料は、講義質料は、講義質料は、講義質料は、講義資料は、講義資料は、表の内容に対	ていえば、春学期の形態論が、文型というできる表面上の構造をあつかっているのに話される形式の基礎にある構造規則をあったではないようにおもわれる可能性がある。内に形成するであろう第2言語体系は、やしての構造をもつはずであり、その知見なな立しないはずである。 支援ポータルサイトに掲示される。それを、でくることが要求される。授業は資料への対する課題をクラスで議論し、発表すること料以外の文献の読解も同時に要求するの	第1回 統語論概説 第2回 句構造 第3回 項と付加詞。 第4回 主語と時制 第5回 疑問とアス~ 第6回 モダリティ(1 第7回 モダリティ(2 第8回 複文(1) 第9回 複文(2) 第10回 複文(3) 第11回 談話構造(第12回 談話構造(第13回 統語論と言	と意味役割 ペクト ) )	Ø.
テキスト、参考文献	<u> </u>	評価方法		
担当教員の用意する	講義資料を用いる。資料は「講義支援ポ	試験をおこない,そ	の結果で評価	iする。必要に応じて,授業へ

養外言	日本語教育研究各論VII(日本語意味論・ 日本語語彙・意味論	語用論)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要	要	授業計画		
理解することを当面で 教師と学習者の双力 態は、「文の型式」で って本授業では、言 な知見の獲得を目標 [講義概要] 小泉保編の『入門 業は、テキスト内容に 予習してくることが要 題として各履修者に なお、テキストの「	日論について、言語学の基礎的な諸問題をの課題とする。言語教育の実際において、から「文法」として意識されている内容の実はなく、その「意味」であることがおおい。よ語の意味について、それを整理できるようとする。 語用論研究』をテキストとして使用する。授こついての質疑を中心とするので、各章を選求される。またテキストに付属の問題を課課し、議論と発表を要求する。 談話分析」の章は、秋学期の「日本語談話るので割愛する予定である。	第1回 意味論・語 第2回 直示 第3回 直示 第4回 推意 第5回 推意 第6回 前提 第7回 前提 第8回 言語符為 第10回 丁寧さ 第11回 丁寧さ 第12回 語用論の 第13回 語用論の 第14回 まとめ	D応用	
テキスト、参考文献	· 状	評価方法		
小泉保編『入門 語》	用論研究—理論と応用』研究社(2001年)	試験をおこない,	その結果で評	価する。必要に応じて,授業へ

養外言	日本語教育研究各論VI(日本語談話論) 日本語学b		担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画		
る。談話分析は、前世学,心理学などの分野る。本講義では、日本もとめるという目標の	の基本的な知識と方法の習得を目的とす 社紀の後半以降,文学,文化人類学,社会 野とも関連して発展してきた言語の学であ 話教育の中上級の学習項目を談話論に もとで,談話とはなにか,どのような理論が 的分析が可能なのかを,テキストを使用し	第1回 談話分析概 第2回 談話分析概 第3回 意図表現と約 第4回 意図表現と約 第5回 文脈情報と約 第6回 会話の構造 第7回 会話の本トラ	解釈(1) テキン 解釈(2) テキント 意味 テキストp.10	Np.21-p.39 Np.42-p.58 Np.59-p.81 p.82-p.102 4-p.126
り, さらに各小節は, 言 はこのテキストを毎回 不明な部分について 各履修者に担当する について, テキスト内	用する。テキストは57の小節からなってお 説明と「データ分析」で構成される。履修者 予習することが要求される。授業の半分は の質疑応答にあてられる。さらに半分は, 小節が指示されるので,そのデータ分析 の説明を拡充した自分なりの解説と,そこ 語教育への応用についての発表にあてら	第8回 テクストと情報 第9回 言語機能と 第10回 言語と文化 第11回 相互行為の 第12回 相互行為の 第13回 相互行為と 第14回 まとめ	報 テキストp.1 文法 テキストp.1 ( テキストp.15 つ理論 テキス の分析 テキス	56-p.174 p.175-p.190 p2-p.206 hp.207-p.221 hp.222-p.240
テキスト、参考文献	<del>\</del>	評価方法		
林宅男『談話分析のご	アプローチ〜理論と実践』研究社(2008	試験をおこない, そ	の結果で評価	する。必要に応じて,授業へ

の参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。

の参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。

年)

養外言	日本語教育特殊研究 I (対照言語学・誤用分析 a) 対照言語学 a		担当者	中西家栄子
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
析語る本りて 大きど、者習した 大きど、者習した 大きど、者習した クラン・較翻本 大きが引いた。 フラン・大きが表した。 ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・	は講義と演習(学生による誤用分:する。 うう演習形式をとる。日本語と英語	1. 講のとは、	D歴史(1) 空中間 空中間 では では では では では では では では では では	(2) 川と意義 II研究 アド 1)
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価方法		
	トの配布を中心とするが、参考文 f究と日本語教育』国立国語研究所		②課題発表 ①クラス参加	п

(2002) を使用する。

養外言	日本語教育特殊研究 II (対照言語学・誤用分析 b) 対照言語学 b		担当者	中西家栄子
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
学生による課題発	で授業を行うが、後期には講義と意表を中心としたい。比較対照の課 は英語に限定しない。	学生の興味、希引き続き、上記	で で で で しい で で で で で で に で に で に の で に の で に の で に の の の に の の に の の に の の に の の に の の に に の に に の に の に の に に の に に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に に 。 に の に 。 に の に に に に に に に に に に に に に	- ど」
テキスト、参考文献	<b>决</b>	評価方法		
前期に同じ		①テスト ②し ④クラスへの貢		出席率

養 外言	日本語教育特殊研究V(日本語教授法2) 日本語教授法Ⅱ		担当者	浅山 佳郎	
講義目的、講義概要		授業計画			
〔講義目的〕		第1回			
外国語として日本語	語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語	①オリエンテー	・ション		
教育機関で実習を行	なう準備教育であり、演習中心の授業であ	②分担の取り	<b>失め</b>		
る。		③教案の書き	方		
〔講義概要〕		④授業観察の	方法		
毎回、学生による権	莫擬授業となる。日本語教師として教壇に	第2回~第13回			
立つ以外の学生は、	外国人学生になり、その授業を受けなが	担当者による模擬授業			
ら、授業の進行を客額	関的に観察する。 観察を通じ、各人が教室	第 14 回			
活動、指導法につい	て具体的に評価・検討する。	まとめ			
テキスト、参考文献	t .	評価方法			
『みんなの日本語 初	『級1<本冊>』スリーエーネットワーク	①模擬授業 ②教	対案の提出 ③	)レポート(授業観察のまとめ	
『みんなの日本語 初	級1教え方の手引』  スリーエーネットワーク	と自己分析)④出席によって評価する。			

			担当者	
講義目的、講義概要	Į.	授業計画		
テキスト、参考文献		評価方法		

養 外言	日本語教育特殊研究V(日本語教授法 日本語教授法Ⅱ	2)	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要	· 要	授業計画		
日り授前当業的的のしびい登模** ・業に以をにに授、他て録擬** 教習な員のけ察討をらかレ数業意 教門な員のけ察討をらかレ数業意 をにに受るし・ビにらポにを・ と教外受観検業さ者、者授 <b>注</b> をにいる。提生。、担価する記述を・ と担価する記述を・ と行りで表述をによっている。 と担価する記述を・ とのしている。 とのし、 とのしている。 とのしている。 とのしている。 とのしている。 とのしている。 とのしている。 とのしている。	5が、各自、少なくとも2回程度の	2 (2) (3) (3) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (3) (4) (5) (5) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	リル作成 一十 に 世 当 当 当 者 有 挺 型 当 当 人 の 文 語 解 で 本 る に は 挺 逆 ず り 変 説解 修 者 の ち で が ま で か ま で ま で	一 復習 一 復習 一 復習 - 復習 - 復習 - の書き方 ら模擬授業 回につき 2 名。 さと 1 5 分の質疑応答
テキスト、参考文献		評価方法		
参考文献:①「E ネットワーク ②	日本語』を中心に 日本語の教え方の秘訣」スリーエー ②「中・上級を教える人のための日 ブック」スリーエーネットワーク	①模擬授業 (「授業観察シ 1週間後以内に	ートのまと	めと自己分析」を実習より

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養外言	日本語教育特殊研究V(日本語教授法2) 日本語教授法Ⅱ		担当者	野村 美知子
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
日本語を外国語	らとして教える具体的な方法を学ぶ。	1回目①オリコ	ェンテーショ	ョン
日本語教育機関で	で実習を行うための準備教育であり、	②分担(	の取り決め、	スケジュール決め
演習中心の授業で	<b>ぶある。</b>	③初級(	の学習項目	(確認)
毎回、学生によ	る模擬授業を行う。模擬授業の担当	④教案(	の書き方(荷	隺認)
者は事前に教員に	こ教案を提出し、指導を受けながら授	⑤ドリルとアクティビティー		
業の準備を進める。模擬授業担当以外の学生は、仮の		⑥授業観察の方法		
学習者となって授	受業を受けるが、その際授業の進め方	⑦評価方法説明		
も客観的に観察す	る。授業後、全員で担当者の行った	⑧参考文献紹介		
教室活動や指導法	について具体的に講評しあい、授業	2回目以降:担当者による模擬授業と各授業につい		
の改善を目指す。		て全員での講評		
担当回数と模擬	<b>発授業時間は人数によって決めるが、</b>			
全体を通して少なくとも1人2~3回は行う。		必ず1回目から出席すること。2回目から模擬授		
周到な準備とり	ハーサルを行ったうえで模擬授業	業 業を行うので、そのつもりで参加すること。		)で参加すること。
に臨むことが求められる。				
テキスト、参考文献		評価方法		
『みんなの日本語	初級 I・Ⅱ』(スリーエーネットワーク)	①模擬授業の準	備と実践 ②	事前の教案提出 ③レポート

(授業観察のまとめと自己分析) ④授業への参加度

参考文献: 『みんなの日本語初級I・Ⅱ教え方の手引き』

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
	57/T- <b>-</b>		
テキスト、参考文献	評価方法		

養外言	日本語教育特殊研究VI(日本語教育教材日本語学 a	才論)	担当者	中西家栄子
講義目的、講義概要	5 C	授業計画		
この授業では、第二言語としての日本語教科書の分析を中心に進める。教科書の分析を通じながらコミュニケーションのための日本語教育文法について検討する。その上で、コミュニケーションのための教材開発を行う場合、どのように学習項目を決定するのか、その提示順序、提示方法を考える。特に、日本語でのコミュニケーション能力を促進するには、どのような教材が求められるのかをテキストを参考にしながら、クラスで考える。最終的には、明らかになった構成概念に基づいて、4技能のうち、1つを選び、教材を作成することが課題となる。具体的な授業活動としては、教師による解説だけではなく、学習者同士のディスカッション(検討)が重視されるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。		<ol> <li>教材開発の基本理論</li> <li>コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図</li> <li>機能シラバス</li> <li>コミュニケーションに役立つための教材         <ul> <li>品本語学的文法から独立した日本語教育文法</li> <li>党習者の習得を考慮した日本語教育文法</li> <li>党習者の母語を考慮した日本語教育文法</li> </ul> </li> <li>請くための日本語教育文法+聴解教材の開発</li> <li>話すための日本語教育文法+会話教材の開発</li> <li>読むための日本語教育文法+読解教材の開発</li> <li>請むための日本語教育文法+読解教材の開発</li> <li>時間の配分は授業の進展次第とする。</li> </ol>		
いるため、日本語巻	クラスはかなり日本語教育に特化して 対育概論を履修していることが必須であ 対育に強い興味を持っている方が履修 、。			
テキスト、参考文献		評価方法		
野田尚史編 〈 ②参考文献	<ul><li>リーエーネットワーク</li></ul>	<ul><li>課題の提出</li><li>出席率 (クラ</li><li>ラスト (論述:</li><li>銀題教材の作</li></ul>	式)	ha)

養 外言	日本語教育特殊研究VII(教育実習) 日本語教育実習		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
獨協大学における	日本語教員養成課程では、4年次にお	各教育機関は	こよる。	
ける教育実習を必須	頁としている。 教授法 II を修了している			
ことが履修条件とな	なる。実習は学外の日本語教育機関にお			
いて、少なくとも2	2週間行う。学外実習を必須としている			
根拠は、現場での記	川練を通じて、日本語教育の諸問題を理			
解するとともに、当	学内で学んできたことを実際の現場にお			
いて実践し、さらに	こ理解を深めることが目的となる。当然			
ながら、多くの授業	美見学を通じて、さまざまな指導技術、			
授業運営を学んでい	いくことが求められる。			

評価方法

基本的には実習校からの評価に基づく。

欠席、遅刻、不真面目な実習態度は厳しい評価となる。

テキスト、参考文献

各教育機関によって指定されるもの

養外言	日本語教育特殊研究 <b>Ⅶ</b> (教育実習) 日本語教育実習		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
ける教育実習を必然 ことが履修条件とないて、少なくともこ 根拠は、現場での記解するとともに、当 いて実践し、さらに ながら、多くの授業	日本語教員養成課程では、4年次にお 頃としている。教授法 II を修了している なる。実習は学外の日本語教育機関にお 2 週間行う。学外実習を必須としている 川練を通じて、日本語教育の諸問題を理 学内で学んできたことを実際の現場にお こ理解を深めることが目的となる。当然 美見学を通じて、さまざまな指導技術、 いくことが求められる。	各教育機関	こよる。	
テキスト、参考文献	<b>t</b>	評価方法		
各教育機関によって	て指定されるもの	基本的には実習れた。		に基づく。 態度は厳しい評価となる。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
/ 「ハー、シガ入市/	日間リル		

養	教育科学研究 I (教育の原理)		担当者	川村 肇
つ、さまざまな基本 基礎を養います。 【概要】 1. 教育の思想と歴 条約や教育基本法等 力の問題、義務教育 え方を学びます。 2. 教育と学習との	であために、自らの教育観を相対化しつで的概念を学び、教育に対する考え方の歴史の概略を基礎として、子どもの権利をを素材にし、人権と子どもの権利、能等の、教育において基本的な概念や考め関係を、ビデオ、教育の時事問題や教まして、様々な角度から考えていきま	か第2回:学知編開題 第3回:学为級問題 第5回:学子統力の 第5回回:教ラ教育 第6回回:教ラ教育自門 第7月 第2回回:教ラ教育自門 第7月 第9回 第9回 第11回回 第11回回 第12回 第12回 第13回 第13回 第13回 第14回 第15回 第15回 第15回 第15回 第15回 第15回 第15回 第15	の国際財験の問題の国間際と野児の国間の国間のと思想を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を関連を	(フィンランドの事例) 習について ストについて の1)戦後教育改革とコア・ (一の2)能力主義教育の思想 (大力調査について) / 小テ 自由の問題を考える 精神(保護と参加/3つの
テキスト、参考文献 『ポケット版 子ど 参考文献は、授業中	もの権利ノート』(300 円)			ポートを加味します。実施も加味します。出席は6割
		以上が必須です。		

養	教育科学研究 I (教育の原理)		担当者	小島 優生	
講義目的、講義概要	ξ	授業計画			
したがって、教職 ・	世界のすべての国が批准する「子どもの て、その概要と、日本での取り組みの状 Eされた教育基本法について、その意味	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.	教学学小学学小子子教教学校校括の分の活とどう	とは何か①( とは何か②( &小テスト ①(カリキュ ②(評価) ③(ヴィゴツ &小テスト もの権利条約	育と子どもの発見) 西欧における学校の発足) 日本における学校の発足) ラムの変遷) キーの最近接理論) ① (意義・内容) ② (日本の対応)
テキスト、参考文献	<del></del>	評価方法			
テキスト:田嶋一は 斐閣アルマ 参考文献:授業中に	Eか編著 (2007) 『やさしい教育原理』有 C適宜指示する。	ムの提出	・内容	、③学期末テ	貢献、②授業レポートシステ スト等を総合的に評価する。 がイダンスで指示する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
ニャフレー会をかせ	<b>証</b>		
テキスト、参考文献	評価方法		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
ハハト、シウ入田ハ	日一川川ノノム		

養	教育科学研究Ⅲ(教育の歴史 2)			担当者	川村	<b>整</b>
対化する視点を得る 本講義では日本の 代)、具体的には幕 や実際の姿および教 できるだけ初学者	をり返ることで、今日の教育や社会を相 ことを目的とする。 の近代の教育史を担当するが(1は前近 末以降、1990年代までの、教育の制度	2 3 4 5 6 7 8 9 10	開講の辞/講 近現代(第二 学制と明治期 教育勅語とそ 大正自宏方教育 生活綴方教育(	次大戦以前) の扱い 教育 でデオ観賞) で大戦体制 は は は は り が な が と で 大 戦 は り り り り り り り り り り り り り り り り り り	説明 の教育史概略 の教育史概略	
テキスト、参考文献 配布プリント類によ 参考文献は、授業中	:る。	12 13 14 評価 期末	能力主義教育 教育の規制緩 教育政策の揺 <b>方法</b>	の導入 和と競争 れ	ポートを加味す	<sup>-</sup> る。出席は

養	教育科学研究IV (教職論)		担当者	桑原 憲一
する科目であり、表して位置づけられてを理解するとともにな知識や技能を習得 【概要】 本講義では、グルー 意義、教員の身分やなどについる諸課題につい	夏免許法に規定された教職の意義等に関 政職課程履修の基礎的・基本的な科目と こいる。本講義においては、教職の概要 こ、教職に必要不可欠な基礎的・基本的 計することを目的とする。 一プ討議や研究協議などを通して教職の P服務、職務の内容や必要とされる資質 は的な理解を深めていく。教員が直面し いても取り上げ、教育に対する質の高い る熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っ	第8回:教員の 第9回:教員の 第10回:教員 第11回:教職 第12回:教職	れ資成任身職職研ののののの後、とう職職ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	: 目指す教師像 E E E 員会 の一日・学校運営と校務分掌 指導と生徒指導 (1) 地域・保護者への対応 (2) 教員の事故・事件 (3) いじめ・不登校問題と非
テキスト、参考文献 講義毎に配布する資	t な で料。参考文献は講義内容に応じて適宜	<b>評価方法</b> 平常点 (30%)、	課題レポー	ト (20%)、試験 (50%) によ

に評価する。

り、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的

紹介する。

養	教育科学研究IV(教職論)		担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画		
	dめ、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法		

養	教育科学研究IV(教職論)		担当者	川村 肇
講義目的、講義概要	<del>.</del>	授業計画		
就を関する。 は、	いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えて 上げて、実態をビデオ等により確認し、 け。こうした問題への教師の取り組みを て、教職の意義及び教員の役割および教 がます。 ける各種の機会の提供を行ないます。 や社会に投げかけている問題を認識し、 こすることで、今後の学習につなげていいきます。特に体罰については、その問 遅することを求めます。 グループ討議を取り入れるので、遅刻 ごさい。 討論の進み具合等によって、変更する	き第の第3年は一次第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	)意壊て壊喪いD体考考考 を :の のなと きんく そう きんこう さん いう いい 専進 はい	グループ討論の発表) / 宿題: (実態把握) / 宿題: ADHD ((その1) / 一プ討論) ((ででは) / 宿題: 体罰については) / 宿題: 体罰については) / 宿題: いじめへのなる (グループ討論・発表) (研修、服務、身分保障) につまえる
テキスト、参考文献 配布プリント類に。		評価方法	粉回の小し	ポートを総合評価します。出
	ります。 中に適宜紹介します。	席も、6割以上		か 「で一般日計画しより。日

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

担当者

白砂 佐和子

### 講義目的、講義概要

教育現場で仕事を行うにあたっては、さまざまな形での「人間関係能力」といったものが高く要求される。 本授業ではその「人間関係能力」の理解を念頭におきつつ、教育現場で活かしていく教育心理学の習得を目指していきたい。

最初に、教育心理学のこれまでの知見を踏まえたうえで、人格の形成、発達上の課題、子どもたちにみられる不適応の諸相、学校現場での人間関係について講義していく予定である。

#### 授業計画

第1回:教育心理学について・オリエンテーション

第2回:動機づけ理論 第3回:人格の理解(1)

第4回:人格の理解(2)

第5回:行動の科学(学習心理学)

第6回:記憶・認知の心理学

第7回:発達心理学・ライフサイクル

第8回:乳幼児期の重要性(1) 第9回:乳幼児期の重要性(2)

第10回:子どもの心理臨床について 第11回:発達上の課題-学童期前半 第12回:発達上の課題-学童期後半 第13回:発達上の課題-思春期 第14回:発達上の課題-青年期以降

### テキスト、参考文献

適宜レジュメを使用する。参考文献は、授業の中で適 官紹介する。

#### 評価方法

出席状況と期末試験の結果から、総合的に評価する。

教育科学研究V (発達と学習の心理学)

担当者

森川 正大

# 講義目的、講義概要

人間は、「こども」から「おとな」へと変化する 存在であり、その過程は、家庭、学校、および社 会による教育機能に支えられる。

教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、青年期の「こども」にかかわる教師の役割について理解を深めることを目標とする。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。

講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。

### 授業計画

第1回:この授業の目標と進め方

第2回:学校・生徒の現状と学校教育の課題

第3回:教育心理学の課題

第4回:人間の成長と発達の原理 第5回:発達段階と発達課題

第6回:児童期までの発達

第7回:青年期の発達

第8回:社会性・道徳性の発達

第9回:学習の原理

第10回:内発的動機づけと学習意欲

第11回:個人差と教育/障害のある生徒と教育の

課題

第12回:アイデンティティの形成

第13回:教育測定と評価

第 14 回:教師の自己点検/まとめ

### テキスト、参考文献

テキストは用いない。プリントによる。 参考文献は必要に応じて示す。

#### 評価方法

出席状況、授業中に課す提出物(「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など)、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。

養	教育科学研究V(発達と学習の心理学)		担当者	田口	雅徳
講義目的、講義概要	5 5	授業計画			
る。このように激変要とされる心理学の理解を深めてほしい教育心理学には対応,(3)発達,(4義ではまず教育心理で,これらの4領域すなわち,1.教育力問題,3.学習の	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	受第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	一定価価原お欲欲とア章と教方学 教方学 る原目教習メの理のととととととのと理けととととのとの理のの理のの理のの理のの理のの理ののではのない。	に け は は 計	
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価方法			

評価をおこなう。

授業時の小レポートおよび学期末の試験により総合的に

特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授

業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。

養	教育科学研究V (発達と学習の心理学)		担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要	<u>;</u>	授業計画		
	のため春学期の内容を参照のこと			
テキスト、参考文献	•	評価方法		

養	教育科学研究VI(こころの世界)		担当者	田口	雅徳
その後,性格の形成のテーマについて, ていく。 本講義を通して, とらえようとしてき 理学の基本的知識を	で、現代心理学の成立過程を概観する。 は、ストレス、生きがいと心の健康など さまざまなデータを示しながら説明し 心理学がいかにして人の心を科学的に さたかを理解してもらいたい。また、心 と習得し、同時に、社会の諸問題や人間 見点で捉える力を身につけてほしい。	<b>授業計画</b> 以下のような計1. は理学のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	科学としてのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのできます。 また いっぱい かいしい いっぱい かい かい いっぱい かい いい いっぱい かい いっぱい いっぱ	心理学とは・心理学とは・心理学学・心理学学・心理学 ・立義の理論 ・主義が理解 性格 ピン理解 性格 ピン理学 ・ ・	里学の誕生
テキスト、参考文献		評価方法	י פון פון	ΣΕΛ.) → 1. 10 δΛ. Λ. Δ	44.) → ≒17. 14. 7
テキストは使用した	¢ v '°	授業における小	レホートと詞	<b>、</b> 灰により総合E	りに評価する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

# テキスト、参考文献 評価方法

テキスト: 勝野正章・藤本典裕編 (2008) 『教育行政学(改訂版)』 学文社

独自の副読本づくりを行った犬山市の事例を検討する。また、随時用語説明を中心とした小テストを実施し、理解

参考文献:授業中に適宜指示する

①出席、発言など、②授業レポートシステム、③小テスト、 ④学期末テストなどで評価する。

評価方法などは第一回目に指示する。

養 教育科学研究各論 I (比較教育制度論)	担当者	小島	優生
------------------------	-----	----	----

### 講義目的、講義概要

ての定着を図りたい。

#### ●講義目的

教育に関わる法制度の理論と仕組みを理解した上で、新 しい動向を検討することを目的としている。

#### ●講義概要

- 2,3は他の行政分野とは異なる仕組み、教育委員会を中心にその仕組みと、準公選制度を実施した中野区の事例を検討する。
- 4,5は学校運営の仕組みを概観した後、世界的動向ともいえる「自律的学校経営」について、日本の学校評議員や韓国の学校運営委員会制度などとも比較しながら検討する。
- 7,8では教育行政の主な役割とされる教育条件整備について学級定員、および例外事項としての教員給与を扱う。
- 9.10では教員養成の仕組みについて、戦後の教員養成制度の特徴および最近の動向、そして日本が範としたフィンランドの教員養成を検討する。
- 11,12では教科書編成を中心とした仕組みを検討し、独自の副読本づくりを行った犬山市の事例を検討する。 また、随時用語説明を中心とした小テストを実施し、理解 ての定着を図りたい。

### 授業計画

- 14. ガイダンス (講義の目的、進め方についての説明など)
- 15. 教育行政を動かす組織―教育委員会制度
- 16. 教育委員会制度(中野区・韓国?)
- 17. 学校運営の仕組み
- 18. 学校運営の新しい動向(韓国の学校運営委員会)
- 19. 小テスト
- 20. 条件整備行政の仕組み
- 21. 条件整備行政の新しい動向(少人数学級)
- 22. 教員の養成・採用・研修・身分の仕組み
- 23. 教員政策の新しい動向(フィンランド)
- 24. 教育課程行政と教科書の仕組み
- 25. 教育課程行政と教科書の新しい動向(犬山市)
- 26. 小テスト
- まとめ

### テキスト、参考文献

テキスト: 勝野正章・藤本典裕編 (2008) 『教育行政学(改 訂版) 『 学文社

参考文献:授業中に適宜指示する

### 評価方法

①出席、発言など、②授業レポートシステム、③小テスト、 ④学期末テストなどで評価する。

評価方法などは第一回目に指示する。

担当者

桑原 憲一

#### 講義目的、講義概要

#### 【目的】

養

本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。

#### 【概要】

本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:教育の制度化

第3回:学校教育制度の概要

第4回:学校教育制度の変遷

第5回:公教育と私教育

第6回:教育行財政

第7回:教育委員会制度

第8回:教育課程と学習指導要領

第9回:諸外国の教育制度

第10回:家庭教育の現状と課題 第11回:社会教育の現状と課題

第12回:教育改革の現状と課題(1)

学校選択制、小中高一貫教育

第13回:教育改革の現状と課題(2)

学校評議員、学校運営協議会 第14回:教育改革の現状と課題(3)

初任者研修、教員免許更新制度

### テキスト、参考文献

講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜 紹介する。

#### 評価方法

授業計画

平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。

養 教育科学研究各論 II (教育課程論) 担当者 桑原 憲一

### 講義目的、講義概要

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、 教育の目標や内容、授業時数などを総合的に組織した学校 の教育計画である。この教育課程は、校長を中心として全 教職員の参画の下に、学校が主体性を持って編成していか なければならない。したがって、教職に携わる者は、教育 課程に関する基礎的・基本的な事項を修得しておかなけれ ばその使命と責務を果たすことはできない。

本講義では、平成20年に改訂された学習指導要領を踏まえ、教育課程の概念や意義、教育課程編成の一般方針、指導計画の作成、編成の手順と評価等について研究を深めつつ実践能力をはぐくむことを目的とする。

# 第1回 オリエンテーション

教育課程の概念と意義

第2回 教育課程の基準と編成主体及び原則

第3回 教育課程編成の基本方針

第4回 各教科等の授業時数等

第5回 学習指導要領の意義と法的根拠

第6回 学習指導要領の内容

第7回 各教科等の指導内容

第8回 教育課程実施上の配慮事項

第9回 教育課程編成の手順と指導計画の作成

第10回 演習 週日課の作成

第11回 演習 時間割の作成

第13回 教育課程の評価と改善

# テキスト、参考文献

『中・高等学校学習指導要領解説・総則編』及び講義毎に 配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。

### 評価方法

平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。

关	<b>业</b> 左40 光π / 基本部和3Δ\		+11 1/1 =14	<i>c</i> +>-↓↓	
養	教育科学研究各論 II (教育課程論) 		担当者	安井 一郎 	
講義目的、講義概要	要	授業計画			
講義目的		1 教育課程と学	学力問題		
本講は、学力、評価、	総合的学習など、今日の学校教育の内容をめ	2 教育課程とに	は何か		
ぐる問題状況をふまえ	えながら、教育課程の研究、実践に関する今日	3 日本の教育調	果程		
的課題について考察す	けることを目的とする。	4 教育課程編局	<b>戈の理論と方</b>	法(1)	
講義概要		5 教育課程編成の理論と方法(2)			
学校において展開され	れている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目	6 教育課程編成の理論と方法(3)			
的を達成するために締	扁成される教育内容に関する計画である教育	7 学習指導要領と教育課程(1)			
課程に基づいて行われ	nている。いわば、教育課程は、学校教育にお	8 学習指導要領と教育課程(2)			
ける中核としての役割	削を果たしている。本講では、以上のような観	9 学習指導要領と教育課程(3)			
点から、教育課程の編	a成と評価という問題を中心に、わが国の戦後	10 学習指導要領と教育課程(4)			
教育の歩みと教育課程	星の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今	11 新学習指導要領の検討 中学校			
日の学力問題等の問題	夏を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用	12 新学習指導要領の検討 高等学校			
いながら、多面的に検	いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深め		13 教育課程と評価		
ていく。		14 教育課程と学力問題 再考			
テキスト、参考文献	武	評価方法			
文部科学省『中学校学	学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校	出席(7割以上、	厳守のこと)、	、レポート、試験による総合	
学習指導要領』『同解	学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。				

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
テキスト、参考文献		評価方法		

養 教育科学研究各論Ⅲ(カウンセリング語 外言 人間関係とカウンセリング a	ì)	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要 カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。 まず、カウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学習する。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。 さらに、ロールプレイや心理テストを実施する。 言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。 出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。	2.カウンセリングとは何か 3.カウンセラーの役割と資格 4.カウンセラーの世界(相談機関) 5.カウンセリングと心理療法 6.クライエント中心カウンセリング(1) 7.クライエント中心カウンセリング(2) 8.精神分析的カウンセリング 9.認知行動カウンセリング 10.傾聴の理論 11.傾聴の実習		
テキスト、参考文献         『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社	11.傾聴の実習 12.ロールプレイの実習 13.心理テストの実施 14.講義のまとめ  評価方法		

養 外言	教育科学研究各論IV(パーソナリティ理論) 人間関係とカウンセリング b		担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要	<u>.</u>	授業計画		
リティという言葉が とき、このパーソナリーである。 本講義では、パー ついて学習し、また、 ストレーション、防 さらに、パーソナ テストを実施するこ 言語文化学科の専 学生は受講できる。	表わす言葉として、心理学ではパーソナ使われている。われわれが人を理解するリティという用語は非常に重要な概念のソナリティの定義、理論、形成、発達にパーソナリティと関連の深い葛藤、フラ衛機制などの諸問題について考察する。リティ・テストの方法について理解し、とで、自己理解を深めていく。 門科目であるが、全学科の2年生以上の実習をするので出欠を重視する。	1.講義の概要 2.パーソナリティの 3.パーソナリティの 4.パーソナリティの 5.パーソナリティの 6.パーソナリティの 7.青年期の老年期の 9文化とパトレーシ 11.防衛機制 12.パーソナリティ 13.パーソナナション 14.講義のまとめ	の類型論 の特性 形成の 形成の達 ナリパテーソー アンテーン でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 できる。 で。	ティ 重類と方法
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価方法		
『カウンセリングへ	の招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社	講義、グループワ による。実習をす		のレポートおよび出席状況 重視する。

養	教育科学研究各論 V (学校カウンセリン	ング)	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要	<del>.</del>	授業計画		
不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。		第1回:この授業の目標と進め方 第2回:学校・生徒の現状とカウンセリングの必要性 第3回:カウンセリングとは 第4回:カウンセラーの役割、教師の役割 第5回:生徒理解と援助のポイント(1):「不登校」		
につけることにより、教科教育以外の教師の役割理解を深め、資質向上を図ることを目標とする。 授業回数が限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。 講義のほか、ロールプレーやVTR・テープ視聴等を併用する。		を身 第5回:生徒理解と援助のポイント(1):「不登校」 を深 第6回:生徒理解と援助のポイント(2):「いじめ」その他 第7回:カウンセリングの実際(1):紙上応答実習 学習 第8回:カウンセリングの実際(2):良い面接と問題のある 面接 (テープを聞く) たて、第9回:カウンセリングの理論と技法(1):諸理論の人間観 と治療目標・技法の比較		
<b>テキスト、参考文献</b> テキストは用いない。プリントによる。 参考文献は必要に応じて示す。				勿(「ワークシート」、「ふりか ・トを総合して評価する。 試験

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
	ı		

養	教育科学研究各論V(学校カウンセリ	ング)	担当者	瀧本 孝雄	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画			
講義目的、講義概要  まず初めに教育相談とは何かについて考察し、その具体的内容について検討する。次に、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。 さらに学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。 また、養護教諭、学校医、スクールカウンセラー等の職務の実際や連携について考察する。		援業計画 第1回:ガイダンス 第2回:グループ・ワーク 第3回:教育相談とは何か 第4回:教育相談の内容 第5回:養護教諭、学校医の役割 第6回:スクールカウンセラーの役割 第7回:カウンセリングの目的とその意義 第8回:カウンセリングの理論と技法 第9回:学校カウンセリングの方法 第11回:中学生・高校生と学校カウンセリング 第12回:生徒の問題行動 第13回:生徒の精神衛生 第14回:心理テストの理論と実際 第15回:全体のまとめ			
テキスト、参考文献	<b>#</b>	評価方法			
『カウンセリング〜 2006	への招待』瀧本孝雄著 サイエンス社	評価方法は講義、レポートおよびと		ワークに関しての小テスト、 る。	

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
テキスト、参考文献	<b>状</b>	評価方法		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
ニナフト 全本介料	======================================		
テキスト、参考文献	評価方法		

養	教育科学研究各論 V (学校カウンセリ	ング)	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画		
グの知識・技術を を知り、そこで教 について、特に多 いじめ・集団不適 を分析・検討しな	されるガイダンスとカウンセリン 講義する。また学校という場の特徴 職相談全般および教職員相互の連携 く見られる諸問題、例えば、不登校・ 応的行動などについて、個々の事例 がら、その効果的対処法を考える。 技術に関しては、適宜実習を行う。	第7回:カウン 日常会話とた 第8回:カウン 応答の技法 第9回:不登校 第10回:不登	ウいお相セセウセ の校めめる他ンうけ互リリウリ 事のののむのリの教連ググリグ 検例例例ケ題ン特育構とカシション 計検検検ー	がとは 散 目談 こついて ガイダンスの方法 基礎と応用(1) グでの会話 基礎と応用(2) (1) 小学生の事例 対(2) 中学生の事例 対(2) 加立したケース 対(2)
テキスト、参考文献		評価方法		
テキストは使わな 布する。	い。その都度、必要なプリントを配	授業中に与える。 する。	小課題や実習	<b>習レポートなどから評価</b>

養 教育科学特殊研究 I (異文化理解教育)			担当者	小島 優生
講義目的、講義概要	授業計画			
●講義目的 異文化間における教育制度に関わる問題を扱うことを目的とする。 グローバル時代を迎え、人の移動が活発になるなかで、学校の中にも「異文化」を持つ子どもたちが相互に学ぶ状況が増加しつつある。むろん、これは「生きた異文化を知る」よい体験になるという肯定的評価の一方で、「異文化を持つ」子どもたちをどう受け入れるかという点でいくつかの困難も見受けられる。そこで、本講義では内容を以下の3つにわけることにする。 Ⅰ. 日本におけるニューカマーの子どもたちの教育 (講義2.~5.まで) Ⅲ. 日本における特殊な教育機関の位置づけ (講義6.~8まで) Ⅲ. 諸外国での外国人学校の位置づけ (講義10.~12まで)	2. 3. 4. 5. 5. 5. 5. 7. 18. 9. 10. 2.	学学日家小 才電教小 公校校本族括 一車育括 教	に教的は& ルで特& 育田育モ子小 ド通区小 にわシノどテ カえとテ 組いテルのト ーアKト 込	の子どもたちの教育 メリカの大学!?
※現在の日本の学校教育のカリキュラムの中に含まれる英語教育における「異文化理解」や、総合的学習の時間における「異文化理解」等について扱うものではないので、注意すること。	12. ‡ 13.	排除	と組み込み&小テスト	のアプローチをとる事例

評価方法

①授業への参加、発言などの貢献、②授業後のレポートシステムの提出とその内容、③3回の小テスト、④学期末の

レポートの4点を総合的に判断する。

テキスト、参考文献

特に指定しない。参考となる文献は授業中に適宜指示する。

養	教育科学研究各論VI(こども論)		担当者	小島 優生	
クに関する立と、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	子育て、貧困、少年事件などのトピッ 再度検討することを目的としている。 背景には、言説――たとえば親の教育 中年犯罪は増加・凶悪化の一途をたどっ があるがそれらははたして本当なのか。 その現状に照らして政策は適切なのか。 後となるような講義にしたいと考えてい を行っていく。 自食困の現状や政策の現状を概観し、検 これた少年法の内容とその意味を考え で少年犯罪が減少するのかもアメリカ 討していく。 ども(子育て)支援の動向を、イギリ ・エーデン、韓国を例に検討し、日本の	2. 子 3. 子 4. 子 5. 子 6. 子 7. 小 8. 少 9. 少 10. 差 11. 子 12. 子	子子子子子小少少失子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子	の歴史①江戸の歴史②教育の貧困①(子の貧困②(誰の貧困③(母か	する家族はいつから? どもの貧困を測る) のための政策か) 子世帯の子ども) 件は増加したか) が変わった) て 較① 較②
テキスト、参考文献 テキスト: 特になし 参考文献: 授業中に	,	提出、内容、	、③学		献、②レポートシステムの などを総合的に評価する。 説明する。

養外言	教育科学研究各論VII (認知科学) 認知科学		担当者	田口	雅徳
講義目的、講義概要	5. 5.	授業計画			
にしますることでは、	間の「知」のしくみやはたらきを明らかいのな学問であり、その研究領域は広研究は、とくに認知心理学で得られた研究いくことにする。また、授業にてもらい、で、授業にてレポート発表してもらう対してもらいがである。のしくみの基盤をなまでの発言をもとに成が、人間の「知」のしくみの基盤をなますが、人間の「知」のしくみの基盤をなますが、人間の「知」のしてみでいている。でに、動物にとらに、近れる。でいる「脳の機能」についてデオ教みでいくことにする。初回授業には必ず出る。	授業記知知科党ののの覚記記記しししい脳学学ののの覚記記記しししい脳学ののの覚記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記	は歴性性②((( (文)(((())()()(()()(()()(()()()()()()()()	調査) - ト発表) (理) 調査) - 発表) ) 過程) : 調査)	
テキスト、参考文献	t よい。必要ない資料は配付する。	<b>評価方法</b> レポートと授業	での発表内容	マルト か 証 無 士	Z
ノイクトは使用しる	kv'。必女はv'具体は肛門する。	レルードと授耒	ての光衣門名	トにより計画り	ි <sub>0</sub>

養外言	教育科学研究各論VII (認知科学) 認知科学		担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画		
半期完結	接業のため春学期と同内容			
テキスト、参考文献		評価方法		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
	1		

養	教育科学特殊研究Ⅱ (教師と語る)		担当者	川村 肇
現場の小中学校の教育を表示のででは、	に際の姿を、実践記録を読みあい、教育のでいるの計論を通じてつかみます。そのは導についての理解を深めます。 は講義・討論と、埼玉県の教師の研究会はします。そのため、右記の合宿に必のがであれば、 は、本記の合宿に必のであれば、 は、本記の会でである。 は、本記の会でである。 は、本記の会でである。 は、本記の会でである。 は、本記のといる。 は、本記のといる。 は、本記のといる。 は、本記のといる。 は、本記のといる。 は、本記のといる。 は、本記のといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといると	授業計画  1 講義の進め方等 2~3 生活指導と 4~7 実践記録を 8 合宿参加のまと 合宿は12月中の一定)です。	は何か (テン ご読む こめ	
テキスト、参考文献	<del>`</del>	評価方法		
高橋陽一他編『生活 (武蔵野美術大学出	72.14.13.12	出席と最終レポーは、不可とします		。合宿に参加しない場合に

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養	教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自	己理解)	担当者	田口 雅徳	
講義目的、講義概要	5	授業計画			
どを実践してもらる を実践してもらる。 を基本的知見を目言 の目的である。心後には、結果をレビデオを視聴し、 うる。 ※履修者には授う (2000 円程度)を ら自動発行機で申書と引き換えに検	まな心理検査やグループ・ワークなう。これらの学習を通して、心理学得してほしい。また、心理検査の結合理解を深めてもらうことも本講義理検査やグループワークを実践したポートにまとめてもらう。関連するレポートを書いてもらうこともあり、大学で使用する心理検査用紙の実費を負担してもらう。履修が決定した計画を開入すること。授業時に申請査用紙を配布する。初回の授業にていて説明するの。	<ol> <li>質問紙に</li> <li>質問紙に</li> <li>ないに</li> <li>ないなみを</li> <li>を付出</li> <li>を対し</li> <li>を対し</li> <li>を対し</li> <li>がループ</li> <li>がループ</li> <li>がループ</li> <li>がループ</li> </ol>	のよる はい で で で で で で で で で で で で で で で で で で	と種類 査① 査②	
テキスト、参考文献	t e	評価方法			
には、これら心理検	低はこちらで用意する。ただし,履修者 全用紙購入にかかる費用を履修登録時 申請書と引き換えに検査用紙を配布す	各回の授業レポー 価する。	トと最終のレ	ポートにより総合的に評	

養	教育科学特殊研究IV(スポーツコーチ学 a)		担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要	Ē	授業計画		
競た味ののきるや関指 「講概せま生とはこう体体値えに方す。 概容ましたと適わりま 義内しい。 世界のののきるや関指 「講義説なす。」 基。一にのが。 要はすしに、したあも理が、でのが、 要はすしたが、 要はすした。 でのが、 要はすした。 でのが、 でのが、 でんしんが、 でんが、 でんしんが、 でんいんが、 でんしんが、 でんしんが、 でんしんが、 でんしんが、 でんいんが、 でんいんが、 でんいんが、 でんいんが、 でんいんが、 でんいんが、 でんいんが、 でんいんが、 でんいんが、 でんがんが、 でんいんがいんがいんがいんがいんがいんがいんがいんがいんがいんがいんがいんがいんが	ドでスポーツを楽しむことができます。 してスポーツを楽しむことができます。 してスポーツを楽しなスポーツの魅力を にしてスポーツのはしてスポーツの魅力と になって、複雑に働いて現出しても観戦するときにあることができます。 で本講義ではといるときになることができます。 で本講義では運動中の身体なが機へのは、 な知識を生かして工夫されることを目れることをはないでかずであるとなかにないである。 な知識を生かして工夫されることを目れるでは、 な知識を生かして工夫されることを目れるでは、 な知識を生かして工夫されることを目れるでは、 な知識を生かして工夫されることを目れるでは、 では、 な知識を生かして工夫されることを目れたのでは、 な知識を生かして、 な知識を生かして、 な知識を生かして、 な知識を生かして、 な知識を生かいてもなどであれていたができます。 のでは、 ないでもいいができます。 ないても紹介する予定です。	8. トレーニング 9. スポーツを 10. スポーツを 11. スポーツと 12. こども・高 13. トップアス 14. まとめ	トロー大 ローナ は に は は は は は は は に に に に に に に に に に に に に	がかする② がい者とスポーツ
テキスト、参考文献 『イラスト運動生理		<b>評価方法</b> 出席、授業態度	、レポートの	)内容で総合的に判断します。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養教	z育科学特殊研究V (スポーツコーチst	ź b)	担当者	梶野	克之
講義目的、講義概要 この講義では、現では、現代社会で、現代社会でににている。とは、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には、国際に	く揺れ動く社会の変化に直面してい 起こっている変動にどう対応してい 考えていきたい。 の世界においても然りである。スポ が進展し、スポーツが政治、経済、 我々の生活のあらゆる側面に深くか ツは個人のレクリェーションとして 増進、学校体育の一活動境域、地域 治経済の動向にも大きな影響を与え たは集団が、相手と力や技能を競っ 服したりすることを楽しむ活動であ 人間の最高能力の発揮にかかわるも 解明は重要である。 ーツを的確に分析し、スポーツの義	授業計画 1、現代社会 意義 2. 現代社会 3. スポーツ 4. 少子高齢 5. 少子高齢 6. 商業主義	とのの社社とのと適技技心心でない。とのの社社とのと適技技心心でない。というないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	現代社会におけ ペーツ メポーツ人口構造 ーツ その1 ーツ その2 スポーツと環境 ア で 身体運動のイク スポーツと スポーツと ファントーム	けるスポーツの 告 お金がかかる 意問題 メージ

評価方法

定する。

出席回数、授業への参加態度、提出物の内容などにより決

テキスト、参考文献

池田勝・守能信次編『スポーツの社会学』杏林書院

松田岩男他編『スポーツと競技の心理』大修館書店

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
	<b>.</b>	== l== - <u>+</u> .		
テキスト、参考文献		評価方法		

養	教育科学特殊研究VI(リーダーシップ論)		担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画		
問題解決活動を実	実践し、その中から集団と個の関わりを	1 オリエンテー	-ション	
考えていく。問題角	深決活動は学生が互いに指導役割を交代	2 問題解決活動	协体験	
しながら行うことで	ご、指導経験の機会を得ることも目的と	3 リーダーシッ	プについての	のグループ討論
している。		4 発表、ふりた	<b>かえり</b>	
グループ単位で台	と画作成と発表を行う過程でリーダーシ	5 リーダーシッ	プ理論と企同	画作成の方法
ップ理論を参考にし	しながら自己と他者の特性と役割を理解	6 グループによるゲーム企画作成		
していく。		7 グループによる指導体験		
		8 ふりかえりと発表		
		9 イベント企画コンテストためのグループ討論		
		10 イベント企画コンテストの実施		
		11 グループによるふりかえりと発表		
		12 コンテスト上位のイベントの実施		
		13 相互評価		
		14 まとめ		
テキスト、参考文献		評価方法		
必要に応じて資料を	と配布します。	出席、授業への	取り組み姿勢	、小レポート、期末レポート

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

	担当者	
授業計画		
=== /== +- >+		
評価力法		
	授業計画	授業計画

養	教育科学特殊研究VII(体育経営スポーツマネージメント)		担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画		
体育経営スポーツ	マネージメントの基礎を学び、実践・	第1週 ガイダンス	ζ	
実習することを授業	の目的とします。	第2週 スポーツマ	7ネージメン	トの概念
授業で学んだ項目	に関して、スポーツイベントを企画し、	第3週~第14週	イベント作	りと実行
実現してもらいます	•			
イベントは、昼休	るみ、放課後、土日祝日、冬期休業期間			
など授業の無い時間	帯で、また、学内または学外の施設を			
使って行ってもらい	ます。			
グループで担当計	一画し、実現してもらいます。			
顔写真1枚を貼っ	た受講票の作成をしてもらいます。			
定員があります。				
テキスト、参考文献		評価方法		
必要に応じて紹介します。		イベント作りと実	<u></u> 行、レポート	、担当者とのコミュニケー
		ション、以上を総	合して評価し	ます。

養	自然・環境研究 I (科学史 a)		担当者	東孝博
た世界像の変革を設 物理学の革命といった。 に、科学とは何かる また、この授業を受 に対し、科学を学え になることも目指し 「自然・環境研究」 い、現在の人類が持	る力学と物理法則概念の形成を中心とし 者まえ、20世紀における科学、とくに える相対論と量子論の成立の過程を中心 という問題を歴史的視点から考察する。 受けることによって、受講生が一般市民 ぶことの意義や楽しさを伝えられるよう	授業計画  1. はじめに 2. 近代の運行 4. ガリレイの本 5. ニュート学の所 7. 特別概念の本 9. 空間概念の本 10.一般相対性質 11.時空の般相対性質 12.一般相対は何対 13.時間とは同じ 14.最新の時間 15.	B 対性原理 対字立 計 対対性 B B B B B B B B B B B B B	
テキスト、参考文献	は、参考文献は適宜紹介する。	<ul><li>評価方法</li><li>日常の授業への</li><li>をつける予定。</li></ul>	参加態度、毎	毎回の「授業レポート」で評価

養	自然・環境研究Ⅱ (科学史 b)		担当者	東孝博
た世界像の変革を踏物理学の革命といえに、科学とは何かとまた、この授業を受に対し、科学を学ぶになることも目指し「自然・環境研究II	力学と物理法則概念の形成を中心とし まえ、20世紀における科学、とくに る相対論と量子論の成立の過程を中心 いう問題を歴史的視点から考察する。 けることによって、受講生が一般市民 ことの意義や楽しさを伝えられるよう たい。 (科学史b)」では量子論を中心に扱 っている最新の物質の究極像が如何に なていく。	提業計画  1. はじめに 2. 近代以前の物質 3. 光の粒子説・波 4. 光電効果 5. 近代原子論 6. 前期量子論 7. 量子力学 8. 観測の問題 9. 相対論的量子部 10.素粒子の世界 11.統一理論 12.宇宙の進化 13.最新の物質観	皮動説	
7 11 11 7 3 3 7 4 113	とし、参考文献は適宜紹介する。		加態度、毎回	の「授業レポート」で評価

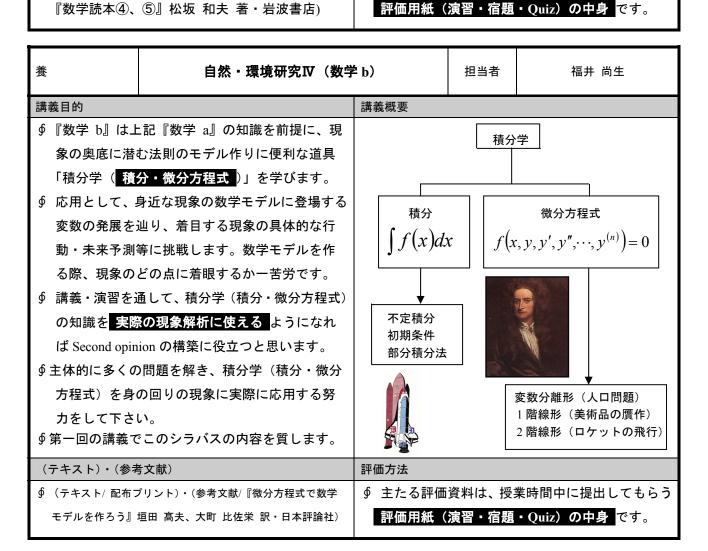
#### 自然·環境研究Ⅲ(数学a) 養 担当者 福井 尚生 講義目的 講義概要 ∂ 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮 微分学 します。『数学 a』では、現象の変化を解析する 際に登場する「微分学」を学びます。微分学は 現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底 関数・逆関数 極限 微分 等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑 $\partial z \quad \partial z$ $y = f^{-1}(x)$ $\lim f(x)$ な環境を反映して、多変数微分も勉強します。 $\partial x' \partial v$ ∂ 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数 の変化の様子から、対応する身近な現象の知ら 有理関数・無理関数 れざる部分の変化の様子を逆に探ります。 指数関数 · 対数関数 三角関数・逆三角関数 ∂ 講義・演習を通して、微分学の知識を 実際の 現象解析に使えるようになればと思います。 ∂主体的に多くの問題を解き、微分学を身の回りの 極限値 常微分・偏微分 Achilles と亀 極値 現象に実際に応用する努力をして下さい。 0.9 = 1最小二乗法 ∂第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。

評価方法

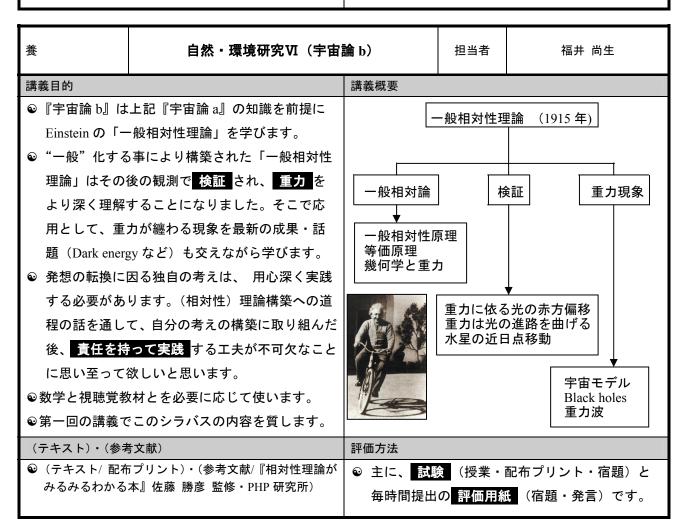
∂ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう

(テキスト)・(参考文献)

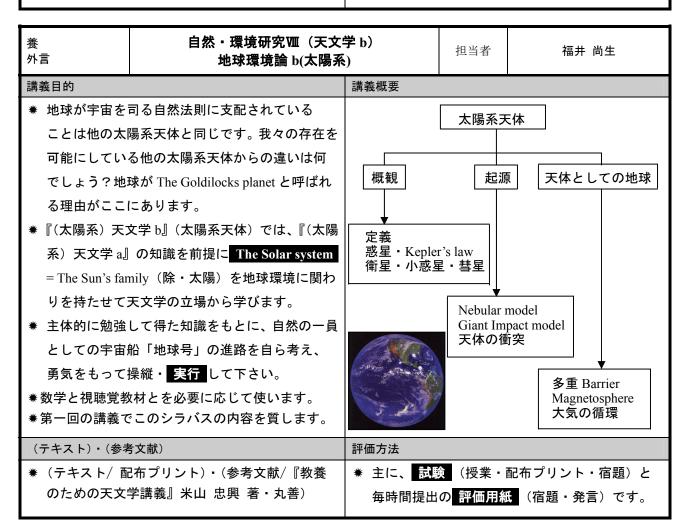
∂ (テキスト/配布プリント)・(参考文献/



#### 自然・環境研究V(宇宙論 a) 養 担当者 福井 尚生 講義目的 講義概要 ☆『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を 特殊相対性理論(1905年) 学びます。自らの座標系をしっかりさせ、"特殊" に付けられた条件に留意する必要があります。 幸 Einstein は当時、研究者の間で議論されていた 光 時空 特殊相対論 光 の伝播に関して強い関心を抱きました。また Einstein が、 時間・ 空間に対する考え方を 光速度 Michelson-Morley の実験 それまでの絶対から相対に変えたことに依り、 Fitzgerald-Lorentz 収縮 物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で 絶対·相対時空 ユニークな先を考え、必要とあらば思い切った Newton のバケツ Mach 原理 発想の転換 、Paradigm Shift を試みることも 時には大切なことだと思います。 特殊相対性原理 光速度不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー (テキスト)・(参考文献) 評価方法 ☆ (テキスト/配布プリント)・(参考文献/『相対性理論が ☆ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と 毎時間提出の評価用紙(宿題・発言)です。 みるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)



養 自然·環境研究Ⅷ(天文学 a) 担当者 福井 尚生 外言 地球環境論 a(太陽系) 講義目的 講義概要 ☆ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。 太陽 諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、 生物が誕生(?)・進化し人類まで奇跡的に辿り 概観 内部 表面 着きました。「太陽系」の起源を知れば奇跡の 訳が見えてくるかも知れません。 ☆『(太陽系) 天文学 a』(太陽) では、天体として 諸物理量 構成 の地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球 Heat transfer にとって掛け替えの無い恒星 The Sun を天文学 の立場から学びます。What is the Sun? p-p chain reaction 全 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員 Solar neutrino Helioseismology としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、 Fraunhofer 線 勇気をもって操縦・ 実行 して下さい。 Maunder 極小期 ✿数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 Solar wind ✿第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。 (テキスト)・(参考文献) 評価方法 ☆ (テキスト/配布プリント)・(参考文献/『教養 ☆ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善) 毎時間提出の評価用紙(宿題・発言)です。



自然・環境研究各論 I (地球環境論 a) 担当者 北﨑 幸之助 外言 地球環境論 a(地理学) 講義目的、講義概要 授業計画 1. オリエンテーション—地理学とは 地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境 2. 環境の諸要素(1)気候環境 が人間にとって、どのような意義をもっているのかという 3. 環境の諸要素 (2) 緯度帯別降水量・蒸発量・気温 視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的 4. 環境の諸要素 (3) 地形・植生 見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境 5. 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域 6. 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで 7. 熱帯地域(3)熱帯林の保全 繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履 8. 沙漠地域(1)自然的・文化的特色と伝統的経済活動 修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意 9. 沙漠地域(2)石油資源と近代化、沙漠の開発 欲的な学生を希望する。 10. 地中海森林地域の特性 11. 地中海地域の生活様式-西欧文化の原点 12. 地球環境問題に対する視点(1) 13. 地球環境問題に対する視点(2) 14. まとめ

_				
	養 外言	自然・環境研究各論Ⅱ (地球環境論 b) 地球環境論 b(地理学)	担当者	北﨑 幸之助

#### 講義目的、講義概要

テキスト、参考文献

改訂版』原書房

地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。

山本正三他著(2004)『自然環境と文化―世界の地理的展望

#### 授業計画

評価方法

1. 環境の諸要素―地形環境

味して、総合的に評価する。

- 2. 温帯草原地域の自然特性
- 3. 温帯草原地域の開発と環境問題
- 4. 温帯混合林地域(1)高密度都市化地域の特性

期末定期試験の結果 (90%) に、出席状況 (10%) 等を加

- 5. 温帯混合林地域(2)産業革命と都市域の拡大
- 6. 亜寒帯森林地域(1) タイガの中の生活
- 7. 亜寒帯森林地域(2) タイガの開発と保全
- 8. 山地地域(1)山地の自然環境と高度帯の利用
- 9. 山地地域(2)山地資源の開発と観光化
- 10. 地球環境問題(1)生態系と人間活動
- 11. 地球環境問題(2)自然環境の破壊
- 12. 地球環境問題(3)環境問題解決にむけた取り組み
- 13. 地球環境問題(4) 私たちにできること
- 14. まとめ

#### テキスト、参考文献

山本正三他著(2004)『自然環境と文化―世界の地理的展望 改訂版』原書房

#### 評価方法

期末定期試験の結果 (90%) に、出席状況 (10%) 等を加 味して、総合的に評価する。

養 自然・環境研究各論Ⅲ (科学技術交流史 外言 国際交流特殊講義 (蘭学を学んだ人たち			担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画		
ーロッパと樹に自然科学の響をもたらし・ <b>履修資格</b> ・ 日本史・世界 ・ 資料の多くは とが苦でない	は来、日本は直接あるいは間接にヨ 様々な交流をおこなってきたが、特 の分野でそのことがどのような影 たかを知ることを目的とする。 と と は外国語であるので、辞書をひくこ なと。 と と で試験を行なう)。	を読んでいただ <ol> <li>1 国際交流</li> <li>2-6 日本の自</li> </ol>	きます。 ごとは 目然環境と欧り   然環境の特殊	· '—
テキスト、参考文献		評価方法	III ALA	
その都度紹介する。	廉価な本は各自必ず購入すること。			うレポートの出来具合、講義 結果、その他を総合して評価

自然・環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究 a)

自然・環境研究各論IV (科学技術交流史研究 b)

国際交流特殊講義 (蘭学を学んだ人たち b)

養

外言

为自由,一种,一种,一种,一种,一种,一种,一种,一种,一种,一种,一种,一种,一种,	3 %,
講義目的、講義概要	授業計画
<ul> <li>講義の目的</li> <li>・ 江戸時代、知識階級に限られたが、オランダ語に精通した人たちがいた。彼らはオランダ語を通して何を学んだのかを、幾人かを例にして勉強する。</li> <li>・ 履修資格</li> <li>・ 日本史・世界史に関心があること。</li> <li>・ 資料の多くは外国語であるので、辞書をひくことが苦でないこと。</li> <li>(最初の講義で試験を行なう)。</li> </ul>	以下の項目をそれぞれ数回ずつかけて説明し、その資料を読んでいただきます。  1-3 出島にやってきた欧州人 ケンペル以前  4-6 出島にやってきた欧州人 ツュンベリー  7-10 シーボルトは何を日本人に伝えたか  11-12 シーボルトは日本をどう紹介したか  13-14 文化・文政時代の国際文化交流
テキスト、参考文献	評価方法
その都度紹介する。廉価な本は各自必ず購入すること。	出席状況、随時提出してもらうレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。

担当者

加藤 僖重

養	自然・環境特殊研究 I (自然観察 a)		担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要	講義目的、講義概要			
ある。種の認 なる。その遺 ることを目標 <b>履修資格</b> ・ 植物名に関心			用法 分類 類類 類類 類類 数類 数類 数類 数類 数類 数類 数	説明と <b>基礎テスト</b> を行なう ( <b>欠席者の登録お断り</b> )。
テキスト、参考文献		評価方法	, EDV I =	
	介するので、必要に応じて購入 なプリントは配布する。		出来具合、講	欠席者は不可とする。提出数 義中に行なう何度かのテスト 町する。

養	自然・環境特殊研究Ⅱ (自然観察 b)		担当者	加藤 僖重
自然環境の特質 <b>講義の目的</b> ・ 地域によって 点と相違点を <b>履修資格</b> ・ 植物に興味が	って異なる植物相を理解し、日本のを知ることを目標とする。 生物型が定まっている。その共通知ることを目標とする。 あり、地理が好きであること。 00種を認識できること。		形態学 1 形態学 2 形態学 3 形態学 4 形態学 4 形態学 5 形態学 6	明と <b>基礎テスト</b> を行なう で <b>席者の登録お断り</b> )。
毎回、文献を紹介	、 かするので、必要に応じて購入す プリントは配布する。	毎回出欠を確認。	来具合、講義	席者は不可とする。提出数 中に行なう何度かのテスト する。

養	自然・環境特殊研究Ⅲ (観察と実験生物学 a)		担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要	5	授業計画		
登録するに先立っ	っての注意事項	1 はじめに	講義内容の	)説明
		2 実験室内に	おける心得	₽・実験器具の説明
<ul><li>講義の性質上</li></ul>	、受講生は年間を通じて履修する	3 キャンパス	ベウオッチン	/グ1 種の識別
ことが望まし	.V.°	4 身近な植物	7の観察 1	花の構造 ①
<ul><li>一クラスの受</li></ul>	た講者を抽選に受かった 48名に限	5 顕微鏡使用	法 1   顕微	数鏡の構造 ②
定する。 <b>抽選に受かった学生は実習費</b> (¥2,000-)を収めること。		6 顕微鏡使用	法 2   ミク	フロメーターの使用
		7 身近な植物	刃の観察 2	花の構造
·	<ul><li>詳細は1回目の講義で説明する。</li></ul>		スウオッチン	/グ2 五感を働かす
F1/11/13/ - 1-1-1			刃の観察 3	果実の構造 ①
  講義の目的		10 身近な植物	の観察 4	果実の形態 ②
	:知ることを目標とする。	11 身近な植物	刃の観察 5	葉の形態 ①
・ 为近は自然で	. 刈ることを日保とする。	12 身近な植物	の観察 6	葉の構造 ②
屈收次妆		13 身近な植物	7の観察 7	根の構造
履修資格	00 在DI [ 373 数 ]	14 まとめ		
・ 身近な稙物」	.00 種以上認識できること。			
テキスト、参考文南	₹	評価方法		
毎回、プリント西	记布		ト、宿題レ	ポート、期末テスト等で
		計価する。		
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			ト、宿題レ	ポート、期末テスト等で

養	自然・環境特殊研究IV(観察と実験生物学 b)		担当者	加藤 僖重	
講義目的、講義概要	į	授美	<b>削</b>		
登録するに先立っ	っての注意事項	1	はじめに:記	構義の内容を	を説明
		2	身近な植物の	の観察 1	
<ul><li>講義の性質上</li></ul>	、受講生は春学期に連続して履修	3	キャンパス!	ウオッチン	グ 1:種の同定
することが望	ましい。	4	蛋白質の分析	沂	
<ul><li>一クラスの受</li></ul>	講者を抽選に受かった 48名に限	5	生産構造図の	の作成	
定する。 <b>抽選</b>	に受かった学生は実習 <b>費(¥2,000-)</b>	6	種の多様性の	の観察:ブ	ナ科果実の観察
を収めること	0	7	身近な植物の	の観察 2	
<ul><li>詳細は1回目</li></ul>	の講義で説明する。	8	光合成の色素	素の分析::	クロマトグラフィー
		9	身近な植物の	の観察 3	
講義の目的		10	キャンパス	ウオッチン	グ:五感を働かす
・ 身近な自然を	知ることを目標とする。	11	形質と系統	: 類縁関係	を知る
		12	身近な植物の	の観察 4	
履修資格		13	身近な植物の	の観察 5	
身近な植物 100 和	重以上認識できること。	14	まとめ		
テキスト、参考文献	Š.	評値	西方法		
毎回 プリント酉	己布			、宿題レポ	ート、期末テスト等で
		評1	価する。		

	Г				1	
養	   多言語情報処理研究Ⅰ(コンピュータと言			担当者	旦	浩東
1		- ш ни /		7— II		THAN
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業語	十画			
高度化情報社会は	こ生きる個人として、情報とそのシステ	1	講義の概	要と目標、情	青報科学とは	
ムに関する基本的な	よ素養を修得することは、必要不可欠に	2	データ表	現、基数変換	與、論理演算	
なっています。とく	、に、コンピュータを使用する多言語情	3	コンピュ	ータの構成要	要素	
報処理の重要性がま	ますます増大しています。	4	ソフトウ	ェアの役割、	体系と種類	
本講義では、(1)	)コンピュータと情報処理に関する基礎	5	オペレー	ティングシフ	ステム (0S)	
知識 (2) コンピコ	ュータのハードウェアとソフトウェアの		OS の基础	. α α α α α α α α α α α α α α α α α α	)役割と原理	
仕組み (3) コンヒ	<sup>2</sup> ュータによる多言語処理の技術と応用	6	プログラ	ム言語		
法などについて知識	畿の形成と応用力の育成を目標としま		コンピュ	ータ言語の分	分類と目的	
す。		7	データ構	造一リスト、	スタック、キ	ュー、2分木
本講義はまず、丿	、間とコンピュータとの関わり、情報と	8	アルゴリ	ズムーアルコ	ゴリズムの表現	法、アルゴリズ
コンピュータシスラ	テムの関係、コンピュータのハードウェ		ムの例			
アとソフトウェアは	こついて学びます。そのうえで、コンピ	9	コンピュ	一タによる言	言語情報処理技	術 (1)
ュータとインターネ	マント技術を利用した多言語情報処理の	10	コンピュ	一タによる言	言語情報処理技	術 (2)
仕組みについて学び	がます。さらに、実習を通じて、多言語	11	機械翻訳	システムの演	習	
情報の活用法などの	)理解を深めます。	12	自然言語	質問応答シス	ペテム	
		13	インター	ネット上の多	5言語処理技術	
		14	授業のま	とめ		
テキスト、参考文献	######################################	評価プ	<b>方法</b>			

す。

レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価しま

授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。

講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

養	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプ	レゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
ずれかの科目を履修し PowerPointの使い方に ことを目的とする半期 実習を中心とした授業	授業は、[入門] 情報処理演習のいた学生を対象に、Excel およびこついて、より広い知識を習得する完結授業である。であるから、欠席や遅刻をしないこた場合には、必ず自習して遅れを取	3. 表の編集、記による相様、記しまる。 グラフ作成、5. 関数の利用(6. 関数の利用(7. 関数の利用(7. 関数のでの利用) 10. プレゼンンテ・12. プレゼンンテ・13. プレゼンンテ・14. まとめ	計算式、セル 計算式、セル 計算式、セル (1) (2) (3) 用(2) 用(3) コココン実 実実実 国 マショコン実 国 習習習習習	参照方法の確認(1) 参照方法の確認(2)、フィルタ (1)-1 (1)-2 (2)-1
テキスト、参考文献		評価方法		
適宜指示する。		担当教員より指え	示する。	

養	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプ	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)		各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
ずれかの科目を履修し PowerPointの使い方 ことを目的とする半期 実習を中心とした授業	授業は、[入門] 情報処理演習のいた学生を対象に、Excel およびこついて、より広い知識を習得する日完結授業である。であるから、欠席や遅刻をしないこた場合には、必ず自習して遅れを取	3. 表の編集、記 4. グラフ作用の 5. 関数の利用( 6. 関数の利用( 7. 関数の利用( 7. 関数のの利用( 8. マクロゼンンテー 11. プレゼゼンンテー 12. プレゼゼンフラー 13. まとめ	計算式、セル 計算式、セル 計算式、セル 装飾の 1) 2) 3) 用(2) 用(3) コココン実実実 フションション フション フラッション 関習習習習	参照方法の確認(1) 参照方法の確認(2)、フィルタ (1)-1 (1)-2 (2)-1
テキスト、参考文献		評価方法		
適宜指示する。		担当教員より指え	示する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅱ (情報検索と加工)		担当者	呉 浩東	
講義目的、講義概要	문	授業	計画		
活用出っています。ここーをはとををしていまることをある。ここーをはとををして、では、ととをして、では、ととをして、では、ととをして、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	はコンピュータに基づく情報検索システ と方法について、講義と演習を織り交ぜ 講義形式の授業では、情報検索の基本的 述べながら、代表的な検索システムの仕 すう。 - タベースや WWW 検索エンジン、質疑 いて情報検索の演習を通して、実践的な とする。		情報をのインでは、「大学」である。「「大学」では、「かい、「ない、「ない、「かい、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「な	- スチン・ the state of the state	ラス ロボットとインデックス ナーチエンジンによる検索/ 検索) 図の検索/演習 D検索
テキスト、参考文献 原田智子『情報検索		<b>評価方法</b> 出席、レポートおよび筆記試験により、総合的に評価する。		験により、総合的に評価する。	
必要に応じて資料を	を配布する。				·

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
		-π/π- <b>-</b>		
テキスト、参考文献		評価方法		

#### 講義目的、講義概要

講義目的・概要:この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。

まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。

#### 授業計画

- 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
- 2. WWW とホームページの基礎知識
- 3. 情報の単位と情報通信
- 4. ハイパーテキストと HTML
- 5. インターネットと情報倫理
- ページの構造と HTML
- 7. ホームページの作成 テキスト
- 8. ホームページの作成 イメージ
- 9. ホームページの作成 リンク
- 10. ホームページの作成 テーブル
- 11. ホームページの作成 その他
- 12. ホームページの作成 完成
- 13. ファイルの転送とページの更新
- 14. 総合復習

クラスによって多少進度が異なることがある。

## テキスト、参考文献

適宜指示する。

#### 評価方法

担当教員より指示する。

養 多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計) 担当者 各担当教員

#### 講義目的、講義概要

講義目的・概要:この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。

まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。

#### 授業計画

- 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
- 2. WWW とホームページの基礎知識
- 3. 情報の単位と情報通信
- 4. ハイパーテキストと HTML
- 5. インターネットと情報倫理
- 6. ページの構造と HTML
- 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ
- 9. ホームページの作成 リンク
- 10. ホームページの作成 テーブル
- 11. ホームページの作成 その他
- 12. ホームページの作成 完成
- 13. ファイルの転送とページの更新
- 14. 総合復習

クラスによって多少進度が異なることがある。

#### テキスト、参考文献

適宜指示する。

#### 評価方法

担当教員より指示する。

養	多言語情報処理研究各論IV(データベー	ース)	担当者	長崎等
方法について学習で Access の基本的 した後に、 データ いった演習を通じて 理解を深める. <受講者への要望> 遅刻は厳禁とします	を利用してデータベースの概念や設計 ける. な使い方やデータベースの概念を学習 ベース作成をおこなってもらう. そう (データベースの概念や設計に対する ト. またコンピュータの実習を主体と まずに出席すること.	授業計画  1. ガイダンスと 2. データベース 3. Access の基立 4. Access の基立 6. テーブル(1) 7. テーブル(2) 8. クエリ(1) 9. クエリ(2) 10. リレーショ 11. データベー 12. データスト 14. 実習テスト	概論 体操作(1) 体操作(2) 体操作(3) ンシップ ア ア で が 済習(1) ス作成演習(2)	) )
11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	A おいまま 2007』 , 実教出版	出席及びテストのによって評価し	,,,,,,	

養	多言語情報処理研究各論IV(データベー	報処理研究各論Ⅳ(データベース)		長崎等	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画			
方法について学習する Access の基本的 した後に、 データ いった演習を通じて 理解を深める. < 受講者への要望 2 遅刻は厳禁とします	な使い方やデータベースの概念を学習 ベース作成をおこなってもらう. そう ビデータベースの概念や設計に対する	1. ガイダンスと 2. データベース 3. Access の基元 4. Access の基元 5. Access の基元 6. テーブル(1) 7. テーブル(2) 8. クエリ(1) 9. クエリ(2) 10. リレーショ 11. データベー 12. データベー 14. 実習テスト	株概論 体操作(1) 体操作(2) 体操作(3) ンシップ ス作成演習(1 ス作成演習(2	) )	
テキスト、参考文献		評価方法			
<b>■ 30H で埋解できる</b>	Sアクセス 2007』 , 実教出版	出席及びレポー	ト課題によっ	て評価します.	

養 多言語情報処理研究各論 V (統計と調査	至法) 担当者 安間 一雄
講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を 通して科学的なものの考え方を身につける. 授業概要 ・ 1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはな	<ol> <li>(1) 英語学習実態調査 〜アンケートの取りかた</li> <li>(2) お国自慢クイズ 〜テスト問題作成</li> <li>(1) データを集めてみよう 〜統計量の種類(量的変量・質的変量): 比例変量,間隔変量,順位変量,名義変量</li> <li>(2) データの傾向を見よう 〜度数分布,相対度数,度数分布表</li> <li>(3) データをグラフ化しよう 〜量的変数のグラフ表現,質的変数のグラフ表現</li> <li>データの特徴を数値で表そう その1 〜代表値(平均値,中央値,</li> </ol>
・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→美感と違うのはなぜ? ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい?→違いがあるとは? ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何?→確率	最頻値),値の広がり,能カテストと到達度テスト 4. データの特徴を数値で表そう その 2 〜正規分布,散布度(標準偏差), 歪度,尖度,標準得点,偏差値 5. データを採点しよう(これまでのまとめ) 〜表計算ソフトによる採点・集計
が高いとは? 私達は常にこのようなデータに囲まれており,それを巧みに利用しながら生活している「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが,より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる。この授業では日常的なデータを素材として,その性質を	<ul> <li>6. テストを見直す 〜信頼性係数,項目分析,ロジスティック回帰分析</li> <li>7. 偶然か,特殊能力か? 〜記述統計と推測統計,仮説(帰無仮説,対立仮説)</li> <li>8. 学習時間と成績には関係があるか? 〜相関散布図,相関係数,回帰直線,欠損値の推定,相関検定</li> <li>9. あさがお観察日記 〜対応がない場合の t 検定,分散分析</li> <li>10. ダイエット観察日記 〜対応がある場合の t 検定,プリテスト・ポストーストー時系列公託</li> </ul>
記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ、基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。	トテスト,時系列分析 11. 出身地と麺類の好みに関係はあるか? 〜クロス集計,カイニ乗検定 12. 駅前出店計画 〜判別分析 13. おいしい料理のための食材分量 〜重回帰分析 14. 隠れた傾向を探り出す 〜主成分分析,因子分析

養 外言	多言語情報処理研究各論VI (コーパス言語学) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(コーパス言語学入門)	担当者	浅山 佳郎

評価方法

(定期試験 (60%) + 平常授業におけるまとめ (40%)) x 出席率

テキスト、参考文献

山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み:統計データ分析

入門』( 秀和システム, 2004 ) ISBN 4-7980-0913-X

外日	情報・コミューケーション研先特殊講義(コ	一八八百冊子八門)		
講義目的、講義概要		授業計画		
〔講義目的〕		第1回 コンピュータとDOS		
日本語教育のための	の, コンピュータをもちいた言語分析の方	第2回 テキストファイ	イル	
法をまなぶ。よってコン	ノピュータはあくまで道具であり, それ自体	第3回 コーパスの影	と計と構築	
が目的となるものでは	ない。授業の目的は、基本的に日本語教	第4回 データのダウ	フンロード	
育のためのコーパス言	<b>語学にある。</b>	第5回 正規表現		
なお, コンピュータ	についての専門的な知識はまったく必要	第6回 テキスト処理	·GREP検索(	(1)
ないが,日本語分析に	こついての知識は,あるほうがのぞましい。	第7回 テキスト処理	·GREP検索(	(2)
〔講義概要〕		第8回 形態素解析	•茶筅(1)	
授業は, 教員が簡単	単なモデルを提示したあと, 練習問題をだ	第9回 形態素解析	•茶筅(2)	
すので、それを受講生	Eが実習するという形式を原則とする。さら	第10回 テキストマイ	イニング・Kh-c	oder(1)
に簡単なコーパスの影	と計と組み立て,それを利用した簡単な研	第11回 テキストマイ	イニング・Kh-c	oder(2)
究を課題としてあたえ	るので、履修者には、課題をこなして、発	第12回 最終発表(コーパスによる分析)(1)		
表することがもとめられ	る。	第13回 最終発表(コーパスによる分析)(2)		
		第14回 最終発表(	コーパスによる	5分析)(3)
テキスト、参考文献		評価方法		
特定のテキストは使用	しない。参考文献は開講後指示する。	発表と出席で評価す	-る。	

多言語情報処理特殊研究 I (自然言語処理 a) 担当者 呉 浩東 外言 自然言語処理 a 授業計画 講義目的、講義概要 自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のこ 1 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面 とで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」 2 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性 言語といます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱う ための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成 3 自然言語処理の予備知識 したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利 4 形態素解析(1) 形態素解析の原理と方法 用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態につ いて解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に 5 形態素解析(2) 日本語と英語の形態素解析実験 付くことを目標とします。 本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説しま 6 単語処理 単語の同定、単語の統計処理 す。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解 7 構文解析(1) 文脈自由文法、句構造文法 析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・ シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学び 8 構文解析(2) 構文解析の原理と実験 ます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラ 9 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 インソフトを使って演習を行います。 10 コーパス、言語データベースの構造と使い方 11 言語の統計処理技術 12 言語処理とオントロジー 13 総合演習 14 授業のまとめ

養外言	多言語情報処理特殊研究Ⅱ (自然言語処理 b) 自然言語処理 b		担当者	呉 浩東	
講義目的、講義概要		授業語	計画		
1 214 424 1 1	ピュータを使用した自然言語の処理に関 利用実態について解説し、演習を通じて	1	意味論:	自然言語	の意味論、フレーム理論
	ウハウを身につくことを目標とします。	2	意味解析	: 意味解析	の方法と実験

3

評価方法

す。

自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。 本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上で、 自然言語処理基礎技術のである意味解析、文脈解析、知識 の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術 に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要 約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、 自然言語対話システム、質問応答システム、自然文情報検 索システム、対話システムなどの基本技術・アーキテクチ ャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処

4 知識の表現法

文脈解析: 談話構造、照応問題の対処法

レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価しま

5 文書処理(1) 言い換え、文書校正

6 文書処理(2) 自動要約の原理7 機械翻訳(1) 機械翻訳の処理方式と原理

8 機械翻訳(2) 機械翻訳システムの使用と評価

9 質問応答システム

10 情報検索における言語処理技術

11 対話システム

12 自然言語処理システム

13 総合演習

14 授業のまとめ

#### テキスト、参考文献

テキスト、参考文献

(1)

(2)

最初の講義で指示します。

必要な資料を配布します。

#### (1) 最初の講義で指示します。

理システムの問題点などを議論します。

(2) 必要な資料を配布します。

#### 評価方法

レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

養 外言 多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論 a) プログラミング論 a(プログラミング論・自然言語処理入門)

担当者

呉 浩東

#### 講義目的、講義概要

コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。

初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic 2005 を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行う。

#### 授業計画

- 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説
- 2 プログラミング言語とプログラム
- 3 開発ツールとしての Visual Basic 2005 の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ
- 4 Visual Basic の基本操作
- 5 簡単なプログラムの作成 基本なプログラミングの手順、プログラムの動作の 確認する
- 6 イベント駆動型プログラム
- 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方
- 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング
- 9 選択構造をもつプログラム(2)多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計
- 10 繰り返しあるプログラムの作成(1)回数指定による繰り返し
- 11 繰り返しあるプログラムの作成(2)条件指定による繰り返し
- 12 アルゴリズムの原理と演習
- 13 総合練習、課題の作成
- 14 講義のまとめ

#### テキスト、参考文献

林 直嗣・児玉靖司:『実習 Visual Basic 2005 一だれでもわかるプログラミングー』サイエンス社

#### 評価方法

定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味 して評価する。

外言

多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論 b) プログラミング論 b(プログラミング論・自然言語処理入門)

担当者

呉 浩東

#### 講義目的、講義概要

この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。

ここでは、Visual Basic 2005 というプログラミング 言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。

#### 授業計画

- 1 プログラムの構造化
  - Sub プロシージャ、Function プロシージャ
- 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方
- 3 文字列の処理プログラム(1) 簡単な翻訳プログラムの作成
- 4 文字列の処理プログラム(2) 文字列の照合と置き換え
- 5 図形の描画さまざまな図

さまざまな図形を描画するプログラムの作成

- 6 図形の描画
- 7 画像描画の演習

画像の呼び出し方、画像の移動とコピー

8 ファイル操作(1)

シーケンシャルアクセス:データの読み書き

9 ファイル操作(2)

ランダムファイルとランダムアクセス

- 10 再帰というプログラミング手法
- 11 オブジェクト指向プログラミング総括
- 12 最終課題の作成
- 13 講義のまとめ

### テキスト、参考文献

林 直嗣・児玉靖司:『実習 Visual Basic 2005 一だれでもわかるプログラミング―』サイエンス社

#### 評価方法

定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味 して評価する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
ニナフト 全本介料	======================================		
テキスト、参考文献	評価方法		

養	多言語情報処理特殊研究V(コンピュ	ータ構造論)	担当者	呉 浩東
ムに関する基本的ななっている。単にコうことではなく、そり、情報やそのシスす能力を身に付ける本講義では、(1)ミュニケーションにな素養、(3)情報にな素養、(3)情報に関する基本講義では、近年急に関する基本講義では、データが	生きる個人として、情報とそのシステ 素養を修得することは、必要不可欠に シピュータの操作技術を習熟するとい の基礎となる原理を理解することによ テムをより有用な道具として使いこな	ボタタタ BMS a DBMS a DBMS a SQL ピトタタタ World Wi A セコ 情情 情ソ	高ーストー のテェウー ロテェウー ロテェウー ロテェウー アース はない と で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ータの正規化 ム (DBMS) ーク AN の構成とアクセス方式 、通信規約 TCP/IP、DNS 検索、電子メールなど テム、電子認証 ェア構造
テキスト、参考文献	<del>,</del>	評価方法		
最初の講義で指示す毎回の講義で必要な		レポート、出席	状況と筆記試験	<b>さの結果を併せて評価する。</b>

養	   多言語情報処理特殊研究VI(マルチメラ	ディア論)	担当者	田中 雅英
識的になってきてい 単に指示通りにほど 一している人はほど 理・ロントきるのラッにこれ いフトをあるラッにこれ ソフトをあるん,ここれ ものになく,あくまでもなく,あくまでもなく	今やインターネットの世界ではもう常いる。しかしそれは、ブログなどでただけ付けるだけであり、その原理をマスターんどいない。これらを自分の力で処けることを目指し、より表現力が豊かなこしたい。 はあるが、ここでは標準となりつつあるなを使い、それによってまず基本の処理	4. アニメーシ	作成② 様成② を で で で で で で で で で で で で で	ーション
テキスト、参考文献 授業中に適宜指示・	<u>*                                    </u>	評価方法 いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視し、欠席回数が多いと不可とする。		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	 評価方法		

養	卒業研究		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	5. 5.	授業計画		
指導のもとでそれるまとめ上げることがして、4年間の大党演習の目的である。 論文の執筆に当たき」を参照し、その引きには論文の提出	各自が研究テーマを設定し、担当教員のだれ研究を進め、その成果を論文としているとめられる。研究と論文の執筆を通文での学びを確かなものとすることが本とっては、別紙の「卒業論文提出の手引の諸注意に従うことがもとめられる。手出期限や論文執筆上の注意などが細かく手引きに従っていない論文はいっさい受	なわれる。進め	方については 当教員は5-6	論文執筆に対する指導がおこ は各担当教員により異なる。 学期に所属していた演習の教 ない。)
テキスト、参考文献	<b>*</b>	評価方法		
各担当者による		各担当教員によ	る。 ただし, 죠	卒業論文の提出は必須である。

養	卒業研究		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
春学期参照		春学期参照		
		==		
テキスト、参考文献		評価方法 表学地会照		
春学期参照		春学期参照		

養	スポーツ・レクリエーション(学生交流) 国際教養学部指定クラス	支援プログラム)	担当者	松原 裕・和田 智 依田 珠江
講義目的、講義概要	<del>.</del> <del>2</del>	授業計画		
講義目的		第1週 教室で授	業のガイダン	√スと顔写真1枚を貼った受
この科目は、現在お	および将来の健康で充実した生活のため	講票の作	成を行います	•
に、健康を創り、網	<b>推持し、守ること、自由時間をより充実</b>	更衣する	必要はありま	きせん。
させるための態度、	知識、技術を身につけること、身体活	写真 1 枚	と学生証を用	]意して出席してください。
動を通じて、国際教	<b>牧養学部新入生のコミュニケーションを</b>	第2週 実技開始		
図ることを目的にし	<sub>ノ</sub> て設置されています。	松原担当の4回は屋外の人工芝グラウンドで行い		の人工芝グラウンドで行い
講義概要		ます。		
この科目用にクラス	スを編成し、3人の教員の授業を各4回	ノルディ	ックウォーキ	ング、体操、ボールゲーム、
受けます。		その他を	行う予定です	•
詳細は第1週のガイ	イダンスで説明します。	依田担当	の4回は屋内	のアリーナで行います。
		ボール、	ラケット競技	を行う予定です。
		和田担当	の4回は、レ	クリエーショナルゲーム、イ
		ニシアチ	ブゲームを中	心に仲間つくりを行います。
		第 14 週 まとる	b	
テキスト、参考文献		評価方法		
必要に応じて紹介す	する。	毎回の、出席、多		<b>当者とのコミュニケーション、</b>
		以上を総合して	評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要	 授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
77777	# 1 11mm C. 2 (mm)		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
_	<u> </u>		

養	初級日本語 Basic Level Japanese	担当者	各担当教員				
講義目的、講義概要		授業計画					
講義目的、講義概要 初級日本語は、日本語初習者向け入門の授業である。 1週間14コマ、14単位に相当する授業を集中的 に受ける。4技能すべてを総合的に学び、自分のこと、日常生活に必要とされる基本的な日本語能力を 習得することが目的となる。 基本文型、漢字300~400, 語彙1500~1800		(Japanese Proficiency Test Level 3 & 4)  In this course students study simple structures, basic sentence patterns, 300~400 Chinese characters, and 1500~1800 vocabulary items. Upon completion of this course, students will be able to understand short, simple texts describing general things related to everyday life: immediate needs, personal events, familiar places, hobbies, work, etc. Additionally, students will be able to complete forms and write short sentences and simple letters related to personal events or familiar nformation. As for speaking, students will be able to communicate their immediate needs and provide general answers to many simple questions in addition to be able to express simple opinions in a familiar context.					
テキスト、参考文献	<del>*************************************</del>	評価方法					
Japanese for Ev Japanese for Ev Japanese for Ev Vocabulary List	1. Class Attendance (More than 70% attendance is required)2. Chapter Test3. Final Test4. Homewok5. Class participation①出席②チャプターテスト③期末テスト④プレゼンテーション⑤宿題⑥クラス参加						

担当者

各担当教員

#### 講義目的、講義概要

中級日本語は、初級日本語修了者が履修するクラスである。初級同様、1週間14コマ、14単位に相当する授業を集中的に受ける。4技能すべてを総合的に学ぶが、学習の中心は話すことから読むことが中心になり、類意義表現.語,6,000~7,000の語彙の習得、900~1,000の漢字を学ぶ。産出に関しては、自分の意見や考えをまとめて述べる、記述する能力の習得が求められる。授業内作文、プレゼンテーションが科せられるが、積極的にクラス活動に参加すること。

#### 授業計画

(Japanese Proficiency Test Level 2)

In this course students study higher level of sentence structures and sentence patters (compound & complex sentences),  $900\sim1,000$  Chinese characters, and about  $6,000\sim7,000$  vocabulary items. Upon completion of this course, students will be able to understand more complex sentences and more difficult discourse that consist of general information and articles. As for writing skills, students will be able to write short, simple pieces of information such as personal letters and messages as well as a little more elaborated notes on familiar or predictable matters. As for speaking, students will be able to express their opinions on abstract/cultural matters in a limited way or offer advice within a known area and understand instructions or public announcements.

Active participation in the class activities are recommended.

#### テキスト、参考文献

- ①『ニューアプローチ中級日本語基礎編』
- ②『ニューアプローチ中級日本語基礎編 練習帳』
- ③『ニューアプローチ中級日本語基礎編 聞き取り練習問題』
- ④ プリント 中級用漢字リスト
- ⑤作文プリント ⑥プレゼンテーション・テキスト

#### 評価方法

- ①出席(70% 以上の出席が必要)
- ②チャプターテスト ③作
- ④ ティン テスト⑤ プ⑤ プ
  - ⑤プレゼンテーション
- ⑥クラス参加
- ⑦期末テスト

養 中級日本語 Intermediate Japanese 担当者 各担当教員

#### 講義目的、講義概要

中級日本語は、初級日本語修了者が履修するクラスである。初級同様、1週間14コマ、14単位に相当する授業を集中的に受ける。4技能すべてを総合的に学ぶが、学習の中心は話すことから読むことが中心になり、類意義表現.語,6,000~7,000の語彙の習得、900~1,000の漢字を学ぶ。産出に関しては、自分の意見や考えをまとめて述べる、記述する能力の習得が求められる。授業内作文、プレゼンテーションが科せられるが、積極的にクラス活動に参加すること。

#### 授業計画

(Japanese Proficiency Test Level 2)

In this course students study higher level of sentence structures and sentence patters (compound & complex sentences),  $900\sim1,000$  Chinese characters, and about  $6,000\sim7,000$  vocabulary items. Upon completion of this course, students will be able to understand more complex sentences and more difficult discourse that consist of general information and articles. As for writing skills, students will be able to write short, simple pieces of information such as personal letters and messages as well as a little more elaborated notes on familiar or predictable matters. As for speaking, students will be able to express their opinions on abstract/cultural matters in a limited way or offer advice within a known area and understand instructions or public announcements.

Active participation in the class activities are recommended.

#### テキスト、参考文献

- ①『ニューアプローチ中級日本語基礎編』
- ②『ニューアプローチ中級日本語基礎編 練習帳』
- ③『ニューアプローチ中級日本語基礎編 聞き取り練習問題』
- ④ プリント 中級用漢字リスト
- ⑤作文プリント ⑥プレゼンテーション・テキスト

#### 評価方法

- ①出席(70% 以上の出席が必要)
- ②チャプターテスト
- ③作文
- ④会話テスト
- ⑤プレゼンテーション
- ⑥クラス参加
- ⑦期末テスト

#### 講義目的、講義概要 授業計画

上級日本語 I は中級日本語の継続の授業である。1週間1 4コマ、14単位に相当する集中日本語。4技能すべてを 総合的に学ぶ。より複雑な構文、文体を学び、豊かな文章 作成能力を養う。より完成した日本語での言語運用能力を 習得するとともに、大学での専門教育に対応できる言語知 識を学んでいく。

漢字2000字、語彙10,000語、長文読解を含む様々な 読解技術を習得する。

# (Japanese Proficiecy Level 1)

In this course, students will learn advanced Japanese that consists of not only complex structures but also stylistically varied discourse. Students will also study 2,000 Chinese characters and 10,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students are supposed to be ready for continuing their study at a university or professional school. Upon completion of this course, students will be able to read quickly enough to cope with fairly long and complex texts that found newspaper articles and basic academic course. They will also be able to prepare and to draft professional correspondence, take reasonably accurate notes in class or write an essays that show an ability to communicate. As for speaking, students will be able to follow or give a talk on a familiar topic or keep up a conversation on a fairly wide range of topics.

#### テキスト、参考文献

『ニューアプローチ中上級日本語完成編』

プリント: ニューアプローチ中上級用漢字リスト 作文教材、プレゼンテーション・テキスト 文法テキスト

『日本語上級読解』『論文の書き方ワークブック』 『日本語上級話者への道』

#### 評価方法

l. Class Attendance (More than 70% attendance is required) 2.Chapter Test 3. Final Test 4. Homewok 5...Class participation

②チャプターテスト ③期末テスト ①出席 ④プレゼンテーション ⑤宿題 ⑥クラス参加

担当者 各担当教員 上級日本語 I Advanced Japanese I

#### 講義目的、講義概要

#### 授業計画

#### (Japanese Proficiecy Level 1)

上級日本語 I は中級日本語の継続の授業である。1週間1 4コマ、14単位に相当する集中日本語。4技能すべてを 総合的に学ぶ。より複雑な構文、文体を学び、豊かな文章 作成能力を養う。より完成した日本語での言語運用能力を 習得するとともに、大学での専門教育に対応できる言語知 識を学んでいく。

漢字2000字、語彙10,000語、長文読解を含む様々な 読解技術を習得する。

In this course, students will learn advanced Japanese that consists of not only complex structures but also stylistically varied discourse. Students will also study 2,000 Chinese characters and 10,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students are supposed to be ready for continuing their study at a university or professional school. Upon completion of this course, students will be able to read quickly enough to cope with fairly long and complex texts that found newspaper articles and basic academic course. They will also be able to prepare and to draft professional correspondence, take reasonably accurate notes in class or write an essays that show an ability to communicate. As for speaking, students will be able to follow or give a talk on a familiar topic or keep up a conversation on a fairly wide range of topics.

#### テキスト、参考文献

『ニューアプローチ中上級日本語完成編』

プリント: ニューアプローチ中上級用漢字リスト 作文教材、プレゼンテーション・テキスト 文法テキスト

『日本語上級読解』『論文の書き方ワークブック』 『日本語上級話者への道』

#### 評価方法

l. Class Attendance (More than 70% attendance is required) 2.Chapter Test 3. Final Test 4.Homewok 5..Class participation

②チャプターテスト ③期末テスト ①出席 ④プレゼンテーション ⑤宿題 ⑥クラス参加

授業計画

#### 講義目的、講義概要

トピック・シラバス、コンテント・シラバス中心の授業。

獨協大学における専門教育を受ける準備コースである。 日本事情関連の内容を中心とする新聞記事、雑誌、新書・専門書からの抜粋を、自由に読みこなし、内容を理解・分析し、纏める力をつけることが目標となる。ゼミで必要となるプレゼンテーション能力、ゼミ論作成にむけた学習を行う。図書館等で情報を収集し、自立的な学習能力を習得すること。

学習内容: 「国際社会における日本の役割」「医療問題」

「情報社会」「日本の心」「異文化コミュニケーション」「食糧問題」「日本の文学」など

(Higher than Language Proficiency Test Level 1) This highly advanced course is offered to those who pursue their studies at a high level academic or research institution. Students will deal with all types of texts which extend from editorial columns to literature and academic reports. Upon completion of this course, student will be able to understand documents, correspondence and reports, including the finer points of complex texts. Students will be able to contribute effectively to meetings and seminars within their own area of work or keep up a casual conversation with a high level of fluency, coping with abstract expressions. Students will be able to take notes in class and seminars and write essays as well as academic reports on various subjects with accuracy and original style.

#### テキスト、参考文献

配布 プリント

#### 評価方法

①出席(70% 以上の出席が必要)

②各テーマ終了語のテスト ③作文 ④会話テスト

⑤プレゼンテーション ⑥クラス参加 ⑦期末テスト

注:合否は、期末テストと①~⑥のテスト結果を総合的に判断して決定される。

 養
 上級日本語 II Advanced Japanese II
 担当者
 各担当教員

#### 講義目的、講義概要

トピック・シラバス、コンテント・シラバス中心の授業。

獨協大学における専門教育を受ける準備コースである。 日本事情関連の内容を中心とする新聞記事、雑誌、新書・ 専門書からの抜粋を、自由に読みこなし、内容を理解・分 析し、纏める力をつけることが目標となる。ゼミで必要と なるプレゼンテーション能力、ゼミ論作成にむけた学習を 行う。図書館等で情報を収集し、自立的な学習能力を習得 すること。

学習内容: 「国際社会における日本の役割」「医療問題」

「情報社会」「日本の心」「異文化コミュニケーション」「食糧問題」「日本の文学」など

# 授業計画

(Higher than Language Proficiency Test Level 1) This highly advanced course is offered to those who pursue their studies at a high level academic or research institution. Students will deal with all types of texts which extend from editorial columns to literature and academic reports. Upon completion of this course, student will be able to understand documents, correspondence and reports, including the finer points of complex texts. Students will be able to contribute effectively to meetings and seminars within their own area of work or keep up a casual conversation with a high level of fluency, coping with abstract expressions. Students will be able to take notes in class and seminars and write essays as well as academic reports on various subjects with accuracy and original style.

#### テキスト、参考文献

配布 プリント

#### 評価方法

①出席(70%以上の出席が必要)

②各テーマ終了語のテスト ③作文 ④会話テスト

⑤プレゼンテーション ⑥クラス参加 ⑦期末テスト

注:合否は、期末テストと①~⑥のテスト結果を総合的に判断して決定される。

外言	通訳翻訳論			担当者	永田	小絵
講義目的、講義概	授業計画					
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とし		第1回	ガイダンス			
ます。	(の対域を保めることを目的とし)	第2回	通訳の実例研究 (香港返還記念式典)			
学期前半では通訳という職業について理解を深め、 また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。		第3回	会議通訳の実際			
		第4回	司法通訳 (外国人の人権を守る)			
		第5回	放送通訳とコミュニティ通訳			
	学期後半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範		ガイド、芸能・スポーツの通訳			
などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。		第7回	通訳訓練法 通訳の原理			
授業ではビデオや DVD を多く利用しますので、欠席しないようにしてください。		第8回	学期前半のまとめ			
		第9回	日本における翻訳通訳の歴史(1)			
	-	第 10 回	日本における翻訳通訳の歴史(2)			
		第11回	日本は	における翻訳	通訳の歴史(3	3)
		第 12 回	翻訳	と通訳の理論	(1)	
		第 13 回	翻訳	と通訳の理論	(2)	
		第 14 回	通訳	と翻訳の理論	(3)	
テキスト、参考文	: 献	評価方法				
410 0242 1 1 1 1 1 7 2 4 4	とホームページにアクセスし、教員	期末レポートにより評価します。				
紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウンロードしてください。						

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
	5.7.1.4.>+		
テキスト、参考文献	評価方法		

	T					
外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング語		ミング論)	担当者	加藤 尚吾	
講義目的、講義概要		授業計画				
型言語である Visua してとりあげ、様々 ているかを理解する にプログラミングを ことを目的とする。 基本的な命令から 講義する。その後、 Visual Basic 2010 ほぼ毎回、演習記	をフルに活用できるイベントドリブン al Basic 2010 をプログラミング言語とないフトウェアがどのように開発されることを目的とする。また、同時に実際とどうのようにすればよいかを理解する の、その組み合わせまでを、例をあげてひとつひとつの命令に関して実際にでプログラミングの演習を行う。 果題を行ってもらう。最後に自分でテートウェアの製作を行う。	11. 12. 13.	Visual Base 簡簡簡簡単 はななのののかがして でする でする でする でする でする でする でする でする でする でする	sic 2010 の概 2010 ののでは、100 のでは、100 ので	(1) (2):四則演算 (3):キャッシュレジスター 作成(1) 作成(2) 作成(3):オプションボタン、 作成(4):リストボックス、 プの利用 ラム作成(1):IfとGo To、	
テキスト、参考文献			ī方法			

出席、演習、レポートで総合的に評価する。

立田ルミ著『文科系大学生のための VISUAL BASIC プロ

グラミング』創生社

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)			担当者	加藤 尚吾		
講義目的、講義概要			授業計画				
法を用いて、より複標とする。画像や音してどのように扱れている。また、ファンとの連携についてプログラムを作成す本講義では、プロ機能をフルに活用でWisual Basic 2010る。 ほぼ毎回、演習課	iaで学んだ基礎的なプログラム作成方 雑なプログラムを作成できることを目 声などのマルチメディアがファイルと われているかも理解することを目的とし イルや Windows の他のアプリケーショ も理解し、さらにネットワーク対応の ることを目的とする。 グラミング論 a と同様に、Windows の できるイベントドリブン型言語である をプログラミング言語としてとりあげ と関を行ってもらう。最後に自分でテー ウェアの製作を行う。	12.	図図図図音る配配プメフフフフルののののの、とのダコイイイイイを制をして、カールルルルルのがカールルルルルルーンののののののののがカールルルルルルルーンをできまった。	(1):直線を描 (2): Windo (3): Windo (4): ドラッ ン ロール コー リ用 (1): テ 画 シー リ用 (2): シー リ用 (4): シー リカ (4): レー	グラミング論 a の復習 が描く、曲線を描く は、 曲線を描く はく、色を塗る ows の画像処理 ・グアンドドロップの利用 を録音する、音声を再生す : 一元配列、コントロール ンボボックス、プルダウン キストファイルの読み込み ・ケンスファイルの作成 ーケンスファイルの読み込 「sual Basic 2010 とホーム		
テキスト、参考文献	3	評価方法					
立田ルミ著『文科系 グラミング』創生社	大学生のための VISUAL BASIC プロ	出席、演習、レポートで総合的に評価する。					

担当者

立田 ルミ

#### 講義目的、講義概要

この授業では、Visual Basic をプログラミング言語 として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開 発されているかを理解し、実際にどのようにプログラ ミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できる オブジェクト記述型言語である Visual Basic で実際 にプログラミングを行うことにより、プロブラミング とはどういうことかを体得してもらうことを目的と する。

基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題を講義支援システムで提出する。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。

#### 授業計画

- 1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義
- 2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習
- 3 文字の表示:講義と実習
- 4 簡単な計算:講義と実習
- 5 関数の利用:講義と実習
- 6 飛び越し命令:講義と実習
- 7 条件判断による分岐:講義と実習
- 8 複数判断による分岐:講義と実習
- 9 選択用コントロールによる分岐:実習
- 10 回数指定による繰り返し:講義と実習
- 11 条件指定による繰り返し:講義と実習
- 12 多重ループ:講義と実習
- 13 総合問題作成1:実習

いろいろなオブジェクトを組み合わせて作成する

14 総合問題作成2:実習

### テキスト、参考文献

立田ルミ著: 文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010

#### 評価方法

出席 20%、リポート 40%、試験 40%

外言 プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論) 担当者 立田 ルミ

#### 講義目的、講義概要

この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windowsの機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルやWindows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のリポートとする。

#### 授業計画

- 1 プログラムの分割:講義と実習
- 2 プログラムの構造化:講義と実習
- 3 配列の処理:講義と実習
- 4 配列の入出力:講義と実習
- 5 文字列の処理:講義と実習
- 6 文字列の演算:講義と実習
- 7 図形の描画:講義と実習
- 8 画像の取り扱い:実習
- 9 ファイル処理と記憶装置:講義と実習
- 10 シーケンシャルファイルの処理:講義と実習
- 11 ランダムファイルの処理:講義と実習
- 12 ファイルダイアログコントロール:講義と実習
- 13 インターネットの利用:講義と実習 Visual Basic とホームページとのリンク
- 14 総合問題作成:実習

評価方法

### テキスト、参考文献

立田ルミ著: 文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010

出席 20%、リポート 40%、試験 40%

#### 201

担当者

森 園子

# 講義目的、講義概要

外言

講義目的:現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発 されている。本講座では、それらのソフトウェアが、どのように開発され ているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して、その根本とな る論理的な思考, 即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、 Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマ ルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの 連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても 理解する。

**講勢概要**: コンピュータの構造を概説し、最新のソフトウェアに関してコ ンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理 の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよい かを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic .Net を用いて 解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについても、 デモンストレーションを行うと共に、それらのプログラミングについても、 自分でテーマを決めて製作する。

#### 授業計画

- 1. 授業のガイダンスとコンピュータシステムの概説: ハードウェア及び、システムの構成と概略
- 2. ソフトウェアの分類、OS、ネットワークの概略
- 3. プログラム開発手順: PCと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ
- 4. Visual Basic の概略: イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ等の概略
- 5. 簡単なプログラム作成(1): アプリケーション開発手順、文字の入出力
- 6. 簡単なプログラム作成(2): 四則演算、変数のまとめ
- 7. 選択のあるプログラム作成(1): アプリケーションの設計、コントロールの扱い方
- 8. 選択のあるプログラム作成(2): 分岐するプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ
- 9. 選択のあるプログラム作成(3): オプションボタンの利用、チェックボタンの利用
- 10. 選択のあるプログラム作成(4): リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用
- 11. 繰り返しのあるプログラム作成: If とGo To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し(1)
- 12. 繰り返しのあるプログラム作成: If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し(2)
- 13. 総合問題作成:いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。
- 14. 総合問題作成:まとめとプレゼンテーション

#### テキスト、参考文献

立田ルミ著『文系の学生のためのVISUAL BASICプログラミング』 創生社

評価方法

春学期:リポート:70% ネットワーク上に提出

定期試験:30%

講義目的、講義概要

外言

プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)

担当者

森 園子

# 講義目的:現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発 されている。本講座では、それらのソフトウェアが、どのように開発されて いるかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して、その根本となる 論理的な思考, 即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、 Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマ ルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの

連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理 解する

講義概要:コンピュータが現在どのように使われているかを概説し、最新 のソフトウェア開発についてネットワークを用いて紹介する。

さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらのプログラミ ングについて、イベントドリブン型の言語の1つであるVisual Basic.Net を 用いて解説し、演習を行う。また、インターネットやマルチメディアについ てもデモンストレーションを行い、それらを踏まえたプログラミングについ て講義と演習を行う。

最後に、自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。

## 授業計画

- 1. 図形の処理(1):講義と実習 コンピュータグラフィックスの基礎
- 2. 図形の処理(2):講義と実習 点・直線・円を描く、色を塗る
- 3. 図形の処理(3):講義と実習 Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーの利用(1)
- 4, 図形の処理(4):講義と実習 タイマーの利用(2) 5. プログラムの構造化(1):プログラムの分割と構造化
- 6. プログラムの構造化(2):

Subプロシージャと Function プロシージャ

- 7. 音声・動画の処理:講義と実習 音声の録音と再生、動画再生のデモンストレーション
- 8. 配列とコントロール配列:講義と実習 一次元配列、コントロール配列、二次元配列
- 9. プルダウンメニュー: 実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用
- 10. メニューエディタの利用: メニューエディタの編集と利用
- 11. ファイルの利用(1):講義と実習 コントロールの利用、シーケンスファイルの利用
- 12. ファイルの利用(2):講義と実習 ランダムファイルの利用とアクセスファイルの利用:
- 13. インターネットの利用:講義と自習 Visual Basic.Net とホームページとのリンク
- 14. まとめ: 講義と実習 課題の説明と作成

# テキスト、参考文献

立田ルミ著『文系の学生のためのVISUAL BASICプログラミング』

創生社

# 評価方法

秋学期:リポート:60% ネットワーク上に提出

定期試験:40%

外言	プログラミング論 a (コンピュータ・プロ	コグラミング論)	担当者	堀江 郁美		
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画				
Java 言語を用い、 学びます。 コンピュータの仕組 方を学習するとこれ 力で Java のプログ ます。 課題として、実際に	コンピュータープログラミングの基礎を 且・操作や、プログラムを作る際の考え ろからはじめ、簡単な問題であれば、独 グラムが書けるようになることを目指し こプログラムを作成してもらい、動作さ 構義内容の理解を深めます。	1:ガイダンス: 2:プログラムと 3:変数・演算子 4:入出力 5:条件判断・分 6:条件判断・分 7:繰り返し(1) 8:繰り返し(2) 9:型と演算 10:配列 11:メソッド(1 12:メソッド(2 13:文字と文字	<ul><li>は、考え方</li><li>子・式</li><li>分岐(1)</li><li>分岐(2)</li><li>)</li><li>)</li><li>)</li><li>列</li></ul>	タの仕組・操作法		
	<b>#</b>	14:総合問題、 評価方法	ж С (V)			
明解 Java 入門編,	柴田望洋著, SoftBank Creative, 2009	出席、定期試験	、レポートを	総合的に評価する。		

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プ	゚ログラミング論)	担当者	堀江 郁美	
講義目的、講義概要		授業計画			
		1:ガイダンス、ス	トブジェクト打	旨向とは	
「プログラミング論	i a」で学習したことをベースにして、	2:Java の基本的	な構文の復習		
Java の特徴であるス	トブジェクト指向に焦点をあてて、オブ	3:クラスの概要			
ジェクト指向を用い	<b>いたプログラムの作成方法を学習しま</b>	4:クラスとインス	スタンス		
す。最終的には、や	や難しい問題やオブジェクト指向を用	5:フィールドとロ	コーカル変数		
いた問題でも、独力	で Java プログラムが書けるようにな	6:コンストラクタ			
ることを目指します	•	7: クラス変数とクラスメソッド			
		8:継承(1)			
課題として、実際に	プログラムを作成してもらい、動作さ	9:継承(2)			
せることにより、講	義内容の理解を深めます。	10:メソッドのオーバーライド			
		11:ポリモーフィズム			
		12: 例外処理とファイル入出力			
		13: GUI ツールキット			
		14:総合問題、ま	とめ		
テキスト、参考文献		評価方法			
明解 Java 入門編,	柴田望洋著, SoftBank Creative, 2009	出席、定期試験、	レポートを総	合的に評価する。	

7	テキスト、参考文献	評価方法
	. 『新 TOEIC テスト 直前の技術:スコアが上がりやす い順に学ぶ』 (アルク)	出席 20%、学習記録 20% 学習プランと自己評価レポート 20%
	?. ぎゅっとeプログラム (体験版は http://gyutto-e.jp)	

外言 情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL) 担当者 岡田 圭子

## 講義目的、講義概要 授業計画

ぎゅっとeというコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力とTOEICスコアの向上を目指します。 受講対象者:

短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。

# 受講条件:

- ・現在の **TOEIC** スコアが 250 点~500 点くらい (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより 大きな努力が必要となります)
- ・初回の授業に必ず出席すること
- ・4回欠席すると単位は認めない

#### 重要事項:

- ・教室外で、春学期中に20時間以上ぎゅっとeを学習
- ・学習プランの作成と学習記録
- ・学習自己評価(2回)
- ・実力診断テスト・学習プランの作成
- ・小テストと期末テスト

本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。

- 1. シラバスとプログラムの説明
- 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成
- 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング)
- 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング)
- 5. テキスト Days 9-10 模擬試験(リスニング)
- 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング)
- 7. リスニング実力診断テスト
- 8. リーディング実力診断テスト
- 9. テキスト Days 3-4 (リーディング)
- 10. テキスト Day 5 (リーディング)
- 11. テキスト Days 7-8 (リーディング)
- 1 2. テキスト Days 9-10 (リーディング)
- 13. リーディング実力診断テスト アンケート・自己評価レポートの説明

# テキスト、参考文献

- 1. 『新 **TOEIC** テスト 直前の技術: スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク)
- 2. ぎゅっとeプログラム (体験版はhttp://gyutto-e.jp)

# 評価方法

出席 20%、学習記録 20% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 20% 期末テスト 20%

204

外言	地域経済論iiia		担当者	全載旭
講義目的、講義概要 近年東アの関係のはこと言うにこれる。 存在になったの世のファーを記して、この授業の地域のなった。 日本を接て、この授業のというでは、この授業では、この授業では中	を の急速な発展と域内諸国の相互依存 で、東アジアは世界経済を牽引する さわれている。なかでも中国経済の動 界経済の新たな秩序を左右する最大 つである。この授業では東アジア全 の、中国経済を中心に考察する。 でジアにあって、この地域の諸国と相 ともっている。本科目の履修を通じ のり方に関心を向けてもらいたい。 中国経済の歴史、発展可能性などにつ から始まった改革・開放を中心に講	8 メイド・イン 9 国有企業改	を 般的 と と と の の の は と と の に と と と と と と と と と と と と と	可(1) 可(2) 可場か?(1) 可物?(2) 可か?(1) 可か?(2) 世界市場を席捲するか?(1) 世界市場を席捲するか?(2) で進んだか?(1) で進んだか?(2) か?(1) か?(2)

出席状況と筆記試験によって評価する。

テキスト、参考文献

南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第2版』日本評論

社、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。

外言	地域経済論iiib		担当者	全 載旭
発展、外資導入な 台頭による東アジ 貿易と投資を通 済関係の現状におけ げる。 地域経済論iiiaを の基本を把握して	をめぐる内的な課題と、対外貿易の どの経済成長への役割、近年中国の ア経済の再編について論じていく。 じて急速に緊密化している日中経 後のあり方についても考察する。ま る経済統合の実現可能性も取り上 履修し、中国の経済発展メカニズム いることが望ましい。	6 中国は国際 7 日中関係は 8 日中関係は 9 持続成長は 10 持続成長に 11 成長の果実 12 成長の果実 13 21世紀に	のエンジンス もたらしたス もたらにといい 可能とといい が能が が に に に に に に に に に に に に に に に に に	か? (2) か? (1) か? (2) て脅威か? (1) て脅威か? (2) べきか? (1) べきか? (2) )
社、2005年。	は 編『中国経済入門第2版』日本評論 て資料を配布する。	<b>評価方法</b>   出席状況と筆記	試験によっ <sup>~</sup>	で評価する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

外言	国際機構論 b		担当者	鈴木 淳一
る法に関する知識を表 「講義概要」 今日、人々がいれたらの 多くのしい、これなどの 方。しい職員、別際連合を依 方。に、組織や国際公務員で、 主に、主に、 本はしまが、共しまして、 本はしましたが、共しましたが、共しましたが、共しましたが、共しましたが、共しました。 で、この講義では、この講義でによった。	は、教室で行う通常の授業を補うため、 テム等を活用して、教員とのコミュニ	授業計画1はじめに2国際組織の概3国際法組織のの概5国際組織級のの場6国際組織総計7国際組織総計9国際組織総計10国際組織と員11国際組織と員12国際組織総に13国と助し14まとめ	知識 散 な を な と は 大 と に と に と に と に と に と に に に に に に に に に に に に に	在) 体) 運営上の諸問題
テキスト、参考文献 横田洋三編著『新国》	際機構論 上』(国際書院)	評価方法 主として学期末に	実施する試験	と出席により評価します。

外言	卒業論文		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	ā 2	授業計画		
生諸君にはできるだことを勧めている。 なぜなら卒業論文 物事を論理的に考; 能力を養成すること しかし,諸君の中 しばしば見受けられ と作業で書き上げら	は、卒業論文は必修科目ではないが、学 だけ履修し、論文を書き上げて提出する に真摯に取り組んで仕上げることは、 える姿勢と課題を設定し解答をさぐる になるからである。 にはこれを安易にとらえているむきも しる。卒業論文は1ヶ月や2ヶ月の準備 かれるものではない。担当教員と十分に いた指導を受けて、早い時期から取り組 計する。	提出には,P( ジタルデータを打	この使用が求 是出すること	指示に従うこと。 められる。印刷した論文とデ。 そのために周到な計画を立て
テキスト、参考文献	t .	評価方法		
各担当教員の指示に	こよる	学科の申し合わせ	せによる	

外言	卒業論文		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę .	授業計画		
春学期参照		春学期参照		
テキスト、参考文献	₹	評価方法		
春学期参照		春学期参照		

2010年度

# 外国語学部共通科目シラバス

(2003~2006年度入学者用)

総合講座 (グローバル化時代の人間形成①)

担当者

コーディネーター 工藤 和宏

#### 講義目的、講義概要

本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。

本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか?いつごろ始まったと言えるのか?「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか?「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって(キャリア形成や人材育成などを含む)「人間形成」にどのような意味が生まれているのか?または、消えているのか?

様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立てみてください。

#### 授業計画

- 1. 工藤和宏(コーディネーター)導入
- 2. 木村佐千子(独語学科)ナチス・ドイツと音楽家たち
- 3. 林部圭一(独語学科) 歌人ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデ
- 4. 浅岡千利世 (英語学科) グローカル化時代の外国語教育と学習者のアイデンティティ
- 5. 北野収(交流文化学科)フェアトレードの誕生——ヴァンデルホフ神父の半生から
- 6. 杉山晴信 (英語学科) 法規範としての"Plain English"と消費 者保護の思想
- 7. 田中善英(仏語学科) ことばを守るということ
- 8. 佐野康子(英語学科)グローバル社会の中の東アフリカ
- 9. 橋本博子(モナシュ大学人文学部)グローバル化と留学交流
- 10. 阿部仁 (一橋大学国際教育センター)「異文化」を理解する
- 11. 堀越喜晴(明治大学政治経済学部)バリアオーバーコミュニケーション――コミュニケーションの本質を考える
- 12. 工藤和宏 (英語学科) 獨協大学と留学生——学生交流促進の 試みから学んだこと
- 13. 原成吉 (英語学科) 詩と禅とエコロジーから見た環太平洋文化
- 14. 太田浩 (一橋大学国際教育センター) グローバル化と高等教育——国境を跨ぐ学生と大学の動向
- \*担当講師の都合により、変更になる場合があります。

# テキスト、参考文献

各担当講師より紹介されます。(コーディネーター推薦図書: アマルティア・セン (2009)『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版。)

#### 評価方法

されます。)

学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。
(平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価

外言 総合講座 (グローバル化時代の人間形成②) 担当者

コーディネーター 工藤 和宏

# 講義目的、講義概要

本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。

本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか?いつごろ始まったと言えるのか?「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか?「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって(キャリア形成や人材育成などを含む)「人間形成」にどのような意味が生まれているのか?または、消えているのか?

様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立てみてください。

# 授業計画

- 1. 工藤和宏 (コーディネーター) 導入
- 2. 横地卓哉(仏語学科) グローバル化――負の側面
- 3. 古田善文 (独語学科) グローバル化の波に翻弄される統一 20 年後のドイツ
- 4. 若森栄樹(仏語学科)ヨーロッパから見たグローバリゼーション
- 5. 渡部重美(独語学科) ゲーテのイタリア旅行——詩人再生の 旅
- 6. 田村毅(仏語学科)海を渡る女神たち――地中海文化圏の拡 大と神話の習合
- 7. 鍋倉健悦(英語学科)自己成長と幸福
- 8. 日野克美 (交流文化学科) ジョークを通しての人間観と国際 関係
- 9. 山本淳(独語学科)ブルーノ・タウトと日本
- 10. 菅野直樹 (防衛省防衛研究所) 歴史研究の所産と意義
- 11. 工藤和宏 (英語学科) グローバル JAPAN、「日本人論」と日本の若者
- 12. A. Zollinger (英語学科) Teriyaki Beef and Rainbow Rolls: The Globalization of Japanese Cuisine
- 13. 柿沼義孝(独語学科) 外国語学習と日本の伝統文化
- 14. 工藤和宏<総括>○○時代の人間形成——50 年後の「私(たち)」

\*担当講師の都合により、変更になる場合があります。

# テキスト、参考文献

各担当講師より紹介されます。(コーディネーター推薦図書: アマルティア・セン (2009)『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版。)

# 評価方法

学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。 (平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価 されます。)

			担当者	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
テキスト、参考文献	<del>*</del>	評価方法		
, (ハー、シ芍入田		日日間ノノス		

外言	総合講座(EU の歴史と現状)	総合講座(EU の歴史と現状)		廣田 愛理	
講義目的、講義概要	Ī	授業計画			
		講義の主な内容は	以下のとおり	です:	
本講義では、戦前	jから今日までの欧州統合の歩みを辿る	1. 講義の概要			
ことにより、今日の	国際社会において大きな影響力を持つ	2. 第2次大戦以前	前のヨーロッ/	パ構想	
EU (European Un	ion) が生まれた背景や目的、その制度	3~4. 戦後復興~1	980 年代		
や政策について考察	することを目的とします。	5~6. マーストリヒ	: ト条約以降(	D EU	
地域統合の歴史的	的前例としての EU について学ぶこと	7~8. EU の制度			
は、ヨーロッパに関	する知識の獲得にとどまらず、東アジ	9~11. EU の諸政策			
ア経済統合という課	題をめぐる今日の日本とアジアの関係	12. 英・独・仏と EU			
について考えるため	ののヒントにもなるでしょう。	13. EU 域外との関係			
		14. まとめ: EU の現在の課題			
テキスト、参考文献	<u> </u>	評価方法			
テキスト:なし		授業における小テ	スト (3 回程	度実施、30%)と期末レポ	
参考文献:授業の際	に指示します。	ートまたは試験(	70%)		

外言	情報科学概論 a			担当者	呉	浩東
講義目的、講義概要		授業計画				
ムに関する基本的だなっています。とく報処理の重要性が認本講義では、(1)知識(2)コンピュ仕組み(3)コンピュ仕組み(3)コンピュナ はまが、コンピュナ とどについて知す。本講義はまず、コンピュータシステレンタース	工生きる個人として、情報とそのシステな素養を修得することは、必要不可欠にくに、コンピュータを使用する多言語情ますます増大しています。 コンピュータと情報処理に関する基礎ユータのハードウェアとソフトウェアのピュータによる多言語処理の技術と応用識の形成と応用力の育成を目標としましましたよの関係、コンピュータのハードウェンの以下ででである。そのうえで、コンピネット技術を利用した多言語情報処理のがます。さらに、実習を通じて、多言語の理解を深めます。		デコソオ 0 プコデアムココ機 自タピトレのグピタゴ例ピピ翻言を まラュ構リーユニ訳語	ータ言語の分 ボーリンアル こう こう でいました ボーク にに よい でいま ない でいま ない でいま ない でい でい でい でい でい かい	展、論理演算 要素 体系と種類 くっとのの ので割と原理 類とというの表 があるの表 があるの表 があるの表 では、まま では、ま では、	法、アルゴリズ 5術(1) 5術(2)
テキスト、参考文献	###	評価力	法			
授業中指示するテキ	Fスト・参考文献を使用してください。 -	レポーす。	- 卜、出席	状況と筆記討	<b>、験の結果を併</b>	せて評価しま

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
テキスト、参考文献	3	評価方法		

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[総合]		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要		授業	計画		
に、アプリケーションに大学生活、社会生活、ピュータの利用法を習授業である。コンピュータ初心者を使い、主とした授業であるになるであるになるである。な優修条件:2008年度と履修した人、2009年度	は、コンピュータの基本操作を中心 ソフトの利用などについて学ぶ。特 で実際に必要で、かつ役に立つコン 習得することを目的とする半期完結 対象に、1人1台のコンピュータを 中心として授業を進める。実習を中 ら、欠席や遅刻をしないこと。やし は、必ず自習して遅れを取り戻して 利目を履修した後は、[応用] 科目 は前に「情報科学各論」のいずれかを 近以降に「情報科学各論(情報処理演 び[応用] の各科目を履修したこと い。	6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.	OS と Office Word (1) Word (2) Word (3) インターネ インターネ Excel (1) Excel (2) Excel (3) PowerPoin PowerPoin まとめ	ットの活用法 ットの活用法 t (1) t (2) t (3)	토(1)

担当教員より指示する。

テキスト、参考文献

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演	習) [総合]	担当者	各担当教員		
に、アプリケーションに大学生活、社会生活 ピュータの利用法を習 授業である。 コンピュータ初心者を 使い、主とした授業であるとした授業であるを 様が大席した授業であるであるとした授業である。 を得ず欠席した場合におくこと。 を履修できる。 <b>履修条件</b> :2008年度以 履修した人、2009年度 習)」の各科目、およる	<b>歳目的</b> :この授業では、コンピュータの基本操作を中心 アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコン ュータの利用法を習得することを目的とする半期完結 業である。 ンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中 とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむ 号ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻して くこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目		授業計画  1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ  クラスによって多少進度が異なることがある。			
テキスト、参考文献 適宜指示する。		<b>評価方法</b> 担当教員より指定	示する。			

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[英語]		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
に、アプリケーションに大学生活、社会生活、社会生活、社会生活、社会生活、社会生活、利用ないのである。情報処理ーションピュータ初心を関い、主と投業した投票した投票した場合におくこと。なるを履修できる。  「ないとした。ないないであるになる。」  「ないっとしている。ないないできる。」  「ないっとしている。ないないできる。」  「ないっとしている。ないないできる。」  「ないっとしている。ないないないできる。」  「ないっとしている。」  「ないっというではいる。」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる。」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる。」  「ないっというではいる。」  「ないっというではいる」  「ないっというではいる。」  「ないっというではいるいっというではいる。」  「ないっというではいるいっというではいるいっというではいるいっというではいるいっというではいるいるいるにいるいるにいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるい	は、コンピュータの基本操作を中心イソフトの利用などについて学ぶ。特で実際に必要で、かつ役に立つコニ結関習(総合)と異なり、各アプリケを再がなく英語も扱う。一対象に、1人1台のコンピュータを中心をして授業を進める。とと、大席や遅刻をしないことを呼いる、必ず自習して後は、「応用」科目を履修した後は、「応用」の各科目を履修したことに、「情報科学各論」のいずれかを要以降に「情報科学各論」のいずれかを要以降に「情報科学各論(情報処理に「情報科学各論(情報処理には「応用」の各科目を履修したこない。	1. ガイダン 2. OS と Of 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インター 7. インター 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPo 12. PowerPo 13. PowerPo 14. まとめ	ice の基礎 ネットの活用注 ネットの活用注 int (1) int (2)	去(1)
テキスト、参考文献		評価方法		

担当教員より指示する。

外言	[入門]情報科学各論(情報処理演	習)[英語]	担当者	各担当教員
に、アプリケーションに、アプリケーションに、アプリケーションは、社会生活の利用ないのである。情報の日本のである。ファイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・ア	ソフトの利用などについて学ぶ。特で実際に必要で、かつ役に立つコニ結 選得することを目的とする半期完結 演習(総合)と異なり、各アプリケ 語だけでなく英語も扱う。 対象に、1人1台のコンピュータを中心として授業を進める。実習を中心として授業をしないこと。やいる、必ず自習して遅れを取り戻しての科目を履修した後は、「情報科学各論」のいずれかを 近以降に「情報科学各論(情報処理演 たは「応用」の各科目を履修したこ	2. OS & Office 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3)	ットの活用社 ットの活用社 t (1) t (2)	≅(1)
テキスト、参考文献		評価方法		
適宜指示する。		担当教員より指	示する。	

講義目的、講義概要       授業計画         講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心として授業を進める。実習を中心として授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻して       1. ガイダンス・PC の基本操作         2. OS と Office の基礎       3. Word (1)         4. Word (2)       5. Word (3)         6. インターネットの活用法(1)       7. インターネットの活用法(2)         8. Excel (1)       9. Excel (2)         10. Excel (3)       11. PowerPoint (1)	外言	[入門]情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]		担当者	各担当教員	
に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結 授業である。情報処理演習 (総合) と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむなどは、必ず自習して遅れを取り戻して を得ず欠度した場合には、必ず自習して遅れを取り戻して	講義目的、講義概要		授業	計画		
## 12. PowerPoint (2)   ## 13. PowerPoint (3)   ## 14. まとめ   ## 15. PowerPoint (2)   ## 15. PowerPoint (3)   ## 16. PowerPoint (2)   ## 17. PowerPoint (3)   ## 17. PowerPoint (2)   ## 18. PowerPoint (3)   ## 18. PowerPoint (2)   ## 18. PowerPoint (3)   ## 18. PowerPoint (2)   ## 18. PowerPoint (3)   ## 18. PowerPoint (4)   ## 18. PowerPoint (4)   ## 18. PowerPoint (5)   ## 18. PowerPoi	に、アプリケーションスに大学生活、社会生活でという。 大学生活、社会生活では大学生活の利用法を習得授業のカンフト語、スペインを初てなどのであるといい、した授業したというを得ず欠席したおくである合に、おくできる。 を優条件:2008年度以下履修した人、2009年度、別、のいずれか、また	ソフトの利用などについて学ぶ。特で実際に必要で、かつ役に立つコンに立つコンにもするとを目的とする半期完結 演習(総合)と異なり、各アプリケ語だけでなくドイツ語、フランス語も扱う。 対象に、1人1台のコンピュータを中心として授業を進める。とと。や中心と解や遅刻をしないこと。やむま、必ず自習して遅れを取り戻して科目を履修した後は、[応用] 科目前に「情報科学各論」のいずれかを以降に「情報科学各論(情報処理演は [応用] の各科目を履修したこ	2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13.	OS と Office Word (1) Word (2) Word (3) インターネ インターネ Excel (1) Excel (2) Excel (3) PowerPoin PowerPoin まとめ	ee の基礎 ットの活用法 ットの活用法 t (1) t (2) t (3)	보(1) 보(2)

担当教員より指示する。

テキスト、参考文献

外言	[入門]情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
講義目的:この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。		
テキスト、参考文献		評価方法		
適宜指示する。		担当教員より指え	示する。	

外言	[応用]情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
講義目的・概要:この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。    「を条件:2008年度以前に「情報科学各論(初級 表計算入門)(初級 プレゼンテーション)(中級 プレゼンテーション)(中級 万能ツールとしての Excel)(中級 表計算応用1)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。		2. 表の編集集 4. からの編集集 4. からの編集 5. 関数のの利 6. 関数ののの 7. 関数ののの 9. マクロゼゼゼン 11. プレゼゼン 12. プレゼゼン 13. まとめ	計算式、セル 対 対 大 大 表 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	参照方法の確認(1) 参照方法の確認(2)、フィルタ ((1)-1 ((1)-2 (2)-1
テキスト、参考文献		評価方法		

担当教員より指示する。

外言	[応用]情報科学各論(Excel・プレゼ	ンテーション中級)	担当者	各担当教員
ずれかの科目を履修し PowerPoint の使い方に ことを目的とする半期 実習を中心とした授業 と。やむを得ず欠席し り戻しておくこと。 <b>履修条件</b> :2008 年度以 入門)(初級 プレゼン ョン)(中級 万能ツー 用1)」のいずれかを履	であるから、欠席や遅刻をしないこた場合には、必ず自習して遅れを取 以前に「情報科学各論(初級 表計算テーション)(中級 プレゼンテーシルとしての Excel)(中級 表計算応 慢修した人、2009年度以降に「情報ーション中級)」を履修したことの	3. 表の編集、記 によっている。 5. 関数の利用(6. 関数の利用(7. 関数の利用(7. 関数のの利用(7. 関数のの利用(7. マクロのの利), 10. プレゼゼンンティ12. プレゼゼンンティ13. プレゼンンティ14. まとめ	計算式、セル 計算式、セル 装飾の確認 (1) (2) (3) 用(2) 用(3) ーショョン実実 アション実実習 マション実習習習習習習習習習	参照方法の確認(1) 参照方法の確認(2)、フィルタ (1)-1 (1)-2 (2)-1
テキスト、参考文献 適宜指示する。		担当教員より指定	示する。	

外言	[応用]情報科学各論(プレゼンテーション中級)		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要		授業	計画		
講義目的、講義概要  講義目的・概要:この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。  履修条件:2008年度以前に「情報科学各論(初級表計算入門)(初級プレゼンテーション入門)(中級プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。		2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.	書スス図図オオププ配ププまれているができます。これでは、シシ成成ククテテのテテのテテのテテのテテのテテのテテのテテのテテのテテのテテのテテのテテ	、SmartArt トの挿入(1) トの挿入(2) ーション実習 作成 ーション実習 作成 ーション実習 多少進度が異	設定 効果(1) 効果(2) グラフィック(1) グラフィック(2) 習(1)-1 図(1)-2
テキスト、参考文献		評価	方法		

適宜指示する。

担当教員より指示する。

外言	[応用]情報科学各論(プレゼンテ	ーション中級)	担当者	各担当教員		
講義目的、講義概要		授業計画				
講義目的・概要:この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。  「優条件:2008年度以前に「情報科学各論(初級表計算入門)(初級プレゼンテーション入門)(中級プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。		<ol> <li>ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>書式設定、スライドの設定</li> <li>スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>オブジェクトの挿入(1)</li> <li>オブジェクトの挿入(2)</li> <li>プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>配付資料の作成</li> </ol>				
テキスト、参考文献		評価方法				
適宜指示する。	担当教員より指え	示する。				

外言	   [応用]情報科学各論(Word 中級) 		担当者	各担当教員		
講義目的、講義概要  講義目的・概要:この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。  履修条件:2008年度に「情報科学各論(中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。		授業計画				
テキスト、参考文献 適宜指示する。		<b>評価方法</b> 担当教員より指え	示する。			

外言	[応用]情報科学各論(Word 中級)		担当者	各担当教員
ずれかの科目を履修しついて、より広い知識結授業である。 実習を中心とした授業と。やむを得ず欠席しり戻しておくこと。	授業は、[入門] 情報処理演習のいた学生を対象に、Word の使い方にを習得することを目的とする半期完であるから、欠席や遅刻をしないこた場合には、必ず自習して遅れを取こ「情報科学各論(中級 Word を使と人は履修できない。	3. 段落、段組	- その他書き編 ・ そそにいるのでは、 ・ とのでは、 ・ とのでは、 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	記定(1) 記定(2) 編集(1) 編集(2)
テキスト、参考文献 適宜指示する。		<b>評価方法</b> 担当教員より指え	示する。	

外言	[応用]情報科学各論(Office 中級	担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要		授業計画		
ずれかの科目を履修しび PowerPoint の使いることを目的とする半どの教員が利用する可るので、主に教員志可を必要講してもかま習を中心とした授業と。やむを得ず欠席しり戻しておくこと。 <b>履修条件</b> :履修条件は場合がある。Word、F	であるから、欠席や遅刻をしないこ た場合には、必ず自習して遅れを取 ないが、他の科目と内容が重複する Excel、PowerPoint の各ソフトの詳 場合には、各ソフトごとに用意され	の作成 4. Word (3) 5 5. Word (4) 2 6. Word (5) 2 7. Excel (1) 3 8. Excel (2) 3 9. Excel (3) 4 10. PowerPoin 11. PowerPoin 12. PowerPoin	数落、段組、ないから、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	その他書式設定 こ沿った編集、脚注・コメント の利用 章式、セル参照方法の確認 の利用(1):成績処理を例に の利用(2):成績処理を例に たの確認
テキスト、参考文献		評価方法		

授業時に説明する。

外言	[応用]情報科学各論(Office 中級	)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
ずれかの科目を履修しび PowerPoint の使いることを目的とする半どの教員が利用する可るので、主に教員志もい受講してもかを得る。やむを得ずと。やむを得ずと。と。との戻しておくこと。  「たんだいない。」では、「たんだいない。「たんだいない。」では、「たんだいない。」では、「たんだいない。」では、「たんだいない。「たんだいない。」では、「たんだいない。「たんだいない。」では、「たんだいないない。」では、「たんだいないない。」では、「たんだいないないない。「たんだいないないないないない。」では、「たんだいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	であるから、欠席や遅刻をしないこ た場合には、必ず自習して遅れを取 ないが、他の科目と内容が重複する Excel、PowerPoint の各ソフトの詳 場合には、各ソフトごとに用意され	の作成 4. Word (3) ワ 5. Word (4) 図 6. Word (5) 図 7. Excel (1) 表 8. Excel (2) 関 9. Excel (3) 関 10. PowerPoint 11. PowerPoint 12. PowerPoint	落、段組、るウトラインに ードアートの形の利用(1) 形の利果(2) の編集、計算の編集がラフの (1) 基本操作 (2) 様々なっ (3) プレゼン	その他書式設定 こ沿った編集、脚注・コメント の利用 章式、セル参照方法の確認 の利用(1):成績処理を例に の利用(2):成績処理を例に たの確認
テキスト、参考文献		評価方法		
適宜指示する。	授業時に説明する			

# 講義目的、講義概要

#### [目的]

この授業では、言語が機械 (コンピューター) 可読の 資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、そ の結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考 えることを目的とする.

#### [概要]

コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が活かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかることがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ10は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。

本授業は、さまざまなジャンル、モード、発話者から 集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析 する演習を中心に進められる.

※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい

#### 授業計画

- 1. ガイダンス
- 2. コーパスとは何か、身近な活用例
- 3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ
- 4. コンピューターの基本操作: MS Excel
- 5. 高度な Web 検索方法
- 6. British National Corpus (BNC) の紹介
- 7. BNC を利用した語彙リストの作成
- 8. BNC を利用した語彙リストの比較
- 9. BNC を利用した語句検索
- 10. BNC を利用した共起検索
- 11. 品詞の特徴と分析
- 12. DIY コーパス (映画, 小説, 教科書, etc.) (1)
- 13. DIY コーパス (映画,小説,教科書,etc.) (2)
- 14. <u>最終レポートの準備</u>

# テキスト、参考文献

# PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する.

#### 評価方法

出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する. 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める.

外言 情報科学各論(言語情報処理2) 担当者 羽山 恵

## 講義目的、講義概要

#### [目的]

春学期に引き続きコーパス分析を行うが、今学期は日本人英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた、「学習者コーパス」を分析の対象とする. 私たち自身を含む英語学習者のアウトプットデータを分析することにより、どのような語彙・文法使用および誤り(エラー)がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り、今後の学習や教育に活かすことを目的とする.

# [概要]

主に日本人 1200 人分の英語によるインタビューデータを収集し、コーパス化した NICT JLE Corpus を扱う(日本人中高生 1万人の英作文を集めた JEFLL Corpus にも触れる). このコーパスは異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため、「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか?」という疑問に対する答えを求めることができる. 分析は、語彙、文法、談話、誤り等の観点から行う.

- ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい
- ※ 「情報科学各論 (言語情報処理1)」を受講していることが望ましい

## 授業計画

- 1. ガイダンス
- 2. 学習者コーパスとは何か、身近な活用例
- 3. NICT JLE Corpus の概要
- 4. 流暢さの分析(1)
- 5. 流暢さの分析(2)
- 6. 使用語彙の分析(1)
- 7. 使用語彙の分析(2)
- 8. 使用文法事項の分析(1)
- 9. 使用文法事項の分析(2)
- 10. 誤り分析(1)
- 11. 誤り分析(2)
- 12. 誤り分析 (3)
- 13. 最終レポートの準備(1)
- 14. <u>最終レポート</u>の準備(2)

# テキスト、参考文献

# PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する.

# 評価方法

出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する. 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める.

#### テキスト、参考文献

テキスト,参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/)を参照すること。

# 評価方法

学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

外言 情報科学各論(言語情報処理 2) 担当者 吉成 雄一郎

#### 講義目的、講義概要

には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、 それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用 性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていませ ん。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あ えて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。

秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。

本講義で修得したコンピュータを使った見方と,構築した自分専用のコーパスは,講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。

#### 授業計画

- 1 講義のガイダンス:コーパスとその応用
- 2 Access 上にデータを格納
- 3 Access のデータを引き出して Excel で分析
- 4 コンコーダンスの利用(1):コロケーションを調べる(MI-Score)。
- 5 コンコーダンスラインの利用(2): コロケーションを調べる(t-score)。
- 6 コンコーダンスラインの利用(3):演習
- 7 品詞情報のタグ付け:各単語に品詞のタグをつけて,より精密な分析を試みる。また,自動タグ付けも試みる。
- 8 タグ付けされたテキストの分析:品詞情報のタ グ付けがされたテキストを分析する。
- 9 品詞の使われ方と英文の特徴
- 10 最先端のコーパスの現状:体験アクセス
- 11 「文体」をどうとらえるか。 文の長さ-
- 12 文の長さが意味するもの-標準偏差・変動係数
- 13 語彙密度·K 特性値
- 14 まとめと演習

#### テキスト、参考文献

テキスト,参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ(http://www.yuchan.com/~gengojoho/)を参照すること。

# 評価方法

学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出 席を加味して行う。

外言	[HTML]情報科学各論(HTML 初級)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		
ずれかの科目を履修し作成の基礎を習得するある。まず、コンピュータと成、ファイルの種類やタに関する基礎知識をトサービスの1つであける情報の構成単位で述する「HTML」(Hyぶ。また、簡単な自分実習を中心とした授業	D授業は、[入門]情報処理演習のいた学生を対象に、主にホームページることを目的とする半期完結授業でコンピュータネットワークの基本構でフォルダの構造といったコンピュー復習する。その上で、インターネックる WWW (World Wide Web) におきある「ページ」の構造と、それを記でするといった場合には、必ず自習して遅れを取れた場合には、必ず自習して遅れを取りた場合には、必ず自習して遅れを取りた	1. ガイダンスス 2. WWWとホ 3. 情報の単位 4. ハイパーテ: 5. インターネ 6. ページの構 7. ホームペー: 8. ホームペー: 10. ホームペー: 11. ホームペー: 12. ホームペー: 13. ファイルの 14. 総合	ームで と は は い は と は は は は は は は せ と は れ と も と れ と も と れ と も と れ た と れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ た れ た れ た れ た	ML :理 キスト メージ ンク ーブル の他 :成
(HTML 応用 1) (H 美しく見せるために)」	以前に「情報科学各論(HTML 入門) TML 正しく伝えるために)(HTML のいずれかを履修した人、2009 年 論(HTML 中級)」を履修したこと い。	クラスによって	多少進度が異	なることがある。

適宜指示する。		担当教員より指	示する。	
外言	[HTML]情報科学各論(HTML 初	刀級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画		

講義目的・概要:この授業は、「入門」情報処理演習のい ずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ 作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業で ある。

まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構 成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュー タに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネッ トサービスの1つである WWW (World Wide Web) にお ける情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記 述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学 ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこ と。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取 り戻しておくこと。

**履修条件**:2008 年度以前に「情報科学各論(HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009年 度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したこと のある人は履修できない。

- 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
- 2. WWW とホームページの基礎知識
- 3. 情報の単位と情報通信
- 4. ハイパーテキストと HTML
- 5. インターネットと情報倫理
- ページの構造と HTML
- 7. ホームページの作成 テキスト
- 8. ホームページの作成 イメージ
- 9. ホームページの作成 リンク
- 10. ホームページの作成 テーブル
- 11. ホームページの作成 その他
- 12. ホームページの作成 完成
- 13. ファイルの転送とページの更新
- 14. 総合復習

クラスによって多少進度が異なることがある。

# テキスト、参考文献 評価方法

適宜指示する。

テキスト、参考文献

担当教員より指示する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
	H I Ilms > 3 (3m)		

外言	情報科学各論(HTML 中級)		担当者	金子憲一
講義目的、講義概要		授業計画		
次に位置する中級科及 技術を習得した人 向の情報発信ではない で、ことを目標とすることを この授ュータで 得ることを 業ですの選を行った。 アTP などのとする。 で、あることを まずめので、までのである。 を対する。 受講上のようには必ずである。 では、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、ま	「、ファイルの種類、フォルダ構造などの 注知識やネットワーク構成、及び HTML、 行う。次に JavaScript や CGI プログラ セージの表示や画像の変化、カウンタ、 う。作成の成果は、受講生相互で批評・ 平価方法等を詳しく説明しますので、 一出席すること。 業ですので、全回出席する、という前提	1 ガイダンスと 2 HTML と FTF 3 HTML と FTF 4 インタラクティ 5 プログラミング 6 JavaScript (ご 7 JavaScript (ご 9 JavaScript (ご 10 JavaScript (ご 11 CGI の利用 12 総合課題 (1 13 総合課題 (1 13 総合課題 (2 14 鑑賞・報告会	の復習(1) の復習(2) イブなページ がの基礎知識 1) 2) 3) 4) 55)	
テキスト、参考文献	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	評価方法		
授業用 Web にて資 参考文献等は随時紹		評価する。出席及び	締切厳守は特に ナー(禁飲食等	果題の途中経過を含む)で総合 ≤重視する。 等)を守れない場合は、失格を

外言	経済原論 a	а		担当者	井上 智弘
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業	計画		
講義概要:		1.	経済学とは	は何か	
経済学を初めて学る	デ学生を対象として、経済学の基礎的な	2.	需要と供給		
理論について講義す	rる。春学期は、家計に代表される消費	3.	需要と供給	2	
者と企業に代表され	いる生産者の行動に焦点を当てるミクロ	4.	消費者行動	h (1)	
経済学の基礎理論は	こついて説明する。また、受講生の理解	5.	消費者行動	b 2	
を測るために、講拿	<b>養中に問題演習や小テストを行う。講義</b>	6.	6. 消費者行動 ③		
は右の授業計画に消	合って行う予定であるが、小テストの結	7. 生産者行動 ①			
果等を踏まえて、言	十画を一部変更する可能性はある。	8.	生産者行動	b 2	
		9.	生産者行動	<b>3</b>	
講義目的:		10. 余剰分析			
ミクロ経済分析を行	<b>庁う上で、必要不可欠な基礎理論の習得</b>	11.	価格規制、	数量規制、調	果税の影響
を目指す。		12.	不完全競爭	· 1	
		13.	不完全競爭	· 2	
		14.	まとめ		
テキスト、参考文献	‡	評価	ī方法		
テキストは指定した	い。必要に応じて資料を配布する。	定期	試験と講義	内で行う小ラ	ストの成績で評価する。

外言	経済原論 b			担当者	井上 智弘
講義目的、講義概要		授業	計画		
講義概要:		1.	マクロ経済学	どの全体像	
経済学を初めて学ぶ	学生を対象として、経済学の基礎的な	2.	国民経済計算	Fと GDP (国	内総生産)
理論について講義す	る。秋学期は、一国全体の経済に焦点	3.	国民所得の決	ト定メカニズム	<b>(1)</b>
を当てるマクロ経済	学の基礎理論について説明する。また、	4.	国民所得の決	や定メカニズム	4 2
受講生の理解を測る	ために、講義中に問題演習や小テスト	5.	財政政策		
を行う。講義は右の	を行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、		貨幣の機能 ①		
小テストの結果等を	踏まえて、計画を一部変更する可能性	7.	貨幣の機能 ②		
はある。		8.	金融政策		
		9.	IS-LM 分析	1	
講義目的:		10.	0. IS-LM 分析 ②		
マクロ経済分析を行	う上で、必要不可欠な基礎理論の習得	11.	1. 物価変動と失業 ①		
を目指す。		12.	物価変動と失	<b>美業 ②</b>	
		13.	経済成長		
		14.	まとめ		
テキスト、参考文献		評価	方法		
テキストは指定しな	い。必要に応じて資料を配布する。	定期	試験と講義内	で行う小テス	トの成績で評価する。

# シラバス 言語文化学科

2010年4月1日発行 獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1 電 話 048-946-1664



学	科	学年	氏	名	
	学科	年			